

## 日本語のポライトネス：異文化理解教育の方法開発に向けて

松村，瑞子

<https://hdl.handle.net/2324/1398456>

---

出版情報：九州大学，2013，博士（芸術工学），論文博士  
バージョン：  
権利関係：



# 日本語のポライトネス

—異文化理解教育の方法開発に向けて—

松村瑞子



# 日本語のポライトネス

—異文化理解教育の方法開発に向けて—

## Linguistic Politeness of Japanese

A Study Aimed at Developing Effective Methods to  
Promote Intercultural Understanding

松村瑞子

Yoshiko MATSUMURA

2013 年 9 月



# 目次

目次	i
第1章 序章	1
1.1 はじめに	1
1.2 論文の構成	3
第2章 先行研究概観と本研究の立場	7
2.1 序	7
2.2 ポライトネスの普遍理論	8
2.2.1 Brown and Levinson (1978)	8
2.2.2 Leech (1983) (2007)	8
2.3 日本語のポライトネス	10
2.3.1 井出他(1986)、Ide(1989)、井出(2006)	10
2.3.2 宇佐美(1998a)(1998b)、滝浦(2008)	11
2.3.3 『言語行動における「配慮」の諸相』国立国語研究所(2006)	13
2.4 本研究の立場	13
第3章 データの種類および収集法	17
3.1 序	17
3.2 データ1 上下関係のある対話者間の自然会話	18
3.3 データ2 日本語学習者が奇妙に思った日本人のポライトネス	21
3.4 データ3 日本語母語話者と日本語学習者の認識の相違	26

3.5	結語	33
<b>第 I 部 理論編 談話分析に基づく日本語ポライトネス研究</b>		
第 4 章	日本語会話におけるスタイル交替の実態とその効果	37
4.1	序	37
4.2	スタイル交替の実態	38
4.3	スタイル交替の要因	43
4.4	結語	48
第 5 章	日本語の会話におけるポライトネス I	
	—Brown and Levinson(1987)の妥当性を中心に—	51
5.1	序	51
5.2	Brown and Levinson (1987) のポライトネス理論	52
5.3	問題点	53
5.4	日本語のポライトネス	55
5.4.1	データ	55
5.4.2	分析	56
5.4.3	結果	60
5.5	結語	60
第 6 章	日本語の会話におけるポライトネス II	
	—「わきまえ」と「ストラテジー」—	63
6.1	序	63

6.2	日本語のポライトネスはストラテジーのみか? 「わきまえ」と「ストラテジー」のポライトネス Ide (1989)、井出他(1986)、Hill <i>et al.</i> (1986)、Matsumoto (1988)、井出(2006) . . . . .	64
6.3	ポライトネスの定義およびデータ . . . . .	66
6.4	会話中における「わきまえ」と「ストラテジー」の分布 . . . . .	69
6.5	談話の場面と参加者の関係が「わきまえ」「ストラテジー」の表現に及ぼす影響 . . . . .	79
6.6	結語 . . . . .	81
第7章	日本語の会話におけるポライトネス III	
	—韓国人・中国人・台湾人に理解されない日本人のポライトネス— . . . .	83
7.1	序 . . . . .	83
7.2	韓国語・中国語のポライトネスにおける「わきまえ」 . . . . .	84
7.3	データ : 韓国人・中国人・台湾人に理解されない日本人のポライトネス . . . . .	86
7.4	日本語と中国語・韓国語のポライトネスの相違 . . . . .	115
7.6	結語 . . . . .	118
第8章	日本人と韓国人のポライトネス—似て非なる物— . . . . .	121
8.1	序 . . . . .	121
8.2	データ . . . . .	122
8.3	データ分析 . . . . .	127
8.4	議論 . . . . .	133



8.5	結語	136
第9章	日本人と中国人の配慮表現に対する認識—アンケート調査を基に—	137
9.1	序	137
9.2	アンケート調査	138
9.2.1	調査内容	138
9.2.2	被験者	141
9.3	アンケート結果分析	142
9.4	考察	144
9.5	結語	148
第10章	聞き手志向の日本語ポライトネス	
	—日本語における配慮表現とポライトネス—	149
10.1	序	149
10.2	先行研究概観および本章の目的	150
10.2.1	日本語の配慮表現	150
10.2.2	配慮表現に対する日本語母語話者の評価	152
10.2.3	配慮表現に対する日本語非母語話者の評価	152
10.2.4	本章の目的	153
10.3	日本人のポライトネス	153
10.3.1	日本人にとって奇妙に思える日本語学習者のポライトネス	153
10.3.2	日本語学習者にとって奇妙に思える日本人のポライトネス	155
10.4	日本語ポライトネス指導教材のあり方	159

10.5	結語	160
------	----	-----

## 第II部 応用編 日本人の言語行動におけるポライトネス

### —効率的な日本語ポライトネス指導法を目指して—

第11章	勧誘・依頼と断り	165
11.1	はじめに	165
11.2	日本語母語話者と日本語学習者の依頼・断りのポライトネスに対する認識の 相違	166
11.3	日本人と中国人の勧誘・依頼と断りの方略の相違	171
11.4	効率的な日本語勧誘・依頼および断りのポライトネス指導教材	175
11.5	おわりに	179
第12章	謝罪 —いつ謝罪が求められているか—	181
12.1	はじめに	181
12.2	謝罪行為の認識の相違	182
12.3	日本人の謝罪意識	184
12.4	自然会話およびドラマに見られる日本人の謝罪とポライトネス	188
12.5	おわりに	195
第13章	褒め —肯定的評価か否定的評価か—	197
13.1	はじめに	197
13.2	褒めは肯定的評価か否定的評価か？	198
13.3	日本人の褒めは肯定的評価を受けるか、否定的評価を受けるか？	

日本人の褒めとポライトネス	199
13.4 理解されにくい日本人の褒め	201
13.5 おわりに	205
第 14 章 不平・不満・不同意表明 ―丁寧に否定的評価を伝える―	207
14.1 反対意見表明・否定的評価についての先行研究	207
14.2 不平・不満表明とポライトネス	208
14.3 コミュニケーション・ギャップが起こりやすい日本人の否定的評価	211
14.4 おわりに	220
第 15 章 感謝を表明すべきか否か	221
15.1 感謝表明の要不要とポライトネス	221
15.2 日本人の感謝行為と認識	222
15.3 学習者が理解しにくい日本人の感謝表現	227
15.4 おわりに	231
第 16 章 結論	233
16.1 本論文の要旨	233
16.2 本論文の意義	236
16.3 おわりに	237
参考文献	24

# 第1章

## 序論

### 1.1 はじめに

国立国語研究所においては、敬語研究から発展した日本語の丁寧さに関する調査研究が行われてきた。その調査研究に基づき、『言語行動における「配慮」の諸相』（国立国語研究所 2006）では、敬語形式選択の問題にとどまらず、それぞれの言語行動場面でどのような配慮をしているかにまで範囲を広げた研究が行われた。杉戸(2005:2)によると、「配慮」とは、「コミュニケーションにおける言語使用を背後で支える各種の意識や心配り」である。日本語のポライトネスにおいては、この「配慮」が重要な要素であることは事実なのだが、この日本人の行う「配慮」や「心配り」は、他の言語においては必ずしも日本語におけるような効果をあげるわけではなく、誤解に繋がることもしばしばである。

ザトラウスキー(1993)は、以下のような経験談を挙げながら、日本語と米語における勧誘のストラテジーの対照分析を行い、その相違を明らかにした。

また、滞在中に、筆者の日本人の友人が結婚して外国に行ってしまうので、他の友人たちと一緒に温泉に行くということになり、筆者も誘われたが、その時、「ポリーさんは論文で忙しいから、行くのは大変でしょう」と言われて、大変ショックを受けたことがある。米国の習慣では、人を誘う際にこのような表現を用いるのは、相手が自発的に断るように仕向ける時だからである。…このような経験を何度か繰り返すうちに、日本人の勧誘表現には、英語の場合とは違う「ストラテジー」が使用されているのではないかと考えるようになった。(ザトラウスキー 1993:1)

日本人にとっては丁寧に思える配慮表現が、米国人にとっては全く逆の無礼な行動に映ったのである。ザトラウスキーはこのような経験を踏まえ、自然な日本語会話を詳細に分析することで、日本語の勧誘のストラテジーの考察を行った。その結果、米語の勧誘談話と異なり、日本語の勧誘談話では、「気配り発話」や「思いやり発話」が頻繁に用いられる

ことが分かった。

この日本人の「気配り発話」「思いやり発話」「配慮表現」は、日本語のポライトネスにおいては重要な役割を担っているのであるが、ザトラウスキーの経験談から推察されるように、日本語学習者にとっては誤解しやすい表現でもある。このことを考慮すると、日本語教育という観点からの日本語ポライトネス<sup>1</sup>研究においては、先ず日本人のポライトネスの認識と日本語学習者のポライトネスの認識の相違を明らかにすることで、誤解されやすいポライトネスに焦点をあてた研究が求められていると言える。

このような事情を考慮の上、本研究を「日本語のポライトネス—異文化理解教育の方法開発に向けて—」と題して、日本語のポライトネスを題材とした異文化理解教育の方法開発を行う。この論文では、本論を2部に分け、第I部(第4章～第10章)理論編「談話分析に基づく日本語のポライトネス研究」では、様々の観点から日本語ポライトネスの特徴について論じていく。具体的には、日本語ポライトネスは Brown and Levinson (1978) の普遍理論では何故説明できないのか、日本語のポライトネスにおいて「わきまえ」と「ストラテジー」がどのような役割を果たしているのか、日本語母語話者のポライトネス認識と日本語学習者のポライトネス認識の相違はどこにあるのか等について論じていく。第II部(第11章～第15章)は応用編「日本人の言語行動におけるポライトネス—効率的な日本語ポライトネス指導法を目指して—」である。依頼・勧誘と断り、謝罪、褒め、不平・不満・不同意表明、感謝という言語行動における日本語ポライトネスについての、日本語母語話者と日本語学習者の認識の違いを明らかにし、教授内容を特定することで、これらの言語行動における日本人のポライトネスを教授するために実践的教育法を提示する。<sup>2</sup>

日本語学習者人口は増加し、これに伴って高い能力の獲得を目指す人の数が広がり、求められる中上級の技能の質も異なってきている。以前は上級に達しようとする人々の殆どは、各種文献の読解に興味の中心があった。しかし最近では、広い分野の人々が、日本人と互角に渡り合って深い意思を交換するための手段として、状況に応じて敬意や親しみなど

---

<sup>1</sup> Politeness の日本語訳として適切なものがないため、本論文では出来る限りポライトネスと表記する。ポライトネス表記の必要性については生田(1997)、宇佐美(1997) (1998)を参照のこと。

<sup>2</sup> 第II部の応用編は、効率的な日本語ポライトネス指導法の例として、言語行動を用いたものであり、それぞれの言語行動についての本格的な対照研究を目指しているものではない。日本語ポライトネス指導に有用だと考えられる例を挙げながら、指導例を提示する。これらの日本語ポライトネスの例は、ある文化にとっては全く異なるものであるし、また別の文化にとっては類似したものであると思う。むしろ、様々の文化出身の学習者が、その相違と類似を認識し、日本語で丁寧な行動をとるにはどうすればよいかを自ら判断できるようになることを目指す。

様々の感情を表現できる話し言葉の高い能力を求める傾向が強まっている。効果的な意思疎通のためには、日本語のポライトネスの特徴を正しく認識し、場面に応じて使いこなす能力が非常に重要である。このような現状を鑑み、本研究では、日本語のポライトネスを異文化理解教育の観点から論じる。

## 1.2 論文の構成

この論文では、以下のような構成で議論を進めていく。

まず、第 2 章では先行研究を概観し、本研究の立場を述べる。第 3 章では、この論文で使用了データの種類および収集法についてまとめる。第 4 章以降が本論である。本論は 2 部に分かれる。第 I 部(第 4 章～第 10 章)は理論編「談話分析に基づく日本語のポライトネス」、第 II 部(第 11 章～第 15 章)は応用編「日本人の言語行動におけるポライトネス—効率的な日本語ポライトネス指導法を目指して—」である。

第 4 章では、スタイルの交替、特に丁寧体を原則として使用する会話におけるスタイル交替の実態を観察し、どのような状況で交替が起こっているか、また交替を起こす話者の動機は何かを分析する。

第 5 章では、ポライトネスの理論として最も代表的な Brown and Levinson(以後 B&L)の問題点を指摘する。次に、同一インタビュアーによる 3 名の対話者との会話を比較分析することで、日本語におけるポライトネスとは何かについて考察を行っていく。

第 6 章では、井出他(1986)、Ide (1989 / 1992) 、Matsumoto (1988 / 1989)を概説しながら、日本語のポライトネスにおける「わきまえ」の重要性を再確認する。次に、自然会話を分析しながら、日本語会話におけるポライトネスは、「わきまえ」を遵守しつつ多様な「ストラテジー」を使用するという重層的な方法によって実現されることを論じていく。

第 7 章では、韓国語・中国語のポライトネスにおいても「わきまえ」が重要であるが、日本語と韓国語・中国語では「わきまえ方」が異なるため、ポライトネスの認識に相違があることを示す。韓国人・中国人・台湾人が奇妙に感じた日本語のポライトネスの例を挙げながら、日本語と韓国語・中国語のポライトネスの類似点・相違点について論じていく。

第 8 章では、韓国人に対する日本語教育に生かすために、日本人のポライトネスのうち韓国人が異なると感じるものをデータとして収集し、それが日本人と韓国人のどのような相違から起こるものであるかについて考察する。

第9章では、10代～50代の日本人および中国人に対する日本語配慮表現に対するアンケートの結果を基に、日本語配慮表現に対する認識の相違を明らかにした後、効率的な日本語ポライトネス指導教材とは何かについて論じていく。

第10章では、「聞き手志向」という観点からの日本語ポライトネス指導教材開発に向けて、日本語ポライトネスとは何かについて論じていく。日本語学習者にとって違和感のある日本語ポライトネス、および日本人にとって違和感のある日本語学習者のポライトネスをデータとして、ポライトネスおよび配慮表現に関する日本人と日本語学習者の意識の相違を特定し、その結果に基づき「聞き手志向」の日本語ポライトネス指導教材開発に向けた考察を行っていく。

第II部 第11章では、日本人と学習者の勧誘・依頼および断り方略に対する認識の相違を明らかにした上で、自然会話を素材とした効率的な日本語ポライトネス指導法を提示する。まず、依頼・断りに関わるポライトネスに対する日本語母語話者と日本語学習者の認識のギャップを示す。次に、自然談話で用いられた日本人と中国人の勧誘・依頼および断りの方略の相違を抽出し、最後に、学習者自身が観察することで、日本人との認識および方略の相違を意識化することができるような日本語ポライトネス教授法を提示する。

第12章では、コミュニケーション・ギャップが起こりやすい「いつ謝るべきか」を中心に日本人と学習者の謝罪行為に対する認識の相違を示した上で、日本人の謝罪行為におけるポライトネスの効果的指導法とは何かを考察することを目的とする。

第13章では、褒めの定義および先行研究を概観した後、まず日本人の褒めの例を挙げながら、褒めに関連する文化差について考えていく。次に、日本人は褒めているつもりだが、誤解される可能性の大きい褒めについて考察していく。

第14章では、学習者にとって最も困難な行為の一つである不平・不満・不同意の表明について論じていく。まずアンケートの形式を取りながら、日本人がどのようなやり方で不平・不満を表明するかについて考えていく。次に、実際の会話において日本人がどのようなやり方で不同意を表明するかについて観察・分析することで、日本人の不同意表明について考察していく。

第15章では、感謝行為について論じる。まず、日本人がどのような場面で感謝を期待しており、そのような場面で感謝が行われなかった場合どのように感じられるのかについて学んでいく。次に、学習者が理解しにくい日本人の感謝表現を挙げながら、日本人にとって

感謝という行為はどのような認識をもって行われているかについて考えていく。

第 16 章は結論である。本論文の要旨をまとめた後、今後の課題を述べた。





## 第 2 章

# 先行研究概観と本研究の立場

Brown and Levinson (以下 B&L) (1978) が出版されて以来、ポライトネスに関する議論は盛んに行われている。この章では、先ず B&L (1987)、Leech (1983)(2005) の普遍的ポライトネス理論を概観する。次に、井出他 (1986)、Ide (1989)、井出 (2006)、宇佐美 (1998a)(1998b)、滝浦(2008)、国立国語研究所(2006)などの日本語ポライトネスの議論を概説する。最後に、上記の概説を基に、本研究の立場を明らかにする。

### 2.1 序

B&L (1978) が出版されて以来、ポライトネスに関する議論が盛んに行われてきている。この研究がこれ程議論を呼んだのは、B&L がポライトネスを普遍現象として論じようとしたためである。この研究に対して取り分け大きな反論を行ったのが、言語的に又文化的に大きな相違をもつアジアの言語学者であった。

この章では、先ず普遍的ポライトネスを目指した B&L (1978)と Leech (1983)(2005)を概説する。次に、井出他(1986)、Ide(1989)、井出(2006)を概説することで、日本語の観点から見たポライトネスについて論じる。さらに、B&L(1978)を擁護し、井出他(1986)を批判した宇佐美(1998a)(1998b)、滝浦(2008)を概説する。次に、日本国内での敬語研究を発展させた研究である国立国語研究所(2006)を概説する。最後に、上記の研究への考察を踏まえ、本論文の立場を明らかにする。

### 2.2 ポライトネスの普遍理論

#### 2.2.1 Brown and Levinson (1978)

ポライトネス研究として最も強い影響力をもつのは、B&L である。B&L は、序論のブルローグにおいて、この書物では関連性のない言語や文化のポライトネスに類似性が存在していることを実証すると述べた。B&L によると、全ての人間にはネガティブ・フェイス(他人に邪魔されたくないという欲求)とポジティブ・フェイス(誰かに認められたいという欲求)がある。このフェイスを脅かさないように配慮して円滑なコミュニケーションを維持していこうとする言語行動がポライトネスである。相手のフェイスを脅かすような行為(face threatening acts、以下 FTA)を行わなければならない場合、話者は出来るだけ相手のフェイスを脅かさないよう配慮する。例えば、フェイスを脅かすくらいなら FTA を行わなかったり、比喩を使ったり曖昧な表現を使ったりして FTA をほのめかすだけにしたり、FTA と共に何らかの補償行為を行う等のストラテジーを用いる。この補償行為のうち相手のポジティブ・フェイスに訴えかけるもの(例えば、話し手と聞き手が仲間であることを示したり、聞き手の欲求に関心を示したりする)がポジティブ・ポライトネスであり、ネガティブ・フェイスに訴えかけるもの(例えば、聞き手に抜け道を残すことで強制をさけたり、謝罪を示したりする)がネガティブ・ポライトネスである。

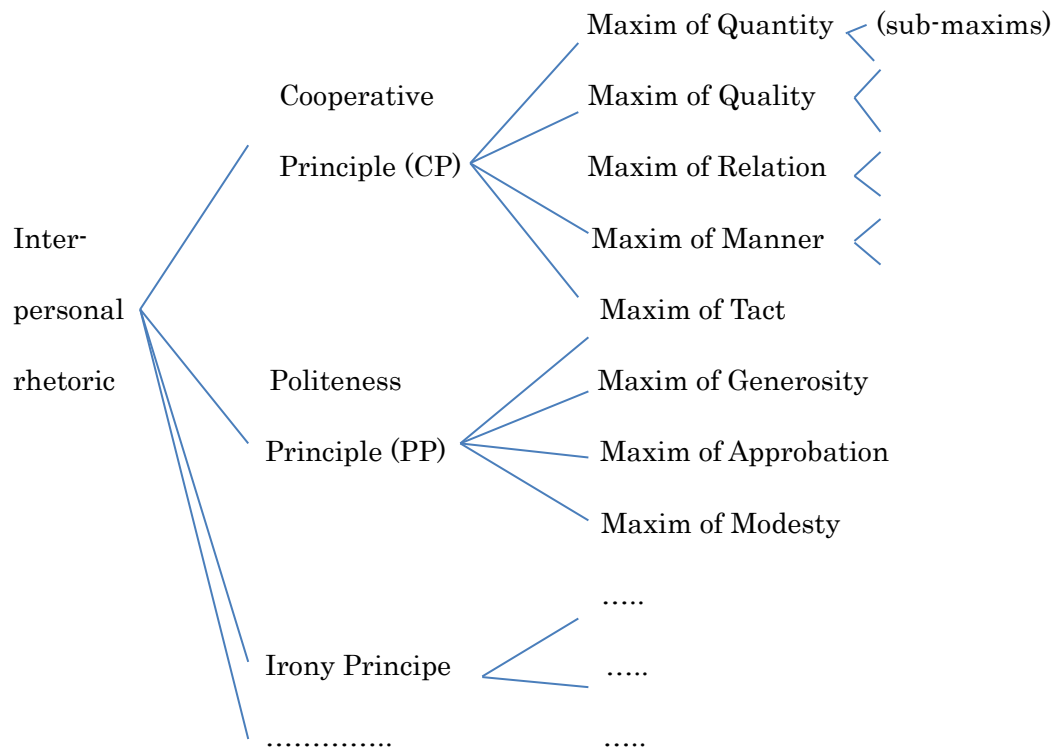
B&L のポライトネス理論は、フェイスという単一の概念を用いて普遍的ポライトネス理論を出したという点では画期的な研究書であり、40 年近く経った現在においても、ポライトネスを議論するには必ず引き合いに出される。しかし、以下の節で述べるように、フェイスという概念が果たして普遍的であるかどうかについて、取り分け日本を中心とするアジアの言語学者から批判が出されてきた。本章の 2.3.1 節で、これらの言語学者による批判を簡単にまとめる。

### 2.2.2 Leech (1983) (2007)

Leech (1983)の“Principles of Pragmatics”(語用論の原理)では、ポライトネスについて多くの紙面が割かれている。Leech(1983)は、修辞学を対人関係的修辞学とテクスト的修辞学に分類し、対人関係的修辞学を以下の図のように分類している。図から分かるように、グライスの協調の原理とポライトネスの原理は、対人関係的修辞の中で同列に並べられている。

個々の Maxim(原則)をそのまま用いることはできないであろうが、様々の文化におけるポライトネスを説明するには、この表のように文化差を説明する方策をとっておく必要がある。実際、Leech は、それぞれの Maxim(原則)における例を挙げながら、様々の文化に

におけるポライトネスを説明している。日本文化についても、例を挙げながら、Modesty Maxim(謙遜の原則)の重要性を提示している。



Leech (1983: 16)

Leech (2007) は、コミュニケーションにおける言語ポライトネス研究の語用論的枠組みと要請、提案、褒め、謝罪、感謝など一般的な言語行動に例証されるグランド・ストラテジー・オブ・ポライトネス(GSP)を提示した。Leech によると、普遍的なポライトネス理論である GSP は以下のように単純に記述できるとしている。

The GSP says simply: In order to be polite, a speaker communicates meanings which place (a) a high value on what relates to the other person (typically the addressee), and (b) a low value on what relates to the speaker. It is clear from many observations that constraint (a) is more powerful than constraint (b).

(Leech 2007: 167)

Leech の見解は、日本語のポライトネスにも大枠としては当てはまると考えられるが、本論の第 II 部第 7 章～第 18 章で述べるように、実際には「どうすれば聞き手に関係することに高い価値を置くことになるのか」には文化差が大きく、異文化理解教育という観点からすれば、この文化差に焦点を置いた日本語ポライトネス教育が求められる。本論文の後半では、この点を中心に議論していく。

## 2.3 日本語のポライトネス

### 2.3.1 井出他 (1986)、Ide (1989)、井出(2006)

Ide (1989) は、ポライトネスを、社会慣習に受動的に従うことで示されるポライトネスである「わきまえ(discernment)」と、話し手の能動的な選択を認めるポライトネスである「働きかけ(volition)」とに区別し、B&L は(1)のタイプのポライトネスを全く議論から外しているとする。

井出他(1986)では、日本とアメリカのそれぞれの国の大学生約 500 人に対してペンを借りる時に使う依頼表現についてのアンケート調査を行い、明らかな相違を見出した。このアンケートでは 20 人の人物カテゴリー(教授、中年の人、医者、助手・秘書、ジーンズの人、郵便局員、アルバイトの上司、大家、警官、デパートの店員、大学の若い先生、小売店の店員、ウェ이터・ウェイトレス、アルバイト仲間、顔見知りの学生、彼・彼女、親友、兄・姉、母親、弟・妹)に対して、与えられた 20 の表現(お借りしてもよろしいでしょうか、貸していただけませんか、貸していただきたいんですけど、お借りできますか、貸していただけますか、貸していただきませんか、貸してもらえませんか、貸してください、貸してくれませんか、いいですか、貸してほしんだけど、使っていい、借りていい、貸してくれる、貸してよ、いい、ペン、借りるよ、貸して、ある)のうちどの表現を用いるかが問われた。アンケートの結果、日本人は相手のカテゴリーによって明らかに表現を使い分けているが、アメリカ人はその傾向が少ないということが明らかになった。井出他はこのアンケート結果に基づき、アメリカ人では話し手の能動的選択であるポライトネスの使用が、日本人では社会慣習に従うことによって示されるポライトネスの使用が高いことを論じた。

調査自体については問題もあるが、この研究は日本人とアメリカ人の傾向の違いを明示的に示すことができたという点で評価できるものである。取り分け、ポライトネスを社会慣習に受動的に従うことで示されるポライトネスである「わきまえ(discernment)」と、話

し手の能動的な選択を認めるポライトネスである「働きかけ(volition)」(B&Lの述べるストラテジーとしてのポライトネス)とに区別したために、ポライトネス理論としての普遍性をB&L以上に高めることができたと考えられる。

井出(2006)では、ポライトネスの普遍理論、わきまへのポライトネス、敬語のダイナミックな動き、敬意表現と円滑なコミュニケーション、女性語はなぜ丁寧か等の議論の後、生命科学者の清水博の提唱するホロンの論理から「わきまえ」としての日本語のポライトネスについて説明を行った。井出は、吉田(1998)を引用しながら、日本型社会システムと欧米型社会システムの相違について次のように論じている。

日本社会システムは、ホロン型の社会構造をしている。それは、社会の構成員が自発的な情報交換と自発的な強調によって仕事を行うネットワーク型の社会システムである。…全体に関する情報を持つことで各個人は自らの立場を相対的に認識し、役割を分担するシステムである。トップが考え、その考えを下位の者に通達し、分業で効率を上げていく欧米型ヒエラルキー・システムとは異なる、とすることができる。

(井出 2006 : 196)

井出は、日本人のポライトネスにおいて重要な「わきまえ」という概念を、上記の「自らの立場を相対的に認識し、役割を分担するシステム」というホロン型社会構造から説明しようとした。

井出他(1986)、Ide (1989)、井出 (2006) の方法論には問題もあるが、ポライトネスには「わきまえ」と「働きかけ(ストラテジー)」の2種のポライトネスが存在することを明示的に示した点は、高く評価できる。本論文の第5章～第8章では、井出他(1986)、Ide (1989)を援用しながら、実際の会話を分析することで、日本語のポライトネスにおいて「わきまえ」および「働きかけ(ストラテジー)」がどのような働きをしているかを示す。

### 2.3.2 宇佐美(1998a)・(1998b)、滝浦(2008)

B&Lの理論を援護し、井出他(1986)・Ide(1989)の理論に反論するのは宇佐美(1998a)(1998b)である。宇佐美(1998a)では、B&Lの理論を概観した後、Ide(1989)、Matsumoto(1988)等による批判は妥当ではないとし、以下のような発想が必要であると示す。

1)敬語を有する言語においては、文レベルにおける言語形式の丁寧度とポライトネスを同

一視しないこと。

2)敬語を有する言語と、そうでない言語双方において、ポライトネスは、「文レベル」ではなく「談話レベル」で捉える必要があること。

3)敬語を有さない言語においても、「社会的慣習に従った言語使用」(敬語を有する言語におくても、敬語使用の原則がその大きな比重を占める)がポライトネスに果たす役割にも、より注意を払う必要があること。

4)ポライトネスは、「社会的規範や慣習に従った言語使用」と「話者個人の方略定な言語使用」の 2 側面から、またそれらの相互作用の相対として、談話レベルで捉える必要があること。  
(宇佐美 1998a : 145)

この 4 点のうちの最初の 2 点、即ちポライトネスは談話レベルで捉える必要がある点については、全く同感である。しかし、最後の 2 点については、議論がかみ合っていないと思う。というのは「働きかけのポライトネス」と「慣習的ポライトネス(わきまえ)」の区別を行うことで日本人とアメリカ人のポライトネスの相違を最初に示したのは、他ならぬ井出他(1986)、Ide(1989)、Hill *et al.* (1986) だからである。彼らの議論が評価されたのは、「働きかけ・ストラテジー」と「わきまえ・慣習的ポライトネス」の区別を行うことで、日本人とアメリカ人のポライトネスの相違を分かりやすく示したためである。また、宇佐美(1998a)(1998b) は、ディスコース・ポライトネスの必要性を説くが、論文の中では具体的な談話分析は行われていない。話題導入の頻度と典型例を出すに留まっている。ディスコース・ポライトネスを言うのであれば、実際の談話を分析しながら、そこでのポライトネスの現れ方を議論していく必要があろう。この点については、本論文の第 5 章と第 6 章で詳しく論じる。

滝浦(2008)も、宇佐美と同様 B&L を基盤としながら、距離という観点から、敬語、呼称、指示詞に盛られる文化差を説明しようとする。さらに、Tannen(1984)を援用しながら、「高関与体(high involvement style)」「高配慮体(high considerateness style)」というスタイルの違いとして、韓国語と日本語のポライトネスの相違を説明しようとする。滝浦が指摘するように、普通体と丁寧体、敬語の使用・不使用、呼称の使用・不使用、指示詞の使い方には文化差があり、それは相手との距離の取り方から来ている部分もあることは確かである。しかし、そもそも敬語の使用・不使用を相手との距離の取り方のみで説明できるとは思えない。さらに、滝浦の例については、宇佐美が井出他を批判したのと同様の批判が当てはまる。即ち、ポライトネスを文文法的に捉えているため、実際の談話におけるポライ

トネスの重層的で動的な性質をうまくとらえることが出来ていないのである。本論文の第 I 部で詳しく論じるが、日本語のポライトネスは「わきまえ」と「ストレテジー」を重層的に組み合わせ、談話における相手との関係を読み取りながら、動的に発展していくものである。この特徴を示すことができなければ、日本語のポライトネスを十分に論じたことにはならないであろうし、さらには、このポライトネスについての研究を異文化理解教育にうまく生かすことは難しいと思う。

### 2.3.3 『言語行動における「配慮」の諸相』国立国語研究所 (2006)

『言語行動における「配慮」の諸相』の第 1 章(「敬意表現」から「言語行動における配慮」へ)において、杉戸・尾崎は日本における敬語研究の歴史を簡単に述べた後、「敬意表現」から「配慮」に表現を変えた理由を以下のように述べている。

…得られたデータをより有意義に分析するためには、「敬意」という語の日常的な語感から想起される限られた範囲での待遇的配慮を超えた、より広汎な視点がぜひとも必要だと考えるに至った。そこで、コミュニケーションにおける言語使用を背後で支える各種の意識や心配りを表す語として「配慮」というキーワードを新たに立てることにした。  
(杉戸・尾崎 2006 : 2)

この報告書では、この「配慮」をキーワードとして、調査の概要、依頼場面での働きかけ方における世代差・地域差、依頼・勧めに対する受諾における配慮の表現、依頼・勧めに対する断りにおける配慮の表現、ぼかし表現の二面性—近づかない配慮と近づく配慮—、敬語についての規範意識、という議論が行われている。

日本人のポライトネスにおいて配慮が重要であるのは理解できるのだが、この日本人の配慮は日本語学習者には必ずしも配慮とは認識されておらず、むしろ誤解を受けることが多い。本論文は日本語教育という観点からポライトネスを論じていくため、日本人の配慮表現に対する日本人と日本語学習者の認識の相違を中心に議論を進めていく。

## 2.4 本研究の立場

本章では、Brown and Levinson (1978)、Leech (1983)(2005) の普遍的ポライトネス理論を概観した後、日本語のポライトネスを中心とした議論である井出他 (1986)、Ide(1989)、井出 (2006)、宇佐美(1998a)(1998b)、滝浦(2008)、杉戸・尾崎 (2006)などを概説した。こ



これらの先行研究は、普遍的言語ポライトネス、日本語のポライトネスの解明に大きな貢献をしたことは確かであるが、何れもそのままでは日本語教育に生かすことは難しい。

そこで、本研究では(1)～(3)のような観点から、日本語教育、異文化理解教育につながることを目指して、日本語ポライトネス研究を行っていく。

(1)基本的には、井出他(1986)、Ide(1989)、Hill *et al.* (1986) が論じた Volition(働きかけ・ストラテジーのポライトネス)、Discernment(わきまえ・慣習的ポライトネス)の 2 種のポライトネスを用いて、日本語ポライトネスを説明する。ポライトネスの重層的で動的な特徴を記述するためには、Volition(働きかけ・ストラテジー)のみならず、慣習的なポライトネスも不可欠のものであると考えるためである。ポライトネスの定義については Ide (1989:225) に、「わきまえ」、「働きかけ」の定義については Hill *et al.*(1986) に従う<sup>3</sup>。

Politeness : Behavior which promotes smooth communication between interlocutors.

Discernment: Discernment refers to the practice of polite behavior by conforming to social conventions. By submitting passively to social conventions, the speaker shows that s/he is acknowledging the social context and the relationship between the participants in the conversation.

Volition: Volition is the aspect of politeness which allows the speaker considerably more active choice, according to the speaker's intention, from a relatively wider range of possibilities.

Hill *et al.* (1986: 348)

(2)「わきまえ」と「働きかけ」の 2 つのポライトネスを認めることについては、井出他(1986)、Ide(1989)、Hill *et al.* (1986)に従うが、この 2 つのポライトネスの関係については異なった見解をもっている。Hill *et al.* (1986) は、日本語と英語のポライトネスの相違を、この 2 つのポライトネスの量の違いのように表しているが、この 2 つのポライトネスの違いは量的な違いではなく、むしろ質的違いである。Discernment のポライトネスの必要性を論じる時に詳しく述べるが、Discernment (わきまえ)が日本語のポライトネスにおいて重要な役割を果たしていることは、量的に多いからというよりむしろ、基盤にあって Volition(働きかけ)の使用までも制限しているという点にあると考える。

---

<sup>3</sup> 本研究がポライトネスという用語を用いているのは上記のような定義をとるためである。定義から分かるように、文レベルの敬語や敬意表現ではなく、談話レベルのスムーズなコミュニケーションに資する行動を指すものとする。

(3)本論文は、日本語教育・異文化理解教育に繋がるような日本語ポライトネスの論文を目指すものである。そのため、第Ⅱ部の応用編のみならず、第Ⅰ部の理論編においても理論に片寄らず、教育という視点を入れながら議論を行っていく。



## 第 3 章

# データの種類および収集法

この章では、本論文で用いるデータの種類および収集法について概説する。主なデータは以下の 3 種類のデータである。第 1 のデータは、上下関係のある対話者間の自然会話を文字化したものである。このデータには、教師と学生の会話、医師と患者の会話、テレビのインタビュー番組の司会者とゲストの会話の 3 種類の会話が含まれる。本論文の考察の多くは、この会話の観察、分析を基盤としている。第 2 のデータは、日本語学習者が奇妙に思った日本人のポライトネスを含む談話例である。日本語学習者に理解されにくい日本人のポライトネスを特定するのにこのデータを使った。最後のデータは、日本語学習者が誤解しやすい日本人の言語行動、さらに日本人に誤解されやすい日本語学習者の言語行動を含む談話を日本人と日本語学習者に提示して、その印象を記述してもらったアンケート結果である。このデータを用いて、日本人と日本語学習者の認識の相違を明らかにした。

### 3.1 序

本論文で用いるデータの種類および収集法について概説する。第 2 節では、第 1 のデータについて概説する。このデータは、上下関係のある対話者間の自然会話を文字化したものである。このデータには、教師と学生の会話、医師と患者の会話、テレビのインタビュー番組の司会者とゲストの会話の 3 種類の 18 会話が含まれる。本論文の考察の多くは、この会話の観察、分析を基盤としている。第 3 節では、第 2 のデータについて概説する。このデータは、日本語学習者が奇妙に思った日本人のポライトネスを含む談話例である。5 名の上級日本語学習者に日本語の会話、ドラマ、映画などから奇妙に感じられた日本語ポライトネスの談話例を収集してもらった。日本語学習者に理解されにくい日本人のポライト

ネスを特定するのにこのデータを使った。第 4 節では、第 3 のデータについて概説する。このデータは、日本語学習者に誤解されやすい日本人の言語行動、逆に日本人に誤解されやすい日本語学習者の言語行動の談話例を、日本人と日本語学習者に提示して、その印象を記述してもらったアンケート結果である。このデータを用いて、日本人と日本語学習者の認識の相違を明らかにした。

### 3.2 データ 1 上下関係のある対話者間の自然会話

データ 1 は、平成 10 年度～平成 12 年度科学研究費補助金「日本語談話におけるスタイル交替の実態とその効果についての分析」(基盤研究(C)(2)(課題番号 10680309：研究代表者：松村瑞子)の報告書で報告された自然会話データである。

本研究の録音資料の文字化に関しては、Levinson(1983) の表記法を中心に、宇佐美(1996)、ザトラウスキー(1993) を参考にして、以下のような表記方法を用いた。

- 1 原則として漢字・仮名まじり文で表記した。ただし、読み方が複数考えられるものについては、漢字表記した後カッコ内に平仮名表記を加える。

(例)会話 3 27S5 これは何です、私(わたし)は誰です」// ってところから…

- 2 発話の途中で次の発話が始まった場合、次の話者の発話が始まった時点を//で示す。

(例)会話 3 27S5 これは何です、私(わたし)は誰です」// ってところから…

28T3

うん、うん、うん。

- 3 語尾を長くのばした発音は「えー」のように「ー」で示す。但し、母音 2 つが明瞭に発音されている場合は「ええ」のように母音を重ねて示す。

- 4 沈黙の長さはカッコ内に 10 分の 1 秒単位の数字で示す。

(例)会話 4 17D1 診察していきましょかね。(0.4)

- 5 上昇のイントネーションは「？」で示す。

(例)会話 1B 9T1 意味がない？

下降のイントネーションで文が終了したことを「。」で示す。

(例)会話 1A 32T1 育てたんだ。

ごく短い沈黙、あるいはさらに文が続く可能性があることを「、」で示す。

(例)会話 1A 4T1 よくがんばったねえ、高校の時亡くなられて、よく大学、

6 非言語的行動の笑いやジェスチャーは、{笑} {形の真似} のように { } に入れて表現する。

7 聞き取り不明の箇所は「#」で示す。

8 発話中の個人名は伏せる。ただし、伏せた内容が姓の場合は[名字]、名前の場合は[名前]のように、文脈を理解するのに支障のないようにする。

データ 1 中の会話は、いずれも社会的身分を心に留めておく必要のある場面における会話である。家庭内やごく親しい友人同士の内輪話のように身分差に全く注意を払う必要のない場面での会話は分析の対象から外した。また、分析した会話には会話の主導者(その会話を進行させる責任を負っている人)が存在しており、またどのような内容について話をするかについて一定の全体像が参加者に共有されているものを選んだ。このような会話の方が、社会的身分や役割からくる「わきまえ」の認識と会話を成功させるための「ストラテジー」の必要性がはっきりしてくると考えられるためである。

タイプ 1 は、大学教授と学生との間の会話である。教師は学生を指導する立場にあり社会的地位は上であるが、長い期間にわたって指導を続ける必要もあり、ある程度地位の差をなくしたような基準値を選んで会話を行う。一方、下の地位にある学生は基準値としては「謙りモード」を選択しつつも、上の地位にある教師の「親しみモード」に同調するためにどのようなストラテジーを用いているかが、これらの会話で明らかになると考えたためである。

タイプ 2 は、医者が高患者を診察している場面である。本来医者と患者の関係は、専門家という意味では医者が上の地位にあり会話の主導権も握っているが、年齢や社会的地位は患者の方が上のこともあり、その位置関係は微妙である。この医者と患者の様々な位置関係が「わきまえ」や「働きかけ」にどのように反映するかを見るために、このタイプのデータを分析した。

タイプ 3 は、テレビのインタビュー番組「徹子の部屋」における主人役黒柳徹子と彼女

の部屋に招かれた様々の客との会話である。このタイプの会話を分析に加えたのは、他のタイプにはない視聴者の存在が「わきまえ」や「働きかけ」に与える影響を調べるためである。また、この番組に登場するゲストたちの性別、年齢、社会的地位が多様であるため、「自分の分を弁えながら、その範囲内で許容されるストラテジーを用いる」という日本式のポライトネスの実態を示すのに好都合のデータであると考えたためである。

表(1)は、本論文で使用した会話を上記の3タイプに分類し、対話者の社会的地位、年齢、性別、およびその上下関係、親しさの度合い、観客・視聴者の有無を表にしたものである。

表(1)

		対話者 (社会的地位・年齢・性別)	対話者間の 上下関係	親しさ	観客の有無
タイプ1	会話1A 15分20秒	教授・52・男性 学生・21・女性	上 下	強	無
	会話1B 10分13秒	教授・52・男性 学生・22・女性	上 下	強	無
	会話2 12分15秒	教授・43・女性 学生・21・女性 学生・21・男性	上 下 下	強	無
	会話3 11分5秒	教授・42・女性 教授・学生・56・女性	不明 <sup>4</sup>	弱	無
タイプ2	会話4 4分6秒	医者・44・男性 患者・26・男性	上 下	弱	無

<sup>4</sup> この表で「不明」としたものは、社会的地位、年齢、会話場面での立場における上下関係が一致しないため、上下関係が特定できないものである。

	会話5 5分13秒	医者・44・男性 患者・48・男性	不明	弱	無
	会話6A 6分21秒	医者・44・男性 患者・56・男性	不明	弱	無
	会話6B 6分35秒	医者・44・男性 患者・53・女性	不明	弱	無
タイプ3	会話7A 1番組(35分)	司会者・60・女性 ゲスト・30・女性	上 下	弱	有
	会話7B 1番組(35分)	司会者・60・女性 ゲスト・30・男性	上 下	弱	有
	会話8 1番組(35分)	司会者・60・女性 ゲスト・60・女性	同 同	強	有
	会話9 1番組(35分)	司会者・60・女性」 ゲスト・70・女性	下 上	弱	有

このデータの観察・分析は、本論文全体の基盤となっているが、取り分け第4章、第5章、第6章の分析、考察はこのデータを用いて行った。

### 3.3 データ2 日本語学習者が奇妙に思った日本人のポライトネス

データ2は、平成20年度～平成22年度科学研究費補助金「談話分析に基づく日本語ポライトネス指導教材開発」(基盤研究(C)(課題番号 20520471：研究代表者：松村瑞子)の報告書で報告されたデータの一部である。このデータには、日本語学習者が奇妙に思った日本人のポライトネスを含む談話例が含まれている。上級日本語学習者5名<sup>5)</sup>に日本語の会話、

---

<sup>5)</sup> データ収集に協力したのは以下の5名の九州大学大学院博士後期課程大学院生(平成20年当時)である。李奈娟(韓国人) 20場面、徐燕(中国人) 6場面、李大年(中国人) 12場面、李曦曦(中国人) 6場面、王龍(台湾人) 15会話をそれぞれ収集した。



ドラマ、映画などから奇妙に感じられた日本語ポライトネスの談話例を収集してもらった。日本語学習者に理解されにくい日本人のポライトネスを特定するのにこのデータを使った。

以下が収集してもらった学習者にとって奇妙な日本語ポライトネスを含む場面の例である。それぞれ収集例を一例ずつ何故奇妙に感じたかについてのコメントを加えて引用する。

### (1) 韓国人学生収集例

義母が婿に対して自分の娘のことをもう少し労わるよう意見する場面

義母： 亘さん、ちょっといいかしら。

婿： ああ、はい。

義母： 亘さん、あなた奈々美の夫ですから、もうちょっとどうにかやって貰えないかしら。

婿： あ、はい。

コメント：この例について、韓国人 10 人、日本人 10 人にアンケートで自然か不自然か、またその理由を尋ねた。アンケートに答えた韓国人 10 人全員が「姑と嫁、義理の母と婿の関係において姑や義理の母のほうが丁寧な表現を用いることは韓国では考えられない」と答えた。一方、日本人については、75%がこの敬語や丁寧体を考えられる用法とした。

### (2) 中国人学生(1)収集例

院長：バチスタ手術についてご存じですか。

田口：名前ぐらいは

院長：一般的な成功率は約 60%、ところが、桐生先生がこの病院に着任してから一年、その難しい手術をことごとく成功させてきました、実に 26 連勝。彼の名前を知って全国から患者さんが集まってきます。

桐生：ですが、このバチスタ手術が最近三連敗、続けて失敗しています。

院長：その原因を鶴働教授に・・・あ、いや、あなたに解明していただきたい・・・

田口：無理です。

院長：近々訳ありの手術がありましてね、ぜひともお引き受けしていただきたい。

田口：こういうことは確か、リスクマネジメント委員会の仕事だと思いますが・・・

院長：大げさなことにしたくないんですよ。

### 『チームバチスタの栄光』

コメント：田口は精神科の医者で、無理やり鵜飼教授に頼まれて、院長室にきた。上下関係から見ると、院長が依頼するときの言葉づかいが丁寧すぎると思う。

### (3)中国人学生(2)収集例

場面：東京で一緒に住んでいる親友 M3 が家を出ることになった。M1 はもう一度東京で頑張ろうと M3 を引き止めている。

登場人物：M1－男性(20 代)、M3－男性(20 代)

M1 と M3 の関係－高校時代の親友、一緒に住んでいる

作品名：『東京タワー オカンとボクと、時々、オトン』

会話内容

M1：なあ 金ないよな？ 交通費なんだけど

M3：…

M1：…

M1：なあ いくなよ

M3：こんな時に悪いけど でも本当に僕だめなんよ

M1：家賃二人分払っていくの無理やもんな

一緒にさあ もうちょっと頑張ろうや

M3：今はくさっとるけどね

あんたは才能あるから 頑張りたい

僕はもう頑張りがい

コメント：まず、お金を借りる時、「お金ないよな」のようにお金がないことを前提としてお金を借りようとしている。つまり、相手が断りやすく、答えやすく質問している。

中国の場合は「你有没有钱？（お金ある？）」のように、お金があることを前提とし、お金があるのなら貸して欲しいと強く訴えることが多い。

次に、「一緒にもう一度がんばろう」という親友に「今はくさっとるけどね あんたは才能あるから 頑張りい」と励まし、自分に対しては「僕はもう頑張りきれん」という。つまり、断る場合に相手は高く評価するのに対して自分は低く評価し、相手のポジティブ・フェイスを配慮した表現である。中国の場合は自分を低くして相手の依頼を断るのではなく、帰らなければならない等の他の言い訳をすると思う。

#### (4) 中国人学生(3) 収集例

**題名：**映画「犬と私の 10 の約束」

**状況：**結婚式の前日、娘(あかり)がお父さん(斉藤)に今まで育ててくれたことを感謝する場面。

**台詞：**

娘 お父さん、花嫁みたいなこと言っていい？

父 やめてくれ。

娘 今まで本当にありがとうございました。

父 こちらこそ、ありがとうございました。

コメント：娘が父に「今までありがとうございました」と言ったのに対し、地位、権力が上である父も「こちらこそ、ありがとうございました」と敬語で返す理由が分からない。

#### (5) 台湾人学生 収集例

トーク番組：爆笑問題のニッポンの教養 2009.1/5

キャスター：太田光(1965 年 5 月 13 日)、田中裕二(1965 年 1 月 10 日)

出演：山口仲美(明治大学教授、1943 年 5 月 25 日)

☆ (日本語の歴史、文字で遊ぶ)

(前略)

山口：文字で遊ぶっていうところさ、さっき脱線したけど(はい)、出していい？(田中：あ、まだあるの？)あるよ、奈良時代の人が文字に慣れてきたら遊びだしたのね、これ読んでね

太田：読むんだ。クイズだ

山口：そうだ。はい。

太田：はあ～「二八十一」

山口：奈良時代の人よ

太田：え？にわとり。(山口：にわとり)違う？

田中：あ、違う。いや、これ何か分解してんじゃない、何かにできない？

山口：遊んでるのよね

田中：遊んでる

山口：文字でね

太田：何だこれ

田中：分かんないね

山口：憎く、九九八十一じゃない？(はあ、はあ、はあ)だから奈良時代の人とは私たちと同じように九九を知っていたわけよ

太田：九九知ってた？

山口：だから、「憎く」、憎いという意味(憎いということ)

太田：九九という言葉があったの？奈良時代に

山口：そう、だから、九九八十一とか「ににんがし」私たちと同じように覚えてたわけ。

太田：すごいなあ

コメント：太田さんが頻繁に普通体を使ってたことに驚いている。多分山口教授もほとんど普通体で話していたことと関係しているのではないかと思う。

日本語母語話者と日本語学習者のポライトネスに対する意識の相違について論じた第 7 章、第 8 章、第 9 章、第 10 章のデータには、ここでの収集例を使った。さらに、日本語母語話者と日本語学習者の認識の相違を明らかにするために、これらの例のうち 10 例を選び出して、20 代～50 代の各世代の日本語母語話者と日本語学習者の男女に質問紙調査を行った結果が次のデータ 3 である。

### 3.4 データ 3 日本語母語話者と日本語学習者の認識の相違

データ 3 も、平成 20 年度～平成 22 年度科学研究費補助金「談話分析に基づく日本語ポライトネス指導教材開発」(基盤研究(C)(課題番号 20520471：研究代表者：松村瑞子)の報告書で報告されたデータの一部である。ここでは、日本語学習者が奇妙に感じる日本人のポライトネスを含む談話例(データ 2 を含む)、逆に日本人が気妙に感じる日本語学習者の手紙やメールから 10 例を選び出し、20 代～50 代の各世代の日本語母語話者と日本語学習者の男女に質問紙調査を行った。

データとして使用した談話例および手紙・メールおよび質問内容は以下の通りである。

#### 1. アンケート調査内容

##### アンケート

以下の 1～10 の日本語の会話および手紙文を読んで質問に答えてください。

##### 1 小学校の教師(20 代)、教師の母親(50 代)、生徒の母親(30 代)の会話

生徒の母親： あら、先生！

教師： あ！

教師の母親： (生徒の母親を見て)あの...

教師： あ、あのうちの母です。

生徒の母親： (お辞儀をしながら)あ、はじめまして。

教師： (教師の母親に対して)あのね、うちの生徒のお母さん。

教師の母親： (お辞儀をしながら)あ、はじめまして。あの、〔教師の名〕の母でございます。娘がいつもお世話になっております。

生徒の母親： あ、いえ...こちらこそ、いつもお世話になってます。

教師の母親： (丁寧にお辞儀をしながら)あの、どうぞこれからも宜しくお願いします。

生徒の母親： あーは、はい。

質問 1. 下線部の母親の言葉遣いは自然ですか不自然ですか。

- 1 自然      2 不自然

質問 2. 質問 1 の選択理由を書いてください。

## **2 病院長と医者との会話：病院長が田口医師に手術失敗の原因説明を依頼している場面**

院長： バチスタ手術についてご存知ですか。

田口： 名前ぐらいは…。

院長： 一般的な成功率は約 60%、ところが、桐生先生がこの病院に着任してから一年、その難しい手術をことごとく成功させてきました。実に 26 連勝。彼の名前を知って全国から患者さんが集まってきます。

桐生： ですが、このバチスタ手術が最近三連敗。続けて失敗しています。

院長： その原因を鶴働教授に…あ、いや、あなたに説明していただきたい。

田口： 無理です。

質問 1. 下線部の院長の言葉遣いは自然ですか不自然ですか。

- 1 自然      2 不自然

質問 2. 質問 1 の選択理由を書いてください。

## **3 父子家庭の娘と父親の会話：結婚式の前日娘が父親に今まで育ててくれたことを感謝**

### **する場面**

娘： お父さん、花嫁みたいなこと言っていい？

父： やめてくれ。

娘： 今まで本当に有難うございました。

父： こちらこそ、有難うございました。

質問 1. 下線部の父親の発話は自然ですか不自然ですか。

- 1 自然      2 不自然

質問 2. 質問 1 の選択理由を書いてください。

**4 ナオちゃん(20 代女性)と同じ会社の先輩(30 代女性)の会話：朝出勤途中に偶然**

**出会った。**

ナオ： いいお天気ですね。

先輩： そうね。それよりナオちゃん、今晚ひま？

ナオ： え？

先輩： いいビアガーデン見つけたの。飲みに行かない？

ナオ： きよっ…今日ですか？あ…い…いいですね！あたしもそろそろ行きたいなって  
思ってたところです。是非連れてってください。

質問 1. 一重下線部のナオの言葉遣いについてどのように感じますか。

- 1 ごく普通で特別な感じは何もない。  
2 大変丁寧な感じがする。  
3 その他\_\_\_\_\_

質問 2. 二重下線部の先輩の言葉遣いについてどのように感じますか。

- 1 ごく普通で特別な感じは何もない。  
2 そんないで失礼な感じがする。  
3 その他\_\_\_\_\_

質問 3. 質問 1、質問 2 の選択理由を書いてください。

**5 留学生の李さん(20 代女性)と学校の事務の人(40 代女性)の会話**

李 : すいません、中山財団奨学金に応募したいんですけど…

事務室の人 : あ、あれね。もう締切が過ぎたんですよ。同じような別の奨学金があるけど、それじゃいけない？

李 : あ、そうですか…それでもいいね。

質問 1. 一重下線部の事務室の人の言葉遣いについてどのように感じますか。

- 1 ごく普通で特別な感じは何もない。
- 2 ぞんざいで少し失礼な感じがする。
- 3 親しさを示そうとしている感じがする。
- 4 その他\_\_\_\_\_

質問 2. 二重下線部の李さんの言葉遣いについてどのように感じますか。

- 1 ごく普通で特別な感じは何もない。
- 2 ぞんざいで少し失礼な感じがする。
- 3 親しさを示そうとしている感じがする。
- 4 その他\_\_\_\_\_

質問 3. 質問 1、質問 2 の選択理由を書いてください。

**6 高校時代からの親友二人の会話：現在二人は同居しているが、M3 は家を出ようと**

**している。M1 はもう少し一緒に東京に止まって頑張って貰いたいと思っている。**

M3: なあ、金無いよなあ？交通費なんだけど…。

M1: …

M3: …

M1: なあ、行くなよ。

M3: こんな時に悪いけど、でも本当に僕だめなんよ。

M1: 家賃二人分払っていくの無理やもんな。一緒にさあ、もうちょっと頑張ろうや。



M3: 今はくさっとるけどね、あんたは才能あるから、頑張りい。僕はもう頑張りきれん。

質問 1. お金を貸して貰おうとして言った M1 の下線部の表現は適切だと思いますか。

- 1 適切      2 不適切

質問 2. もし、あなたならどのような表現を用いますか。

**7 次は中国学生から日本の大学教授に研究生にしてくださいとの依頼を行うメール一部**

です。

＊＊先生

こんにちは。

突然メールでお邪魔しまして本当に申し訳ございません。はじめまして、中国の＊＊と申します。お忙しいところご迷惑おかけしてしまいました。じつは、この度。先生の研究生になりたいので、お手紙を差し上げます。それでは、まずは自己紹介させていただきます。…

質問 1. 上記のメールの中で不適切な部分があれば修正してください。

質問 2. 不適切と思った場合は、何故不適切と思ったのか書いてください。

**8 次は日本の大学教授に博士論文提出期限についての質問のメールの一部です。**

＊＊先生

ご無沙汰してしまい申し訳ございません。＊＊です。

さて早速ですが、博士論文提出の日程に関してご相談したくメール致しました。

本来ならば、お部屋に伺ってご相談すべきところを、このような形で申し訳ございません。

博士論文に関しては、果たして書けるのかどうかという問題もありますが、兎にも角にも頑張ろうと思っております。

そこでお尋ねしたいのが、遅くともいつまでに原稿を出したらいいかということです。

このような質問をすること自体、学生として言語道断ではありますが、ご指示いただければ幸いに存じます。

お忙しいところ誠に恐れ入りますが、何卒宜しくお願い申し上げます。

質問 1. 上記のメールの中で不適切な部分があれば修正してください。

質問 2. 不適切と思った場合は、何故不適切と思ったのか書いてください。

**9 次は日本へのホームステイを希望していたアジアの学生から受け入れてくれることになった日本のホームステイ先への手紙の一部です。**

＊＊さま

はじめまして。＊＊の国際交流課を通してホームステイを申し込んでいた＊＊です。今回の私のホームステイの件では、心より感謝申し上げます。…

私は 8 月から夏休みなので、8 月の 10 日から 17 日までお世話になりたいと思います。その他の日は、アルバイトやクラブ活動がありまして無理です。…

お返事お待ちしております。7 月 21 日から 8 月 5 日までは調査旅行を計画しておりますので、7 月 20 日までに届くようお願いいたします。…

質問 1. 上記のメールで不適切な部分があれば修正してください。

質問 2. 不適切と思った場合は、何故不適切と思ったのか書いてください。

**10 日本滞在時に知り合った日本人の先輩から論文のコピーを送って貰いました。以下はそれに対するお礼の手紙の一部です。**

＊＊様

時下、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

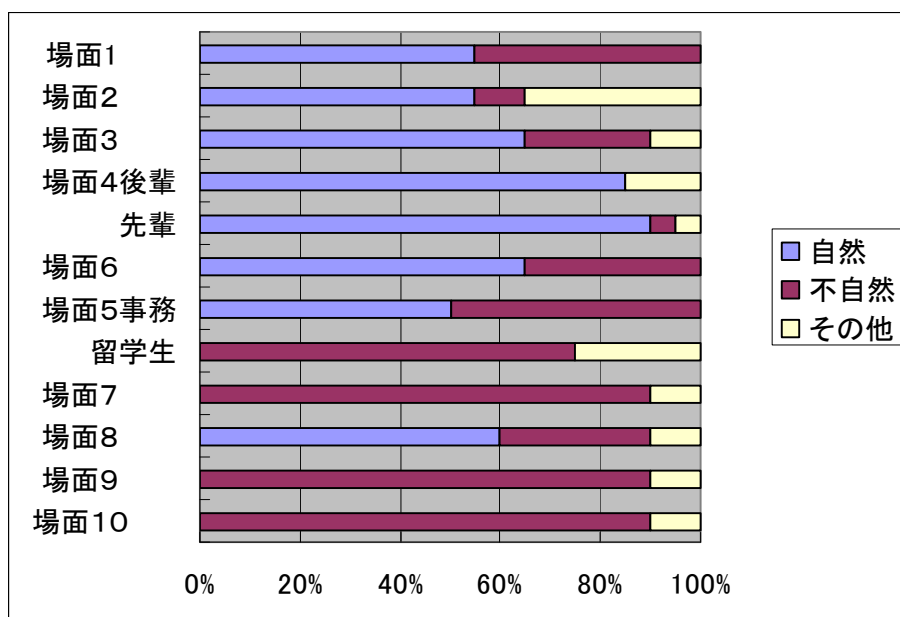
先日はお書きになった論文を送ってくださりありがとうございます。送った論文は全部お読みいたしました。私の論文のテーマにぴったりで役に立ちました。…

質問 1. 上記の手紙で不適切な部分があれば修正してください。

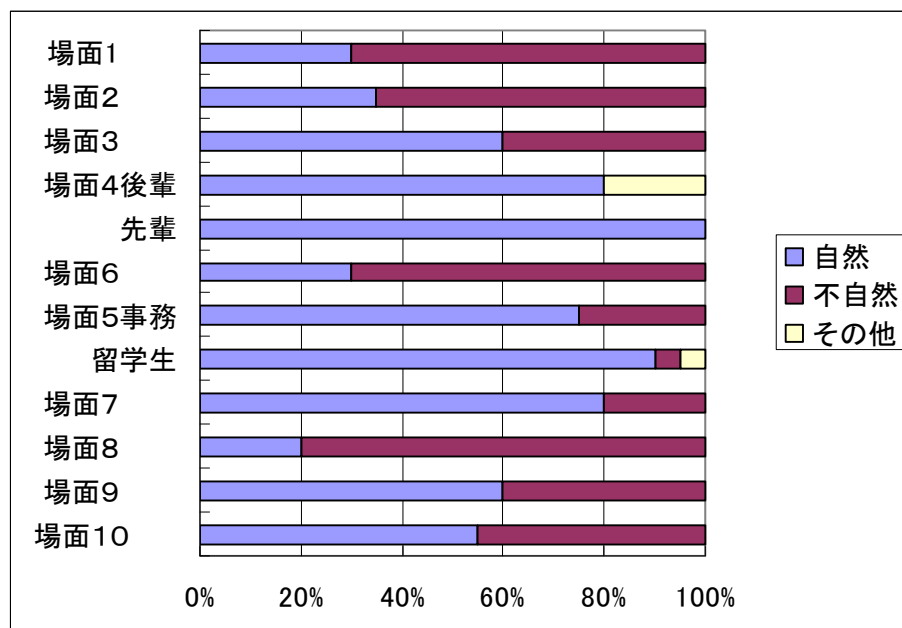
質問 2. 不適切と思った場合は、何故不適切と思ったのか書いてください。

## 2. 調査結果

表(2)日本語母語話者



表(3) 中国語母語話者



上記の表は調査結果であるが、一見して日本人と中国人では適切とを感じるか、不適切と感じるかに大きな違いがあることが分かる。このデータを用いた議論は第 9 章および第 10 章で行う。

### 3.5 結語

この章では、本論文で用いるデータの種類および収集法について概説した。第 1 のデータは、上下関係のある対話者間の自然会話を文字化したものである。このデータには、教師と学生の会話、医師と患者の会話、テレビのインタビュー番組の司会者とゲストの会話の 3 種類の会話が含まれる。第 2 のデータは、日本語学習者が奇妙に思った日本人のポライトネスを含む談話例である。日本語学習者に理解されにくい日本人のポライトネスを特定するのにこのデータを使った。第 3 のデータは、日本語学習者に誤解されやすい日本人の言語行動、逆に日本語母語話者に誤解されやすい日本語学習者の言語行動を、日本人と日本語学習者に提示して、その認識の差を明らかにしたものである。本論文では、この 3 種類のデータを中心に、平成 19 年度～平成 24 年度に編集した日本語資料集の用例を加えながら、日本語ポライトネスについての考察を行っていく。



# 第 I 部

## 理論編

談話分析に基づく

日本語のポライトネス研究



## 第4章

# 日本語会話における スタイル交替の実態とその効果<sup>6</sup>

日本語における普通体・丁寧体の選択については、身分差や場面という初期条件によってそのレベルが決定されるかのような前提にたって、その研究が進められてきた。しかし、実際の談話を書き写してみると、上司と部下、教授と学生のように明らかに上下関係がある者の間の会話においてすら、基本的なスタイルのレベルからの逸脱がしばしば見られ、それによって様々な態度が示されている。本章では、これらの状況を踏まえ、スタイルの交替、特に丁寧体を原則として使用する会話におけるスタイル交替の実態を観察し、どのような状況で交替が起こっているか、また交替を起こす話者の動機は何かを分析することによって、「日本語のスタイルは、身分差や場面という初期条件によって固定化されるもの

---

<sup>6</sup> 本章は松村・因(1999)を一部修正・加筆したものである。



ではなく、話者同士が共同で会話を成功させ、より親密な関係を育成していくために、ダイナミックに交替していつていること」を論じる。

#### 4.1 序

日本語には、丁寧体(またはデス・マス体)・普通体という形態的に区別される 2 種のスタイルがあり、話し言葉においては、このスタイルの選択は、対話者間の社会的距離、上下関係、場面などに要求される丁寧さの度合いによると考えられている。また日本語は、主語や目的語として現れる人物に対する敬意を表するために敬語という文法体系をもつ。そのため、「丁寧さ」や「敬意」を表示することが日本語の重要な特徴であることが、一般に認識されている。それ故、日本語の丁寧さに関する論文も数多く存在する。その中には、個々の敬意表現の用法を分析したもの(菊池康人 1994/1996)、特定の発話行為のストラテジーの研究(ザトラウスキー 1993)、アンケートに基づいて待遇表現に対する意識やその使用状況を調査したもの(荻野綱男 1997、杉戸清樹 1996、尾崎善光 1992/1996) 等がある。さらに、最近では同一談話内でのスタイル交替現象にも目が向けられ始めてきた(例えば Maynard 1991)。しかしながら、話者同士がスタイルを逐次変化させながら、共同で丁寧な会話を成功させ、さらに親密な人間関係を育成していくという、スタイルの本来的な機能にまで踏み込んだ分析をしたものは少ない。

また、Leech (1983) や Levinson (1983) の語用論的分析法に Brown & Levinson (1978) の「丁寧さ」についての理論を取り入れた研究に、井出祥子他 (1986) や生田少子 (1988) 等がある。これらの研究の問題点は、談話におけるスタイルのレベルが、身分差や場面という初期条件によって決定されるかのような前提に基づいて、分析がすすめられている点である。しかし、実際の会話では、敬語使用などを含めたスタイルは、身分差や場面などの初期条件によって基本的レベルはある程度決められるものの、談話の流れの中では様々な要因によって変化していくのである。こうした変化が、どういう要因によってひきおこされるのか、どういう場合に許されるのかを知ることは、日本語のスタイル交替の実態を解明する上で極めて重要である。

本章では、これらの状況を踏まえ、スタイルの交替、特に丁寧体を原則として使用する会話におけるスタイル交替の実態を観察し、どのような状況で交替が起こっているか、ま

た交替を起こす話者の動機は何かを分析することによって、「日本語のスタイルは、身分差や場面という初期条件によって固定化されるものではなく、話者同士が共同で会話を成功させ、より親密な関係を育成していくために、ダイナミックに交替していつていること」を論じる。

## 4.2 スタイル交替の実態

ここでは、「ある程度改まった状況で行われた、上下関係はあるが、親しい話者の間で行われた会話」(テレビ・ラジオのインタビュー番組、例えばテレビ朝日「徹子の部屋」、NHK「ラジオ談話室」における、ある程度親しいと考えられる話者の間の会話)(大学教授と学生、医者と患者、小学校の先生と保護者の間の会話)を中心に分析を行った。これは、初対面や親しくない対話者の場合は初期に決定された丁寧なスタイルを通すことが予想される一方、上下関係はあっても親しい対話者の場合は、上の者はもちろん下の者も、親しみを表すなどの目的で、丁寧なスタイルからくだけたスタイルへの交替をしばしば行うことが予想されるからである。

この予想の通り、以下に例示されるように、上の位にある者(以下 H(=higher))のみならず、下の位にある者(以下 L(=lower))の会話も、丁寧なスタイルを通すわけではなく、様々なスタイルに交替していることが分かる。その中でも取り分け頻繁に用いられるのが、(1)(2)(3)に見られるような不完全文、即ち動詞のテ形や名詞、副詞で止められた文である。(1)では、下線部を「閉じこもってしまいました」「ショックだったみたいです」「感じでした」「言われました」等の完全な文にすると、よそよそしい文になり、原文にあるような感情を込めた表現にはならない。この不完全文が、「ぼろぼろの」のような擬声語や「お母さん」のような内言葉と相俟って、生き生きとした効果をだしている。同様のことが、(2)の体言止めの文や形容詞で終わる文についても言える。(3)では、意図的にテ形で不完全に文を終えることで、相手の会話を効果的に誘い出すことのできる文になっている。また、それは談話の中で二人の対話者が一緒に一文を作り上げることになり、対話者間の親密さを増すことにも繋がる。

(1) L: 父がショックで、それで、もうご飯も食べずに部屋とか閉じこもっちゃって。

なんか、本当に女の子だったのがショックだったみたいで。それで、お母さんも



終助詞ネは「話し手と聞き手の間に親密さを作り出すのに役立つ」としている。上下関係はあっても、実際の会話ではしばしば終助詞を用いて、話し手と聞き手の上下の差を狭めながら、出来るだけ共通の地位に近い位置になるよう働きかけていることが分かる。

(4) L: あ、そうですか、じゃ、やっぱり私たちが見るのとは相当タイムラグがありますもののね。

H: あの、でもね、最近、その同時公開ってのがありますでしょう。

L: 向こうとこっち。

H: ええ、あの一かなりはアメリカと日本と。あの一、かなりそういうもんが増えてるんですね。で、こうインターネットなんかでね、すぐアメリカでヒットするとすぐ日本に伝わってきて、これがヒットしてるっていうと、やっぱりファンとしては、それは見たいですよ。...

(NHK ラジオ第一放送「ラジオ談話室」1997年3月3日)

(5) H: 4番目に男の子だって生まれるかもしれないけど、3番目と5番目なんだからと決めているから、4番目に女の子が生まれても、4人女の子が生まれても、妹さんの時はショックなし。

L: ショックはなかったみたいですよ、5番目がやっと待望の男の子で、

H: あらー。

L: それでもう、終わったみたいですけどね。それで、4人女の子の一番下が男の子なの。もうなんか、可哀想ですね。今思えば、女兄弟の中で育ってますからね、口数の少ない子ですよ。

(6) H: その、女の子がもともと痩せてる子だったら、あまり、あのこの頃あれね、私知らなかったけど、この間たまたま女の子とご飯食べる機会があって若い女の子といたんですよね。ご飯食べてて、今の若い人って平気なのかしら、ぱっとこういうの開けたのね、こういうプラスチックの箱があって、幾つにも仕切ってある中から出して一つ食べたんですね。

「なあにそれ？」って言ったら、

「いえ、お腹の中に入っているとふくれるんです」って言うのね。

「だから、あまり食べなくたっていいんです」って言って、平気で食べてるわけ。

しばらくして、いろんなもの食べた、食べてたんですよ。

そしたらまた開けてね。またピンク色の食べたの。食べたっていうか、お薬飲んだの。

「何それ」って言ったら、

「これ糖分を何十パーセントかカットするんです」って言ってまた飲んでんの、みんなで。

それで、ご飯食べ終わったら、また何か飲んだのよね。だから、すごいわね、ダイエットっていつでも。

((5)(6) : テレビ朝日「徹子の部屋」1996年8月12日)

終助詞の無い完全文は非常に少ない。用いられるのは、(7)に見られるように、一応完全文ではあるが、内容的にはテ形と同様、「なさってたんですか」のような文を途中で省略しながら聞き手を引き込んでいくような文の場合、また(8)に見られるように終助詞を加えないまま、畳み掛けるように内容だけを描写していく場合に用いられる。または、(9)に見られるように、聞き手とは無関係の話し手の気持ちを描き出すのには、聞き手との親密さを出す必要はないので、終助詞は不必要となる。最後に(10)は、インタビュー番組を始めるに当たって、テレビやラジオの視聴者に向かって紹介をする時に用いられるもので、聞き手と話し手の関係とは関わりないので、終助詞は不要である。同様に(11)は、番組を終える際に用いられた、これも視聴者向けの、終助詞抜きの丁寧体である。

(7) L : ではないですね、で、そういう、あの映画関連のお仕事の、通訳とか翻訳をなさ  
ってた。

H : そういう時期でしたね、で、あのう、ええ「じゃあ、コッポラさん」って言うんで、東京においでになったんで。

(8) H : ...まあ台風でセットが流れちゃうとか、主演の人が心臓麻痺をおこすとか、色んな

ね、まあ作る時のメイキングの話題に事欠かない、なかった。で、またお金は彼がまた湯水の如く製作費を使ったもんですから、途中でお金がなくなったりして、兎に角、そういうことで、色んな事があってですね、延々と撮影が続いたわけです。...

(9) L: じゃ、それを任された時には、そのコッポラさんがそういう風に言ってくださったかどうかは、ご存じなかった。

H: ええ、全然知らなかったです。それはもう、後から後から聞いた話で、まあ、あんだけ制作過程でつきあったからね、くれたのかなあって自分では思っていました。

(10)L: ラジオ談話室です。「あの映画この台詞」、今週のお客様は字幕翻訳家の戸田奈津子さんです。...

((7)~(10): NHK ラジオ第一放送「ラジオ談話室」1997年3月5日)

(11)L: ラジオ談話室「あの映画この台詞」、今日は一回目で字幕がどんな風に作られるのか、といったお話を中心に伺いました。

(NHK ラジオ第一放送「ラジオ談話室」1997年3月3日)

これらの例に見られるように、基本的には丁寧なスタイルが用いられると考えられる状況でも、スタイルは常に交替していることが分かる。次節では、何故このような交替が起こるのかについて考察していく。

#### 4.3 スタイル交替の要因

スタイル交替を引き起こす動機としては、「共同で会話を成功させようという意図」と「より親密になろうとする意志」が挙げられる。上下関係がある2人の対話者の場合、より親密に話そうとする意図に従ってスタイル交替の口火を切るのは通常上の位にある話者Hである。下の位にある者Lは、その意図を汲み取って、会話を共同で成功させようとする意図から、Hに続いてスタイルをよりくだけた形式に交替させる。この形式は、表面上は丁寧ではないが、Hの意図を汲み取らず丁寧体で話し続ける場合よりも、より丁寧に感じられる。

(12) L : で、生まれたら私だったわけですよ。女だったわけですよ。そしたら、その父が病院に来る前に、近所に人に「また、女だったんですって」って聞いてしまって、

H : あら、いやだ。 どうして近所の人が先に知ってたんでしょうね。「あーら、お宅また女の子だったんですって」って。

L : 「ですって」って、聞いてしまった。それで、一回も病院に見舞いにもこなかったんです。父がショックで、それで、もうご飯も食べずに部屋とか閉じこもっちゃって、なんか、本当に女の子だったのがショックだったみたいで、それで、お母さんもそれを聞いて、ずっとあたしを横においたまま病院でずーっとぼろぼろぼろ泣いてたんですって。

(テレビ朝日「徹子の部屋」1996年8月12日)

高い位にある H が先ず下線部にあるような、「あら、いやだ」「あーら、お宅また女の子だったんですって」などのように、かなりくだけた表現を使って、低い位になる L に働き掛けて、L が緊張しないで楽しく会話をするができるような雰囲気を作り出そうとする。L は、この H の意図を汲んで、「「ですって」って、聞いてしまった(ので)」「父がショックで」「泣いてたんですって」のようにテ形で、しかも「だったみたいで」「部屋とか閉じこもっちゃって」「お母さん」「ずーっと、ぼろぼろぼろぼろ」のような、俗語表現や内言葉、強調語、擬態語を用いて、努めて少しでもくだけたスタイルの会話を行っている。

このように、上の者がお互いの距離を近づけ、関係をより親密にしようと、くだけた表現を用い始めた時、下の者としてはその意図を汲んで、自らも基本的なスタイルから逸脱したより親密さを表現する、くだけたスタイルを用いることが、実際には丁寧であることは、上の者から同じ働きかけを受けながら、基本的なスタイルである敬体を固守する(13)の例の L が、(12)の L と比べ、形式的には丁寧であるにも関わらず、少し冷たく感じられることから分かる。

(13) H : そうです。そういう風におっしゃってます。もう 20 年近くになるっていう「テレビ番組名」やってらっしゃる方が、生まれた時からって。

私本当に長くやってて、自分では結構若いつもりで、それ聞いたときすごいショックで、年とかなんとかじゃないんだけど、やっぱ 20 年近くも「テレビ番組名」やってらっしゃるっていう、」それも入ると「長いんだ」って、あの時すごくね、花火見ながらショックでした。

L: そうですか。

H: その時、すごくかわいいの、「うれしいなあ」なんて言ってね。

L: お酒飲むと少し柔らかくなりますから。

H: 純真なんだなって。その後、なんか、お魚釣ったりなんかも、なすったんですって。

L: ええ、バンクーバーで。私釣りって、淡路島の出身なんですけども、一度もしたことないんですよ。

H: ないんですか。

L: 生まれて初めて、そのクルージングってのやったんですけど、もう朝 5 時くらい……

(13)の H は、L が出来るだけくだけた調子で L 自身や L の主人の話をしてくれればと、下線部にあるように「すごいショックで」「年とかじゃないんだけど」「すごくね」「すごかわいいの」「うれしいなあ」なんて言ってね」と俗語の「すごい」を連発したり、かなりくだけた表現を続けて用いている。この意図的な「くだけ」に対して、L は「そうですか」「なりますから」と丁寧体ではあるが、現実には丁寧ではない、かなりそっけない反応をする。H は、話題がいけないのだろうかと、主人の話題から魚釣りへと話題を転じる。

(12)(13)の例から分かることは、日本語の丁寧さも、丁寧体、普通体、敬語使用のような形式的なマーカーのみで決められるわけではないという点である。より親密になろうと意図して、上の位の者が基本的な形式である丁寧体からよりくだけた形式への逸脱を図った時には、下の者も、その働きかけに対して、よりくだけた形式で応じた方が真の意味で丁寧になるのである。

ただ、この丁寧さは、むやみに用いられるものではなく、上下関係を前提とした基本的には丁寧体を用いる状況からの逸脱を通して起こったものである。このことは、談話の最初で必ず丁寧体が用いられること、この逸脱は通常上の位の者から行われること、また逸





また、以下の例においても、どちらが上か下かを明示していなくても、 $C < B < A$ の順に社会的地位が高くなっており、Cが他の二人に比べてかなり地位が低いということは明らかである。Aは最初から普通体を用いており、またかなりくだけた方言「言っとらんかったけね」まで使うことが許されているところから上の位の者であることが分かる。BはCに命令しているところから、明らかにCより地位が高いが、Aに対しては「いただきます」「入られた」という敬語を使っているところから、下であろうと推測される。

(15)A：これがね、写真なのよ。

B：ほら写真、あなたも見せていただきなさい。県展入られたのよ。

C：は、えーっ、すごいですね。えー。

A：言っとらんかったけね。

(福岡女学院大学学生(1996年)廣田聖子さん提供)

このスタイルの交替が上下関係を前提としたものであることは、上の位の者に許されるスタイルと、下の位の者に許されるスタイルが少し異なることから分かる。上の位の者は(6)に例示されるように、丁寧体＋終助詞、普通体＋終助詞、普通体、テ形と、親密さを出すために、様々のくだけたスタイルを用いることができる。

(6) H：その、女の子がもともと痩せてる子だったら、あまり、あのこの頃あれね、私知らなかったけど、この間たまたま女の子とご飯食べる機会があって若い女の子といたんですよね。ご飯食べてて、今の若い人って平気なのかしら、ぱっとういうの開けたのね、こういうプラスチックの箱があって、幾つものに仕切ってある中から出して一つ食べたんですね。

「なあにそれ？」って言ったら、

「いえ、お腹の中に入っているとふくれるんです」って言うのね。

「だから、あまり食べなくていいんです」って言って、平気で食べてるわけ。  
しばらくして、いろんなもの食べた、食べてたんですよ。

そしたらまた開けてね。またピンク色の食べたの。食べたっていうか、お薬飲んだの。

「何それ」って言ったら、

「これ糖分を何十パーセントかカットするんです」って言ってまた飲んでんの、みんなで。

それで、ご飯食べ終わったら、また何か飲んだのよね。だから、すごいわね、ダイエットっていつでも。

(テレビ朝日「徹子の部屋」1996年8月12日)

一方、下の者が用いる交替は、(12)の下線部に例示されるように、デス・マス＋終助詞か、デス・マス体の代用としてのテ形が多い。デス・マスによって丁寧さが出せると同時に、終助詞によって親しみを含ますことができるためであり、また丁寧さは文末のデスのみで表すことができるため、デス・マスを繰り返すことからくる冗長さや過度の丁寧さを避けるためである。もし(12)のLが、(6)のHのように普通体＋終助詞を続けて用いたとしたら、やはり礼を失した感がある。

(12) L: で、生まれたら私だったわけですよ。女だったわけですよ。そしたら、その父が病院に来る前に、近所に人に「また、女だったんですって」って聞いてしまって、

H: あら、いやだ。どうして近所の人が先に知ってたんでしょうね。「あーら、お宅また女の子だったんですって」って。

L: 「ですって」って、聞いてしまった。それで、一回も病院に見舞いにも来なかったんです。父がショックで。それで、もうご飯も食べずに部屋とか閉じこもっちゃって、なんか、本当に女の子だったのがショックだったみたいで、それで、お母さんもそれを聞いて、ずっとあたしを横においたまま病院でずーっとぼろぼろぼろ泣いてたんですって。

(テレビ朝日「徹子の部屋」1996年8月12日)

日本語の談話におけるスタイルは、このように対話者間の上下関係を前提とした上で、「共同で会話を成功させようという意図」と「より親密になろうとする意志」から、二人の対話者が相互に働きかけることによってダイナミックに変化していくものなのである。

#### 4.4 結語

本章では、原則として丁寧体を使用する会話におけるスタイル交替の実態を観察し、どのような状況で交替が起こっているか、また交替を起こす話者の動機は何かを分析することによって、日本語のスタイルは、身分差や場面という初期条件によって固定化されるものではなく、話者同士が共同で会話を成功させ、より親密な関係を目指して、ダイナミックに交替していつていることを論じた。

更に、この交替は無制限に起こるわけではなく、話者同士が互いに上下関係を意識した上で、相手のことを考慮しながら起こっていることを論じた。Matsumoto (1988) は、Brown and Levinson (1978) の丁寧さが欧米の言語を基盤としたものであり、日本語の丁寧さをうまく説明することはできないと述べた。詳しくは次章に譲るが、日本語の丁寧さを説明するためには、どうしても B&L とは異なった上下関係をある程度容認した上での丁寧さの原則が必要ではないかと思う。



## 第5章

### 日本語の会話におけるポライトネス I

#### —Brown and Levinson(1978) の妥当性を中心に—<sup>7</sup>

本章では、先ず Brown and Levinson (1978) の理論を概説し、その問題点を指摘する。次に、テレビ朝日「徹子の部屋」における、黒柳徹子と3名の対話者との会話を比較分析する。最後に、前節までの分析に基づき、日本語談話におけるポライトネスとは何かにつ

---

<sup>7</sup> 本章は松村(1999)を一部修正の上転載したものである。

いて考察を行う。

## 5.1 序

第2章でも述べたが、Brown and Levinson (1978) は、ポライトネス(politeness)<sup>8</sup>に関する理論としては、最も代表的なものである。彼らは、Goffman (1967) のフェイス(face)<sup>9</sup>という概念を応用して、普遍的なポライトネス理論を打ち立てようとした。しかし、このポライトネス理論に関しては、取り分け敬語体系を有するアジアの言語研究者から批判が行われてきた。これらの批判の全てが妥当であるとは言えないが (宇佐美 1998 参照)、上下関係を前提とした言語におけるポライトネスを考察するには、この理論は修正される必要があると思う。本章では、同一インタビュアーのよる3名の対話者との会話を比較分析することで、日本語におけるポライトネスとは何かについて考察を行っていく。

## 5.2 Brown and Levinson (1978) のポライトネス理論

Brown and Levinson(1978) (以下 B&L) の理論を、もう1度簡単に概観する。B&Lの中核にあるのがフェイスという概念である。彼らによると、全ての人間にはネガティブ・フェイス「他人に邪魔されたくないという欲求」とポジティブ・フェイス「誰かに認められてたいという欲求」がある。このフェイスを脅かさないように配慮して、円滑なコミュニケーションを維持していこうとする言語行動がポライトネスである。相手のフェイスを脅かすような行為 (face threatening acts, 以下 FTA) を行わなければならない場合、急を要するためフェイスなど言っではいられない場合を除けば、話者は出来るだけ相手のフェイスを脅かさないよう配慮する。例えば、フェイスを脅かす位なら FTA を行わなかったり、比喻を使ったり曖昧な表現を使ったりして FTA をほのめかすだけにしたり、FTA と共に何等かの補償行為を行う等のストラテジーを用いる。この補償行為の内、相手のポジティブ・

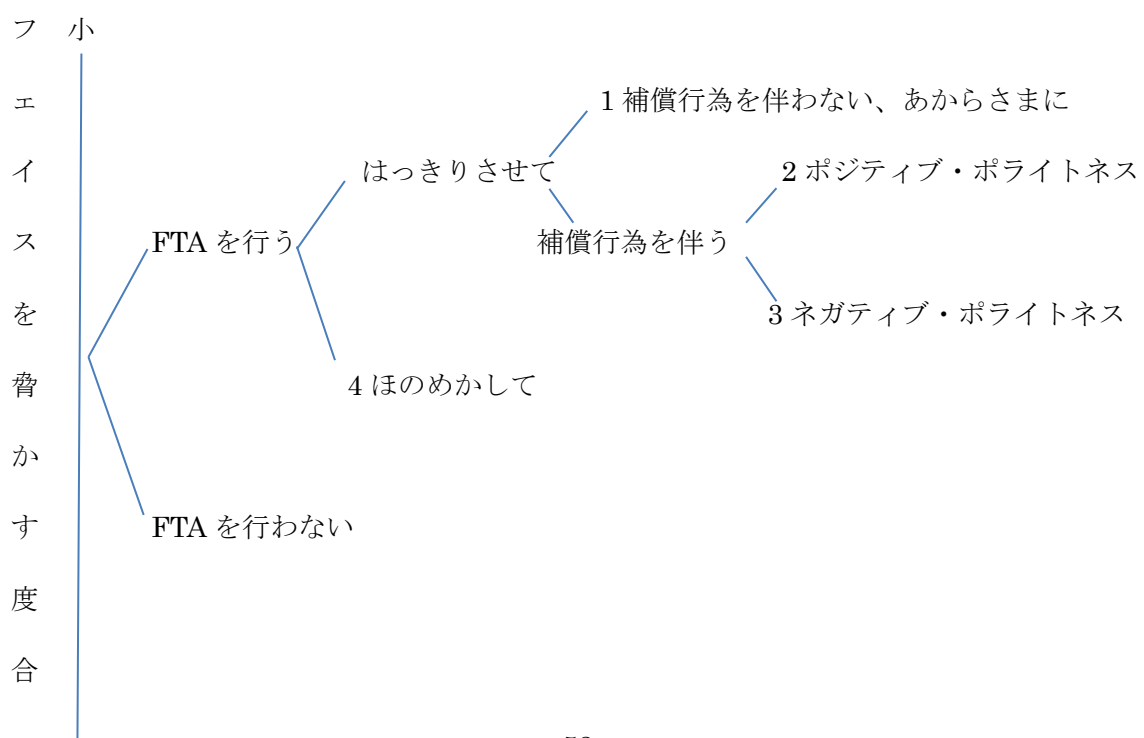
---

<sup>8</sup> ここでいう politeness の訳語として適切なものがないため、ポライトネスとカタカナ表記する。ポライトネスとすることの必要性について、詳しくは生田(1997)、宇佐美(1997/1998)を参照のこと。

<sup>9</sup> この face は「面子」と和訳されることもあるが、Brown and Levinson はこれを高度に抽象的概念(1978: 13)としており、「面子」という日本語のもつ含意を出来るだけ排除するため、「フェイス」とカタカナ表記する。

フェイスに訴えかけるもの(例えば、方言、内言葉、俗語を用いることで話し手と聞き手が仲間であることを示したり、聞き手の欲求に関心を示したりする)がポジティブ・ポライトネス、ネガティブ・フェイスに訴えかけるもの(例えば、聞き手に抜け道を残すことで強制を避けたり、邪魔したことに對して謝罪をしたりする)がネガティブ・ポライトネスである。B&Lによれば、ある FTA が相手のフェイスを脅かす度合い  $W$  (Weightiness of the FTA(X)) は、話し手と相手との社会的距離  $D$  (Social Distance)、相手が話し手にどの程度力を持っているか  $P$  (Power)、その行為が与える負担の度合い、 $R_x$  (Ranking of imposition (X)) の和で決まり、 $W_x = D(S, H) + P(H, S) + R_x$ 、この和が大きいほど図(1)中の高い番号のストラテジーが選ばれることになる。

#### (1) ストラテジーの選択を決める状況





い

大

B&L(1978: 60) の拙訳

B&L は、異なる社会は表面上異なる敬語行動を行っているかに見えるが、その深層には人類に普遍的な社会行動の原則があり、彼らのポライトネス理論はこの普遍的な原則を提示しようとするものである、と述べる。

### 5.3 問題点

B&L の理論は、一見日本語にもあてはまるように見える。日本語でもポライトネス・ストラテジーが用いられているのは確かであるし、また日本語における複雑な敬語体系も、表面的にはネガティブ・ポライトネスのストラテジーの一つであるかのようにも思える。さらに、宇佐美 (1997/1998) が述べるように、日本語のように敬語を有する言語においても、文レベルの言語形式の丁寧度のみではなく、談話レベルの語用論的観点からポライトネスを考察していく必要があるのも確かである。

しかし、談話レベルのポライトネス考察の必要性は認めてもやはり、日本語のポライトネスは、正に基盤から B&L の理論とは異なっているように思える。Matsumoto (1988) は、B&L のポライトネスは個人の欲求を基盤としたものであるが、日本の文化においては、個人の欲求よりむしろ、「グループの中での他の人々との相対的位置」、「分をわきまえること」、「グループの中の他の構成員に受け入れられること」が重要であると述べる。

実際、日本語の会話におけるポライトネスを考察すると、対話者間の相対的地位や社会的状況の読み取りが如何に重要であるかが分かる。話者は、対話の相手に応じて自分の位置を定め、それによってポライトネス・ストラテジーを変化させていかなければならない。B&L は、日本のように階層化された社会で用いられている敬語について、「高い位にある人々と低い位にある人々の用いるポライトネス・ストラテジーまたは敬語は異なっており、前者が V (vous) を後者が T (tu) を強調する」(1978 : 24) という仮説を立てることができると述べる。しかし、これは日本語には当てはまらない。日本において適切な敬語行動をしている人とは、対話の相手や場面に応じて、適切なレベルのポライトネス・ストラテジー (V/T) を使い分けている人である。故に、高い位にある人でも、場面によっては殆ど

Tを用いることもあるのである。下線部は、この日記の書き手の母親である、有栖川宮家出身の女性の言葉であるが、(2)にあるように、通常自分の子供に対しては、完全にTレベルの言葉遣いをしていることが分かる。一方、(3)にあるように、自分の子供であっても、嫁いで皇室に入った後は自分より位が高くなっているため、Vレベルの言葉を用いている。

(2)K：…「5月10日。学校から帰ってみると、おたた様が、「明日お兄ちゃんがかかるよ。」

雨だと来るけど、お天気だと遠足だから、どこへでもいっといで。」 こんな風におっしゃったんですか？

(テレビ朝日「徹子の部屋」1997年)

(3) …姉がお見舞いにいらっしゃったとき、母はハッとお目覚めになり、上げられないおつむを無理に上げて起き上がろうとされ、「君様がおいであそばしたのに眠っておりまして」とお詫びになったという。

(榎原喜佐子『徳川慶喜家の子ども部屋』)

普通はこれほど極端ではないにしても、日本語においては、対話の相手との位置関係や場面の読み取りが先ずポライトネスのレベルを決定し、そのレベル内での可能な多様なストラテジーを用いながらコミュニケーションを成功させようとしている、という方が日本人の敬語行動をうまく記述しているように思える。次節では、一人の話者が対話の相手に応じてポライトネスのレベルを決定し、そのレベル内でポライトネス・ストラテジーをうまく使い分けている様子を、データを分析しながら示していく。

## 5.4 日本語の会話のポライトネス

### 5.4.1 データ

ここで用いるデータは、テレビのインタビュー番組「徹子の部屋」における、黒柳徹子と異なった3人の対話者の間の会話である。相手となっている3人の対話者の性別、黒柳徹子との年齢、社会的地位の上下関係は以下の通りである。

表(4)

	A	B	C
性別	女	女	男
年齢	上	同	かなり下
社会的地位	かなり上	同	下

この番組を選んだのは、黒柳徹子が 20 年以上にもわたって様々の相手と会話を続けてきた十分に経験を積んだインビュアーであり、対話者や会話の状況に応じて、適切にポライトネス・ストラテジーを使い分けていると判断したためである。番組の設定は、黒柳徹子(以下 K) が様々の人を客人として自分の部屋に招き、和やかに雑談をするというもので、ほとんどの場合、客人はある程度親しい関係にあり、インタビュー番組にある堅苦しい雰囲気も少ない。

#### 5.4.2 分析

この節では、先ず K と其々の対話者との会話における特徴を記述する。

対話者 A は、年齢、社会的地位のいずれにおいても、K よりかなり上にある人物である。K は終始その上下関係を認識し、それを示しながら対話を進めていっている。これは、次の例に見られるように、丁寧体に加え尊敬語・謙譲語が終始用いられていることのほか、通常の雑談では頻出する終助詞ネの使用が少ないこと、などに示される。

(4)K: もちろん、思い出は沢山おありでしょうけど、やっぱり何月何日晴れとか、  
 いうのをご覧になると、

A: そうですね、とても懐かしくて、はい。

K: そのお暮らしは今、その後ま\*\*さんとご結婚になったわけでいらっしゃる

けども、その頃の生活を今思い出して、どんな風にお考え、お感じになっていらっしゃると思います？

(5)K：でも、あの、Aさまのお話伺っておりますと、今、まあ敬語が乱れているとか皆さんよくおっしゃるんですけども、それは特別な Aさまのお家がそうだったからと思いますけど、やはり、まあ、目上の方っていうか、つまりお母さま、お父さま、お姉さまに全部敬語をおつけにならなければいけないってことで、…

宇佐美(1997)は、雑談で用いられることの多い終助詞ネの機能に、「会話促進：話し手が対話相手と意見・考えを共有するものと想定することによって相手との一体感を示すもの」や「注意喚起：話し手が聞き手を自分の話題に引き込むために、自分の発話を強調したり、相手の注意を喚起するもの」があるとする。Aとの会話においてKがこのネをほとんど用いていないのは、このように上下関係が明白な場合に、下の者が上の人物との一体感を示したり、自分の発話を強調しすぎたりすると、「なれなれし過ぎる」という印象を与えるためだと考えられる。

Kは、上で述べたように、上下関係を明示しつつも、慇懃無礼にならないように、適度に親しみを増すストラテジーを用いている。ただ、このストラテジーは無制限に用いられるわけではなく、上の位の人に用いても許される範囲内の制限のかかったものになっている。(6)の下線部にあるように、「じゃ」、「ここん所」、「なんとなくね」などの口語表現を用いたり、「ぱきぱき」のような擬態語を用いたり、「あら、面白い」のように常体で自分の感情を素直に表現したり、「来るよって」、「おっしゃって」のようにテ形を用いて相手の発話を引き出したりと、上の位の人のものであるとしても、「呼んだことがなかった」や「山口と言ってしまった」のように上位者の文章をそのまま常体で繰り返したり、その様子を「とても可愛い」と表したりと、失礼にならない程度に相手との親しみを増すようなストラテジーを用いている。

(6)K：は、じゃ明日お兄ちゃんが来るよって、

A：ええ、そうおっしゃったと思いますよ。

K：そんな風を書いてあるんですから。

A：そうだと思います。

K：そうですね。そんな風にパキパキおっしゃって。

A：おっしゃったと思いますね。

K：あら、面白い。

A：あ、そうですか。

K：そういうことを、ちょっとなんとなくね、そんな子供には敬語を使わなくても、  
もうちょっとここん所にも、 もうちょっと、何かしら違う物言いがあるかと

A： はい

K：思うんですけども。 明日お兄ちゃんが来るよって。

A： はい、ああ。 あー、普段はね、  
また角ばった時、なんて言うんでしょう、そりゃまた別だと、...

(7)K：まあ、それぞれね、皆様その方その方のお育ちですけども。ただ、こういう所でお暮しになったので、戦争になった時に、なんかだんだん、お嫁にいらっしゃいまして、あの、さん付けであまり人のことを呼んだことが、あの一なかったんで、

A：そうでしたねえ。

K：あの、お隣のことを、 山口と、

A： はい、そんなこともあった、 ＜笑い＞そんなこともあった  
と思います。

K：間違えて山口と言ってしまって、お隣は山口さんですからってご注意をおうけになったって。

A：ま、そういうねえ、ばかだったのかしら、＜笑い＞

K：でも、とても可愛らしいって思うんですけど。ご主人とご結婚になって、...

対話者 B は、K と同年代の、声優として 40 年以上のキャリアをもつ人物である。K は、B に対する視聴者向けの敬意を表現しながらも、B との親しい関係を維持していこうとして会話を進める。K は、B とかなり親しい関係にあり、テレビ番組でなければ砕けた会話をしているであろうが、(8)の下線部に見られるように、最初は B の年齢やキャリアに対する

敬意を視聴者向けに示すため、下線部のような敬語を用いて会話をすすめる。

(9)K：前に、昔は NHK でお目にかかっていたかもしれないですけど、

B：はい。

K：随分長くやってらして、

B：そうなんですよ。なんだか、この世界でもう化石みたいになっちゃった、私。

K：実験放送から出てらした、昭和 28 年の前から出てらしたことですか。その頃は子役で出てらした？

しかし、上の例にもあるように、対話者 B が最初からくだけた雰囲気では話を進めていくため、K も次第にくだけた会話をを行うようになる。(9)では、基準はデス・マス体であるが、「とちる」のような俗語、終助詞ヨ・ネ、「ピュット」のような擬態語が使用されるなど、かなり親しい相手とのくだけた雰囲気の会話が行われている。

(9)K：一番最後の人がとちると、一番頭から、とにかく一本撮らなくてはならないっ

て時代があったでしょ。あれはビデオでもそうでしたよ。ドラマでも、

B：そうですよ、そうですよね。

K：だから、本当に死にそうになってやって、最後の人がとちると、「はい、すいません。じゃ、頭からやりましょう」って、全部 30 分のドラマ、

B：そうなんですよね。

K：始めからやりなおすんですからねー。

B：ええ、あれはつらいですよ。

K：今の、そこだけピュット編集できる時代は夢のようですよねー。

最後に、対話者 C は、年齢から言っても、芸能界のキャリアから言っても、K より下の地位にある人物である。K は、視聴者向けに敬語を用いて C の紹介を行った後、直ぐにく

だけの会話を始め、最後までそれを継続していく。下線部のようにくだけた表現の中には、「あなた」のように上の位の人との会話では決して用いない表現や、「皆さん...食べないんですって」のように、視聴者に対してまで冗談で呼びかけているような表現も存在する。また、(12)に見られるように、蛇つかいの真似をしたり、様々の擬声語を繰り返し用いたり、俗語を用いたり、かなりくだけた会話になっている。Kがこのような表現を用いるのは、おそらくCが年齢・キャリアとも上であるKとの対談で緊張せず、リラックスして会話してくれるようにとのKの心遣いからくるものであろう。

(10)K：あなた、びっくりしたんですけど、あなたワニというか、ああいう爬虫類みたいなのが好きなんですって？

C：そうですね。前回ここに呼んでいただいた時も、あの、ワニの話とかしたんですが、そのままその当時のワニが、まだ、あの一、家には、...

(11)K：皆さん、何が驚いたと言って、ワニって一週間にいっぺんしかご飯食べないんですって。

C：えー、それでも大丈夫くらいですよ。

K：で、あのアジっていうのを一匹が一回に何匹ぐらい食べる？

(12) K：そんな動かない？

C：日向ぼっこばかりしてます。

K：でも、わたしが、わたしインドの人がねえ、口の中でシュワシュワ、クユとか言うとね、もうね、ほんとにワニがね、こういう、このぐらいの高さのね、囲いん中に手かけたまま、<形の真似>こういうふうに止まったんですよ。

C：<笑い>そうらしいですよ。

K：だから、それを見たとき、ほう、やっぱり、なんか、あの催眠術かかる、口の中でね、こうシュウシュウシュウとか言ったんですよ。したらもうね、こうやって<形の真似>、そいでそこ入っても全然大丈夫ですよ。したら、おじさんが、またシュシュッたら、また元に戻ったんですけども。

### 5.4.3 結果

前節でみたように、Kはこの会話が視聴者のいるテレビ番組で行われていることや、相手との社会的位置関係を考慮して、適切なポライトネス・レベルを設定し、そのレベル内でポライトネス・ストラテジーを用いながら、対話者との対談を成功させようとしている。ここで観察されたポライトネスは、「相手に対する敬意を表現しつつも親しみをこめる」というような複合的なものであり、B&Lのポライトネス理論のように、フェイスを脅かす度合いを、相手との社会的距離、相手が話者に対して持つ力、行為の負担の度合いの和から算出し、その和が大きい程FTAをより小さくできるストラテジーを選択するというような単純な図式化ができるものではない。むしろ、日本語会話における話者は、会話の場面、会話に参加している他の人々との上下関係、その会話における自分の立場を認識しながら、ポライトネス・レベルの初期設定を行い、そこを基準としながら、談話に応じて、相手に対する敬意や親しみを表現するポライトネス・ストラテジーを用いる、というものである。

### 5.5 結語

この論文では、ある一人の話者が、場面や対話者との社会的位置関係を認識しながら、ポライトネス・ストラテジーを使い分けている様子を観察することで、日本のように上下関係を前提とした社会におけるポライトネスとは何かについて考察した。その結果、フェイスという概念を基盤としたB&Lのポライトネス理論は、対話者間の上下関係や場面に応じて複合的に表現される日本語のポライトネスを十分には説明できないことを示した。宇佐美(1997)は、終助詞ネの用法が、会議のようなフォーマルな場面と雑談のようなくだけた場面では異なっていることをデータを用いながら示したが、これも話者が自分の立場を認識しながらポライトネス・ストラテジーを使い分けていることの一つの証拠ではないかと思う。





## 第6章

### 日本語の会話におけるポライトネス II<sup>10</sup>

#### —「わきまえ」と「ストラテジー」—

本章では、先ず、井出他(1986)、Ide (1989 / 1992)、Matsumoto (1988 / 1989)を概説しながら、日本語のポライトネスにおける「わきまえ」の重要性を再確認する。次に、3タイプに分類された12種類の会話を分析しながら、日本語のポライトネスにおいては、Brown and Levinson (1978) の唱える「ストラテジー」のみならず「わきまえ」が重要な役割を果

---

<sup>10</sup> 本章は、松村(2011)の一部および松村・因(2000)の一部を抜粋の上、修正加筆したものである。

たしていることを、(1)「わきまえ」は会話中の全ての話者によって示されねばならないこと、(2)「ストラテジー」(働きかけのポライトネス)を適切に使用できるか否かは「わきまえ」を遵守しているかどうかに依存するという2点から論じていく。

## 6.1 序

前章でも述べたが、Brown and Levinson (1978) (以後 B&L) はポライトネスに関する理論としては最も影響力の大きい理論であるが、このポライトネス理論に関しては、取り分け敬語体系を有するアジアの言語研究者から批判が行われてきた。そのうち、日本語のポライトネス研究からの批判としては、Ide (1989 / 1992)、井出他 (1986)、Matsumoto (1988 / 1989)等が知られている。

本章では、井出他(1986)、Ide (1989 / 1992)、Matsumoto (1988/ 1989) の議論を概説し、日本語のポライトネスにおける「わきまえ」の重要性を確認する。次に、第3章で述べたデータ1 (3タイプに分類された12種類の会話)を詳しく分析しながら、日本語においては、話者が自らの立場を認識し、それをわきまえていることを示す「わきまえ」としてのポライトネスと、「わきまえ」のポライトネスを基準としながらも、談話に応じて相手に対する敬意や親しみを示すために用いられる「ストラテジー」としてのポライトネスがあり、日本語のポライトネスを説明するには、この重層的なしくみを記述することのできるポライトネス理論が必要であることを示す。

## 6.2 日本語のポライトネスはストラテジーのみか？

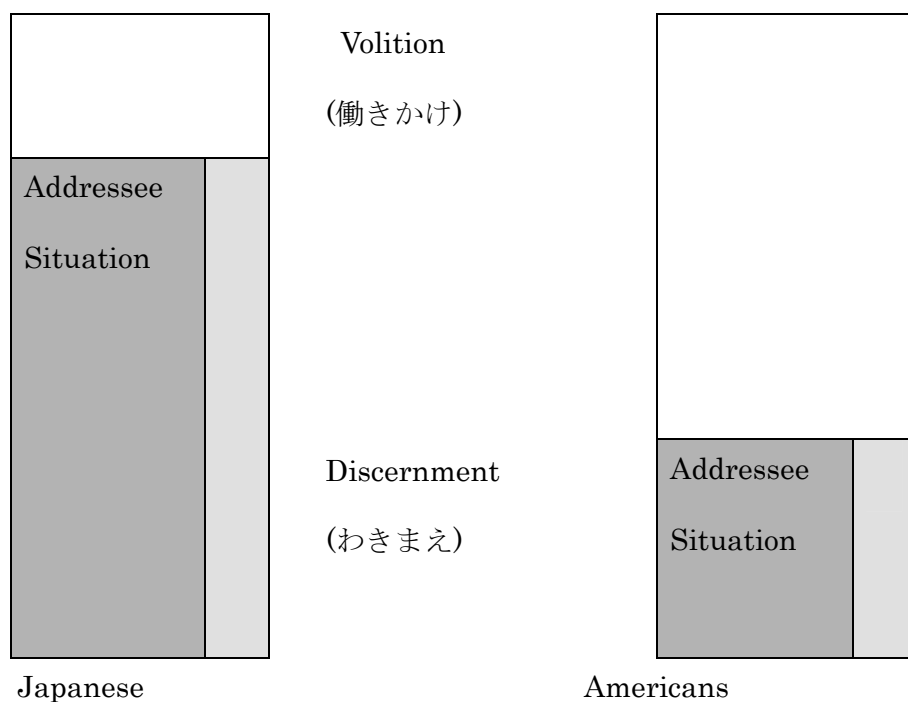
「わきまえ」と「ストラテジー」のポライトネス Ide (1989)、井出他 (1986)、  
Hill *et al.* (1986)、Matsumoto (1988)、井出 (2006)

Ide (1989) は、ポライトネスには(1)「わきまえ」を表す形式的形態を用いることで表現されるタイプのものと、(2)「働きかけ」を表現する B&L が唱えるストラテジータイプのものがあるが、B&L は(1)のタイプのポライトネスを全く議論から外していると述べる。

第2章でも述べたが、井出他(1986)、Ide (1989) では、日本とアメリカのそれぞれの国の大学生約 500 人に対してペンを借りる時に使う依頼表現についてのアンケート調査を行

い、明らかな相違を見出した。このアンケートでは 20 人の人物カテゴリーに対して、与えられた 20 の表現のうちどの表現を用いるかが問われた。その結果、日本人は相手のカテゴリーによって明らかに表現を使い分けている、即ち(1)の「わきまえ」のポライトネスの使用頻度が高いが、アメリカ人は(2)の「働きかけ」のポライトネスの使用頻度が高いことを示した。

やや単純化され過ぎてはいるが<sup>11</sup>、Hill *et al.* (1986:348) は、以下のような図式を用いて、日本人とアメリカ人のポライトネスの相違を示した。即ち、アメリカ人は「働きかけ・ストラテジー(白い部分)」タイプのポライトネスが大部分を占めるのに対して、日本人は「わきまえ(網掛け部分)」タイプのポライトネスが大部分を占めているというのである。



Hill *et al.* (1986: 348)

<sup>11</sup> 本論文では、日本人とアメリカ人のポライトネスの相違は、Hill *et al.* が図式化するような量的相違ではないと考えるが、日本人とアメリカ人の「わきまえ」と「働きかけ」のポライトネスの相違を示すためには分かりやすい図式であると考えたため、これを引用した。

また、Matsumoto(1988) は、B&L が基盤とするフェイスという概念は日本語には相容れないものであるとする。彼女によれば、ネガティブ・フェイス「他人の侵入から自分の縄張り、領分、権利を侵害されたくないという欲求」は、ヨーロッパやアメリカの文化で重要な役割を果たす「個人とその権利」を基盤としたものである。日本の文化においては、個人の欲求よりむしろ「グループの中での他の人々との相対的位置」、「分をわきまえ、他の構成員に受け入れられること」が重要なのである。それゆえ、日本語のポライトネスでは、自分はどういう状況・場にいるか(例えば工作中、会議中、雑談中)、会話に参加している他の人々との社会的位置関係、その会話における自分の立場とうとうを話者が正しく認識し、それらを認識していることを示すことが重要になってくる。

実際日本語の会話におけるポライトネスを考察すると、対話者間の相対的地位や社会的状況の読み取りが如何に重要であるかが分かる。話者は先ず対話の相手に応じて自分の位置を定め、その位置を基準としてポライトネス・ストラテジーを変化させているのである。

日本においては「分をわきまえ他の構成員に受け入れられること」が重要であるとした Matsumoto の議論や、日本人の敬語行動においては「わきまえ」を表現することが重要であるとした井出の議論は、基本的には正しいと考えるが、これらの議論が説得力をもつためには、実際の談話データを分析していく必要があるだろう。そこで本章では、日本語のポライトネスにおける「わきまえ」のポライトネスの重要性を以下の 2 点より論じていく。

- (1) 「わきまえ」は会話中の全ての話者によって示されねばならない。
- (2) 「ストラテジー」(働きかけのポライトネス)を適切に使用できるか否かは、「わきまえ」を遵守しているかどうか依存する。

### 6.3 ポライトネスの定義およびデータ

第 2 章でも述べたが、ポライトネスの定義については Ide (1989:225) に、「わきまえ(Discernment)」、「働きかけ(Volition)」の定義については Hill *et al.*(1986) に従う<sup>12</sup>。

---

<sup>12</sup> 本研究がポライトネスという用語を用いるのは上記のような定義をとるため日本語には適切な表現がないためである。定義から分かるように、文レベルの敬語や敬意表現ではなく、談話レベルのスムーズなコミュニケーションに資する行動を指すものとする。

Politeness : Behavior which promotes smooth communication between interlocutors.

Discernment: Discernment refers to the practice of polite behavior by conforming to social conventions. By submitting passively to social conventions, the speaker shows that s/he is acknowledging the social context and the relationship between the participants in the conversation.

Volition: Volition is the aspect of politeness which allows the speaker considerably more active choice, according to the speaker's intention, from a relatively wider range of possibilities.

Hill *et al.* (1986: 348)

この節では、この 2 つのレベルのポライトネスが実際に存在することを示すために、第 3 章で挙げたデータ 1 の 3 種類の会話を分析した。<sup>13</sup>この 3 種類の会話は、いずれも社会的身分を心に留めておく必要のある場面における会話である。家庭内やごく親しい友人同士の内輪話のように身分差に全く注意を払う必要のない場面での会話は分析の対象から外した。また、分析した会話には会話の主導者(その会話を進行させる責任を負っている人)が存在しており、またどういう内容について話をするかについて一定の全体が参加者に共有されているものを選んだ。このような会話の方が、社会的身分や役割からくる「わきまえ」の認識と会話を成功させるための「ストラテジー」の必要性がはっきりしてくると思われるためである。

タイプ 1 は、大学教授と学生との間の会話である。年齢・社会的地位ともに上の位にある教授と学生との会話、およびそれと対照させるために年齢と社会的地位の上下関係が逆転している対話者間の会話(年は若いが経験のある大学教授と年輩の学生の会話)を分析した。教師は学生を指導する立場にあり社会的地位は上であるが、長い期間にわたって指導を続ける必要もあり、ある程度地位の差をなくしたような基準値を選んで会話を行う。一方、下の地位にある学生は基準値としては「謙りモード」を選択しつつも、上の地位にある教師の「親しみモード」に同調するためにどのようなストラテジーを用いているかが、これらの会話で明らかになると考えたためである。

---

<sup>13</sup> 第 3 章でも述べたが、内容を分かりやすくするために 3 種類の会話の説明をもう 1 度加える。

タイプ 2 は、医者が新患者を診察している場面である。ここでの会話はタイプ 1 のような親しさはないが、医者は身体の状態など個人的な情報をなるべく隠さず提供してもらえるように、患者がくつろいで話をするような雰囲気を作るために患者に応じたストラテジーを用いている。本来医者と患者の関係は、専門家という意味では医者が上の地位にあり会話の主導権も握っているが、年齢や社会的地位は患者の方が上のこともあり、その位置関係は微妙である。この医者と患者の様々な位置関係が「わきまえ」や「働きかけ」にどのように反映するかを見るために、このタイプのデータを分析した。

タイプ 3 は、テレビのインタビュー番組「徹子の部屋」における主人役黒柳徹子と彼女の部屋に招かれた様々の客との会話である。このタイプの会話を分析に加えたのは、他のタイプにはない視聴者の存在が「わきまえ」や「働きかけ」に与える影響を調べるためである。また、この番組に登場するゲストたちの性別、年齢、社会的地位が多種多様であるため、黒柳徹子とゲストとの相対的地位関係も様々であり、「自分の分を弁えながら、その範囲内で許容されるストラテジーを用いる」という日本式のポライトネスの実態を示すのに好都合のデータであると考えたためである。

表(1)は、収集した会話を上記の 3 タイプに分類し、対話者の社会的地位、年齢、性別、およびその上下関係、親しさの度合い、観客・視聴者の有無を表にしたものである。

表(1) (再掲)

		対話者 (社会的地位・年齢・性別)	対話者間の 上下関係	親しさ	観客の 有無
タイプ1	会話1A	教授・52・男性	上	強	無
	15分20秒	学生・21・女性	下		
	会話1B	教授・52・男性	上	強	無
	10分13秒	学生・22・女性	下		
	会話2	教授・43・女性	上	強	無
	12分15秒	学生・21・女性	下		

		学生・21・男性	下		
	会話3 11分5秒	教授・42・女性 教授・学生・56・女性	不明 <sup>14</sup>	弱	無
タイプ2	会話4 4分6秒	医者・44・男性 患者・26・男性	上 下	弱	無
	会話5 5分13秒	医者・44・男性 患者・48・男性	不明	弱	無
	会話6A 6分21秒	医者・44・男性 患者・56・男性	不明	弱	無
	会話6B 6分35秒	医者・44・男性 患者・53・女性	不明	弱	無
タイプ3	会話7A 1番組(35分)	司会者・60・女性 ゲスト・30・女性	上 下	弱	有
	会話7B 1番組(35分)	司会者・60・女性 ゲスト・30・男性	上 下	弱	有
	会話8 1番組(35分)	司会者・60・女性 ゲスト・60・女性	同 同	強	有
	会話9 1番組(35分)	司会者・60・女性 ゲスト・70・女性	下 上	弱	有

## 6.4 会話中における「わきまえ」と「ストラテジー」の分布

「わきまえ」は会話の全ての参加者によって表されなければならないために、日本語の

<sup>14</sup> この表で「不明」としたものは、社会的地位、年齢、会話場面での立場における上下関係が一致しないため、上下関係が特定できないものである。



ポライトネスの基本であると考えられる。例えば、日本語では、話し手は敬語動詞か通常動詞か、また敬体か常体かを選択することで、自分が発話状況を認識していることを示さなければ文を完結することができない。もし不適切な形式を選んだとすれば、無知か無礼という印象を生むことになる。ここでは 4 つの会話例を分析することで、日本語のポライトネスにおいては「わきまえ」が不可欠であることを、6.2 でも述べた以下の 2 点から議論していく。

- (1) 「わきまえ」は会話中の全ての話者によって示されねばならない。
- (2) 「意図的丁寧さ」(丁寧戦略)を適切に使用できるか否かは「わきまえ」を遵守しているかどうか依存する。

先ず(1)の理由、「わきまえ」は会話の全ての参加者によって表されなくてはならないという点について論じていく。会話(1A) は 52 歳の大学教授と 22 歳の女子学生との会話である。四角で囲んだ部分が「わきまえ」、下線部が「働きかけ」であるが、大学教授は普通体の動詞を使っているが、女子学生は文末では必ず丁寧体を使っていることが分かる。また、この女子学生は返事をするときには「はい」という堅い返事をしている。もし、この学生が「はい」の代わりに「うん」を使ったり、「離婚してたんです」の代わりに「離婚してんだ」のような普通体を使っていたとしたら、文法的には正しいが、先生に対して無礼な発話をしていることになる。このように、社会慣習的に、下の地位にある人は上の地位にある人に対しては、基本としては「はい」のような堅い応答詞、文末は「です・ます」体を使うことが求められている。この会話例一つを見ても、日本語のポライトネスでは「わきまえ」が重要な要素であることが分る。

#### 会話(1A)抜粋

	男性教授T1・52	女子学生S1・21	<u>わきまえ</u> ・ <u>働きかけ</u>
1		できるだけことはしときたいので	
2	<u>へえー、そうなの</u>		<u>内輪語</u> ・ <u>くだけた相槌</u>
3		<u>はい。</u>	<u>堅い返事</u>
4	<u>よくがんばったねー、高校の時、</u>		<u>常体終止</u> ・ <u>終助詞</u>

5	亡くなられて、よく大学、		敬語
6	あ、 <u>そうなの。</u>	その前に <u>離婚してたんです</u> よ、親。	敬体終止・終助詞
7			くだけた相槌
8	<u>うん、うん。</u>		内輪語
9		で、 <u>お母さん</u> と住んでて、	くだけた相槌
10		<u>お父さん</u> と <u>お母さん</u> 、うちのお父さん	内輪語
11		事業をしてて、失敗して、	内輪語
12	あーあ、	で、借金抱えちゃったから、	くだけた相槌・
13		<u>あたしを</u> 育てていけなかったんです	内輪語・内輪情報開示
14		よね。	敬体終止・終助詞
15	<u>そうやね、しょうがないから、</u>		くだけた相槌
16		一緒に暮らしていると、	
17	<u>うーん。</u>		くだけた相槌
18	<u>そうみたい、そういうことある</u>		くだけた相槌・常体終止・終助詞・
19	<u>よ。</u>		内輪語
20	<u>うん。</u>	だから、 <u>お母さん</u> が籍をきって、	くだけた相槌
21			内輪語
22		<u>お母さん</u> が私を育てるから、	内輪語
23	<u>払う</u> というね、なるほど。	<u>お父さん</u> は借金を払う、	常体終止・終助詞
24			
25	<u>亡くなっ</u> ちゃった。	そしたら払い終わりのころ、	敬語・内輪語
26			内輪語
27		<u>迎え</u> に来ちやるちゅうとって	敬語・敬体終止・終助詞

		亡くなったんですよ。	
--	--	------------	--

同様のことが、会話(3)でも言える。この会話はかなり若い教授と大学で講師をしながら大学院で研究している学生との会話である。この二人は、あまりよく知らない関係であることと、さらに先生と学生とは言っても学生の方がかなり年上であるということから、二人が共に敬体を使い続けていることが分かる。また教授の方も、かなり堅い相槌「ええ」を使っている。この状況で、どちらかが常体を使うと、やはり社会的慣習に反しているという印象を生むであろう。

### 会話(3)抜粋

	女性教授T3・42	大学講師・大学院生S5・56	わきまえ・働きかけ
--	-----------	----------------	-----------

1	今、どういうことをテーマに研究していらっしゃるんですか。		敬語・敬体終止
2		あつ、まだあのう、今年の四月に入っただけなんです、	敬体終止
3	ええ。		やや堅い相槌
4		まだ、あんまり具体的には実は進んでいないんですけれども、	敬体終止
5	ええ。		やや堅い相槌
6		今、あのう、あのう、初級学習者の、接触場面におけるコミュニケーションストラテジー、ということ、やりたいと思って、あのう、少しずつ、今準備をしているところです。	敬体終止
7	そ、そのストラテジーってのは、学習者のストラテジーですか。	学習者のストラテジーですね。	敬体終止・堅い質問 敬体終止・終助詞
8	ああ。	でも、そういうことがひいては、あの教師の側がそういうことを知って教えれば、	
9		非常に、効果的な、あのうスピーキングの指導にも繋がると思いますし、	敬体終止
10	ああ。		
11	そうですねー、なるほど。		
12			堅い相槌

表(5)はデータとして用いた 12 会話例における「わきまえ」のポライトネスに関する表現が、上の位の人と下の位の人にどのように使い分けられているかを示したものである。星

印はその表現が現れていることを表す。相手の動作を表す場合の普通常体および普通敬体の使用、その他の行為についての常体使用、および砕けた相槌の使用は上の位の人または同等の位の人(網掛け部分)に限られていることが分る。さらに、下の位の人については、尊敬語・敬体および堅い相槌の使用(下線部)が殆ど義務付けられていることが分る。それが、このポライトネスは社会的に慣習化されたものであり、話者が自由に選ぶことができる意図的なポライトネスではないとする理由である。

表(5)わきまえ表現の分布

* 表現の出現	相手の動作				その他		堅いあいづち くだけた相槌	上下関係
	尊敬・敬体	普通・敬体	尊敬・常体	普通・常体	敬体使用	常体使用		
会話1A 男性教授→女子学生		*	*		*	*	*	上→下
会話1B 男性教授→女子学生		*	*		*	*	*	上→下
会話2 女性教授→男女学生		*	*		*	*	*	上→下
会話3 女性教授→女子学生	*				*		*	不明
会話1A 女子学生→男性教授	*				*		*	下→上
会話1B 女子学生→男性教授	*				*		*	下→上
会話2 女子学生→女性教授	*				*		*	下→上
会話2 男子学生→女性教授	*				*		*	下→上
会話3 女子学生→女性教授	*				*		*	不明
会話4 男性医師→若男性患者	*				*	*	*	上→下
会話5 男性医師→同男性患者	*				*	*	*	同→同
会話6A 男医師→老男性患者	*				*		*	不明
会話6B 男医師→老女性患者	*				*		*	不明
会話4 若男性患者→男医師	*				*		*	下→上

会話5 同男性患者→男性医師	*	*	* *	同→同
会話6A 老男患者→男性医師	☐*	☐*	☐*	不明
会話6B 老女性患者→男医師	☐*	☐*	☐*	不明
会話7A 女司会者→下女ゲスト	* *	* *	* *	上→下
会話7B 女司会者→下男ゲスト	* *	* *	* *	上→下
会話8 女司会者→同女ゲスト	* *	*	* *	同→同
会話9 女司会者→上女ゲスト	<u>*</u>	<u>*</u>	<u>*</u>	下→上
会話7A 下女ゲスト→女司会者	<u>*</u>	<u>*</u>	*	下→上
会話7B 下男ゲスト→女司会者	<u>*</u>	<u>*</u>	*	下→上
会話8 同女ゲスト→女司会者	*	*	* *	同→同
会話9 上女ゲスト→女司会者	*	*	<u>*</u>	上→下

次に、理由(2)「働きかけ」(方略的ポライトネス)の適切な使用は「わきまえ」に依存しているという点について論じていく。先ず会話例を見ていく。会話(7B)は年配の経験を積んだ司会者と若いゲストとの会話、会話(9)は同じ司会者と年配のかなり身分の高いゲスト(元華族)との会話である。同じ司会者が全く異なった話し方をしていることが分かる。

会話(7B)では、司会者はゲストが親しみある雰囲気の中で話そうとできるように、様々の方略を使って和やかな雰囲気を作り出そうとしていることが分かる。「はははは、へー」というような親しみある笑いや驚きの表現、「げー」というような俗語などを使っている。一方(9)では、これらの方略は全く使われず、敬語・敬体に終始している。もし、司会者が(9)の会話で(7B)と同様の方略を使ったとしたら、非常に無礼に響くであろう。ここで、それらの方略を使わないということは、やはり社会慣習によって決められているといえる。これからも、「働きかけ」方略の使用自体が相手との関係によって制限されていることが分かる。

### 会話(7B)抜粋

女性司会者 1・60 代	目下男性ゲスト・30 代	わきまえ・働きかけ
--------------	--------------	-----------

1	あなた、びっくりしたんですけど、 あなた、ワニというか、ああいう 爬虫類みたいなのが好き なんですって？		目下への対称詞・敬体 終止 目下への対称 詞・くだけた表現・敬 語・敬体終止・砕けた 質問
2		そうですね。前回ここに呼んでいただい た時も、あのワニの話とかしたんです が、そのままその当時のワニがまだあ の一家には、	やや堅い返事・敬語 敬体終止
3	お宅泥棒が入って、		敬語
4		はい、空き巣が入ったんですよ。 もう、2 年位前なんです、後で 直轄の警察署の刑事さんも来てくださ ったんですが、	堅い返事・敬体終止・ 終助詞・敬体終止 敬語・敬体終止
5	ベランダから入ったんですって？		敬体終止・略式質問
6		はい。あのーその刑事さんも、「もうこれ は完全に空き巣だねえ」なんておっしゃ ったんですが、窓ガラスをフックの所を 入っているんですが、足跡が二歩だけ 入って、そのまま引いてるんですよ。	敬体終止 敬体終止・終助詞
7	はははは、へー。		くだけた笑い・相槌
8		え、でその二歩の先に家のベランダに はワニがいたんですよ。	敬体終止・終助詞
9	あのワニですか。これですか。		敬体終止・敬体終止
10		はい、これなんですけど、	堅い返事・敬体終止

11	体長どのくらいあるんですか。		敬体終止
12		今1メートルちょっとあると思うんです	敬体終止
13	げー、これやっぱり、ね、昼間、空き巣		俗語・内輪語・終助詞
14	は	はい。昼間です。昼間、家族全員がい	堅い返事・敬体終止
		なくなった時に。	

## 会話(9)抜粋

	女性司会者・60代	社会的地位がかなり高い女性ゲスト・70代	わきまえ・ストラテジ 二
1	もちろん、思い出は沢山おありでしょう		敬語
	けど、やっぱり何月何日晴れとか、こう		敬語
	いうのご覧になると、		敬体終止・堅い相槌
2		そうですね、とても懐かしくて、はい。	
3	そのお暮らしは今、その後まあ「名		敬語
	字」さんとご結婚なさったわけいらっ		敬語・敬語
	しゃいますけども、その頃のご生活を		敬体終止・敬語
	今思い出してどんな風にお考えに、お		敬語
	感じになっていらっしゃる？		敬体終止



4		<p>ええ、そりゃほんとに今考えればほんとに  幸せ、っていうか恵まれてね、親はまあ早く  に割りに亡くなっても、でもほんとに幸せに  過ごせたと<u>思います</u>し、あのつぎの人たち  もみんな<u>あったかいし</u>、ほんとにあの昔の、  今のと比べていけない<u>かもしれません</u>け  ど、ほんとに主思いつて<u>いうんです</u>か、<u>ね</u>、  もうほんとにご主人大事っていう人たちが  っかり<u>おりました</u>からね、だからとても幸せ  だったと<u>思います</u>。</p>	<p>やや堅い相槌</p> <p>終助詞</p> <p>敬語・敬体終止</p> <p>くだけた表現</p> <p>敬体終止</p> <p>敬体終止</p> <p>終助詞</p> <p>敬体終止・終助詞</p> <p>敬体終止</p>
---	--	--	--

表(6)はデータとして用いた 12 会話例における「働きかけ」のポライトネスに関する表現が、上位者と下位者にどのように使い分けられているかを示したものである。星印はその表現が現れていることを表す。上位者から下位者にのみ使われているものとして、「くだけた表現を標準的に使う」(網掛け部分)というものがある。会話(1)(2)の男性教授・女性教授は、この砕けた表現を用いることでリラックスした雰囲気を作り出し、学生に発言しやすくさせていると考えられる。一方、同じ会話場面にはいるが、下位者である学生は、先生からの働きかけに同調して、それに合わせるようにして砕けた表現(下線部分)を使っていることが分る。具体的に言えば、会話(1A)抜粋において、先生の側から「へーそうなの」「よくがんばったね」という砕けた表現が用いられているからこそ、学生もそれに同調してリラックスした雰囲気の中で自己開示を行っているのだと言える。先生(上位者)がくだけた表現を使わない場合、学生(下位者)の方から砕けた表現を使うと無礼に響くこともありうると言える。

同様に、会話(7)(8)(9)の司会者は下の位の患者やゲストに対しては、様々の働きかけ(方略)を使って和やかな雰囲気を作り出そうとしていることが\*の数の多さ(網掛け部分)から分る。それに対して、明らかに司会者が下の位の場合は、極端に\*が少なく、ほとんど働

きかけ(方略)が用いられていないことが分る。会話(7)(8)と会話(9)の＊の数を見ると、その相違は明らかである。会話(9)では、上位者が全く＊(働きかけ)を用いていないため、下位者である司会者もそれに合わせて終始堅い雰囲気では話を進めていることが分る。

表(6) 「働きかけ」表現の分布

	共通基盤を主張する				話し手と聞き手が協力者であると伝える			相対的地位
	噂話・世間話 くだけた表現の方略的使用 くだけた表現の基準的使用 冗談・風刺方言の使用 内輪語の使用				「よ」「ね」の頻繁な使用 相槌の頻繁な使用 融合的表現 相手への同調			
会話1A男教授→女学生	*	*	*	*	*	*	*	上→下
会話1B男教授→女学生	*	*	*	*	*	*	*	上→下
会話2女教授→男女学生	*	*	*	*	*	*	*	上→下
会話3 女教授→女学生			*		*	*	*	不明
会話1A女学生→男教授	*	*		<u>*</u>	*	*	<u>*</u>	下→上
会話1B女学生→男教授	*	*		<u>*</u>	*	*	<u>*</u>	下→上
会話2 女学生→女教授	*	*		<u>*</u>	*	*	<u>*</u>	下→上
会話2 男学生→女教授						*	*	下→上
会話3 女学生→女教授				*		*	*	不明
会話4男医師→若男患者	*			<u>*</u>	*	*	*	上→下

会話5男医師→同男患者		* * *	同→同
会話6A男医→老男患者		* *	不明
会話6B男医→老女患者	*	* * *	不明
会話4若男患者→男医師		*	下→上
会話5同男患者→男医師		* *	同→同
会話6A老男患→男医師		* *	不明
会話6B老女患→男医師		* *	不明
会話7A女司会→下女ゲ	* * * *	* * *	上→下
会話7B女司会→下男ゲ	* * * *	* * *	上→下
会話8 女司会→同女ゲ	* * * *	* * *	同→同
会話9 女司会→上女ゲ		*	下→上
会話7A下女ゲ→女司会	* * * *	* * * *	下→上
会話7B下男ゲ→女司会	* *	* * * *	下→上
会話8同女ゲス→女司会	* *	* * *	同→同
会話9上女ゲス→女司会		*	上→下

日本語については、最初に述べた 2 点、(1)「わきまえ」は会話の全ての参加者によって表されなくてはならない、(2)「働きかけ」(ストラテジーのポライトネス)の適切な使用は「わきまえ」に依存していることが、これらの会話例の分析からも分かる。

## 6.5 談話の場面と参加者の関係が「わきまえ」「ストラテジー」の表現に及ぼす影響

各会話において参加者が用いている「わきまえ」と「働きかけ(ストラテジー)」を、表 2 と表 3 にまとめた。井出(1989、1992)は、「わきまえ」は話者の意図的選択ではなく社会的慣習によって決まると論じたが、身内的関係ではない成人同士の会話では、文末には敬体、

相手の動作には尊敬語の敬体を用い、個人的な関係のある明らかに目上の者は目下の者に対し普通語の敬体や尊敬語の普通体などを用いることが許されるというのが、社会的慣習の命ずるところであろう。表(2)を見ると分かるように、この予見は支持され、「わきまえ」の表現は談話参加者の社会的地位によって決まっている。相対的立場が下の者は、文末敬体については、ストラテジーとしてもこの基本からの逸脱は殆ど起こらない。

タイプ 1 の教授と学生の会話における教授のように、相対的立場も絶対的地位も上である話者の場合、しばしば「普通語・常体」の継続使用というストラテジーが用いられる。これは、くだけた親しい雰囲気では話をしようという意図の表明である。但し、会話 3 のように、両条件がそろわない場合には、成人同士の通常の形態である「丁寧語、敬体」が使用される。一方、相対的立場が下である学生の方は、教授の意図を汲んで、親しみを示すための様々なストラテジーを駆使しているが、文末においては必ず敬体を用い、教授について言及する場合にはほぼ例外なく尊敬語を用いている。

タイプ 2 の医師と患者の会話は、他の二つのタイプに比べて実務的性格が強く、私的関係を深めることは意図されていない。但し、身体の調子というある意味で最も私的な話題について話すわけであるから、緊張を解くことが必要であり、医師は患者に対して一定の範囲でストラテジーを用いている。医師は、基本的には、成人同士のわきまえ表現である「尊敬語・敬体」をどの患者にも用いているが、相手の社会的地位によって尊敬語のレベルも使い分けている。若い学生の患者に対しては比較的軽い「られる」敬語を用い、年上で社会的地位も高い患者には「お〜になる」敬語を用いるなど、微妙な使い分けをしている。また、「終止表現回避」のストラテジーはどの患者に対しても使っているが、「散発的普通体使用」「内輪語使用」が見られるのは、年下の学生の患者に対してのみであるなど、使われるストラテジーの種類にも違いが見られる。

タイプ 3 の会話は、参加者同士の間に私的会話の体裁を取りながら、テレビ視聴者という観客が存在するという点が特徴である。司会者は、観客を意識した場合にはゲストについて常に最高級の敬語で言及しており、どのようなゲストであってもその話し方にあまり大きな違いは見られない。しかし、一旦会話が始めると、私的な環境(「徹子の部屋」)における私的なおしゃべりという体裁を取るという番組の趣向のために、司会者と後輩にあたるゲストや、ほぼ同年齢の同志的な存在であるゲストに対しては、司会者は自由に多種のストラテジーを用いているが、社会的身分が圧倒的に自分より高いゲストに対しては、使っているストラテジーの種類も頻度も非常に制限されている。

データを見ると、わきまえだけでなく、使用されるストラテジーの種類も頻度も、会話参加者の相対的地位や状況によって左右されていることが分かる。即ち、ストラテジー使用も、その総体は「わきまえ」の表現になっているのである。ストラテジーの多くはわきまえ表現からの逸脱や回避という形を取るが、それが無礼ではなくストラテジーと解釈されるためには、適切なわきまへの表現が存在し、その枠の中で適切なストラテジー使用が行われていることが必要である。そのような条件がなければ、逸脱や回避は、ポライトネスの実現に役立つどころか、無礼や無神経と解釈されてしまうだろう。日本語のように、敬意の表現が社会的慣習として構造的に組み込まれている言語の場合は、「わきまえ」という基準がまず設定されており、その中で可能な範囲でストラテジーが実現されると言える。

## 6.6 結語

日本語の会話におけるポライトネスは、「わきまえ」を示しつつ多様なストラテジーを使用するという、複合的な方法によって実現される。「わきまえ」は必ず示されなければならない、ストラテジーの使用も「わきまえ」の表現に依存している。構造的敬語体系をもつ言語、少なくとも日本語においては、「わきまえ」即ち「社会的慣習の遵守」という側面を無視してポライトネスを実現することはできないのである。包括的な言語的ポライトネスの理論を構築するためには「わきまえ」という概念を包含することが必要である。



## 第 7 章

# 日本語の会話におけるポライトネス III<sup>15</sup>

### —韓国人・中国人・台湾人に理解されない日本人のポライトネス—

本章では先ず、先行研究を参照しながら、日本語と同様、韓国語・中国語のポライトネスにおいても「わきまえ」が重要な役割を果たすことを述べる。次に、韓国人・中国人・台湾人が奇妙に感じた日本語のポライトネスの例を挙げながら、日本語のポライトネスと韓国語・中国語のポライトネスの類似点・相違点について論じていく。最後に、これらの結果に基づいて、日本語と韓国語・中国語のポライトネスの類似点や相違点を説明することのできるポライトネス理論とは一体どのようなものであるかについて論じていく。

#### 7.1 序

前章では、日本語のポライトネスにおいては、Brown and Levinson (1978)(以下 B&L)の「ストラテジー」としてのポライトネスのみならず「わきまえ」のポライトネスが重要な役割を果たしていることを述べた。同様に、韓国語や中国語のポライトネスについても、B&L の理論では十分な説明が行われないことが論じられてきた。

本章では、日本語と韓国語のポライトネス類似点および相違点を論じた Matsumura, Chinami and Kim (2004)、中国語の観点から B&L のポライトネスに対して批判を行った Gu (1990)、Mao (1994) を概説しながら、日本語、韓国語、中国語のポライトネスは B&L の論じるポライトネスとは異なっていることを確認する。次に、韓国人・中国人・台湾人が奇妙に感じた日本語のポライトネスの例を挙げながら、日本語のポライトネスと韓国語・中国語のポライトネスの類似点・相違点について論じていく。最後に、これらの結果

---

<sup>15</sup> 本章の議論には、松村(2012)の一部、Matsumura, Chinami, and Kim (2004)の一部、さらに平成 20 年度～平成 22 年度科学研究費補助金「談話分析に基づく日本語ポライトネス指導教材開発」(基盤研究(C))(課題番号 20520471: 研究代表者: 松村瑞子)の報告書で報告されたデータの一部を使用した。

に基づいて、日本語、韓国語、中国語のポライトネスの類似点や相違点を説明することのできるポライトネス理論とは一体どのようなものであるかについて考察する。

## 7.2 韓国語・中国語のポライトネスにおける「わきまえ」

日本語と同様に、中国語や韓国語のポライトネスにおいても、社会的慣習（基準）に従うことで丁寧な行動をとるという「わきまえ」は重要な概念であると考えられる。韓国語については、尾崎(1989)、全(1991)、Matsumura, Chinami and Kim (2004) が、その重要性を指摘した。

Matsumura, Chinami and Kim では、以下の 3 種のデータを用いて、「わきまえ」は日本語のみならず韓国語のポライトネスにおいても不可欠の役割を果たしているが、両言語のポライトネスは、「わきまえ方」が異なるために互いに無礼に感じることがあることを論じた。

Data:

1. Japanese and Korean conversations between people of different social levels.
2. Japanese polite conversations which sound impolite or awkward to Korean people.
3. Unacceptable expressions / behaviors and incorrect interpretations by Korean learners of Japanese observed in writing and reading of letters

データ 1 は、本論文のデータ 1 の日本語会話と、日本語のデータ 1 と同様の手法で収集した韓国語 12 会話である。韓国語についても、日本語のデータ 1 と同様に明らかに上下関係のある発話者間の会話を収集分析し、韓国語のポライトネスにおいても日本語と同様「わきまえ」が重要な役割を果たしていることを示した。

データ 2 では、韓国人にとって奇妙に感じられる日本人のポライトネスを含む会話例 16 例である。家族の間の会話、友人の間の会話、医者と患者・小学校の先生と生徒の親・上司と部下の会話などが含まれる。

データ 3 では、韓国人日本語学習者に観察された日本語ポライトネスについての容認されない表現や行動および誤った解釈例である。

データ 2 およびデータ 3 では、日本人にとっても韓国人にとっても上下関係は重要な要素であり、全ての会話参加者にとって上下関係を基準とした「わきまえ」の遵守は不可欠



であるが、韓国語のポライトネスが「上下関係の相違を明示することで示される」のに対し、日本語のポライトネスは「相手との和を最も重視するために、上下関係の相違は尊重するが、それを互いに気遣うことで示される」ことを論じた。

中国語のポライトネスについても、Gu (1990)、Mao (1994)が、社会的慣習(基準)に従うことで丁寧な行動を行うことの重要性を指摘した。Gu (1990)は、孔子の教えに基づく中国語におけるポライトネスを歴史的に考察した後、現代中国語のポライトネスについては、歴史的に変化したものもあるが、ポライトネスの本質的要素または何が丁寧と見なされるかについては現代にもそのまま残っているとし、中国語のポライトネスの基には基本的に以下の4つの概念があるとした：敬意、謙遜、暖かい態度、品位。さらに、B&L (1978) および Leech (1983) を概観した後、B&L のポライトネス理論は中国語には当てはまらないとして、Leech の理論を枠組みにして、謙遜の格言、呼称の格言、機転の格言、寛大さの格言を用いて中国語のポライトネスを説明しようとした。

また、Gu の述べる以下の論点は「わきまえ」の観点に通じるものである。即ち、ポライトネスは単なる手段(「働きかけ」)のみでなく、規範的なもの(「わきまえ」)でもあり、ポライトネスの規範的側面を見ないことは重大な誤りだと言うのである。

In interaction politeness is not just instrumental. It is also normative. It may be preferable to treat face as wants rather than as norms or values as Brown and Levinson have done, but it would be a serious oversight not to see the normative aspect of politeness. Failure to observe politeness will incur social sanctions.

Gu (1990: 242)

また Mao(1994) は、中国語における Face の概念を詳しく考察することで、中国語の Face (mianzi, liǎn)と B&L (positive face, negative face) の face の相違を指摘した。さらに中国語と日本語における face とポライトネスの本質的な繋がりを考察した後、B&L の理論は普遍的ポライトネス理論としては不十分であることを示した。

これらの先行研究から分かるのは、韓国語・中国語のポライトネスにおいても、日本語と同様に社会的慣習(基準)に従うことで丁寧な行動をとるという「わきまえ」が重要な役割を果たしているという点である。しかし、日本と台湾、中国、韓国では、その社会的慣習自体が異なるために、何を丁寧とするか、無礼とするかが、かなり異なっている。そこで、この章では、台湾人・中国人・韓国人が奇妙に感じた日本語のポライトネスの例を挙

げながら、日本語のポライトネスと中国語・韓国語のポライトネスの類似点・相違点について論じていく。

### 7.3 データ：韓国人・中国人・台湾人に理解されない日本人のポライトネス

ここで用いるデータは、1名の韓国人、3名の中国人、1名の台湾人留学生<sup>16</sup>に、日本のドラマやテレビインタビュー番組等から、取り分け日本人のポライトネスの中で奇妙に思えるものを収集してもらったものである。台湾人・中国人・韓国人のデータを収集したのは、それぞれの属する言語文化によって奇妙に思える日本人の会話の種類も異なっている可能性があると考えたためである。以下収集された会話例を挙げる。

#### (1) 韓国人学生収集例

会話1 義母が婿に対して自分の娘のことをもう少し労わるよう意見する場面

義母： 亘さん、ちょっといいかしら。

婿： ああ、はい。

義母： 亘さん、あなた奈々美の夫ですから、もうちょっとどうにかやって貰えないかしら。

婿： あ、はい。

コメント：アンケートに答えた韓国人10人全員が「姑と嫁、義理の母と婿の関係において姑や義理の母のほうが丁寧な表現を用いることは韓国では考えられない」と答えた。日本の場合は、ここで収集されたデータのように姑が嫁に対して、また義母が婿に対して丁寧体や敬語を用いることもしばしばである。

会話2 成人した孫と祖父の会話

孫： 今日は営業始めてからやっと目標の売り上げ達成したの。

祖父： おおー。

孫： 千個よ！

祖父： うん。

孫： 一日千個売り上げるのが夢だったの！やっどこまで漕ぎつけた。やればできるもんだね、おじいちゃん。

---

<sup>16</sup> 収集した学生は、何れも九州大学大学院比較社会文化学府の大学院生、韓国人(李奈娟)、中国人(徐燕、李大年、李曦曦)、台湾人(王龍)である。

祖父： よかったね。おめでとう！！

コメント：韓国人に対するアンケートでは 10 人が全て、祖父に対して成人した孫がぐだけた言い方を用いることは無礼と思われる場合が多いと答えた。逆に、日本人に対するアンケートでは 10 人が全て、祖父と孫は大変親密な関係にあるため孫も普通体で話すのが自然であると答えた。

会話 3 小学校の教師(20 代後半)、教師の母親(40 代)、生徒の母親(30 代)の会話

生徒の母親： あら、先生！

教師： あ！

教師の母親： (生徒の母親を見て)あの...

教師： あ、あのうちの母です。

生徒の母親： (お辞儀をしながら)あ、はじめまして。

教師： あのね、うちの生徒のお母さん。

教師の母親： (お辞儀をしながら)あ、はじめまして。あの、[教師の名]の母でございます。娘がいつもお世話になっております。

生徒の母親： あ、いえ... こちらこそ、いつもお世話になってます。

教師の母親： (丁寧にお辞儀をしながら)あの、どうぞこれからも宜しくお願いします。

生徒の母親： あーは、はい。

コメント：韓国人に対するアンケートでは 10 人が全て、教師の母親の丁寧な言葉遣いは韓国では考えられないとした。一方、日本人に対するアンケートでは、10 人中 9 人が上の会話は自然であるとした。不自然とした J10 の回答「この会話での教師の母親の言葉遣いは丁寧すぎると思う」にあるように、教師の母親は少々謙りすぎてはいるが、母親が自分の娘のことを娘の職場関係の人をお願いする場面と考えるとありえない表現ではない。

会話 4 家を出て一人暮らしをしている店の主人の娘と店で長年勤めて

きた奉公人のおばさんの会話

主人の娘： こんにちは。

おばさん： いらっしゃいませ、じゃありませんね。お帰りなさいませ。よく考えたら洋子さんはまだ岡倉家の方でいらっしゃいますよね。この間、それに気がつきました。失礼しました。

主人の娘： そうね、まだお嫁にいけないもんね。

おばさん： いえ、そんな...

主人の娘： ううん、いいわよ。気遣わなくたって。

コメント：韓国人への調査では、全員がこの対話は韓国の場面としては不自然と判断した。「このおばさんは洋子からみると母親位年上の人なのに、この会話では丁寧度が逆にな

っているのではないか」に見られるように、韓国では年齢の上下関係が丁寧度を決める重要な要因になっていることが分かる。一方日本人への調査では、全員がこの対話は自然であると考えた。

#### 会話 5 50 代の医者と 70 代の患者の会話

患者： いつもすみません。こんな時間にご無理願って。

医者： おばあちゃんさ、具合悪くなったら電話してよ、遠慮しないで、往診に行くから。あまり無理しちゃだめだよ。

コメント：韓国人は全員、医者は社会的には尊敬される立場にあるが、これ程くだけた調子で大人の患者に接するとは考えられないとした。日本においても、これ程くだけた話し方をする医者は少ないが、町医者が患者と親しくなり殆ど親戚同然の付き合いとなった場合には、このような対応も考えられる。

#### 会話 6 30 代の女性 A と彼女の家に泊めてもらうことになった 20 代後半の女性 B

A： え、まだ、起きてたんですか？

B： ああ、はい…。なんか寝付けなくて…

A： あら、そう。なんか少し飲みませんか？

B： いえ… あの、大丈夫です。

A： そんなに遠慮しないで飲みましょう、私も付き合うから。

B： あ、… じゃあ、… いいんですか？

A： うん、いいわよ。私もちょうど飲みたいなあって思ってたところなの。  
ううんと、ワインでいいかな？

B： あ、はい。

コメント：これは事情があって B がたまたま初対面の A の家に泊めてもらうことになったという場面であるが、韓国人の 10 人中 7 人が初対面で下線部のようにくだけた話し方するのは韓国では考えられないと答えている。一方日本人の場合は、10 人中 9 人がこの場面での下線部の話し方は自然であると答えている。

#### 会話 7 エステで店員が客にマッサージしている場面

客： 私ですね、前に付き合っていた人がいた時に仕事のストレスで今より 10 キロくらい太ったんです。そしたら彼、突然連絡くれなくなって、どうして会ってくれないのって聞いたら、だって一緒に連れて歩けないじゃんって…

店員： なんか男の本音って感じね。

客： 結局男の人ってきれいな女が好きなんですかね、中身なんかより…

店員： ね、今恋してるでしょ、あなた。

客： え、なんで？

コメント：韓国人へのアンケートでは、このような会話はありえないわけではないが店員がもう少し丁寧であるべきであるという回答が大多数を占めた。日本においても、店員のこのような話し方を失礼と考えるかどうかについては、意見が分かれる。

## (2)中国人学生 1 収集例

### 会話 1

沢木：ごめんください。

義理の母：いらっしゃいませ、正一さん

沢木：お母さん、恵理子、迎えにきました。

義理の母：それが、恵理子、気持ちの整理つくまで会いたくないって、いつてるんです。

申し訳ありませんけど、今日はお引き取りいただきますか。

沢木：まことは元気ですか。

義理の母：ええ、わざわざ来てくださったのに、すみません。

沢木：溜息(お辞儀して帰った)

### 『アネゴ』第7回

コメント：夫婦関係がうまくいかず、妻の恵理子は娘を連れて実家に戻った。沢木正一は義理の母の家に彼女たちを迎えに行ったシーンである。義理の母の話は丁寧すぎると思う。

### 会話 2

院長：バチスタ手術についてご存じですか。

田口：名前ぐらいは

院長：一般的な成功率は約 60%、ところが、桐生先生がこの病院に着任してから一年、その難しい手術をことごとく成功させてきました、実に 26 連勝。彼の名前を知って全国から患者さんが集まってきます。

桐生：ですが、このバチスタ手術が最近三連敗、続けて失敗しています。

院長：その原因を鶴働教授に・・・あ、いや、あなたに解明していただきたい・・・

田口：無理です。

院長：近々訳ありの手術がありましてね、ぜひともお引き受けしていただきたい。

田口：こういうことは確か、リスクマネジメント委員会の仕事だと思いますが・・・

院長：大げさなことにしたくないんですよ。

### 『チームバチスタの栄光』

コメント：田口は精神科の医者で、無理やり鶴働教授に頼まれて、院長室にきた。上下関係から見ると、院長が依頼するときの言葉づかいが丁寧すぎると思う。

### 会話 3

母：まったく、もう親になんの相談もなく

花子：は、あ、ごめんね

父：クリスマスに離婚して、何で今頃帰ってくるんだよ

花子：マンションの契約年内一体だったからさあ、 ということで、しばらく御厄介になります。

妹：正月に縁起悪い

母：あなたってやること何でも中途半端なのよね、ピアノ にしても、習字にしても、英会話にしても、やるやるって全部中途半端を言い出して

妹：吉岡さん、いい人だったのに

母：公務員だったら、リストラもないしね、どうせみんな程知らずの贅沢言って、愛かつかれたんでしょう、ねん、別れるのが勝手だけど、ここにいるんだったら、食い口ぐらい稼いでよ、食べるのだけが一人前なんだから

妹：できるだけ早く出でてよね、悪い縁起がうつるから

父：うるせいなあ、もう、戻ってきた人間を快く迎えてやるのは家族ってもんだろう、

花子、これ以上悪くなることはないから、今は底だ

母：けどね、結婚式のお金、出して、損したと思わない？

父：あ、あ、そうだよなあ、わずか一年間じゃよね

妹：そうだ、私が出したお祝い返してよ

母：は、あ、まずい、もうすぐ健ちゃんが来るわよ

父：はあ、年始に来た人に離婚の話するのなあ・・・

妹：じゃ、さあ、とりあえずなかったことにする？

母：そうね、お正月早々格好悪いしよね

妹：あ、あ、一家の恥って感じ

### 『恋は戦い』第1回

コメント：離婚して元日に実家に帰ってきた花子の一家の会話である。妹の言葉づかいに違和感を感じる。

### 会話 4

森沢：院長、どういうことなんですか。

院長：どうもこうもないだろう。院内感染の原因は君がつきとめたんじゃないかな

森沢：私は外科部長を首にするために、原因をつきとめたんじゃないありません。私はただこれ以上院内感染の被害者を増やさないために、

院長：そう、君は病理医として自分の職に忠実にしただけだ、外科部長の処分については考える必要はない

森沢：私がしたことは患者さんから外科部長を奪うことだったんですか。それじゃ意味ないんじゃないですか。私たち医者は患者さんを救うために仕事をしてるんじゃないですか。少なくとも私はそのために医者になったんです。いつだって患者さんのために・・・  
(拍手の音)

寺崎：すばらしい

院長：寺崎さん

寺崎：患者を救うために、医者になった、いつだって患者のために、そういう思いやがりを恩厚かましいところ、医者には大切です、彼女は東陶総合病院の病理室期待の星、森沢麻紀さんですね

院長：第二病院の寺崎院長だ

寺崎：はじめまして、寺崎です。

森沢：森沢です。

寺崎：彼女に例の話は

院長：いやあ、まだだ

森沢：例の話って

院長：実はね、寺崎院長はぜひ君に第二病院に来てほしいとおしゃってるんだ

森沢：第二病院って夜間治療専門の・・・

寺崎：そう、通称ナイトホスピタル、仕事が休めなく病院にいけない患者さんには、夜中に救急車を呼びなくても、我慢する患者さんには、日ごろの病院と同じように、安心して治療をうけることなんです。病気に昼も夜もありませんが・・・来ていただけますね。  
いや、くるしかないでしょう。

森沢：どういう意味ですか。

院長：もうここにはあなたの居場所はないでしょうから

森沢：ええ？

寺崎：迷惑なんですよ。外科部長の首を飛ばすほど、優秀な病理医なんて・・・

寺崎：思い切り力を発揮してくださいよ。我がナイトホスピタルで・・・

院長：お客様がお待ちですから。そろそろ白衣に着替えていただけますか。

『ナイトホスピタル』第1回

コメント：第二病院寺崎院長の言葉遣いに違和感を感じる。例えば、「きていただけますね」、「迷惑なんですよ、外科部長の首を飛ばすほど、優秀な病理医なんて」

## 会話 5

雨宮：おはようございます。

久利生：おはようございます。足大丈夫ですか。

(エレベータの中)

末次：ちょっと待って

江上：末次さん、しっかりよ

末次：あ、あ、ごめんなさい。

江上：杖、邪魔だよ

末次：あ、あ、ごめんなさい

久利生：まだ怒ってる？

芝山：遠藤、先から足踏んでるなあ

遠藤：ごめんなさい、でかいから

牛丸：芝山くん、かりかりしないで

遠藤：離婚裁判で、もやもやなんですよ

芝山：勝手に見に来るなよ

遠藤：面白いから

中村：そんなに離婚したくないんだ

雨宮：雰囲気悪いなあ

久利生：お前もなあ

『Hero』

コメント：朝仕事が始まる前にエレベータに乗った場面である。末次は 40 歳、江上検事の担当事務官で、江上は 32 歳、東大卒のエリート検事。前のシーンで末次は社交ダンスをする時に転んでしまい、足を骨折した。社会的地位からみると、江上は末次より少し上だが、「しっかりよ」、「邪魔だ」などの言葉に違和感を感じる。

## 会話 6

結城：じゃ、すみません、採血行います。

美緒：できるの？

結城：ええ？

美緒：新人でしょう？それに配属されたばっか・・・半年も経てば注射の前で「すみません」なんて言いません。

結城：すみません、新人で

美緒：まったく

・・・

美緒：あ、あ、ダメダメダメ。新人はいつもこれだよ。そんなに引っ張ったら、出る血管が出なくなるでしょう。？

結城：はい、お願いします。

美緒：いいたい。いや、もう、いいんや、そのままいつちゃって、まかせるしかないから。

結城：はい・・・すみませんでした。

美緒：先生さ、下手でも堂々としてなきや

結城：ええ？

美緒：すみませんばっかって言うと、患者になめられるよ。なぜ、こっちが命かかってん



だから

結城：でも、いま、患者さんに教そわることばっかで、すみません。

『First Kiss』第1回

コメント：美緒は心臓病を抱えている二十歳の女の子で、結城は新人の医者である。これは二人がはじめて出会った場面だが、医者に対しての言葉づかいに違和感を感じる。

### (3)中国人留学生 2 収集例

#### 会話 1

男性 M1 のお母さんがガンの治療を受けている。手術をしたが、病状が悪化し、審査結果によって再度手術をするのか、抗がん剤の治療を受けるのかが分かる。見舞いにきた M1 の仕事仲間 F1 が落ち込んでいる M1 を慰める場面である。

場所：病院の待合室

登場人物：M1－主人公の男性(30代)；F1－仕事仲間の女性(30代)

作品名：『東京タワー オカンとボクと、時々、オトン』

会話内容

F1：もうすぐ検査結果でるんでしょう。

M1：うん

それで決まる、手術ができるのか、抗がん剤に頼るのか。

F1：抗がん剤って苦しいんだよね。

M1：うん、くるしいよ。

F1：……

M1：そりゃ苦しいよ 無理するんだから

F1：……

M1：……

コメント：見舞いにきた M1 の仕事仲間 F1 が落ち込んでいる M1 を慰めるとき、「抗がん剤って苦しいんだよね。」と患者の立場に立ってその苦しみを考えている。M1 と一緒に患者のことや苦しみを考えることによって、仲間意識が生じて M1 人が抱える悩みではなく、一緒に考えている仲間がいることを示している。「頑張れ」と M1 を励ましたり、「きっと大丈夫だよ」と元気付けたりせずに、このように間接表現を用いて相手を慰めることができると考えられる。中国では、「ガン＝死」というガンは不治の病であるイメージがあって「肯定能好(きっと直る)」、「肯定没事(大丈夫だよ)」とか「不要放弃(諦めないで)」とか励ます言葉が多く使われると思う。もし、何も言わない或いは間接な表現を使うと冷たい人、無関心の人に誤解される場合がある。

#### 会話 2

M1のお母さん F2 がガンの治療を受けている。仕事仲間の M2 と F1 が病院にお見舞いに来た。母親の F2 は初めに自分の息子がラジオの仕事もしていることを知った。しかし、息子は自分がラジオの仕事をしていることを母親に知られたくなくて言い訳をする。

場所：病室

登場人物：M1－男性(30代)、M2－マネージャー(30代)

F2－M1のお母さん(60代)、F1－仕事仲間の女性(30代)

作品名：『東京タワー オカンとボクと、時々、オトン』

会話内容

(病室に入りながら)

F1：どうも

F2：ああ マー君 マー君(M1)

M1：おう あの これ イラスト上がったから

M2：お 珍しい 早いですね。

M1：微妙に進歩してるんだよ これでも

F1：昨日オカンのぬか床まぜといたからね

それからこれ

F2：ありがとう タミちゃん(F2)

M2：中川さん そろそろラジオ

M1：ああ うん

F2：なんね。あんた文章も書きようち思ったらラジオもはじめたんね

言わんでから

M1：裏方やけん もう行こう

F2：なんチャンね。

M1：しゃべつとらんけん 行くわ

F2：なんチャンね なんチャンね

F2：FMねAMね

M1：しゃべつとらんけん あの もういくわ

F1：えっ(驚く)

F2：ラジオでしゃべらんでなんするの

M1：いろいろあるんよ

明日も今日の時間にはくるけど何か持ってくるものある

F2：なんもない なんもいらんよ

M2：じゃ またきます。

F1：じゃまたきます。

F2：磯山さん タミちゃん ありがとう

(三人が病室から出た)

F2：しゃべればよかのに

コメント：入院中の母が初めて自分の息子がラジオ放送の仕事もしていることを知って、チャンネルを聞いたが、息子は教えてくれない。まずは「裏方や」と嘘をつくが、その後は「しゃべっとらん」とごまかし、最後は「いろいろあるんよ」と教えたくない事情があることを曖昧に表現している。つまり、なぜ自分は母親に仕事の内容を教えたくないのかははっきり言わず、曖昧な表現を使ってごまかしている。親子の関係にも関わらず自分のプライバシーの侵害されたくない気持ちが表れている。中国では、母親に自分の仕事内容をはっきり教えて、入院中の母親に自分の放送を聞かせて楽しませると思う。

### 会話 3

M1 が母親である F2 に電話で、卒業できないことを知らせる。突然のことで母親はびっくりする。

場所：F2-仕事場のお店 M1-路上の電話亭

登場人物：M1-男性(20代)、F2-M1のお母さん(50代)、

作品名：『東京タワー オカンとボクと、時々、オトン』

会話内容

F2：ふーん はあ そろそろ就職のあんた

オトンと連絡取りよつとね

M1：うん 小倉に帰ったら飲みにおいて

F2：ああ

M1：それより あれなんよ

F2：何？

M1：俺 4年間 ほとんど何もせんやったんよ びっくりするやろ

F2：どういうことね

M1：このままだったら 卒業できん

F2：なんね それ

んん…なんで 頑張れんやったとかね

M1：留年せんでも あの中退してもいいよ 卒業せんでも

F2：なんで…なんで

頑張れんやったとかね

はあ…

M1：ごめん

コメント：母に突然電話で卒業できないことを知らせている息子に対して母親は「なんで頑張れんやったと」しかいえない。つまり、親子関係にもかかわらず直接ではなく、間接的に困っていることを表している。中国の場合はもっと叱ったり、怒鳴ったり激しくぶつかって怒りを表すと考えられる。

#### 会話 4

ダンサーを目指して上京した M3 が M1 にダンスを披露する場面。M1 は上手ではない M3 の質問に困って適当に答えるが、期待していた M3 はその答えに失望している自分をごまかしている。

場所：公園

登場人物：M1－男性(20 代)、M3－男性(20 代)

M1 と M3 の関係－高校時代の親友

作品名：『東京タワー オカンとボクと、時々、オトン』

会話内容

(一人で踊ってから)

M3：はあ

どうだった

M1：(アイスをなめながら)…

躍動的だった

M3：あ はあ はあ

(頷く)

うん うん うん

コメント：ダンスを一生懸命踊った友達の「どうだった」の質問に困っている M1、褒めるほどうまくなかったので、「躍動的だった」と答えた。つまり、「うまい」「上手」「天才だ」など褒めることでもなく、「下手だ」「普通だ」など正直に答えることでもなく、中間的な言葉を選んでいる。また、友達の答えに期待していたが、短い返事だったので失望した M3 であるが、正直には言わず「はは」と笑ってごまかし、賛成しているように「うん、うん、うん」と頷いている。M1 と M3 はお互いに相手の立場や気持ちを配慮して遠慮して正直に答えていない。中国の場合はこういう場合はっきり自分の意見を言うと思う。またどこがよくて、どこが悪いなど細かく指摘する。聞く人も「え、それだけ?」、「もっとあるんじゃない」「すごいだろう」など積極的に質問を返すと思う。

#### 会話 5

イラスト教室の先生と学生の会話場面。

場所：教室

登場人物：M1－男性(20 代)、M4－男性(20 代)

M1 と M4 の関係－先生と学生

作品名：『東京タワー オカンとボクと、時々、オトン』

会話内容

M1：これ 誰?

M4：アルフィーの高見沢さんです

M1：へえ、君は何になりたいの？

M4：イラストレーターです

M1：すごいね

M4：へえ(照れ笑い)

コメント：イラスト教室で指導している先生が学生の作品をみて「これ誰？」と聞く。つまり、絵が下手で誰を書いたのか分からない。学生は「高見沢さん」と答える。先生の「何になりたい」という質問に学生は正直に「イラストレーターです」と答える。つまり、イラストの勉強をしている人にとってイラストレーターになるのは当たり前のことだが、それをわざわざ聞く。絵が下手なのにイラストレーターになりたいと答える学生に「すごいね」とほめる。その言葉に学生は「へへ」と照れ笑いをする。以上のように絵が下手な学生に対して「もっと頑張りなさい」ではなく「すごいね」とほめることで相手を困らせない。皮肉と冗談の意味も含まれているが、相手のポジティブ・フェイスを満たす表現である。

## 会話 6

東京で一緒に住んでいる親友 M3 が家を出ることになった。M1 はもう一度東京で頑張ろうと M3 を引き止めている。

登場人物：M1－男性(20 代)、M3－男性(20 代)

M1 と M3 の関係－高校時代の親友、一緒に住んでいる

作品名：『東京タワー オカンとボクと、時々、オトン』

会話内容

M1：なあ 金ないよな？ 交通費なんだけど

M3：…

M1：…

M1：なあ いくなよ

M3：こんな時に悪いけど でも本当に僕だめなんよ

M1：家賃二人分払っていくの無理やもんな  
一緒にさあ もうちょっと頑張ろうや

M3：今はくさっとるけどね

あんたは才能あるから 頑張りい

僕はもう頑張りきれん

コメント：まず、お金を借りる時、「お金ないよな」のようにお金がないことを前提としてお金を借りようとしている。つまり、相手が断りやすく、答えやすく質問している。中国の場合は「你有没有钱？(お金ある?)」のように、お金があることを前提とし、お金があるなら貸して欲しいと強く訴えることが多い。

次に、「一緒にもう一度がんばろう」という親友に「今はくさっとるけどね あんたは才能あるから 頑張りい」と励まし、自分に対しては「僕はもう頑張りきれん」という。つまり、断る場合に相手は高く評価するのに対して自分は低く評価するという、相手のポジティブ・フェイスを配慮した表現である。中国の場合は自分を低くして相手を断るのではなく、帰らなくてはならない他の言い訳をすると思う。

## 会話 7

手術をしたが声帯にガンが残って落ち込んでいる母親が、息子が書いて出版した本をもらって、電話で感謝の気持ちを表す。

場所：部屋の中

登場人物：M1－男性(20代)、F2－M1のお母さん(50代)、

作品名：『東京タワー オカンとボクと、時々、オトン』

会話内容

F2：まだ 声帯にガンが残っとるんは残ってるけんね

M1：えっ 完治したんやないと

F2：えん、まだ小さいガンが治しきれてないよん

ヨード治療で抑えていくしかなかったい

でも この本読んで元気出すけんね

M1：ありがとうございますあ(涙ぐむ)

コメント：声帯がんの治療で苦しんでいる母親が、息子から出版した本を郵送してもらって元気を出す。うれしくて息子に「ありがとうございます」とお礼をいう。日本では親子でも感謝の気持ちを伝える場合は「ありがとう」ではなく「ありがとうございます」という感謝表現を使っているが、中国では、家族に「ありがとうございます」のようなお礼の言葉は使わない。もし、使ったら家族ではなく他人のような気がする。

## 会話 8

がんの治療をしている母親 F2 と息子の M1 は東京で一緒に住むことになった。

場所：部屋の中

登場人物：M1－男性(20代)、F2－M1のお母さん(50代)、

作品名：『東京タワー オカンとボクと、時々、オトン』

会話内容

F2：あんた オカンはずっとここにおってええんかね

M1：いいも悪いももう来てしもうとるやんね

F2：オカンが死んだらね…

M1：辛気くさいこと言いなさいな 死にはせんから

ずっとここにおったらいいやけん

F2：そしたら… 宜しく願いしますね。（正座してお辞儀をする）

コメント：東京の息子の部屋に住むことになった母親が正座をして息子に「宜しく願いします」と挨拶をする。日本では家族の間でも挨拶やお礼をきちんと言うが、中国では、自分の家族に向かって「宜しく願いします」のような言葉は使わない。

## 会話 9

母親がなくなった夜に、編集者 M5 から M1 に原稿催促の電話が掛かってくる場面

場所：部屋の中

登場人物：M1－男性(30代)、M5－編集者(40代)

作品名：『東京タワー オカンとボクと、時々、オトン』

会話内容

M1：はい

M5：あの… お母様がなくなられたそうで いつだったんですか。

M1：今朝です

M5：それは…ご愁傷様です

M1：あの病院にかけてきた人ですよ

M5：え こんな時になんなんですけど 締め切りがぎりぎりなんですけど どうですか

M1：どうですかって…

今日じゃないとダメですか

M5：明日だとページが白くなっちゃうんですよ

M1：あなただったら死んだ母親の前で仕事できますか？

（電話を切る）

コメント：母親が亡くなった日の夜に編集者から原稿の催促の電話が掛かってきた場面だが、まず、編集者は「こんな時になんなんですけど 締め切りがぎりぎりなんですけど どうですか」と直接催促をせずに、状況の説明をしてから「どうですか？」と質問形式を使い、間接に相手に判断する権利を与える。それに対して M1 は「どうですかって… 今日じゃないとダメですか」と今日は無理だとはっきり答えず、今日じゃないとだめですかと質問を返す。すると M5 は「明日だとページが白くなっちゃうんですよ」と状況を説明するが、ダメだとははっきり言わない。最後に M1 は母親が亡くなったことを知っていて仕事の催促をする人に向かって「あなただったら死んだ母親の前で仕事できますか？」と答える。つまり、相手に質問を投げ、相手の立場になって考えてほしいと訴えている。この場面にはネガティブ・フェイスとポジティブ・フェイスの両方の特徴が見られる。中国では母親が亡くなった日の夜に編集者から原稿の催促の電話が掛かってきた場面、非常に怒って相手に向かって怒鳴る。また、以上のような間接的表現より、直接に自分がどうしてもできない状況を説明するか、或いは電話に出ない場合もある。

会話 10

本屋の前で、他の男性と浮気しているお兄さんの彼女 F3 とバッタリ会ってしまった F4。

場所：本屋の前

登場人物：F3－F4 の兄の彼女(20 代)、F4－中学生の女の子 M6－F3 の浮気相手

作品名：『幸福な食卓』

会話内容

F3：ありがとう

M6：じゃね

F3：バイバイ

F3：本屋にいたでしょう

1 人辛気くさい顔してだんたもん 目立ってたよ

F4：今の誰ですか？

F3：ああ…村井君

F4：恋人ですか？

F3：まあね

F4：“まあね” って、直ちゃんは？

F3：中原君も恋人だよ

F4：それですごくおかしい

F3：別にいいじゃないの

F4：よくないよ 直ちゃんそんなこと知ったら悲しむよ

F3：別にあの人はこんなことで悲しまないよ

F4：悲しまないわけじゃない

大体おかしすぎるよ 二人の恋人いるなんて

F3：ねえ あなた お兄ちゃんのこと好きみたいんだけど

中原君って相当いい加減でいけすかないとこあんのよ

F4：いけすかない 何ですか それ

F3：そう 一ヶ月も付き合えばすぐ分かっちゃう

コメント：本屋の前で、他の男性と浮気しているお兄さんの彼女とバッタリ会ってしまった F4、F3 と F4 の会話内容をみると、二人とも最初は「です」「ます」など丁寧体を使ったが、すぐ「だ」など普通体に変わっている。つまり、反論する場合は普通体になっている。中国の場合は丁寧体と普通体の使い分けがないので、責めたり反論したりする場合は強い口調を用いることが多い。

また、妹の F4 はお兄さんを「直ちゃん」と呼び、彼女は「仲原君」と呼んでいる。ここでなぜ自分のお兄ちゃんに「ちゃん」を使うのか、なぜ自分の恋人に「君」を使うのか分からない。



## 会話 11

妹が兄の部屋に入る前の場面

場所：兄の部屋の前

登場人物：F4－中学生の女の子

作品名：『幸福な食卓』

(トントン)

F4：辞書借りますよ

(返事無し、そのまま入る)

コメント：日本では兄の部屋に入るときノックして「辞書借りますよ」と丁寧体に入る目的を知らせてからお部屋に入るが、中国ではノックをほとんどしないし、家族の間には「辞書借りますよ」のような丁寧体の表現は使わないと思う。よそよそしくて不自然である。

## 会話 12

M7 と M8 は幼なじみ、会話内容に出る「トイル」という人も幼なじみの男の子、M8 が好きな女の子はトイルが好きだが、トイルは他の女の子が好きだ。M8 はこういう関係を全部しているが、好きな女の子に告白する。告白するのを M8 が聞いてしまったことに怒る場面。

場所：道

登場人物：M7－高校生、男の子、M8－高校生、男の子

M7 と M8 は幼なじみ、会話内容に出る「トイル」という人も幼なじみの男の子

作品名：『テケラッチョ！！！！』

会話内容

M7：お前は人がいいよな

M8：ボリューム上げてていったやし

(M7 の頭を平手でパンと叩く)

M7：ノボリュームで聞いてたやし

(M8 の頭を平手でパンと叩く)

それでも分かるばよ 何年友達やってると思ってるの

なにも分かってないのはトイルのバカだけだよ

M8：まったく、あれはバカだよ

M7+M8：バカヤロー

コメント：幼なじみのことをバカバカというが、ここのバカは悪い意味ではなく、親しい関係や相手のことが好きな場合に使われている。つまり、若い人は親しい場合、相手をバカといい、親しさを表している。その相手も怒らないし、自分のことを親友と思っていることに喜んでいる。中国では親友に「バカ」のような言葉は使わないし、使ったら

喧嘩になることもあるので、ほとんど使わない。

#### (4)中国人学生 4 収集例

会話 1 題名：映画「犬と私の 10 の約束」

状況：結婚式の前日、娘(あかり)がお父さん(斉藤)に今まで育ててくれたことを感謝する場面。

台詞：

娘 お父さん、花嫁みたいなこと言っていい？

父 やめてくれ。

娘 今まで本当にありがとうございました。

父 こちらこそ、ありがとうございました。

疑問に思うところ：娘が父に「今までありがとうございました」と言ったのに対し、地位、権力が上である父も「こちらこそ、ありがとうございました」と敬語で返した場面。

会話 2 題目：映画「犬と私の 10 の約束」

状況：母(芙美子)が家で絵を描いている時に、父(斉藤)が帰ってくる場面。

台詞：

父 ただいま。

母 おかえりなさい。

疑問に思うところ：夫婦同士なのに、母は「おかえりなさい」と丁寧な言い回しをすること。

手紙 3 題目：映画「涙そうそう」

状況：兄である洋太郎が義理の妹である新垣カオルに手紙を送った場面。

台詞：(手紙の内容)

新垣カオル様

成人おめでとう。カオルもとうとう二十歳ですね。今まで何もしてやれなかったけど、記念に着物をおくります。きっとカオルに似合うと思う。いや、絶対、同級生の誰よりもキレイだぞ。カオルに手紙をもらってから、俺も色々考えました。カオルの成人式には、久しぶりに島に帰ろうと思っています。カオルのいうとおり、おばあや島の人たちみんなに感謝しないとイケないな。その時は一緒にお酒を飲もう。それから、いろんな話もしよう。その日を楽しみに、オレもがんばります。そして、いつかきっとデッカイ店を出すぞ！なんてな。体に気をつけて、勉強がんばれよ。

に一に一より

疑問に思うところ：兄から妹への手紙なのに、ところどころ丁寧語を使っているところ。

会話 4 題目：ドラマ「OL 日本」

状況：上司である課長が神崎島子にプロポーズする場面。

台詞：

課長 神崎島子さん！

神崎 どうしたんですか？課長。

課長 上司の立場でこういうことを言っていていいかどうかずっと、自問自答してきましたが、今日という今日は言わさせていただきます。神崎島子さん、僕と結婚していただけませんか？

神崎 課長、もう酔っ払っちゃったんですか？

課長 いや。お酒の力は借りています。でも、決していい加減な気持ちで言っているのではありません。

神崎 ああ、でも、私まだ課長とお付き合いしたこともないし。

課長 ずっと僕、神崎さんを職場で見えてですね。あれ？いや。す…で…その…なん…あ…あちゃあ。すみません。あの。何言ってるのかな。

神崎 課長、そこでへこんじゃだめですよ。

課長 じゃあ、あの、結婚を前提に付き合いはしていただけますか？

神崎 お気持ちは分かりました。

課長 ああ。

神崎 とにかく、元気出しましょう。

疑問に思うところ：課長は立場が上なのに、かなり丁寧な言葉で話しているところ。

会話 5 題目：ドラマ「やまとなでしこ」

状況：桜子が欧介を追って、アメリカに行く時、空港で後輩のスチュワーデスと出くわす場面。

台詞：

若葉 桜子さん、行くんですね。

桜子 私、逢いたいから行く。

操 それでこそ、合コンの女王よ。

なみ ついに、たった一人の人にめぐり会えたんですね。

若葉 欧介さんに伝えてください。塩田若葉はもっといい男捕まえますって。最高の男をゲットするために、第二の桜子さんになって、気合入れて、合コンに励みますって。じゃあ、行ってらっしゃい。

操 いってらっしゃい。

なみ　　いってらっしゃい。  
桜子　　じゃあ、行ってまいります。

疑問に思うところ：最後に後輩たちに「いってらっしゃい」と言われ、非常に丁寧な表現で「行ってまいります」と答えたところ。

会話 6 題目：ドラマ「たったひとつの恋」

状況：大富豪である奈緒の祖母と父が奈緒の姿を見ながら会話している場面。

台詞：

母　　奈緒、元気そうね。  
息子　　ええ。おかげさまで。  
母　　再発とか、もう考えなくていいのね。  
息子　　お母さん、大丈夫ですよ。

疑問に思うところ：親子なのに丁寧な言葉を使っていること。

## (5)台湾人学生 収集例

トーク番組：おしゃれイズム 2009.1/18

MC：上田晋也(1970年5月7日)

藤木直人(1972年7月19日)

森泉(1982年10月18日)

ゲスト：古閑美保(プロゴルファー、1982年7月30日)

☆(ゲストのかばんチェック)

上田：誰々の処刑リストとか書いてあるの？

古閑：でもあの予定とかが書いてあるだけです

上田：うわっ、でも忙しいわ、休みなしじゃん、ほら

古閑：私休みなしなんです

上田：すごい、こんなにテレビいっぱい入れてるとは思わなかった

古閑：そうです、入れてます、一日二本とか三本

上田：本当だ「メレンゲの気持ち」にもこの間出たんだ。

古閑：出ました

上田：サンマさんの「夢かなえたらか」にも出たとか書いてあるけど

古閑：そうです

上田：あれ、何で「おしゃれイズム」は書いてないの

古閑：(笑)

森：え～～書いてないの

上田：「おしゃれイズム」書いてなくて、そこに「前田と食事」っ、どうのこと？

上田：じゃちょっと、他、見させてもらいますね。

上田：これ何ですか

古閑：それ財布です

上田：うわっ、でかい

古閑：占いの先生に大きい財布にいつも 2～30 万札入れろって言われたんですよ、お守り  
感覚で

森：本当？

(山口百恵の物まね)

古閑：山口百恵とかいけます

上田：百恵さん、分かった、自分がここら辺が自分のベストだなと思うところを、立って  
やろうか

古閑：ベストだなあと思うところ？

上田：立ってからやろう行きますよ。もうちょっとスペースがあったほうがいいですか？

古閑：そうですね

上田：っていうか、かなりやる気満々じゃないか

古閑：違う・・・こういう所から出て来たりするんですよ

藤木：え～、そこから始まるの

上田：それでやって

森：やる気満々じゃない？

上田：三秒前からいいですか

古閑：はい、いいですよ

上田：3、2、1、どうぞ

古閑：緑の中を・・・とか言って出てくるんですよ

上田：座って、座って、いや～～後輩も付き合されて大変だろうなあ、毎回、これに、週 2  
～3 付き合わされるわけでしょ？後輩

(パーティーでジャンプしてスカートがめくれていた話)

古閑：酔っ払ってないです。あの基本的に

上田：白斑で？

古閑：そうです。それは・・・あのときです。ファンクラブのパーティーがあったんですけど、その時にクイズ大会があって、いつも結構私ワンピース着てるんですけど、それになんか何か知らないですけど、ポケットが付いてたんですよ。で、なんかファンの方にサインボールとかを渡すようにポケットにボールを入れてたんですよ、で、

クイズ大会で壇上に上がって、それまた優勝したんですよ。そしたらテンションがいきなり上がって、ジャンプしたら、ぶわってここまで上がって来て・・・

森：見えちゃった？

上田：パンツ丸見え？

古閑：パンツ丸出しもいいとこでした、それが、ほらね、下から撮られると上まで見えるんじゃないですか

森：何色のパンツだったの？

古閑：ベージュでした

上田：どうでもええわ、何で色が気になったんだ？

コメント：ここでも森さんの年が一番下にもかかわらず、ゲストの古閑さんとはあんまり変わらないんですけど、「え～～書いてないの」、「本当？」「やる気満々じゃない？」「見えちゃった？」「何色のパンツだったの？」など普通体を連発してるところが違和感を覚えます。

データ

トーク番組：おしゃれイズム 2009.2/1

MC:上田晋也(1970年5月7日)

藤木直人(1972年7月19日)

森泉(1982年10月18日)

ゲスト：内藤大助(プロボクサー、1974.8/30)

(登場紹介)

上田：チャンピオンとは思えないしょぼくれた登場の仕方。なんかほらチャンピオンという、ものすごい勇ましいイメージだけど、内藤さんってすごくほんとに愛嬌のいい、こういう感じの方ですよ、普段ね

内藤：いや、普段。あの・・・テレビあんまり・・・ちょっと、うん・・・

上田：テレビ苦手って、あなた去年出突っ張りだったじゃないですか

内藤：まだ慣れないね、登場とかね

上田：やっぱ恥ずかしいもんですか

内藤：本当テレビはちょっとね

上田：何だろう今日なら勝てそうな気がする

コメント：上田さんの「テレビ苦手って、あなた去年出突っ張りだったじゃないですか」の質問に内藤選手が「まだ慣れないね、登場とかね」と答えるところがちょっとわからないです。

(秘密のトレーニング場で)

内藤：こっちです

上田：え～、これ？

森：凄い

上田：この階段を上るんですか

森：垂直だよ

上田：これ何段くらいあるんですか

内藤：88段ですね

上田：しかも、相当急じゃないですか

藤木：これ何度くらいですかね、角度

上田：やべえよ

藤木：すげえ角度

(中略)

森：よ～い、スタート～～～頑張れ

上田：きつい

森：もうそこでだめになってるよ、上田さん。

上田：あれ、相当しんどいんだって

森：十段ぐらいしかないじゃん

上田：藤木君速いよ、チャンプとそんなに変わらないから

森：上田さん、こら

(秘密のトレーニング場で階段上った後スタジオで階段登りについて)

上田：泉ちゃん頑張ったよ

森：あれは信じられない

上田：テレビで見ると伝わらないと思うけどものすごい急角度なんですよ

森：こうだったよね、こう

上田：ものすごい極端だけど本当にも垂直に近いぐらいの角度なんだよね、あれを普段何本ぐらいやってらっしゃるんですか

内藤：20本ですね

森：20本やってる？

上田：あり得ない

内藤：上ってすぐ下りて

上田：藤木君はすごいと思うよ、チャンプ、もちろんチャンプよりは遅いけど結構の速さでしたよね

内藤：「何かやってたんですか」、「いや帰宅部です」っていうから、帰宅部の方にしては、すごいです

上田：帰宅部の夢だよね、君は

藤木：頑張ります

コメント：森さんが年が一番下にもかかわらず、「垂直だよ」、「もうそこでだめになってるよ、上田さん。」「十段ぐらいしかないじゃん」「上田さん、こら」「こうだったよね、こう」「20本やってる？」など普通体を連発してところが違和感を覚えます。

データ

トーク番組：爆笑問題のニッポンの教養 2009.1/5

キャスター：太田光(1965年5月13日)、田中裕二(1965年1月10日)

出演：山口仲美(明治大学教授、1943年5月25日)

(研究室で山口先生が古文で書いた葉書を見たあと)

(前略)

太田：いいね

山口：何なさってるんです

太田：写真ですよ

山口：いやだな

太田：ちょっと脱いでみようか

田中：何言ってんだ

山口：だめよ

太田：だめなの？後でね

田中：後でねじゃない

山口：後ではないでしょう

太田：###

田中：うるさいよ、お前は

(中略)

田中：はあ、つまり、日本語というのはもうすごい変わっちゃってるから(え、え)、昔の人が今我々例えばこうやってテレビ見ても何言ってるか全然分からないわけですね。

太田：これいつぐらいの？万葉？

山口：平安時代の和文ですね。そしたらさ、二人ともすごい得意だと思うんで、若者言葉(お)これわかるかな(チョベリバ?)っていうのを出していい？

太田：いいよ

山口：これどういう意味？

太田：オバマ

山口：違うよ、意味



太田：意味？  
田中：あ、そうか、じゃあの大統領候補オバマさんではなく(うん)  
山口：違う、若者が使ってるの  
太田：じゃ、女子高生が  
田中：オバサマ？  
山口：近い、近い  
田中：オバサンパーマ？  
山口：ううん、「ま」が付くやつ  
太田：え、まずいだろ、それ  
山口：オバサンマニア  
太田：あ、マニアか、「老け専」みたいなこと？  
田中：オバサンマニア？老け専みたい？  
山口：そう、おばさん好き  
山口：だから、ええと  
田中：あいつ「オバマ」だからな～  
山口：そうそうそうそうそう

(日本語について話し合う)

(前略)

太田：あとはあれです。最近はやりはね「あ」に点々、あゝ～  
山口：あれさ。コミックで流行ったからよ  
太田：コミックなんだ  
山口：何て読むの？  
太田：「あゝ～～」  
山口：日本語の発音にはないけれど、気持としては分るでしょう  
山口：あ、それから「も」に点々  
太田：もは知らない。「も～」ってやつ？  
山口：だから、何て発音するか分かんないけど感じが出てるのよ  
田中：すごい分かる、絵文字に近いでしょうね  
山口：そうそう、それがコミックで使われて(大田：コミックだ)、若者達も、あの、時々発音はできないんだけど感じが分かると、でも日本語の正式な音には認められてないのよ  
太田：認められないでしょうね、でも相当たったら、認めざるを得なくなる  
山口：何て発音するの？試してみて  
太田：あゝ～、だから  
山口：じゃあさ、「あ」とどういうふうに違うの？  
太田：「あ」は「あ」

山口：それから？(太田：あゝ～)口の大きさ？

太田：違う、違う、喉が詰まるちょっと、「あゝ～」って、ガラガラ声になる

山口：じゃ、それが、区別し分けられたら、文字としても定着すると思うわ

(日本語の歴史、文字で遊ぶ)

(前略)

山口：文字で遊ぶっていうところさ、さっき脱線したけど(はい)、出していい？(田中：あ、まだあるの?)あるよ、奈良時代の人々が文字に慣れてきたら遊びだしたのね、これ読んでね

太田：読むんだ。クイズだ

山口：そうだ。はい。

太田：はあ～「二八十一」

山口：奈良時代の人よ

太田：え？にわとり。(山口：にわとり)違う？

田中：あ、違う。いや、これ何か分解してんじゃない、何かにできない？

山口：遊んでるのよね

田中：遊んでる

山口：文字でね

太田：何だこれ

田中：分かんないね

山口：憎く、九九八十一じゃない？(はあ、はあ、はあ)だから奈良時代の人々は私たちと同じように九九を知っていたわけよ

太田：九九知ってた？

山口：だから、「憎く」、憎いという意味(憎いといこと)

太田：九九という言葉があったの？奈良時代に

山口：そう、だから、九九八十一とか「ににんがし」私たちと同じように覚えてたわけ

太田：すごいなあ

コメント：太田さんが頻繁に普通体を使ってたことに驚いている。多分山口教授もほとんど普通体で話していたと関係しているのではないかなと思う。

データ

トーク番組：爆笑問題のニッポンの教養 2009.2/24

キャスター：太田光(1965年5月13日)、田中裕二(1965年1月10日)

出演：三浦宏文(工学院大学学長、1938年3月17日)

(昆虫ロボットを作ってる研究室で)

三浦：(前略)いや、これはね、本物

太田：あ～、びっくりした

三浦：昆虫ロボットでなく昆虫規範型という規範型という言葉を私は入れたんですけどね(規範)(あ、なるほどね)昆虫が持つてゐる素晴らしい特性をお手本にしてそれをロボットに仕上げようと(お、すごい)そのためにいろんな昆虫を飼うんですよ。私最初に飼った昆虫はゴキブリですけどね。

田中：ゴキブリ？

太田：ゴキブリ好き？

三浦：ゴキブリ大好きですよ。千匹以上飼ってたことがありました。

太田：え～～奥さんに「ゴキブリ亭主」とかって言われ###？

三浦：そりやもうなってるでしょう。(太田：あ、なってます)昔から

太田：本当ですか。

(中略)

大田：そもそも何でロボットに行ったんですか最初は？

三浦：あのね、私は本来ロケットやってたんです。

太田：ロケットやってた？

田中：NASA にいたんですね

三浦：そうです、そうです。

太田：NASA にいた？

三浦：アポロ計画やってたんです

大田：アポロ計画やってた？

田中：すごい人ですよ、だから

(剣玉で遊ぶ)

三浦：これできるかどうか分かんないよ

大田：今、名人て

三浦：いや、子供の頃

田中：子供の頃 99%

大田：お、うまい

三浦：絶対失敗しない

大田：絶対失敗しないの？

田中：あ、うまいっすね

三浦：大田：おれやってみます。意外とできるんですよ。

田中：あ、そう

(ゴキブリの話)

三浦：(前略)さーと冷蔵庫の下へ逃げ込む、それで冷蔵庫の下で私の顔を見てね、アンテナをね、触覚ね、お前あっち行けと、そしたら俺はもう一遍おいしいものを探しに行くんだと、というようなことを言ってる目で、見てるんですよ、私を、私は何かあると思ったの

大田：問題は先生の中にある

三浦：そうそう心の中でね、(心の中にある)それでね、僕はね、昆虫の勉強したんです。何かこれ意識があるぞと、それで結局

大田：変わってんなあ

三浦：結論はね(はい)、昆虫は意志持っていない

田中：え、持っていない？

大田：えへ、そっちになったの？

田中：持っていないですか？

三浦：ないんです、ないんです、ゴキブリはね

大田：だから、最初から分かってましたよ、おれは

三浦：あ、本当

大田：先生がそう言った時点でおかしい、そんなわけないと思いました、こいつが目を見てるって、先生が思ってることだもん

コメント：太田さんが年齢にも社会的地位にも上な三浦学長に対し、普通体を多く使用しているところが違和感を覚えた。ただその中に多くの文は疑問の形を取っているのが気になる。また疑問の形を取っているけれども実際は驚きを表していると思う。

データ

トーク番組：徹子の部屋 2009.1/5

黒柳徹子(1933年8月9日)

ゲスト：宮崎あおい(1985年11月30日)

☆

黒柳：(前略)宮崎あおいさんです。

宮崎：よろしくお願いします

黒柳：よろしくお願いします。本当に、まあ「篤姫」なんですけど、大変な人気でね

宮崎：もう、嬉しい限りです、本当に

黒柳：ねえ、で、あの、今日初めてお目にかかったんですけど、もう、あの、お顔がものすごく小さいんで、どのぐらいの背の方かも分からなかったんですけど、お座ってら

っしゃるところやなんか 拝見してて、小柄な方なのかなと思ったら(はい) お立ちになったら、大きいんで、びっくり

宮崎：そうなんです、よく言われます。実は、大きいんです。

黒柳：何センチぐらい？

宮崎：私は今 163 センチです。

黒柳：あ、そうお顔がものすごく 小さくてらっしゃるので、あの、クローズアップになった時も、あなたの表情がよく、あの、そのね、テレビはどうしても顔が広がりますので、よく 表現されてるんですけど、もともとのお顔がね、お可愛らしくて、小さいので、まあ、それから、あの、今日はきれいなお着物で来て(はい)、和服で 来てくださったんですけど、ここんところ、すごい頭のところに可愛いのが付いてのね。

コメント：黒柳さんがゲストの宮崎さんに敬語を多く使用していることに違和感を覚えました。比較のため爆笑問題さんがゲストで来ていたデータを取ってみました。

データ

トーク番組：徹子の部屋 2009.1/23

黒柳徹子(1933 年 8 月 9 日)

ゲスト：佐藤浩市(1960 年 12 月 10 日)

黒柳：(前略)佐藤浩市さん、お客様です。どうもよろしくお願いいたします。

佐藤：どうもよろしくお願いいたします。

黒柳：次々と色んな役におやりになるので、まあ、あの、皆さん、びっくりなさることもたくさんあると思うんですけど、賞もたくさん 取ってらっしゃいます、こちらの番組には、24 年前と、21 年前と、3 年前と(あ)、お出で頂いております。その間に随分あの、賞をたくさんお取りになって、特にあの、主演に なすった「雪に願うこと」っていうのは東京映画祭の・・・(はい、ええ)賞 お取りになったって (いただきました) あなたも賞を お取りになってね、本当に、あれですかね、お顔は、焼けてもそうですけど、焼けてる

佐藤：あ、すみません、あの正月、ちょっと家族で遊びに行ったもんですから。

黒柳：ええ、何焼け？海焼け？

佐藤：いや、これは 申し訳ない、ゴルフ焼けです

黒柳：うふふ、ゴルフ焼け、そうですか、随分いい色ですよ、だって健康的なね

佐藤：そう、撮影自体がないかったもんですからね、ちょっとこう、まあ、日焼け止めは塗ってたんですけど、やっぱりちょっと紫外線が強かったもんで

黒柳：へえ～でもあれですね、綺麗に焼けるものですね(あ、そうですか)つくづく 拝見して てそう思いますね。まあ、映画で 拝見して たりすると、割と最近の 拝見した とき、

色白かったので(ああ)うん、やっぱり、随分お焼けたになったんだなあと思って、で、あの、まあ、今申し上げたように賞はたくさん取ってらっしゃるんですよ。では、なんと言ってもお父様の三國連太郎さんと日本のアカデミー賞、お二人で受賞になすったのは、初めてですってね、日本でもそういうことでね

佐藤：あ、そうですかね、うん、まあちょっと照れ臭いというか、ええ

コメント：ここでも黒柳さんがゲストの佐藤さんに敬語を多く使用していることに違和感を覚えた。佐藤さんが「申し訳ない」をいう意味がちよっと分からない。比較のため爆笑問題さんがゲストで来ていたデータを取ってみた。

データ

トーク番組：徹子の部屋 2009.2/4

黒柳徹子(1933 年 8 月 9 日)

ゲスト：太田光(1965 年 5 月 13 日)、田中裕二(1965 年 1 月 10 日)

黒柳：本当に、おなじみの漫才コンビでいらっしゃいます。爆笑問題です。

太田・田中：よろしくお願いします。

黒柳：よろしくお願いいたします。え、おかしいの？漫才コンビとかいうの

田中：いやいや、そんなことないですけど、(太田：漫才コンビでいいんですけどね。)いいんですよ、ただ徹子さんはさっき「漫才の二人」って言ったんですよ

黒柳：うん、それおかしい？

太田：漫才そのものではないですね(田中：え)、漫才をやってる人間ですから(田中：はい)

黒柳：そうかな、漫才のお二人おかしい？

太田：まあまあ、いいんです、漫才の爆笑問題で

黒柳：いいですけど

田中：どうでもいいです

黒柳：お名前言いますね

太田：覚え、覚ええました？

黒柳：こっちは田中さん(太田：「えっとね」って)、えっとね、田中裕二さんと太田光さんでしょ

太田：おおー

黒柳：間違えない。私も覚ええましたはっきり言って

太田：毎回「徹子の部屋」出るたびに間違えるんですから

田中：我々「徹子の部屋」何回目ですか？もう、じゅう、

黒柳・田中：11 回目？

黒柳：うん、そうです、11 回も出て頂いているんですよ

太田：ほぼ同棲しているようなもんです  
田中：同棲はしてない  
黒柳：ほとんどね  
田中：部屋の住人じゃねえんだから  
太田：ルームシェアみたいなもん  
黒柳：あ、この間も、そちらのラジオに出していただきました、  
田中：我々のラジオ、番組のゲストで来ていただいて  
黒柳：何かさ、裸馬っていうのは、おかしかったの？あなた、ずっと裸馬で笑ってたね  
太田：いやいや、徹子さんが、あれ、どういう話だっけ  
田中：徹子さんが昔・・・  
黒柳：いや競馬の騎手になりたかったんで、馬に乗ってたんだけど、河口湖のところに行ったら向こうから裸馬が来たから、少年が連れてたから、載せてもらったら、それがどンドン中に(田中：湖に入ってっちゃうんだ)泳いじゃって怖かったという話したらね、裸馬がおかしいってね  
太田：いや、裸馬に徹子さんが乗ってる姿がなんか想像したら可笑しかったんです  
黒柳：なるほどね

コメント：ここでは黒柳さんが敬語というより普通体の使用が多いことに注目していただきたい。上の二つのデータと比較してみると、黒柳さんは宮崎あおいさんとは初めて、佐藤さんともあまり会っていないのだが、爆笑問題さんとはもう「徹子の部屋」だけで 11 回も会ってることが、黒柳さんの文末スタイルの違いに影響を与える一番の要素ではないかと思う。

## 7.4 日本語と中国語・韓国語のポライトネスの相違

第 6 章で、日本語のポライトネスでは社会的慣習(基準)に従うことで丁寧な行動をとるという「わきまえ」が重要な概念であることを示した。同様に、7.2 の先行研究概観で韓国語・中国語のポライトネスにおいても、日本語と同様に社会的慣習(基準)に従うことで丁寧な行動をとるという「わきまえ」が重要な役割を果たしていることを示した。しかし、日本と台湾、中国、韓国では、その社会的慣習自体が異なるために、何を丁寧とするか、無礼とするかが、かなり異なっている。

前節 7.3 で挙げた、韓国人、中国人、台湾人が奇妙に思った日本語ポライトネスの例および彼らが記した何故奇妙に思えるかというコメントは、日本語と韓国語、中国語のポライトネスの相違を明らかにしてくれる。この節では、台湾人・中国人・韓国人が共通に奇妙

に感じた日本語のポライトネス(上位者から下位者への敬語使用)についてのコメントを挙げながら、日本語のポライトネスと中国語・韓国語のポライトネスの相違点について論じていく。

### 上位の人から下位の人への敬語使用

台湾人、中国人、韓国人の何れにとっても不自然に思えた日本人のポライトネスは、年齢・地位が上位にある人物の敬語行動である。以下が韓国人、中国人、台湾人のコメントの抜粋である。

#### 韓国人

##### 会話 1

アンケートに答えた韓国人 10 人全員が「姑と嫁、義理の母と婿の関係において姑や義理の母のほうが丁寧な表現を用いることは韓国では考えられない」と答えた。

##### 会話 3

韓国人に対するアンケートでは 10 人が全て、教師の母親の丁寧な言葉遣いは韓国では考えられないとした。

#### 中国人 1

会話 1: 夫婦関係がうまくいかず、妻の恵理子は娘を連れて実家に戻った。沢木正一は義理の母のうちに彼女たちを迎えようとしたシーンである。義理の母の話は丁寧すぎると思う。

会話 2: 田口は精神科の医者で、無理やり鶯働教授に頼まれて、院長室にきた。上下関係からみると、院長が依頼するときの言葉づかいが丁寧すぎると思う。

#### 中国人 2

##### 会話 7

声帯がんの治療で苦しんでいる母親が、息子から出版した本を郵送してもらって元気を出す。うれしくて息子に「ありがとうございました」とお礼をいう。日本では親子でも感謝の気持ちを伝える場合は「ありがとう」ではなく「ありがとうございました」という感謝表現を使っているが、中国では、家族に「ありがとうございました」のようなお礼の言葉は使わない。もし、使ったら家族ではなく他人のような気がする。

##### 会話 8

東京の息子の部屋に住むことになった母親が正座をして息子に「宜しく願います」



と挨拶をする。日本では家族の間でも挨拶やお礼をきちんとと言うが、中国では、自分の家族に向かって「宜しくお願いします」のような言葉は使わない。

#### 会話 11

日本では兄の部屋に入るときノックして「辞書借りますよ」と丁寧体に入る目的を知らせてからお部屋に入るが、中国ではノックをほとんどしないし、家族の間には「辞書借りますよ」のような丁寧体の表現は使わないと思う。よそよそしくて不自然である。

#### 中国人 4

会話 1: 疑問に思うところ: 娘が父に「今までありがとうございました」と言ったのに対し、地位、権力が上である父も「こちらこそ、ありがとうございました」と敬語で返した場面。

会話 2: 疑問に思うところ: 夫婦同士なのに、母は「おかえりなさい」と丁寧な言い返しをすること。

手紙 3: 疑問に思うところ: 兄から妹への手紙なのに、ところどころ丁寧語を使っているところ。

会話 4: 疑問に思うところ: 課長は立場が上なのに、かなり丁寧な言葉で話しているところ。

会話 5: 疑問に思うところ: 最後に後輩たちに「行ってらっしゃい」と言われ、非常に丁寧な表現で「行ってまいります」と答えたところ。

会話 6: 疑問に思うところ: 親子なのに丁寧な言葉を使っていること。

#### 台湾人

違和感: 黒柳さんがゲストの宮崎さんに敬語を多く使用していることに違和感を覚えた。

違和感: ここでも黒柳さんがゲストの佐藤さんに敬語を多く使用していることに違和感を覚えた。

これらのコメントでは、韓国人も中国人も台湾人も、日本語では年齢・地位が上位にある人物が下位にある人物に対して尊敬語を用いることを不自然と感じていることが示されている。さらに、コメントの内容から、社会的上下関係を尊重するという点は、台湾人・中国人・韓国人も同様であることが分る。また、そのために「わきまえ」のポライトネス(社会的慣習に従うことで達成されるポライトネス)が重要な役割を果たしているということも同様である。しかし、日本人と韓国人、中国人、台湾人のポライトネス認識には相違がある。

日本人にとっては、上下関係は重要であるが、それ以上に重要なのはグループの中の和を保つということである。そのためには、下位者のみならず上位者も謙った態度・謙遜が

求められることがある。一方、台湾人、中国人、韓国人にとっては、社会的上下関係への認可・是認が重要と考えられる。故に、下位者は上位者に対しては敬意を表すことが、逆に上位者は上位者として威厳をもって振舞うことが求められていると考えられる。

## 7.5 結語

次章以降で詳しく論じるが、日本語と中国語、韓国語のポライトネスは「わきまえ」を基本とするという点では同様であり、B&Lの提言した「働きかけ」(ストラテジー)のみのポライトネス理論では十分な説明を行うことはできない。この3言語は、上下関係を基準とした「わきまえ」重視のポライトネスという点は同様だが、社会的に何が重視されているかが異なるため、わきまえ方が異なっていると言える。

リーチのポライトネス理論 (Leech 1983: 16) では、ポライトネスの原則として以下の4つの格言が例として出されている。

Politeness Principle	Maxim of Tact(機転)
	Maxim of Generosity(寛大さ)
	Maxim of Approbation(賞賛)
	Maxim of Modesty(謙遜)

日本語、中国語、韓国語のポライトネスを論じるには、社会的に求められている根本的な格言の違いを先ず示す必要がある。社会的な格言が、その下にある「わきまえ」のポライトネスを支配し、さらに「働きかけ」のポライトネスの使用を支配していると言える。この「わきまえ」と「働きかけ」の相違は、Hill *et al.*(1986) が図(1)で示したような単なる割合の違いではなく、支配関係のあるレベルの違いと考えたほうが、日本、台湾、中国、韓国の文化差、さらには他の言語とのポライトネスの差をより適切に説明できると考える。「わきまえ」と「働きかけ」のポライトネスは、図式化すれば以下のように、上位レベル・下位レベルのポライトネスと考えられる。

## ポライトネスの原則

上位レベル

下位レベル

社会通念的原則 > 社会慣習的なポライトネス > 方略的なポライトネス

B & L のポライトネス理論は「働きかけ」としてのポライトネスを説明するには有用であるが、日本語・中国語・韓国語のように「わきまえ」のポライトネスが重要な役割を果たすポライトネスを適切に説明することはできない。上記の図式に示すような、「わきまえ」と「働きかけ」のポライトネスをレベルの違いとするポライトネス理論を用いて、日本語・中国語・韓国語のポライトネスを具体的にどのように説明していくのかを、次章以降で論じていく。

## 第 8 章

# 日本人と韓国人のポライトネス<sup>17</sup>

### —似て非なるもの—

日本語と韓国語のポライトネスの対照研究としては、荻野綱男(1989)、全淑美(1991)が挙げられる。前者は、アンケート調査に基づいて日韓対照を行い、敬語用法において日本では親疎関係が重視されるのに対し韓国では年齢が重視されるという結果を出した。後者の研究も、アンケートに基づいており、話題になっている人物についての敬語の用法の日韓対照を行い、韓国では血縁重視、日本ではウチ・ソト<sup>18</sup>の社会的所属関係を重視する傾向があるとした。これらの研究は日本人と韓国人の用いるポライトネスの相違について重要な指摘をしたが、この結果を日本語教育に生かすためには実際の場面でのポライトネスの相違を記述分析することが不可欠である。そこでこの研究では、日本人のポライトネスのうち韓国人が異なると感じるものをデータとして収集し、それが日本人と韓国人のどのような相違から起こるものであるかについて考察した。

### 8.1 序

日本人とアメリカ人のポライトネスの相違については、これまで数多くの研究が行われてきた。<sup>19</sup>これに対して、日本人と韓国人のポライトネスの相違については、どちらも儒教

---

<sup>17</sup> 本章は松村(2003) に修正加筆を行ったものである。

<sup>18</sup> 本研究では「ウチ」を自己が帰属する集団的領域、「ソト」をその領域外と定義する。「ウチ」「ソト」についての詳しい議論は牧野(1996) 参照のこと。

<sup>19</sup> 井出祥子他(1986)、Hill et al. (1986)、Ide *et al.* (1992)等参照のこと。

の影響を強く受けた複雑な敬語体系を有する言語を持つという点は共通しているためか、注意が向けられることは少なかった。しかし、日本語と韓国語の敬語の用法は、年齢差と社会的身分差のどちらを優先させるか、血縁関係を重視するか社会的所属関係を重視するか、相手との距離のとり方等の基準が異なるため、一方の言語では丁寧であるものが他方の言語では逆に無礼になることがあり、誤解に繋がることも多い。日本と韓国との学術交流が盛んになり、日本語を専攻する韓国人が増加している中、類似しているが、明らかに異なる日本人と韓国人のポライトネスの相違を記述することが強く求められている。

日本語と韓国語の敬語用法の対照研究としては、荻野綱男(1989)が挙げられる。この研究はアンケート調査に基づいて日韓対照を行い、敬語用法において日本では親疎関係が重視されるのに対し韓国では年齢が重視されるという結果を出した。全淑美(1991)も、アンケートに基づいて話題になっている人物についての敬語の用法の日韓対照を行い、韓国では血縁重視、日本ではウチ・ソトの社会的所属関係を重視する傾向があるとした。

これらの研究は日本人と韓国人の用いる敬語行動の相違について重要な指摘をしてくれたが、この結果を日本語教育に生かすためには実際の場面でのポライトネスの相違を記述分析することが不可欠である。そこでこの研究では、日本人のポライトネスのうち韓国人が異なると感じるものをデータとして収集し、それが日本人と韓国人のどのような相違から起こるものであるかについて考察した。

## 8.2 データ

この研究では、以下のような方法を用いてデータを収集した。

- (1) 先ず、日本のテレビドラマや映画等の中から、韓国人と異なると感じられた日本人のポライトネスを韓国人留学生に抽出してもらった。<sup>20</sup>
- (2) 次に、日本人に(1)のデータを示し、それが自然な会話であるかどうかを確かめた。さらに自然な会話と判断されたデータのみについて、何故日本人がこのようなポライトネスを用いるのかを、10人の日本人に対するアンケートおよびインタビューで調査した。

以下は日本人アンケート対象者の年齢、性別、社会的地位をまとめたものである。

---

<sup>20</sup> アンケートは九州大学大学院比較社会文化学府大学院生(2003年当時)李奈娟が収集したものである。

表(7) 日本人アンケート対象者

	年齢	性別	社会的地位
J1	24	女	大学院生
J 2	23	女	大学院生
J 3	29	女	大学院生
J 4	28	男	研修医
J 5	26	女	研修医
J 6	35	女	教師
J 7	45	女	主婦
J 8	25	女	会社員
J 9	42	女	主婦
J 10	69	男	無職

- (3) 同時に、10 人の韓国人に(1)のデータを見せ、どこが韓国人と異なるのか、韓国人ならどのような敬意表現を用いるのか、またそれは何故かについて、アンケートおよびインタビューで調査した。

表(8) 韓国人アンケート対象者

	年齢	性別	社会的地位	在住地
K1	20	女	学生	日本(1 月半)
K 2	29	女	主婦	日本(2 月)
K 3	28	男	大学院生	日本(1 年半)
K 4	33	女	大学院生	日本(半年)

K 5	37	男	会社員	韓国
K 6	35	女	主婦	韓国
K 7	39	女	教師	韓国
K 8	47	女	会社員	韓国
K 9	50	女	主婦	韓国
K 10	58	男	教師	韓国

表(9)は、韓国人学生が韓国とは異なると感じた日本人のポライトネスが現れた場面、また対話者間の関係を表にまとめたものである。

表(9) 韓国人と異なる日本人のポライトネスを含む場面

	対話者	年齢	ウチ・ソト	親疎
場面 1 孫(娘)の教育 について	姑	上	ウチだが	親
	嫁	下	ソト的	(疎)
場面 2 孫(赤ちゃん)の 育て方について	姑	上	ウチだが	親
	嫁	下	ソト的	(疎)
場面 3 母親が娘婿に意見する	母	上	ソト	親 (疎)
	娘婿	下		
場面 4 帰宅の電話	姑	上	ウチだが	親
	嫁	下	ソト的	
場面 5 仕事の業績達成の報告	祖父	上	ウチ	親
	孫	下		

場面 6 近況について	伯母 姪	上 下	ソトだが ウチ的	親
場面 7 小学校女性教師、 教師の母親、 生徒の母親が 偶然外で会った ときの挨拶	新米教師 教師の母 生徒の母	下 上 中	ウチ  ソト	親  教師とは 親・その母 とは疎
場面 8 上司の妻の部下 への挨拶と詫び	上司の妻 部下	上 下	ソト	疎
場面 9 上司の妻の部下 への挨拶	上司の妻 部下	上 下	ソト	疎
場面 10 料理店の娘と 長く奉公している 女性の間の近況に についての会話	娘 奉公人	下 上	ソトだが ウチ的	親
場面 11 会社員と顧客の、上司の 所在についての会話	会社員 顧客	上 下	ソト	疎
場面 12 50 代の医者と 70 代の患者の 会話	医者 患者	下 上	ソト	親
場面 13 30 代の女医と 20 代の患者の 会話	医者 患者	上 下	ソト	疎・ 知人



場面 14 医者と子供の 患者、患者の母親 の会話	医者 子供 子供の母	上 下 下	ソト	疎
場面 15 成功のお祝い	会社先輩 会社後輩	上 下	ソト	親
場面 16 若い女性と昔 の恋人、その恋人 の現在の妻の離婚 についての話	若い女性 昔の恋人 現在の妻	同 同 同	ソト	親
場面 17 女性と友人の 夫との、家庭に ついての会話	若い女性 友人の夫	同 同	ソト	疎 親しみ
場面 18 若い女性と元恋人の 両親との海外渡航に ついての会話	若い女性 元恋人母 元恋人父	下 上 上	ソト	親 遠慮
場面 19 30 代の女性と偶然 その家に泊めてもらった 20 代の女性の会話	30 代女性 20 代女性	上 下	ソト	疎
場面 20 店員と客の 身の上話	店員 客	上 下	ソト	疎

### 8.3 データ分析

このデータはグループ 1 親族間の会話(嫁・姑、夫・妻の実母、祖父・孫、伯母・姪)(場面 1～6)、グループ 2 仕事の関係者との会話(小学校の教師の母親と生徒の母親、上司の妻と部下、店の奉公人と主人の娘、会社員と顧客)(場面 7～11)、グループ 3 医者と患者の会話(場面 12～14)、グループ 4 友人・知人との会話(場面 15～19)、グループ 5 店員と客の会話(場面 20)に分けられる。

グループ 1 の場面において韓国人が最も異なると感じたのは、場面 1～4 の例に見られるような、姑と嫁、義母と婿のように親族内での上下関係が(少なくとも韓国では)はっきりしている状況で、姑や義母の用いる敬語や丁寧体である。

場面 3 義母が婿に対して自分の娘のことをもう少し労わるよう意見する場面

義母： 亘さん、ちょっといいかしら。

婿： ああ、はい。

義母： 亘さん、あなた奈々美の夫ですから、もうちょっとどうにかやって貰えないかしら。

婿： あ、はい。

アンケートに答えた韓国人 10 人全員が「姑と嫁、義理の母と婿の関係において姑や義理の母のほうが丁寧な表現を用いることは韓国では考えられない」と答えた。K1 の回答「韓国社会では言葉遣いに年齢というものが一番大きく影響する」や K1/K2/K10 の回答「何故姑や義理の母のような目上の人が目下の人に丁寧な表現を用いるのだろうか」から推察されるように、韓国では年齢を中心とした上下関係が重要な基準とされており、取分け親族間での丁寧さはその基準に従うことで表されると考えられる。

日本の場合は、ここで収集されたデータのように姑が嫁に対して、また義母が婿に対して丁寧体や敬語を用いることもしばしばである。場面 1～4 については、平均 75%の日本人がこの敬語や丁寧体を考えられる用法とした。ドラマでは姑や義母が嫁や婿に対して意見する時に丁寧体や敬語を使用する例が目立ったようだが(場面 1～3)、実際の会話では姑側の気遣いから嫁に対して丁寧体や敬語を用いているものが多い(場面 4)。場面 3 についての

J1 の回答「この義理のお母さんは娘の夫に気を遣いながら自分の言いたいことを強く言うために丁寧体に変えている」や J3/J5/J9 の回答「上品に相手を嫌な気持ちにさせないための配慮から丁寧に話している」、場面 2 についての J3/J8 の回答「上品に振舞いつつ姑としての權威を示していると思われる」に窺えるように、日本においては単に年齢の上下ではなく、状況に応じて気遣いや品位を示すなどの意図をもって、丁寧体や敬語が用いられていることが分かる。

グループ 1 でもう 1 つ韓国人が異なると考えたのは、祖父と成人した孫の会話である。

#### 場面 5 成人した孫と祖父の会話

孫： 今日は営業始めてからやっと目標の売り上げ達成したの。

祖父： おおー。

孫： 千個よ！

祖父： うん。

孫： 一日千個売り上げるのが夢だったの！やっところまで漕ぎつけた。やればできるもんだね、おじいちゃん。

祖父： よかったね。おめでとう！！

韓国人に対するアンケートでは 10 人が全て、祖父に対して成人した孫がぐだけた言い方を用いることは無礼と思われる場合が多いと答えた。逆に、日本人に対するアンケートでは 10 人が全て、祖父と孫は大変親密な関係にあるため孫も普通体で話すのが自然であると答えた。

グループ 2 の場面においても、韓国人が先ず異なっていると感じたのは、グループ 1 の場面と同様、韓国では地位が上にあると考えられる者が下にあると考えられる者に対して用いた丁寧体や敬語である。

#### 場面 7 小学校の教師(20 代後半)、教師の母親(40 代)、生徒の母親(30 代)の会話

生徒の母親： あら、先生！

教師： あ！

教師の母親： （生徒の母親を見て）あの...

教師： あ、あのうちの母です。

生徒の母親： （お辞儀をしながら）あ、はじめまして。

教師： あのね、うちの生徒のお母さん。

教師の母親： （お辞儀をしながら）あ、はじめまして。あの、[教師の名]の母でございます。  
娘がいつもお世話になっております。

生徒の母親： あ、いえ... こちらこそ、いつもお世話になってます。

教師の母親： （丁寧にお辞儀をしながら）あの、どうぞこれからも宜しくお願いします。

生徒の母親： あーは、はい。

韓国人に対するアンケートでは 10 人が全て、教師の母親の丁寧な言葉遣いは韓国では考えられないとした。K7 の回答「韓国では儒教の教えから先生は社会的に尊敬される地位にある。さらに先生の母親は年齢からしても生徒の母親より絶対的に上の立場にある。それなのに教師の母親は何故ここまで丁寧に話すのか理解できない」から推察されるように、韓国においては年齢と社会的立場からくる上下関係が敬語使用の決定的な要因になっていることが分かる。

一方、日本人に対するアンケートでは、10 人中 9 人が上の会話は自然であるとした。不自然とした J10 の回答「この会話での教師の母親の言葉遣いは丁寧すぎると思う」にあるように、教師の母親は少々謙りすぎではいるが、母親が自分の娘のことを娘の職場関係の人をお願いする場面と考えるとありえない表現ではない。J1/J2/J3/J4/J5/J7 の回答「教師の母親は自分の娘がまだ未熟だと考え生徒の母親に気を遣って丁寧な言い方をしていると思う」から分かるように、単に年齢や社会的立場という上下関係ではなく、教師の母親からするとウチの関係にある娘を宜しく取り扱うようソトの関係にある生徒の母親に自分を低めてお願いしていると考ええると理解できる表現である。

グループ 2 でもう一つ問題となったのは、社会的立場を重視するか年齢を重視するかの相違である。韓国人が異質と感じたのは、場面 10 に見られるような、長年勤めてきた年配の奉公人の丁寧な話し方と若い主人の娘のくだけた話し方である。

場面 10 家を出て一人暮らしをしている店の主人の娘と店で長年勤めてきた奉公人の

お婆さんの会話

主人の娘： こんにちは。

お婆さん： いらっしやいませ、じゃありませんね。お帰りなさいま

せ。よく考えたら洋子さんはまだ岡倉家の方でいらっしやいます

よね。この間、それに気がつきました。失礼しました。

主人の娘： そうね、まだお嫁にいけないもんね。

お婆さん： いえ、そんな…

主人の娘： ううん、いいわよ。気遣わなくたって。

韓国人への調査では、全員がこの対話は韓国の場合としては不自然と判断した。K3/K4/K8「たとえ奉公人のお婆さんとはいえ、自分よりかなり年上のお婆さんにくだけた言い方でずっと話すのは無礼だと思う」、K7「韓国で同じ状況だったら洋子の方が丁寧な言い方でお婆さんはくだけて話しておかしくない」、K9/K10「このお婆さんは洋子からみると母親位年上の人なのに、この会話では丁寧度が逆になっているのではないか」に見られるように、韓国では年齢の上下関係が丁寧度を決める重要な要因になっていることが分かる。

一方日本人への調査では、全員がこの対話は自然であると考えた。J1「洋子は自分の実家で長く働いているお婆さんに対しては親近感をもっており、くだけた言い方をするのは自然である。もちろん、お婆さんの方も親近感はあるが、あくまで自分は被雇用人であるという立場を考慮して丁寧な言葉遣いをしていると思う」から推察されるように、社会的立場が丁寧度を決める際の要因になっている。

グループ 3 は医者と患者の会話であるが、韓国人にとって異質と感じられたのは、次の場面に例示されるような医者が患者に対してくだけた調子で話しかける場合である。

## 場面 12 50 代の医者 と 70 代の患者 の 会 話

患者： いつもすみません。こんな時間にご無理願って。

医者： おばあちゃんさ、具合悪くなったら電話してよ、遠慮しないで、往診に行くから。  
あまり無理しちゃだめだよ。

韓国人は全員、医者は社会的には尊敬される立場にあるが、これ程くだけた調子で大人の患者に接するとは考えられないとした。韓国の場合、K1/K4/K5/K7/K9/K10 の回答「医者が患者にくだけた言い方をするのは相手が子供の場合のみである」や K1/K2/K3/K4/K6/K8 の回答「韓国では医者は患者に丁寧に話すことが基本である。取分け患者の年齢が医者より上になればなる程丁寧度の高い表現を使うのが普通である」から推察されるように、医者と患者の場合でも、年齢の上下関係が丁寧度を決定するのに重要な要因となっていることが分かる。

日本においても、これ程くだけた話し方をする医者は少ないが、町医者が患者と親しくなり殆ど親戚同然の付き合いとなった場合には、このような対応も考えられる。アンケートに答えた日本人のうち 7 人はこの会話を自然だと判断し、日本人 3 人 J8/J9/J10 が医者はより丁寧な言い方をするほうが普通であるという理由でこの会話を不自然とした。日本では伝統的に患者の年齢や社会的地位に拘わらず、診療の場面では専門知識のある医者が優位な立場にたって発言することが普通である。<sup>21</sup>丁寧体を使うか、普通体を使うか、またよりくだけた話し方をするかは、優位な立場にたっている医者次第である。この場合、患者の発話から、この医者が時間外に何度もこの患者を診察してくれたため患者側はかなり申し訳ないと考えていることが推測される。そのため医者は、「具合悪くなったら電話してよ」のように患者にとって望ましいことを強制させるような命令形を用いることで、医者が往診に出かけるのは医者自身が患者に強制したことであって患者が負担を感じることで

---

<sup>21</sup> 「第 4 回日韓言語文化国際フォーラム」において発表したとき、韓国仁川大学校の先生(50 代後半男性)から「数年前日本で医者にかかった時、大学を出たばかりのような若い医者から横柄な言い方をされて不愉快だった」という発言があった。少しずつは変化していつているようだが、医者が専門的知識をもつという立場から患者に対して横柄な言い方をすることは現在でもしばしば起こっているようである。韓国では年齢による上下関係が重要であるため、取分け不愉快に感じたのだと思う。

はないと伝えることで、患者の負担を出来るだけ和らげながら患者のためになることをさせようとしているのである。そういう意味で、この命令形は丁寧体を用いて患者に負担を感じさせるよりも丁寧と感じられる。

次のグループ 4 において韓国人が異質と感じたのは、次の例に見られるようなスタイルの交替である。

場面 19 30 代の女性 A と彼女の家に泊めてもらうことになった 20 代後

半の女性 B

A: え、まだ、起きてたんですか？

B: ああ、はい…。なんか寝付けなくて…

A: あら、そう。なんか少し飲みませんか？

B: いえ… あの、大丈夫です。

A: そんなに遠慮しないで飲みましょう、私も付き合うから。

B: あ、… じゃあ、… いいんですか？

A: うん、いいわよ。私もちょうど飲みたいなあって思ってたところなの。

ううんと、ワインでいいかな？

B: あ、はい。

これは事情があって B がたまたま初対面の A の家に泊めてもらうことになったという場面であるが、韓国人の 10 人中 7 人が初対面で下線部のようにくだけた話し方をするのは韓国では考えられないと答えている。このように疎の関係にある話者同士が、初対面の場面で丁寧体から普通体にスタイルを変化させることは不自然と考えるためである。

一方日本人の場合は、10 人中 9 人がこの場面での下線部の話し方は自然であると答えている。B は初対面であるにも拘らず年上の A の家に泊めてもらうことになり、かなり気を遣っていると考えられる。そのため、この場面では上の立場にある A が、何気ないやり方で徐々にスタイルを交替させることで、自分は B を親しい友人として泊めているのだということを示しながら、B の気持ちを和ませようとしているのである。

グループ 5 の用例は、店の店員が用いる過度にくだけた調子の話し方である。

#### 場面 20 エステで店員が客にマッサージしている場面

客： 私ですね、前に付き合っていた人がいた時に仕事のストレスで今より 10 キロくらい太ったんです。そしたら彼、突然連絡くれなくなって、どうして会ってくれないのって聞いたら、だって一緒に連れて歩けないじゃんって...

店員： なんか男の本音って感じね。

客： 結局男の人ってきれいな女が好きなんですかね、中身なんかより...

店員： ね、今恋してるでしょ、あなた。

客： え、なんで？

韓国人へのアンケートでは、K1/K4/K6/K8/K9/K10 の回答「店員のほうからくだけた言い方をするのは、客としては不愉快に感じる」、K7/K8 の回答「韓国の場合でも店で客と店員が親身な話をするにはあるが、その場合でも言い方は丁寧でなければならないと思う」にあるように、このような会話はありえないわけではないが店員がもう少し丁寧であるべきであるという回答が大多数を占めた。日本においても、店員のこのような話し方を失礼と考えるかどうかについては、意見が分かれる。このアンケートでは 8 人の日本人がこの会話を自然とし、2 人が「やはり店員と客の関係で店員がくだけた言い方をするのは失礼と感じる」として不自然と判断した。店員のタメ口は客との関係を親密にするとも考えられるが、この例におけるように客が年下でしかも客自体が店員に親しさを求めているような場合には許されるが、条件が揃わなければ不快に感じる客も多いと思う。

## 8.4 議論

前節で挙げた、韓国人と異なる日本人の敬意表現を判断する際の、日本人の基準と韓国人の基準は表(10)のようにまとめることができるだろう。



表(10) 日本人の基準、韓国人の基準

韓国人と異なる日本人のボ ライトネス	日本人の基準	韓国人の基準	タイプ
姑・嫁、義母・婿の会話にお いて、姑や義母が用いる丁寧 体や敬語(場面 1～4)	上の立場にある義母や姑が 丁寧体か普通体か、敬語か砕 けた言い方かを決められる	年齢的上下関係が 基準	<b>A</b>
祖父と孫、伯母と姪の会話で の孫や姪のくだけた話し方 (場面 5・6)	ウチの関係では上下関係は 考慮されない	年齢的上下関係が 基準	<b>B</b>
先生の母親・生徒の母親、上 司の妻・部下の会話におい て、先生の母親や上司の妻が 用いる丁寧体や敬語 (場面 7～9)	ソトの関係の人物にウチの 関係の人物のことを頼む時 には(年齢・社会的地位に関ら ず)丁寧体や敬語を使用する ことがある	年齢および社会的 地位の上下関係が 基準	<b>C</b>
年配の奉公人の丁寧な話し 方と主人の娘のくだけた話 し方、会社員が顧客に上司の 所在を伝える際に用いる謙 譲語(場面 10～11)	年齢より社会的立場の上下 関係が基準	社会的立場より 年齢的上下関係が 基準	<b>D</b>
医者が大人の患者に対して 用いるくだけた話し方や断 定的で指示的な話し方(場面 12～14)	診療の場面で社会的立場が 上の医者が丁寧体か、くだけ た言い方か、命令形かを決め られる	(医者は社会的に も尊敬される立場 にあるが)年齢的 上下関係が基準	<b>E</b>
あまり面識のない大人同士 の会話で上の立場の人物の 会話がくだけた話し方に移 行、友人間の会話で下の立場 にある人の会話が普通体に	面識のない大人同士では丁 寧な話し方が普通。上の立場 の人は自分から話し方を変 化させられるが、下の人は立 場を弁えつつ上の人の話し	面識のない大人同士 では丁寧な話し方が 普通。 通常は年齢的上下	<b>F</b>

移行(場面 15～19)	方に合わせる	関係が基準	
店員が客に対して用いるく だけた話し方 (場面 20)	社会的立場が上の客が丁寧 体か普通体かを定める。店員 がくだけた話し方を許され るのは客が望む時のみ	店員と客という 社会的上下関係が 基準	<b>G</b>

この表を見て一目瞭然なのは、韓国人のポライトネスの基準が年齢の上下関係にあるという点である。一方、日本人のポライトネスの基準は、一見複雑に見えるが、(1)ウチ・ソトの関係を中心とした社会的立場の重視、(2)それぞれの場面で上の立場にある人物のみがポライトネスの基準、即ち丁寧体か普通体か、敬語かくだけた言い方をするかを決定できる、という2点に集約できると考えられる。

このうち(1)に当たるのは表(10)のタイプ B/C/D である。タイプ B に含まれているのは祖父と孫、伯母と姪の会話であるが、ウチの関係にあるため、どちらの話者も年齢や社会的地位などは全く考慮せず、普通体のくだけた話し方をする事ができる。そのため、年齢を基準とした上下関係によって丁寧度が決まる韓国では、年齢が遥かに下の孫や姪のくだけた話し方が特に無礼に感じられるのだと言える。タイプ C は年齢や社会的立場が上と考えられる人物(先生の母親や上司の妻)が下と考えられる人物(生徒の母親や若い部下)に用いる敬語や丁寧体であるが、どちらも自分や自分のウチにある人物を低めてソトにある人物に対応している例である。それが、年齢の上下関係で丁寧さの度合いを決める韓国人には理解しにくいのだろう。タイプ D に含まれるのは、年齢はかなり上であるが社会的立場は下である人物(長年店で働いてきた奉公人や会社員)と年齢はかなり下であるが社会的立場は上である人物(店の主人の娘や顧客)の会話であるが、日本では社会的立場を基準として丁寧さを決めるのに対して韓国では年齢を基準として丁寧さを決めるため、韓国人には丁寧さが逆転しているように感じられる。この相違は、荻野(1989)や全(1991)でも論じられた。

これに対して、あまり注意が向けられなかったのは、(2)上の立場にある人物のみがポライトネスの基準を決めることができる、という点である。この日本人独特の上下関係を前提とした丁寧さと Brown & Levinson(1978)で述べられた欧米の丁寧さの相違については、Matsumoto(1988)に詳しい。Matsumoto(1988)は、中根(1967)(1972)、土居(1971)、Clancy(1986)、Sugiyama Lebra (1976)を援用しながら、日本人のポライトネスにとって重要なのは、Brown & Levinson で論じられているように自分自身の領域を主張したり守ろう

とすることではなく、グループ内の他のメンバーに受け入れられるために自分に定められた分(なすべき務め)を尽くすことであるとした。この考えからすると、下の立場にある者の示す敬意については比較的理解しやすい。自分が下の立場にあることを認識し、自分を低くしたり相手を高くすることで上の立場にある者に敬意を示す。分かりにくいのは、上の立場にある者の示す敬意である。上の立場にある者にも、下の立場にある者と同様、尽くすべき分がある。その分の 1 つは、下の立場にある者を思いやるということだと考えられる(Clancy1986 参照)。上の者は、その場に相応しいやり方で、その分を尽くしていると考えられる。例えば、下の立場の者を自分と同じ敬意を払うべき大人として取り扱うこと(タイプ A の姑や義理の母が嫁や婿に対して彼らと同様に敬語や丁寧体を用いた例(場面 1~4)、タイプ E の医者が患者に丁寧な言い方で対応した例)、また下の者が出来るだけ気遣いをしなくてすむようにすること(タイプ A の姑がくだけた言い方を用いて嫁が気遣いしなくてもいいようにした例、タイプ E の医者が患者が気遣いしないようにくだけた話し方をした例(場面 12)、タイプ F のたまたま自分の家に初対面の人を泊めることになった女性が気を遣っている相手の気持ちを思いやってくれた表現を用いた例(場面 19)等がある。これらの敬意表現の基準は、1 つに形式が定まらないため複雑に思えるが、上の立場にある者の果たす分が場面に応じて変化したものとする理解しやすい。

## 8.5 結語

この研究では、韓国人が自国とは異なると感じた日本人のポライトネスの例を集め、それぞれの例について、日本人と韓国人対して、その表現は自然か不自然か、またそれは何故か、についての調査を行った。その結果、韓国人が異なると感じた日本人のポライトネスを、(1)ウチ・ソトの関係を中心とした社会的立場を重視すること、(2)それぞれの場面で上の立場にある人物のみが丁寧体か普通体か、敬語かくだけた言い方を決定できること、から説明した。日本と韓国の類似しているが異なるポライトネスは、ここで挙げたような個々の場面での対話者の立場を考慮してはじめて相互に理解できるものである。今回は日本人のポライトネスのうち韓国人が異なると思うもののみしか調査していないが、日本人と韓国人のポライトネスの対照を行うためには、日本人が異なると感じる韓国人のポライトネスの調査もすすめる必要がある。それを今後の課題としたい。

## 第 9 章

# 日本人と中国人の配慮表現に対する認識<sup>22</sup>

## —アンケート調査を基に—

本章では、日本語配慮表現指導教材開発に向けて、10代～50代の日本人および中国人に対する日本語配慮表現に対するアンケートを基に、日本語配慮表現に対する認識の相違を明らかにするものである。日本語における配慮表現の研究が盛んに行われているが、この配慮表現に対する日本語母語話者と日本語学習者の認識は大きく異なっている。日本語学習者にこの配慮表現を指導するには、まず日本語母語話者と日本語学習者の配慮表現に対する認識の相違を特定する必要がある。そこで本研究では、10代～50代の日本人 20 人および中国人 20 人に対するアンケートを基に、日本語の配慮表現に対する認識の相違を調査分析した。その結果、(1)上位者が下位者に対して配慮して用いた丁寧表現、(2)仕事上の会話におけるスタイル、(3)相手の恩恵を示すことの重要性、(4)相手の都合・利益を優先することの重要性の 4 点での認識の相違が、量的調査および質的調査から明らかになった。

### 9.1 序

国立国語研究所の調査結果(1982, 2002, 2003)に基づき、近年日本語の言語行動における配慮表現の働きについての研究が盛んに行われている。この配慮表現は日本語ポライトネスにおいて重要な役割を果たしていることは事実なのであるが、ザトラウスキー(1993)が指摘するように、この配慮表現、心配り、思いやり発言などについては、日本人と日本語学習者の間に大きな認識のズレがある。そこで、本論文では、10代～50代の日本人 20 人および中国人 20 人に対するアンケートを基に、日本語の配慮表現に対する認識の相違を調査分析し、その認識のズレを特定することを目的とする。

---

<sup>22</sup> 本章は松村(2011) を修正加筆したものである。

## 9.2 アンケート調査

このアンケート調査は 2010 年 8 月～9 月に日本在住の日本人 20 名および中国在住の中国人 20 名に対して行ったものである。本節では、アンケート項目および被験者についてまとめる。第 3 章でも示したが、ここでも議論に関わるのもう 1 度提示する。

### 9.2.1 調査内容

調査内容は、会話 1～6 中の下線部が自然か否かとその理由、更にメール 7～10 中に不自然な部分があれば修正しその理由を書くというものである。

#### 1 小学校の教師(20 代)、教師の母親(50 代)、生徒の母親(30 代)の会話

生徒の母親： あら、先生！

教師： あ！

教師の母親： (生徒の母親を見て)あの…

教師： あ、あのうちの母です。

生徒の母親： (お辞儀をしながら)あ、はじめまして。

教師： (教師の母親に対して)あのね、うちの生徒のお母さん。

教師の母親： (お辞儀をしながら)あ、はじめまして。あの、[教師の名]の母でございます。娘がいつもお世話になっております。

生徒の母親： あ、いえ…こちらこそ、いつもお世話になってます。

教師の母親： (丁寧にお辞儀をしながら)あの、どうぞこれからも宜しくお願いします。

生徒の母親： あーは、はい。

#### 2 病院長と医者との会話：病院長が田口医師に手術失敗の原因解明を依頼している場面

院長： バチスタ手術についてご存知ですか。

田口： 名前ぐらいは…。

院長： 一般的な成功率は約 60%、ところが、桐生先生がこの病院に着任してから一年、その難しい手術をことごとく成功させてきました。実に 26 連勝。彼の名前を知って全国から患者さんが集まってきます。

桐生： ですが、このバチスタ手術が最近三連敗、続けて失敗しています。

院長： その原因を鶴働教授に…あ、いや、あなたに解明していただきたい。

田口： 無理です。

3 父子家庭の娘と父親の会話：結婚式の前日娘が父親に今まで育ててくれたことを感謝する場面

娘： お父さん、花嫁みたいなこと言っていい？

父： やめてくれ。

娘： 今まで本当に有難うございました。

父： こちらこそ、有難うございました。

4 ナオちゃん(20代女性)と同じ会社の先輩(30代女性)の会話：朝出勤途中に偶然出会った。

ナオ： いいお天気ですね。

先輩： そうね。それよりナオちゃん、今晚ひま？

ナオ： え？

先輩： いいビアガーデン見つけたの。飲みに行かない？

ナオ： きょっ…今日ですか？あ…い…いいですね！あたしもそろそろ行きたいなって思  
ってたところです。是非連れてってください。

5 留学生の李さん(20代女性)と学校の事務の人(40代女性)の会話

李： すいません、中山財団奨学金に応募したいんですけど…

事務室の人： あ、あれね。もう締切が過ぎたんですよ。同じような別の奨学金がある  
けど、それじゃいけない？

李： あ、そうですか…それでもいいね。

6 高校時代からの親友二人の会話：現在二人は同居しているが、M3は家を出よう  
としている。M1はもう少し一緒に東京に止まって頑張って貰いたいと思っている。

M3： なあ、金無いよなあ？交通費なんだけど…。

M1： …

M3： …

M1： なあ、行くなよ。

M3： こんな時に悪いけど、でも本当に僕だめなんよ。

M1： 家賃二人分払っていくの無理やもんな。一緒にさあ、もうちょつと頑張ろうや。

M3： 今はくさっとるけどね、あんたは才能あるから、頑張りたい。僕はもう頑張りがれん。

7 次は中国学生から日本の大学教授に研究生にしてくださいとの依頼を行うメール  
の一部です。

\*\*先生

こんにちは。

突然メールでお邪魔しまして本当に申し訳ございません。はじめまして、中国の\*\*と申

します。お忙しいところご迷惑おかけしてしまいました。じつは、この度、先生の研究生になりたいので、お手紙を差し上げます。それでは、まずは自己紹介させていただきます。  
…

8 次は日本の大学教授に博士論文提出期限についての質問のメールの一部です。

＊＊先生

ご無沙汰してしまい申し訳ございません。＊＊です。

さて早速ですが、博士論文提出の日程に関してご相談したくメール致しました。本来ならば、お部屋に伺ってご相談すべきところを、このような形で申し訳ございません。博士論文に関しては、果たして書けるのかどうかという問題もありますが、兎にも角にも頑張ろうと思っております。

そこでお尋ねしたいのが、遅くともいつまでに原稿を出したらいいかということです。

このような質問をすること自体、学生として言語道断ではありますが、ご指示いただければ幸いに存じます。

お忙しいところ誠に恐れ入りますが、何卒宜しくお願い申し上げます。

9 次は日本へのホームステイを希望していたアジアの学生から受け入れてくれることになった日本のホームステイ先への手紙の一部です。

＊＊さま

はじめまして。＊＊の国際交流課を通してホームステイを申し込んでいた＊＊です。今回の私のホームステイの件では、心より感謝申し上げます。…

私は8月から夏休みなので、8月の10日から17日までお世話になりたいと思います。その他の日は、アルバイトやクラブ活動がありまして無理です。…

お返事お待ちしております。7月21日から8月5日までは調査旅行を計画しておりますので、7月20日までに届くようお願いいたします。…

10 日本滞在時に知り合った日本人の先輩から論文のコピーを送って貰いました。以下はそれに対するお礼の手紙の一部です。

＊＊様

時下、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

先日はお書きになった論文を送ってくださりありがとうございます。送った論文は全部お読みいたしました。私の論文のテーマにぴったりで役に立ちました。

会話例1～6については、例5以外は全て、中国人、韓国人留学生が不自然と思った例である。メール7～10については、メール8以外は全て、日本人にとって不自然に思える留学生からのメールである。

### 9.2.2 被験者

日本人・中国人被験者の属性は以下の表の通りである。

表(11) 日本人被験者

	略号	年代	性別		略号	年代	性別
1	J10M1	10	男	11	J40M3	40	男
2	J10F1	10	女	12	J40F1	40	女
3	J20M1	20	男	13	J40F2	40	女
4	J20M2	20	男	14	J40F3	40	女
5	J20F1	20	女	15	J50M1	50	男
6	J20F2	20	女	16	J50M2	50	男
7	J30M1	30	男	17	J50F1	50	女
8	J30F1	30	女	18	J50F2	50	女
9	J40M1	40	男	19	J50F3	50	女
10	J40M2	40	男	20	J50F4	50	女

表(12) 中国人被験者

	略号	年代	性別		略号	年代	性別
1	C10M1	10	男	11	C30M2	30	男
2	C10F1	10	女	12	C30F1	30	女
3	C20M1	20	男	13	C30F2	30	女
4	C20M2	20	男	14	C30F3	30	女
5	C20M3	20	男	15	C30F4	30	女
6	C20M4	20	男	16	C30F5	30	女



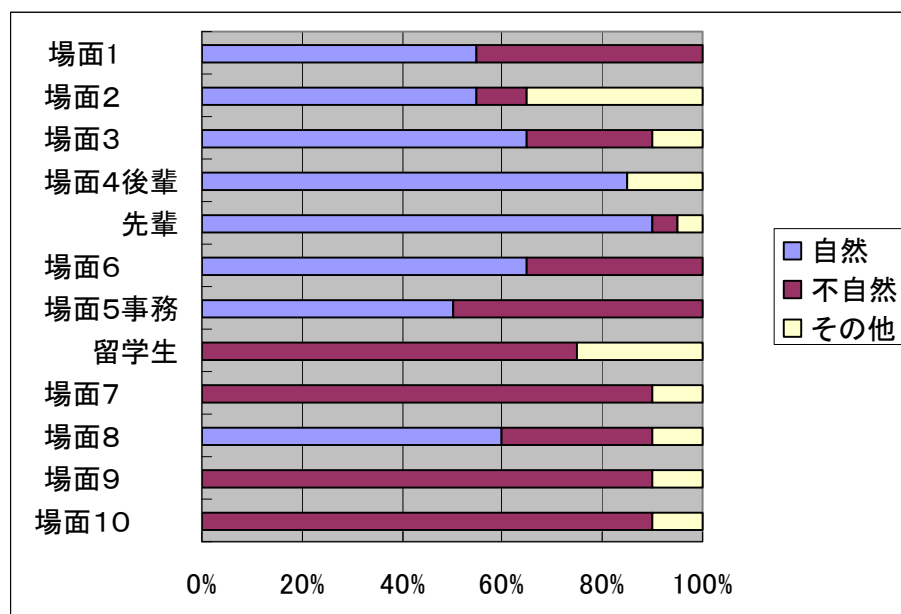
7	C20F1	20	女	17	C40M1	40	男
8	C20F2	20	女	18	C40F1	40	女
9	C20F3	20	女	19	C50M1	50	男
10	C30M1	30	男	20	C50M2	50	女

日本人、中国人とも各世代 1 名の男性・女性を含むようにした。また、日本人は日本在住の日本人に、中国人は中国在住の中国人に限定した。

### 9.3 アンケート結果分析

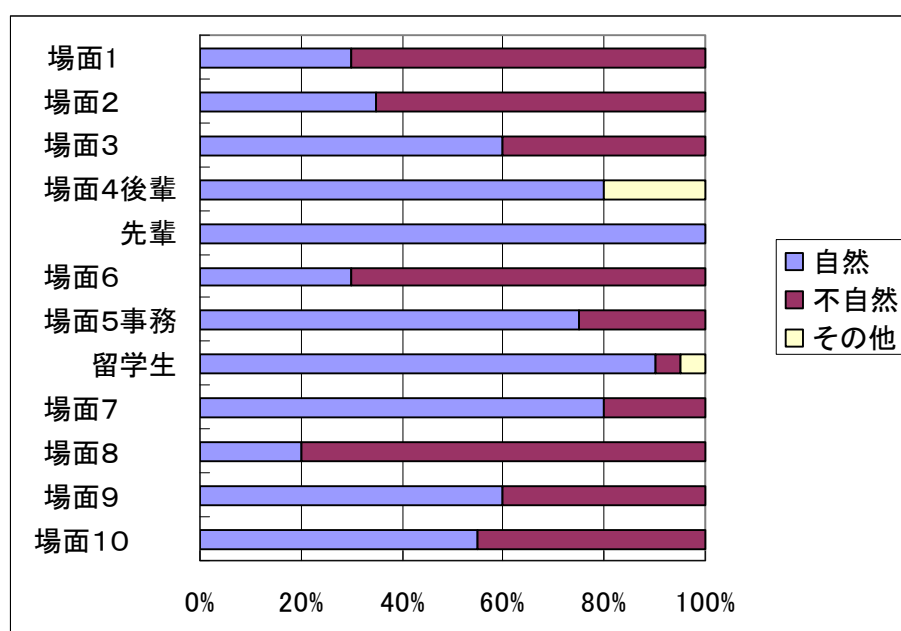
本節では、上記アンケート結果について、自然とする被験者と不自然とする被験者の数値が日本人と中国人でどのような相違をみせるかを分析していく。アンケートに用いたそれぞれの会話およびメールが自然か否かについての日本人および中国人のアンケートの量的結果は以下の表のような結果となった。

表(2) 日本語母語話者(再掲)



日本語母語話者については、日本語非母語話者が不自然とした場面 1、2、3、4、6 の会話例については自然とした被験者が半数以上であった。また、場面 5 については事務の人の会話については 5 割が自然としたが、留学生の会話については、日本語学習中だから許されるとしながらも不自然としている被験者が殆どであった。更に、日本語非母語話者が書いたメール 7、9、10 を不自然とした被験者は半数を超している。メールについて唯一自然とした被験者の数が不自然の数を上回ったのはメール 8 の日本人学生のメールのみであった。

表(3) 中国語母語話者(再掲)



中国語母語話者の結果は、かなり異なる様相を見せている。場面 1、2、6 の会話例については不自然とした被験者が 7 割程度いるのに対し、日本人が不自然とした割合が高かった場面 5 の会話については、事務の人についても留学生についても 7 割～8 割の被験者が自然と判断している。更に、メールについてはほぼ逆と言っていいような結果となっている。日本語学習者のメール 7、9、10 については自然とする被験者が 5 割以上であるのに対し、日本人の書いたメール 8 を自然とした被験者は 2 割しかいなかった。

## 9.4 考察

本節では、アンケートの量的結果およびアンケートに書かれた被験者のコメントを基に、日本人と中国人の日本語配慮表現についての認識の相違について論じていく。

大まかに言って、以下の4点について認識の相違が見られた。

### \*認識の相違(1)：上位者が下位者に対して配慮して用いた丁寧な表現

#### 2 病院長が田口医師に手術失敗の原因説明を依頼している場面

院長：バチスタ手術についてご存知ですか。

田口： 名前ぐらいは…。

院長：一般的な成功率は約60%、ところが、桐生先生がこの病院に着任してから一年、その難しい手術をことごとく成功させてきました。実に26連勝。彼の名前を知って全国から患者さんが集まってきます。

桐生： ですが、このバチスタ手術が最近三連敗。続けて失敗しています。

院長：その原因を鶴働教授に…あ、いや、あなたに説明していただきたい。

田口： 無理です。

上記の下線部の表現形式について、形式そのものについてのアンケートをしたところ次のような結果となった。日本人については、自然55%、不自然10%、その他35%という結果になった。その他が多かったのは、内容そのものが有り得ないと考えた被験者が多かったためである。中国人については、自然が30%、不自然が70%であった。ここで注目されるべきは、自然・不自然の選択理由である。中国人については、「院長は医師より地位的に高いので、こんなに謙遜しないはずだと思います」(C30M2)や「院長としてこのように医師と会話するのはとても謙遜な態度に見えます」(C20M1)のように、上位者が下位者に対して丁寧な表現を用いることに対して違和感があるとするコメントが多く見られた。一方、日本人の場合は、「丁寧な表現だとは思わない。普通に使うと思う」(J40M2)、「院長であるが、このような場面には丁寧な表現をすると思う」(J40F2)のように、表現自体はごく自然とする被験者が多かった。このように上位者が下位者に対して用いた丁寧な表現は、

日本語非母語話者にとって最も違和感のある配慮表現の一つであり、日本人と中国人の間でも認識の差が大きかった。

#### **\*認識の相違(2)：仕事上の会話におけるスタイル**

##### **5 留学生の李さん(20代女性)と学校の事務の人(40代女性)の会話**

李： すいません、中山財団奨学金に応募したいんですけど…

事務室の人： あ、あれね。もう締切が過ぎたんですよ。同じような別の奨学金があるけど、それじゃいけない？

李： あ、そうですか…それでもいいね。

事務の人の発話への印象としては、日本人は自然・不自然ともに 50%と結果が二分されていたが、中国人は 75%が自然、25%が不自然という結果であった。日本人の説明としては、「業務上のやり取りでありフォーマルな言い方が好ましい」(J20F1/J20F2/J40M1/J40M3/J40F1)という説明が殆どを占めており、仕事上の会話では上位者であっても丁寧体を使うのが当然との意識が強いことが分かった。一方、中国人の説明としては「少し失礼」「めんどくさそうです」(C10F1/C20M3/C20F2 等)のように不自然とする説明もあったが、「ごく普通」「熱心に義務を果たしている」(C20F1/C30M2/C30F1 等)のように自然とする回答者が 75%を占めた。

また、留学生の李の発話についても大きな相違があった。日本人については自然とする回答者 0%、不自然 75%、その他 25%という結果であった。その他と答えた日本人は殆ど「日本語学習中なので仕方ない」との説明をしていた。一方、中国人は 90%が自然、不自然は 5%、その他 5%という結果であった。

この結果を考えれば、仕事上の場面では、余程親しい場合を除けば、丁寧体を使うのが基本であるという点は強調する必要があると考えられる。事務の人のように上位者であっても、普通体を使うことには抵抗がある日本人が半数を占めている。ましてや下位者については、75%が不自然と考えており、残りの 25%も日本語学習中だからという理由で認めているのである。

**\*認識の相違(3)： 聞き手の恩恵を示すことの重要性**

10 日本滞在時に知り合った日本人の先輩から論文のコピーを送って貰いました。

以下はそれに対するお礼の手紙の一部です。

＊＊様

時下、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

先日はお書きになった論文を送ってくださりありがとうございます。送られた論文は全部お読みいたしました。私の論文のテーマにぴったりで役に立ちました。

日本人被験者の回答は、自然 10%、不自然 90%、その他 10%(学習者だから仕方ない)であるのに対して、中国人では自然 55%、不自然 45%という結果になった。

理由についても、日本人は年代・性別を問わずほとんどが「敬語の使い方がおかしい」(J20M1/J20F1/J30F1/J40M2/J40F2 等)と答えていたのに対して、中国人の場合は多くの回答者が「適切です」(C20F1/C20F3/C30M2/C30F2 等)と答えている。相手から恩恵を受けた場合はそれを明示することの必要性は強調して教える必要がある。

**\*認識の相違(4)： 聞き手の都合・利益を優先することの重要性**

9 次は日本へのホームステイを希望していたアジアの学生から受け入れてくれることになった日本のホームステイ先への手紙の一部です。

＊＊さま

はじめまして。＊＊の国際交流課を通してホームステイを申し込んでいた＊＊です。今回の私のホームステイの件では、心より感謝申し上げます。…

私は8月から夏休みなので、8月の10日から17日までお世話になりたいと思います。その他の日は、アルバイトやクラブ活動がありまして無理です。…

お返事お待ちしております。7月21日から8月5日までは調査旅行を計画しておりますので、7月20日までに届くようお願いいたします。…

メール9についても、メール10と同様、日本人については適切0%、不適切90%、その他10%(学習者だから)という結果である一方、中国人については適切60%、不適切40%と

いう結果になった。その理由もメール 10 と類似しており、日本人は「自分の都合ばかり主張して相手の都合に配慮していない印象がある」(J20M1/J20F1/J30F1/F40M1/J40M2/J40M3/J40F1/J40F2/J50F1 等)のように年代・性別を問わず「相手への配慮の必要性」を理由としてあげているのに対して、中国人の場合は「適切です。」(C10F1/C20M4/C30M2/C30F1/C30F2 等)のように年代・性別を問わず自然と答えた人が多かった。

## 8 次は日本の大学教授に博士論文提出期限についての質問のメールの一部です。

＊＊先生

ご無沙汰してしまい申し訳ございません。＊＊です。

さて早速ですが、博士論文提出の日程に関してご相談したくメール致しました。

本来ならば、お部屋に伺ってご相談すべきところを、このような形で申し訳ございません。

博士論文に関しては、果たして書けるのかどうかという問題もありますが、兎にも角にも頑張ろうと思っております。

そこでお尋ねしたいのが、遅くともいつまでに原稿を出したらいいかということです。

このような質問をすること自体、学生として言語道断ではありますが、ご指示いただければ幸いに存じます。

お忙しいところ誠に恐れ入りますが、何卒宜しくお願い申し上げます。

メール 9・10 とは反対に、配慮表現を多く用いた日本人のメール 8 についても、日本人と中国人は全く異なる反応を示している。メール 8 については、日本人では自然 60%、不自然 25%、その他 5%であるのに対して、中国人では自然 20%、不自然 80%という結果になった。その理由としても、日本人では「十分に敬意を払っている」(J40M2)や「適切」「特に修正するところはない」(J40M3)のような回答が多かったが、中国人では「無駄がおおすぎる。お世辞を言っており偽りのように感じる」(C40M1)、「くどいです」(C20M2/C20M4/C20F1/C30F2 等)、「簡潔さが足りない」(C20F2)に見られるように、配慮表現に対してマイナスの評価をしている回答者が多いことが分かる。文化差が関係してい

と考えられるが、日本語教育という観点からは、日本語で表現する場合には最低限の配慮を行う必要があることを教授する必要があるだろう。

## 9.5 結語

本論文では、日本語配慮表現指導教材開発に向けて、10代～50代の日本人および中国人各20人に対する日本語配慮表現に対するアンケート調査結果を基に、日本語の配慮表現に対する認識の相違を調査分析し、その認識のズレを特定した。その結果、(1)上位者が下位者に対して配慮して用いた丁寧表現、(2)仕事上の会話におけるスタイル、(3)相手の恩恵を示すことの重要性、(4)相手の都合・利益を優先することの重要性の4点での認識の相違が、量的調査および質的調査から明らかになった。

今回の調査結果から、日本人にとっては相手への配慮がポライトネスにおいて重要な要素であるが、日本語学習者にはその認識が低いことが明らかになった。日本語教育においては、適切な場面を用いて、相手への「配慮」を示しながら言語行動を行う方法を指導する教材を開発する必要があるであろう。

## 第 10 章

### 聞き手志向の日本語ポライトネス

#### ー日本語における配慮表現とポライトネスー<sup>23</sup>

本章では、「聞き手志向」という観点からの日本語ポライトネス指導教材開発に向けて、日本語ポライトネスとは何かについて論じていく。国立国語研究所の調査結果(1982, 2002, 2003)に基づき、近年日本語の言語行動における配慮表現の働きについての研究が盛んに行われている。この配慮表現が日本語ポライトネスにおいて重要な役割を果たしていることは事実なのであるが、この結果をどのように日本語教育に生かしていくかについては、十分な考察が行われていないのが現状である。そこで、本研究では、日本語学習者（韓国語母語話者および中国語母語話者）にとって違和感のある日本語ポライトネス、および日本人にとって違和感のある日本語学習者のポライトネスをデータとして、ポライトネスおよび配慮表現に関する日本人と日本語学習者の意識の相違を特定し、その結果に基づき「聞き手志向」の日本語ポライトネス指導教材開発に向けた考察を行っていく。

#### 10.1 序

国立国語研究所においては、敬語研究から発展した日本語の丁寧さに関する調査研究が行われてきた。その調査研究に基づき、『言語行動における「配慮」の諸相』（国立国語研究所 2006）では、敬語形式選択の問題にとどまらず、それぞれの言語行動場面でどのような配慮をしているかにまで範囲を広げた研究が行われた。杉戸(2005: 2)によると、「配慮」とは、「コミュニケーションにおける言語使用を背後で支える各種の意識や心配り」である。日本語のポライトネスにおいては、この「配慮」が重要な要素であることは事実なのだが、この日本人の行う「配慮」や「心配り」は、他の言語においては必ずしも日本語における

---

<sup>23</sup> 本章は松村(2010) を修正加筆したものである。



ような効果をあげるわけではなく、誤解に繋がることもしばしばである。

序章で述べたが、ザトラウスキー(1993:1)は、日本人にとっては丁寧に見える配慮表現が、米国人にとっては全く逆の無礼な行動に映った経験を挙げている。彼女はこのような経験を踏まえ、自然な日本語会話を詳細に分析することで、日本語の勧誘のストラテジーの考察を行った。その結果、米語の勧誘談話と異なり、日本語の勧誘談話では、「気配り発話」や「思いやり発話」が頻繁に用いられることが分かった。ザトラウスキーの論文は、日本人とアメリカ人の勧誘のストラテジーの相違を実証的に示した研究であるが、この結果をどのようにして日本語教育に応用したらよいかについては論じられていない。

そこで本章では、先ず日本語学習者にとって奇妙に思える日本人のポライトネス、および日本人にとって奇妙に思える日本語学習者のポライトネスを分析しながら、日本語母語話者にとってのポライトネスと日本語学習者（韓国語母語話者・中国語母語話者）にとってのポライトネスとは何か、また日本語学習者に誤解されやすい日本語配慮表現とはどのようなものなのかについて論じていく。次に、「聞き手志向」という観点から、日本語と韓国語・中国語のポライトネスの相違について考察していく。最後に、これらの結果を踏まえて、日本語ポライトネスを効果的に指導する教材とはどのようなものかについて考察していく。

## 10.2 先行研究概観および本章の目的

この節では、日本語配慮表現に関する先行研究、配慮表現に関する日本語母語話者および非母語話者の認識を示す先行研究を概観した後、本章の目的を示す。

### 10.2.1 日本語の配慮表現

杉戸 (1983)(2005)、杉戸・尾崎 (2006)

杉戸・尾崎 (2006: 2) は、「配慮表現」を敬語を拡張した敬意表現を更に拡張した「コミュニケーションにおける言語使用を背後で支える各種の意識や心配りを表す語」とした。彼らは「言語行動における配慮」を、＜留意事項＞(何を気にするか)、＜価値・目標＞(どのような言語行動に仕上げようとするか)、＜価値基準＞(何をよりどころにして配慮するか)という枠組みから捉えようとした。

杉戸(1983: 33-34)によると「配慮」とは、話し手と話し相手の関係を考慮した上で話し手の行ったメタ言語行動表現である。杉戸は、コミュニケーションの際に言語行動主体が行う対人的な配慮を、次の1～12の項目に分類した。

言語行動の成立要素	例
1 言語行動の主体	・私などがしゃしゃり出て不躰ですけれども…。
2 言語行動の相手	・他ならぬ、君にこそ言いたかったんだけどね…。
3 言語行動の機能上の種類	・これはお尋ねしていいのです、決して命令しているのではありません。
4 言語行動のジャンル	・こんな簡単なものでは失礼ですので、改めて正式の文書にいたします。
5 言語形式・言語表現	・あなたと呼ぶのは気がひけますので、先生と呼ばせていただきます。
6 言語行動の素材・話題	・こんなことを言うべきかどうか分かりませんが…。
7 言語表現の調子	・ざっくばらんに申し上げまして…。
8 物理的場面	・こんなに夜分遅く申し訳ありませんが…。
9 心理的場面	・お取り込みのところ申し訳ありませんが…。
10 接触状況・媒体	・本来ならばお目にかかって申し上げるべきところ、お電話で失礼いたします。
11 言語行動の目的・動機	・細かなところまでお分かりいただきたくて、くどくど言ったわけですので…。
12 言語行動の結果・効果	・(あんなこと言ったもので)とんだご迷惑をおかけすることになって申し訳ありません。

確かにこれらの表現は日本語のポライトネスにおいて重要な役割を果たしているのだが、ただ項目が羅列されているのみであり、このまま日本語教育に取り入れることは難しい。日本語ポライトネス指導教材にするためには、何をどのような方法で学習者に提示していくかという方法論を示すことが不可欠であろう。

## 10.2.2 配慮表現に対する日本語母語話者の評価

金城・玉城・中西(2007)

日本語母語話者に日本語運用能力が高いと評価されている日本語非母語者 1 名の「メタ言語行動表現」と「意識的配慮」の使用実態を調査し、これらが円滑なコミュニケーションの遂行に大きく関わっていることを示した。杉戸(1998: 165) は「日常われわれが行っている言語活動の中では『配慮』を常に行っており、その対人的な配慮は『メタ言語行動表現』の明示により示される。…言語行動の対人性という側面を考察するための具体的・明示的な手がかりとして、メタ言語行動表現という表現類型が有効である」と述べているが、金城他は日本語非母語話者においてもこのメタ言語行動表現の適切な使用が高い評価に繋がっていることを示した。確かに日本人にとっては、杉戸の挙げる配慮表現・メタ言語表現は評価が高いのであるが、日本語非母語話者は必ずしも同様の評価をするわけではない。日本語母語話者が日本人の「配慮」を誤解しないようにするためには、先ず評価の相違を示す必要があるだろう。

## 10.2.3 配慮表現に対する日本語非母語話者の評価

ポリー・ザトラウスキー(1993)

ザトラウスキーは(1993: 1)は、先に述べたような米国人である筆者には本来の意図とは逆のものと映る日本人の行動に何度か遭遇するうちに、「日本人の勧誘表現には、英語の場合とは違う「ストラテジー」が使用されているのではないかと考える」ようになり、日本人の勧誘のストラテジーをアメリカ人のそれと対照させ、以下のような結果を得た。

アメリカ人の勧誘の談話：被勧誘者の断る可能性が大きいと勧誘者が思ったとしても、被勧誘者の承諾する余地を残しておき、勧誘者にとっての承諾の必要性を被勧誘者に理解させるように会話を進める傾向がある。

日本語の勧誘の談話：勧誘者は、被勧誘者の反応を見ながら談話を進め、被勧誘者の勧誘に対する否定的な態度が予想される限り、どんなに承諾を期待していたとしても、被勧誘者の断りの余地を残し、しかも、被勧誘者の都合を優先する方が好ましい

と思わせるようにして、勧誘を進める傾向がある。

ザトラウスキー (1993: 183)

ザトラウスキーのこの対照結果は、日本人のポライトネスを理解する上で示唆的である。即ち、アメリカ人は勧誘者、即ち話し手がよいと思うことを聞き手にも勧めることを好むのに対して、日本人は被勧誘者、即ち聞き手の都合を優先することが丁寧だと考えるのである。この日本人のストラテジーは、「配慮」に通じるものだと考えられる。そこで留意しなければならないのは、日本人の「配慮」は、ザトラウスキーが経験したように、必ずしも日本語非母語話者に配慮と映るとは限らないことである。日本語ポライトネス指導教材においては、先ずこの日本人の配慮に対する誤解を解くことから始める必要がある。

#### 10.2.4 本章の目的

上記の先行研究への考察を踏まえた上で、本稿では「聞き手志向」という観点から、日本語ポライトネスとは何かについて論じていく。使用するデータは、(1)日本語母語話者にとって奇妙に思える日本語学習者のポライトネス、(2)日本語学習者にとって奇妙に思える日本語母語話者のポライトネスのデータである。

### 10.3 日本人のポライトネス

本節では、日本人にとって奇妙に思える日本語学習者の言語行動、および韓国人、中国人、台湾人にとって奇妙に思える日本人のポライトネスを分析することで、日本人のポライトネスとは何かについて論じていく。

#### 10.3.1 日本人にとって奇妙に思える日本語学習者のポライトネス

先ず、日本人にとって奇妙に思える学習者のポライトネスであるが、ここでは授受表現の誤用および下位者が上位者に対して行う遠慮のない要請の 2 点を挙げ、日本語のポライトネスの特徴を示していく。

金瑞賢 (2004:44) は、(1)(2)のような例を挙げながら、韓国人日本語学習者の日本語待遇表現と恩恵表現についての認識について考察を行い、「上下関係・恩恵関係の表現については、上下関係の表現については認識しているが、恩恵表現についてはあまり認識できていない。上下関係の認識は言語形式の選択に大いに関与し、上下関係と恩恵関係が同時に存在する場合は上下関係だけに着目し、恩恵関係を見落としている」と述べている。

(1) a. (相手が書いて送ってくれた論文を)お読みいたしました。(学習者)

b. (相手が書いて送ってくれた論文を)読ませていただきました。

(2) a. 一緒にとった写真と韓国語版『キャンディー・キャンディー』を送ってあげます。  
(学習者)

b. 一緒にとった写真と韓国語版『キャンディー・キャンディー』を送り  
ます。

((1)/(2): 金(2004 : 36-37)

(1a)の例が日本語として不適切なのは、相手の恩恵から起こった自分の行動を謙譲表現で表し、相手の恩恵を明示できていないためである。(2a)は、授受動詞を使うことで自分の行為が相手にとって恩恵になることを示しており、恩着せがましく感じられるため不適切である。これらの例が示すのは、日本語のポライトネスでは相手(聞き手)からの恩恵は明示すること、また自分(話し手)の与える恩恵を表現することは出来るだけ避けるという点である。

次に、聞き手(上位者)に対する配慮がないように感じられる、下位者が上位者に対して行う遠慮のない要請である。

(3)ホームステイは 15 日から 30 日までの間がいいです。

(4)他の時は、試験やアルバイトがあるので無理です。

((3)(4): Matsumura, Chinami and Kim (2004))

(3)(4)はホームステイ先に日程の要請をしているものであるが、日本人であればまず相手(ホームステイ先)の都合を聞き、自分の予定をそれに合わせようとするのであるが、日本語

学習者からの要請にはこのような例が多い。そのため、学習者の(3)や(4)のような表現は、聞き手の都合を全く聞かず、自分の都合のみを優先しているとみなされ、日本人にとっては礼を失していると感じられる。

これらの例から分かるのは、日本語のポライトネスにおいては、聞き手の恩恵を明示すること、聞き手に決定権を与えるという聞き手志向性、換言すれば聞き手への配慮が重要であるが、日本語学習者は必ずしもそれを認識していないという点である。同様に、日本語学習者が奇妙に感じる日本人のポライトネスを調査すると、日本人の配慮が必ずしも学習者には理解されていないことが分かる。

### 10.3.2 日本語学習者にとって奇妙に思える日本人のポライトネス

この節では、韓国人・中国人・台湾人日本語学習者が奇妙に感じた日本語のポライトネスの例を挙げながら、日本語のポライトネスと韓国語・中国語のポライトネスの類似点・相違点について論じていく。

第7章～第9章でも述べたが、どの国の学習者にとっても不自然に思えた日本人のポライトネスは、上位にある人物のポライトネスであった。以下2例を挙げて考察していく。

#### 会話例(1) 病院長が勤務医田口に手術を依頼する場面

院長：バチスタ手術についてご存じですか。

田口：名前ぐらいは

院長：一般的な成功率は約60%、ところが、桐生先生がこの病院に着任してから一年、その難しい手術をことごとく成功させてきました、実に26連勝。彼の名前を知って全国から患者さんが集まってきます。

桐生：ですが、このバチスタ手術が最近三連敗、続けて失敗しています。

院長：その原因を鶴働教授に・・・あ、いや、あなたに解明していただきたい・・・

田口：無理です。

院長：近々訳有の手術がありましてね、ぜひともお引き受けしていただきたい。

田口：こういうことは確か、リスクマネジメント委員会の仕事だと思いますが・・・

院長：大げさなことにしたくないんですよ。

『チームバチスタの栄光』

会話例(1)は、中国人の学生が不自然に思った例である。精神科医の田口が、鵜飼教授に頼まれて、不承不承院長室に来た場面である。中国人学生は「上下関係からみると、院長が依頼するときの言葉づかいが丁寧すぎると思う」と答えた。日本語学習者は、固定的上下関係に基づき敬語が使用されると考えることが多いため、上位者が下位者に用いる丁寧表現に対して違和感を感じる人が多い。

日本人の観点から見ると、会話例(1)の院長の敬語使用は当然である。この場面で院長は、本来ならばリスクマネジメント委員会が行うべき手術失敗の原因調査を秘密裏に行うよう田口医師に猫なで声で依頼している。上位者とは言え、このような依頼を普通体で行うことはできない。被依頼者である田口医師が依頼を断らないようにするために、方略として敬語を使用しているのである。

会話例(2)小学校の教師(20代後半)、教師の母親(40代)、生徒の母親(30代)の会話

生徒の母親：あら、先生！

教師：あ！

教師の母親：(生徒の母親を見て)あの...

教師：あ、あのうちの母です。

生徒の母親：(お辞儀をしながら)あ、はじめまして。

教師：あのね、うちの生徒のお母さん。

教師の母親：(お辞儀をしながら)あ、はじめまして。あの、[教師の名]の母でございます。

娘がいつもお世話になっております。

生徒の母親：あ、いえ... こちらこそ、いつもお世話になってます。

教師の母親：(丁寧にお辞儀をしながら)あの、どうぞこれからも宜しくお願いします。

生徒の母親：あーっ、はい。

会話例(2)は、韓国からの留学生が収集したデータである。韓国人が異なっていると感じたポライトネスも、地位が上にあると考えられる人物が下にあると考えられる人物に対する丁寧体や敬語の使用例が多かった。韓国人に対するアンケートでは10人が全て、教師の母親の丁寧な言葉遣いは韓国では考えられないとした。韓国では年齢と社会的立場からくる上下関係が敬語使用の決定的な要因になっていることが分かる。

一方、日本人に対するアンケートでは、10人中9人が上の会話は自然であるとした。教師の母親は少々謙りすぎてはいるが、母親が自分の娘のことを娘の職場関係の人をお願いする場面と考えるとありえない表現ではない。単に年齢や社会的立場という上下関係ではなく、教師の母親からするとウチの関係にある娘を宜しく取り扱うようソトの関係にある生徒の母親に自分を低めてお願いしていると考ええると理解できる表現である。

もう1つ、多くの日本語学習者が違和感を感じた日本語ポライトネスは、次の2例に見られるような砕けた話し方である。

### 会話例(3) 50代の医者と70代の患者の会話

患者： いつもすみません。こんな時間にご無理願って。

医者： おばあちゃんさ、具合悪くなったら電話してよ、遠慮しないで、往診に行くから。  
あまり無理しちゃだめだよ。

会話例(3)は若い医者と年配患者の会話である。韓国人は全員、医者は社会的には尊敬される立場にあるが、これ程くだけた調子で大人の患者に接することはないとした。韓国の場合、「取分け患者の年齢が医者より上になればなる程丁寧度の高い表現を使うのが普通である」というコメントから推察されるように、上下関係が丁寧度を決定する重要な要因となっていることが分かる。

日本においても、これ程くだけた話し方をする医者は少ないが、町医者が患者と親しくなり殆ど親戚同然の付き合いとなった場合には、このような対応も考えられる。この場合、患者の発話から、この医者が時間外に何度もこの患者を診察してくれたため患者側はかなり申し訳ないと考えていることが推測される。そのため医者は、「具合悪くなったら電話し



てよ」のように患者にとって望ましいことを強制する命令形を用いることで、医者が往診に出かけるのは医者自身が患者に強制したことであって患者が負担を感じることはない

と伝えることで、患者の負担を和らげながら患者のためになることをさせようとしているのである。その意味で、この命令形は丁寧体を用いて患者(聞き手)に負担を感じさせるよりも丁寧と感じられる。

#### 会話例(4) 30代の女性 A と彼女の家に泊めてもらうことになった 20 代後半の女性 B

A: え、まだ、起きてたんですか？

B: ああ、はい…。なんか寝付けなくて…

A: あら、そう。なんか少し飲みませんか？

B: いえ… あの、大丈夫です。

A: そんなに遠慮しないで飲みましょう、私も付き合うから。

B: あ、… じゃあ、… いいんですか？

A: うん、いいわよ。私もちょうど飲みたいなあって思ってたところなの。

ううんと、ワインでいいかな？

B: あ、はい。

会話例(4)では、韓国人の 10 人中 7 人が初対面で下線部のように砕けた話し方をするのは考えられないと答えている。このように疎の関係にある話者同士が、丁寧体から普通体にスタイルを変化させることは不自然と考えるためである。一方日本人は、10 人中 9 人がこの場面での下線部の話し方は自然であると答えた。B は初対面にも拘らず年上の A の家に泊めてもらうことになり、気を遣っていると考えられる。そのため、上の立場にある A が、何気ないやり方で徐々にスタイルを交替させることで、自分は B を親しい友人として泊めているのだということを示しながら、B の気持ちを和ませようとしているのである。

日本語学習者の抽出した会話例およびコメントから、社会的上下関係を尊重するという点は日本人も韓国人、中国人、台湾人も同様であることが分る。しかし、この節で述べたように、日本語と中国語・韓国語には相違がある。日本人にとっては、上下関係は重要で

あるが、それ以上に重要なのは和を保つということである。そのため、下位者のみならず上位者も、相手を気遣いながら会話をすすめていく。一方、韓国人、中国人、台湾人にとっては、社会的上下関係への是認が重要と考えられる。故に、下位者は上位者に対しては敬意を表すことが、逆に上位者は上位者として威厳をもって振舞うことが求められていると考えられる。

#### 10.4 日本語ポライトネス指導教材のあり方

Leech(2007) は、「ポライトネスに西洋と東洋の境界があるか？」について議論を行い、「境界はない」と結論付けている。彼は *Grand Strategy of Politeness* (大ポライトネス方略) を提言し、西洋と東洋のポライトネスの相違をパラメーターを用いて説明した。以下が Leech の提唱する *Grand Strategy of Politeness* である。

*Grand Strategy of Politeness: In order to be polite, S expresses or implies meanings which associates a high value with what pertains to O (O=other person(s), mainly the addressee) or associates a low value with what pertains to S (S=self, speaker). Leech (2007: 181)*

Leech の唱える *Grand Strategy of Politeness* は、アジアの言語の視点をかなり取り入れているのであるが、個々の発話行為を行う際にそれぞれの言語でどのようなポライトネス・ストラテジーを用いているかを具体的に考えてみると、この理論がどの程度普遍的であるかは不明である。

例えば、ザトラウスキーが日米の勧誘の談話の相違について見出した相違、即ち全く同じ行為が日米で丁寧、無礼と判断されるということをこの理論で如何に説明するのだろうか。具体的には、日本人は「被勧誘者(聞き手)の勧誘に対する否定的な態度が予想される限り、どんなに承諾を期待していたとしても、被勧誘者の断りの余地を残し、しかも、被勧誘者の都合を優先する方が好ましいと思わせるようにして、勧誘を進める」(ザトラウスキー(1993:183))ことが丁寧だと考えているが、アメリカ人は必ずしもそれが丁寧だとは考えていない。逆に、「断る可能性が大きいと勧誘者(話し手)が思ったとしても、被勧誘者(聞き手)の承諾する余地を残しておき、勧誘者にとっての承諾の必要性を被勧誘者に理解させる

ように会話を進める」(同上)というアメリカ人のストラテジーも、必ずしも日本人には丁寧とは映らないだろう。

本稿ではこの日本語ポライトネスの特徴を「聞き手志向のポライトネス」と呼ぶが、ここで出したデータが示すように、この日本語ポライトネスの中核と思える部分が、学習者には最も理解し難いのである。ポライトネスの西洋・東洋の境界の有無にかかわらず、日本語教育という立場からすれば、日本語学習者が少なくとも日本語ポライトネスを認識できるような教材を開発する必要がある。

## 10.5 結語

本稿では日本人にとって奇妙に思える日本語学習者の言語行動、および日本語学習者にとって奇妙に思える日本人のポライトネスを分析した。その結果は、以下のようにまとめることができる。

(1)日本人にとって奇妙に思える日本語学習者の言語行動(ポライトネス)：

1. 授受表現の誤用：学習者は聞き手による恩恵を示すことの重要性を認識していないことに起因する。
2. 下位者が上位者に対して行う遠慮のない要請：学習者は聞き手(上位者)への配慮の必要性を十分認識していないことに起因する。

(2)日本語学習者にとって奇妙に思える日本人の言語行動(ポライトネス)：

1. 上位者が下位者に対して意識的に使用した丁寧な表現：話し手(上位者)の聞き手(下位者)への気遣いに気づかなければ、丁寧すぎる又は卑屈な表現と認識される。
2. 話し手が聞き手に対する気遣いから用いる砕けた表現：話し手が聞き手に対して気遣いをして和やかな雰囲気を作るために用いる砕けた表現の使用意図を十分理解できず、誤解される。

この分析から分かるのは、日本人にとっては相手(聞き手)への気遣いとそのポライトネスにおいて重要な要素になっているが、学習者には必ずしもそのことが理解されていないという点である。近年日本人の「配慮表現」についての研究が盛んであるが、これを日本語教育に応用するには、日本語学習者は必ずしも日本人が意図したような認識をしている

わけではないことに留意して、学習者の誤解のおこりやすい場面を用いた日本語ポライトネス指導教材を開発していくことが必要であろう。



# 第 II 部

## 応用編

日本人の言語行動における

ポライトネス

—効率的な日本語ポライトネス指導法を目指して—



# 第 11 章

## 勧誘・依頼と断り

本章では、日本人と学習者の勧誘・依頼および断り方略に対する認識の相違を明らかにした上で、自然会話を素材とした効率的な日本語ポライトネス指導法を提示することを目的とする。まず、依頼・断りに関わるポライトネスに対する日本語母語話者と日本語学習者の認識のギャップを示す。次に、自然談話で用いられた日本人と中国人の勧誘・依頼および断りの方略の相違を抽出し、最後に、学習者自身が観察することで、日本人との認識および方略の相違を意識化することができるような日本語ポライトネス教授法を提示する。

### 11.1 はじめに

Brown & Levinson (1967) や Leech(1983)(2007) では、世界の様々の言語におけるポライトネスを基に、普遍的ポライトネス理論が提示された。これらは一般性を追求したという点で優れた理論であり教育への応用も可能であるが、それらの理論のみを基盤としてポライトネス指導教材を作成すると、痒いところに手が届かないような、一番肝心な部分が分かりにくい指導法になることが多い。

また、国立国語研究所(2006)においては、日本語の敬語研究から発展した日本語の丁寧さに関する調査研究が行われ、敬語形式選択の問題にとどまらず、それぞれの言語行動場面でどのような配慮をしているかにまで範囲を広げた研究が行われた。日本語のポライトネスにおいて配慮が重要な要素であることは事実なのだが、日本語の配慮は他の言語において必ずしも効果をあげるわけではなく、誤解に繋がることもしばしばである。

そこで本章では、第 I 部での日本語ポライトネスについての議論を勘案の上、日本語母語話者と日本語学習者の認識にギャップがある部分に焦点を当て、効率的な日本語ポライト



ネス指導プログラムを開発するための基礎研究を行う。日本人と学習者の断り方略に対する認識の相違を明らかにした上で、自然会話を用いた効率的な日本語ポライトネス指導法を提示していく。

## 11.2 日本語母語話者と日本語学習者の依頼・断りのポライトネスに対する認識の相違

2011 年 9 月大連外国語学院の日本語教師 6 名および修士課程の学生 24 名(全員日本語能力試験 1 級合格の中国人)に、日本語ポライトネスに関する問題に解答してもらった。この節では、その解答のうち、依頼に対する断りについての会話例 2 例の結果に基づいて、日本人と中国人のポライトネスに対する認識のギャップを示したい。

以下の会話の依頼者 A は大学院の先輩、被依頼者 B は一方が日本人後輩、他方が韓国人後輩である。<sup>24</sup>

### 会話例(1)アルバイトの依頼および断りの会話

依頼者 A ; 被依頼者 B

1A : 今度の週末にバイトしない？

2B : 何のバイトですか？

3A : あのね、\*\*女子ゴルフ大会で会場のスタッフを募集してて…

4B : スタッフ？

5A : うん、なんかデスクからいろいろ頼まれる雑用係みたいな…、どう？

6B : あ…、来週発表が一つあるんで…ちょっと厳しいですね。

7A : あ、そう…。

8B : はい…すみません、せっかく声かけてもらったのに…。

### 会話例(2)アルバイトの依頼および断りの会話

---

<sup>24</sup> 会話例(1) (2) は李奈娟(平成 19 年度日本語会話資料集収録)の収集例である。

1A : あのさ、今週末に時間ある？

2B : 为什么呢？

3A : あ、\*\*女子ゴルフ大会で通訳のバイトあるけど、しない？

4B : 誰が来るんですか？

5A : えーと、\*\*と\*\*とか。

6B : え、本当ですか？わあ、見てみたいなあ！

7B : どこであるんですか？

8A : 甘木…。

9B : 甘木って遠いんですか？

10A : んー、ここから1時間くらいかな…。

11B : えっ！すごい遠いなあ…。したいのはしたいけど、一日中はちょっと…。

12A : 無理かな？

13B : 半日ならいいけど、一日中は…。あ、他の人たちに聞いてみました？

まだなら、僕がメール回してみよう。

14A : 本当？そうしてもらえると助かる！

15B : 有難いでしょ！

この会話の被依頼者(B)について、以下のような質問に答えてもらった。

- (a) 依頼者からの恩恵を示しているのは(11)(12)のどちらの被依頼者と思いますか。
- (b) (a)の選択理由を教えてください。
- (c) 自分の都合・利益をより主張しているのはどちらの被依頼者と思いますか。
- (d) (c)の選択理由を教えてください。
- (e) 上記の答えから推測して、会話例(11)と会話例(12)の被依頼者のうち、日本人はどちらと思いますか。

(f) (e)の理由を教えてください。

以下が上記の質問への解答結果である。

CT1~6(中国人教員)CS7~30(中国人学生)

問題内容	(11)(B)と答えた人	(12)(B)と答えた人
(a) 依頼者の恩恵を示す	18 人	12 人
(b) (a)の理由	<p>CT3/CS9/CS18/CS24 謝りの言葉があるから。</p> <p>CT6/CS8/CS16/CS23/CS25/CS27/CS28/CS29/CS30 最後の一文「すみません、せっかく…」によって判断した。</p> <p>CT20/CS21 自分が用事があるって、相手からの好意に応えられなくてすまない気持ちで一杯である。</p> <p>CS26 相手の気持ちを傷つけないように断る。</p>	<p>CT1 自分も見てみたいと言 い、誘ってくれた相手に感謝 の気持ちを表したから。</p> <p>CT2/CS12 他の人たちにメ ールを回してみるから。</p> <p>CT4/CT5 本当ですか。見て みたいなあと言った。</p> <p>CS11 言い回しがもっと丁寧 な感じ。</p> <p>CS15 もっと婉曲的。</p> <p>CS17 先ず見たいという気 持ちを表した。</p> <p>CS22 有難いと言っていた。</p>
(c)自分の都合を主張	11 人	19 人
(d) (c)の理由	<p>CT1/CT2/CS13/CS18/CS22/ CS23 来週発表があるという 自分の都合をはっきり言っ たから。</p> <p>CT4 ちょっと厳しいですよ</p>	<p>CT3 話が長い。</p> <p>CT5/CS24 自分ができると と無理なことをはっきり 表明しているから。</p> <p>CS8/CS14/CS21/CS28/</p>

	<p>ね。</p> <p>CS12 自分の都合が悪いと言った。</p> <p>CS15/CS17 断り方が直接的。</p> <p>CS19 最初から最後まで言葉づかいが丁寧で、それにあまり関心を示さないみたいだからです。</p>	<p>CS29 自分の好きな選手、自分の所との距離など自分の都合・利益等を優先して主張している。</p> <p>CS9 はっきり拒否する。</p> <p>CS10/CS26 自分の都合が悪かったから断ります。</p> <p>CS12 巧みに話せるから。</p> <p>CS20 半日くらいはいいが一日中は無理と素直に言っているのでやはり自分の都合を主張している。</p>
(e)日本人	12 人	18 人
(f) (e)の理由	<p>CT6 表現と文脈によって判断。</p> <p>CS8/CS14/CS21 相手による恩恵をより優先的に示しているからです。</p> <p>CS9 より礼儀に注意する。</p> <p>CS10 より日本人らしい話し方だと思います。</p> <p>CS12 最後にせっかく声かけてもらったのに、と言った。</p> <p>CS22(12)のすごい遠いなあというのは日本人らしい言い方ではないから。</p> <p>CS26 遠まわしに断るから。</p>	<p>CT2 日本人的な発想で他人への思いやりが感じられる。</p> <p>CT3 文句が多いので。</p> <p>CT4 はっきりとした自分の意見を言わない。</p> <p>CT5 うまく断りの方略を使っているから。</p> <p>CT11 行かない理由、依頼者に何か手伝うと言ったから。</p> <p>CS15 直接に断らなかったなので。</p> <p>CS17 日本人の曖昧さが感じられる。</p> <p>CS18 相手に負担をかけな</p>

	<p>CS27 断り方もあいまいで、相手からの恩恵をもらう気持ちを表しています。</p>	<p>いように客観的な理由を述べます。</p> <p>CS19 丁寧体から普通体まで転換して、敬語の使い方がうまいと思われるので。</p> <p>CS23 終わりに自分の与えた恩恵を示した。</p> <p>CS24 日本語の使い方、断る以上依頼者のニーズに十分応えている。</p> <p>CS28(11)は距離感とぎこちなさが感じられる。(12)は親しく遠慮なく話している。</p> <p>CS29 学習者ならもっと丁寧語を話します。話し言葉を使えないからです。</p>
--	--	---

実際には(11)の(B)が日本人、(12)の(B)は韓国人であるが、(11)(B)を日本人とした回答者は12名に止まった。もちろん(11)と(12)の(A)と(B)の親しさが異なっているという理由もあるのだが、日本人は断り方略として「代案」(「あ、他の人たちに聞いてみました？まだなら、僕がメール回してみましよう。」)を使いにくいこと、日本人の断りには「謝罪」(「すみません」)がしばしば用いられることに気づいていない学習者が多いことが分かる。

さらに、日本人の配慮表現である「はい…すみません、せっかく声かけてもらったのに…」が断りを丁寧にしていることに気づいている被験者は一部に留まっていること、被依頼者自身の願望を示す発話「本当ですか？わあ、見てみたいなあ！」を依頼者からうけた恩恵を示していると判断している被験者が数多くいること等、中国人は日本人とは異なる認識をしているのである。

また、(c)自分の都合をより主張しているかどうかについても、会話例(11)(B)と答えた人が10名にものぼり、その理由(d)についても、「来週発表があるという自分の都合をはつき

り言ったから」と述べるなど、会話例(11)(B)が躊躇いがちに言った理由を、はっきり主張したと認識している学習者が 11 名もいることが分かる。

### 11.3 日本人と中国人の勧誘・依頼と断りの方略の相違

以下の会話例(3)(4)は、日本人および中国人によって行われた食事の勧誘および断りの会話例である。<sup>25</sup>

1A: お疲れー！

<sup>25</sup> 会話例(3)～(6)は坂本(2012)の収集例である。

12A : 全然いいよー。

13B : ごめーん。

14B : また今度一緒に食べよ。

15A : うん、気を付けて行ってきてね。

会話例(4)食事の誘いおよび断りの会話 勧誘者 A ; 被勧誘者 B

1A : 時間ある？

2B : 何で？

3A : ご飯食べに行こう。

4B : 約束があるから、残念だけど無理だ。

5A : 分かった。

6B : 行きたいとは思ってるけど、ごめん。

7A : うん。

会話例(5)アルバイトのシフト交替の依頼および断りの会話

依頼者 A ; 被依頼者 B

1A : \*\*さん、もしかして、来週の日曜日空いてたりしますか？

2B : ん？

3B : 来週は…んー、たしか何もないですよ。

4A : 本当ですか？

5A : もしよかったら、私どうしても用事がはいつちやって、//

6B : あー。

7A : シフト代わってもらえたりします？

8B : 何時からですか？

- 9A : 18時からラストまでなんですけど…。
- 10B : あー、本当にすみません。
- 11B : 次の日はゼミの発表当たってるから夜は徹夜でしないと…。
- 12A : そうなんですか。
- 13A : あー、全然いいですよ。
- 14B : うー。
- 15A : 他の人に聞いてみます。
- 16B : 本当にごめんなさい。

会話例(6)アルバイトのシフト交替の依頼および断りの会話

依頼者 A ; 被依頼者 B

- 1A : 明日暇？
- 2B : 明日、何で？
- 3A : バイト代わってくれる？
- 4B : えっとー。(笑)明日は無理です。
- 5A : そっか。
- 6B : 他の子に代われないか聞いてみようか？
- 7A : 本当？
- 8A : ありがとう、12時からです。

会話例(3)(5)は日本人同士の会話、会話例(4)(6)は中国人同士の会話を日本語訳したものである。(3)(4)は食事の誘いと断りの会話、(5)(6)はアルバイトのシフト交替の依頼と断りの会話である。勿論これらの会話のみで一般化はできないが、坂本(2012)が収集した 23 例の会話例の特徴を総合してみると、上記の会話例は典型的な会話例であり、日本人の誘い・依頼と断りは、中国人と比較すると、以下のような特徴をもつと考えることができる。



	日本人の特徴	中国人の特徴
勧誘者・依頼者の特徴	<p>相手への配慮の特徴：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・勧誘・依頼の前に十分に相手の都合を尋ねる。(会話(3)の 3A~8A、会話(5)の 1A~4A)</li> <li>・相手が断った時には、相手が断ったことに対して気遣わなくてよいように配慮表現を用いる。(会話(3)の 12A「全然いいよー。」「うん、気を付けて行ってきてね。」、会話例(5)の 13A「あー、全然いいですよ。」「他の人に聞いてみます。」)</li> </ul>	<p>相手への配慮の特徴：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・簡潔に勧誘・依頼する。</li> </ul> <p>相手の都合はあまり尋ねない。(会話(4)の 1A~2B、会話(6)の 1A~2B)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手が断った時にも、簡潔に答える。(会話例(4)の 5(A)「分かった。」、会話例(6)「そっか」のみ)</li> </ul>
	<p>方略上の特徴：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仮定表現や疑問文を使用して間接的に勧誘・依頼を行う。(会話例(3)の 3A「今日は学校終わり?」、4A「まだ授業ある?」、9A「もし今から何もないなら学食か…どっかでご飯食べない?」、会話例(5)の 1A「**さん、もしかして、来週の日曜日空いてたりしますか?」、4A「本当ですか?」、5A「もしよかったら、私どうしても用事がはいっちゃって」、7A「シフト代わってもらえたりします?」、9A「18 時からラストまでなんですけど…。」)</li> </ul>	<p>方略上の特徴：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・勧誘や依頼を直接表現する。(会話例(4)の 3A「ご飯食べに行こう。」、会話例(6)の 3A「バイト代わってくれる?」)</li> </ul>
被勧誘者・被依頼者	<p>相手への配慮の特徴：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・謝罪表現を用いる。(会話例(3)の 13B「ごめーん。」、会話例(4)は 2 度謝罪表現を用いる；10B「あー、本当にすみません。」、16B「本当にごめんなさい。」)</li> <li>・相手への配慮として、将来の勧誘をする。(会話例(3)の 14B「また今度一緒に食べよ。」)</li> <li>・垣根表現をしばしば用いる。(会話例(3)の 10B「あー</li> </ul>	<p>相手への配慮の特徴：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が勧誘を受けたかったことを示す。(会話例(4)の 6B「行きたいとは思ってるけど、ごめん。」)</li> <li>・相手への配慮として、自分が他の人に依頼するこ</li> </ul>

依頼者	ちょっと…」、11A「あー…」、会話例(5)の 10B「あー、…」、13A「あー、…」、14B「うー。）」	とを申し出る。(会話例(6)の 6B「他の子に代われな いか聞いてみようか?」)
特徴	<p>方略上の特徴：</p> <p>・はっきりとした断りの表現を用いなくて、ほのめかして断る。(会話例(3)の 10B「あーちょっと今から用事あって…天神いくとー…。」、会話例(5)の 11B「次の日はゼミの発表当たってるから夜は徹夜でしないと…。」)</p>	<p>方略上の特徴：</p> <p>・はっきりと断る。(会話例(4)の 4B「約束があるから、残念だけど無理だ。」、会話例(6)の 4B「えっとー。(笑)明日は無理です。」)</p>

上記にまとめたように、日本人と中国人は全く異なる談話構成上の特徴をもち、また配慮を示すのに全く異なる方略を用いる。日本語ポライトネスを指導するには、これらの相違に学習者自らが認識し、その認識に基づいて日本語ポライトネスを理解する必要があると考えられる。

#### 11.4 効率的な日本語勧誘・依頼および断りのポライトネス指導教材

この節では、先ず前節までの結果をまとめる。次に、その結果に基づき、学習者が日本人のポライトネスについて誤解をしたり、また日本人とは異なった方略を用いる可能性のある部分に焦点をあてた日本語ポライトネス指導案を示す。

第 3 節、第 4 節で、学習者が誤解する又は認識しない可能性のある日本語ポライトネスの特徴として以下の 5 点が抽出された。

1. 日本人が勧誘や依頼を行う際に先ず相手の都合を尋ねることが、勧誘や依頼を和らげるのに役立っていることを認識しない。
2. 日本人の躊躇いがちの断りを直接的と認識する、又は仄めかして行う断りを断りとは認識しない。
3. 日本人の配慮表現を配慮と認識しない。

4. 断りを丁寧に行うためには、謝罪表現が重要な要素であることを認識しない。
5. 垣根表現や言い淀み、言いさし表現等が和らげに役立っていることを認識しない。

次に、会話例(3)(4)(以下では会話例(A)(B))を用いて、上記にまとめた誤解の可能性のある特徴に焦点をあてた、日本語ポライトネス指導教材試案を提示する。紙面の都合上、解答例も下線をつけて示す。

#### 指導教材試案

次の会話(A)(B)は勧誘・断りの会話例です。それぞれの話者がどのような丁寧方略を用いているか、またどのような配慮意識をもっているかを考えてみましょう。

会話例(A) 食事の誘いおよび断りの会話      勧誘者 A；被依頼者 B

1A： お疲れー！

2B： あ、お疲れ様ー。

3A： 今日は学校終わり？

4A： まだ授業ある？

5B： 授業はもうないよ。

6A：                      あー。

7B： 今日はもう終わりー。

8A： そうなんだ。

9A： もし今から何もないなら学食か…どっかでご飯食べない？

10B： あーちょっと今から用事あって…天神いくとー…。

11A： あーそっかー。

12A： 全然いいよー。

13B： ごめーん。

14B: また今度一緒に食べよ。

15A: うん、気を付けて行ってきてね。

会話例(B) 食事の誘いおよび断りの会話 勧誘者 A; 被勧誘者 B

1A: 時間ある?

2B: 何で?

3A: ご飯食べに行こう。

4B: 約束があるから、残念だけど無理だ。

5A: 分かった。

6B: 行きたいとは思ってるけど、ごめん。

7A: うん。

(I) (1) 会話例(A)、会話例(B)それぞれにおいて、食事の勧誘が

どの発話で行われているかを答えてください。

会話例(A): 9A:もし今から何もないなら学食か…どっかでご飯食べない?

会話例(B): 3A: ご飯食べに行こう。

(2) 会話例(A)(B)の勧誘の発話にはどのような違いがありますか。

会話例(A)の場合は「もし今から何もないなら」のような条件をつけ、「学食か…どっかで」のような言いよどみ、「ご飯食べない?」というように疑問形で勧誘を行うなど、押し付けるものではなく、被勧誘者の都合を優先するという形式で勧誘を行っている。一方、会話例(B)の場合は直接に勧誘を行っている。

(3) 上記の勧誘を行う前の発話を見てください。

(a) 会話例(A)と(B)ではどのような違いがありますか。

会話例(A)では、3A「今日は学校終わり?」、4A「まだ授業ある?」、8A「そうなんだ。」と勧誘者は相手の都合を十分聞いている。一方、会話例(B)では、1A「時間ある?」と聞くだけで勧誘を始めている。

(b) またそれは何故だと思いますか。

解答はいろいろありうる。

会話例(A)では相手の都合を優先して勧誘を行うか否かを決めようとしているのに対し、会話例(B)では(勧誘は被勧誘者にとっても望ましいことだと考えて)直ぐに勧誘を行おうとしている。

- (II) (4) 会話例(A)、会話例(B)それぞれにおいて、食事の勧誘への

断りがどの発話で行われているかを答えてください。

会話例(A): 10B: あーちょっと今から用事あって… 天神いくとー…。

会話例(B): 4B: 約束があるから、残念だけど無理だ。

- (5) 会話例(A)(B)の勧誘の誘いへの断りの発話にはどのような違いがありますか。

会話例(A)では相手の面子を潰さないようにするために、「今から用事で天神に行く」ということを告げて間接的に断りを含ませる。また、「あーちょっと」のような垣根表現や言いよどみが多い。

一方会話例(B)では、「約束がある」という理由を述べて、「残念だけど無理だ」と明確に断っている。

- (6) またそれは何故だと思いますか。

解答はいろいろありえる。会話例(A)の間接的に断ることで配慮を示そうとしているのに対して、会話例(B)では直接に断ることが配慮だと考えている。

- (III) (7) 会話例(A)会話例(B)それぞれにおいて、被勧誘者が断った

後、勧誘者・被勧誘者はどのように言っていますか。

会話例(A): 勧誘者; 12A「全然いいよー。」、15A「うん、気を付けて行ってきてね。」

被勧誘者; 13B「ごめーん。」、14B「また今度一緒に食べよ。」

会話例(B): 勧誘者; 5A「分かった。」

被勧誘者; 6B「行きたいとは思ってるけど、ごめん。」

- (8) またそれは何故だと思いますか。

解答はいろいろありうる。

会話例(A): 勧誘者は被勧誘者が断ったことに対して気遣わなくていいように配慮表現を用いる。被勧誘者も謝罪と今後の約束で断ったことで相手の面子を潰さないような配慮をする。

会話例(B): 勧誘者の方は了解したことのみ伝える。被勧誘者は、謝罪を述べ本当は行きたいと答えることで相手の面子を潰さないような配慮をする。

- (IV) これまでの観察から、会話例(A)と会話例(B)では、ポライトネスについてどのような考え方の違いがあると思いますか。自分で気づいたことを書いてください。 略

この指導案の特徴は以下の通りである。

- (1) 先ず、学習者自身が日本人と中国人のポライトネスの特徴の相違を観察できるような問題を課した。(問題(1)、(3a)、(4)、(5)、(7))
- (2) 次に、どのような考え方の違いが、この相違を生み出したのかという問題を課した。この問題に答えることで、学習者は自分の文化におけるポライトネスと、日本の文化におけるポライトネスの相違を自分自身で認識することができると考えられる。(問題(2)、(3b)、(6)、(IV))

この指導案は、勧誘と断りという会話例を用いた指導案の一例に過ぎないが、今後様々の発話行為の会話例を用いることで、学習者自身が観察しながら、日本人のポライトネスの特徴を学習していくことができるような、指導教材・プログラムを作成していきたい。

## 11.5 おわりに

本論文では、日本人と学習者の勧誘・依頼および断り方略に対する認識の相違を明らかにした上で、自然会話を素材とした効率的な日本語ポライトネス指導法の試案を提示した。先ず、ポライトネスに対する日本語母語話者と日本語学習者の認識のギャップを示した。その結果、日本人の配慮表現や恩恵表現を、上級の学習者であっても正しく認識していないことが多いことが分かった。次に、自然談話で用いられた日本人と中国人の断りの方略の相違を抽出した。その結果、相手への配慮の仕方や丁寧方略に大きな相違があることが分かった。最後に、学習者自身が観察することで、日本人との認識の相違および断りの方略の相違を意識化することができるような日本語ポライトネス指導法の試案を提示した。

本章では、勧誘や依頼に対する断りの発話行為指導法の試案を出した。次章では、断りの発話行為を分析することで、実践的に役立つ日本語ポライトネス指導法を開発していきたい。

## 第 12 章

### 謝罪

#### —いつ謝罪が求められているか—

本章では、謝罪行為に関わるポライトネス指導法について論じる。謝罪は、それが必要とされる時に行われなかった場合、屈辱的とも思える程無礼に感じられることもある言語行動である。コミュニケーション・ギャップが起こりやすい「いつ謝るべきか」を中心に、日本人と学習者の謝罪に対する認識の相違を示した上で、日本人の謝罪行為の効果的指導法とは何かを考察することを目的とする。先ず、謝罪意識に関する日本語母語話者と日本語学習者の認識のギャップを示す。次に、ドラマおよび自然談話で用いられた日本人の謝罪行為の特徴を抽出し、最後に学習者自身が観察することで、日本人との認識および方略の相違を意識化することができるような日本人の謝罪行為の教授法とはどのようなものかについて考察していく。

#### 12.1 はじめに

謝罪については、普遍的な行為であるように思えるが、実際には「いつ謝罪を行うか」は文化によって大きく異なっている。ある文化で謝罪が必要と思える場面で謝罪が行われない場合、無礼と感じられることが多い。Tanaka, Spencer-Oatey and Cray (2000: 75)で述べられている以下の 2 例はこの好例である。

It was 1986, and I (Noriko Tanaka) was in Canberra, experiencing my first long stay abroad. I had bought a desk lamp, when I got back to my apartment, I found



that it was broken. I returned to the store to exchange it, and the person at the desk simply said, "I see. Do you want to exchange it?" I was shocked and felt insulted, because in Japan the person at the store would apologize profusely in such a situation. ...

On other occasion, an Australian student drove into the car of one of my Japanese friends, causing some minor damage. The next day, my friend went to the Australian's house to discuss compensation, but she was not in. Although her parents were there, they did not express any apology for what their daughter had done. My Japanese friend was shocked and offended at their behavior, feeling that Japanese parents would have apologized in that situation, and that the Australian parents were impolite and even insulting.

「卓上スタンドを買ったが、家で開けると壊れていたため、店に持って行くと『交換したい?』とだけ言われたため、無礼だと感じた。日本であれば店の人は必ず謝罪するためである。」「オーストラリア人の学生が日本人の車にぶつかり車を傷つけたが、翌日賠償の話し合いのために日本人がオーストラリア人の学生の家に行くと、当の学生はおらず、両親はいたが何の謝罪もしなかったため、その両親の態度が非常に無礼に感じられた。」というものである。

これらの例に例示されるように、ある文化で謝罪が求められている時に謝罪が行われなかった場合、屈辱的とも思える程無礼に感じられることがある。本論文では、先ず先行研究を挙げながら、異文化間の謝罪行為の認識の相違について簡単に触れる。次に、4例の謝罪場面を取り上げ、日本人の謝罪意識と謝罪行為について考えていく。最後に、ドラマおよび実際の会話において謝罪がどのように使われているのかを観察することで、日本人がどのような場合に謝罪をもとめているかについて論じ、効果的な日本人の謝罪行為に関するポライトネス指導教材とはどのようなものかについて考察していく。

## 12.2 謝罪行為の認識の相違

熊谷(1993: 8-9) は、謝罪行為の対照研究の問題について以下のように述べている。

対照研究において忘れてはならない大きな問題がある。それは、言語や文化が異なれば、謝罪すべきことがらの認定、あるいは相手との関係や状況などの把握の仕方が同じとは限らない (Wolfson, Marmor & Jones 1989) ということである。従って、たとえばある謝罪誘発状況を設定して異なる言語で調査票を作成し、各言語において回答を得ても、果たして同じものを比較したことになるのかどうか、という問題意識は常にもっていなくてはならない。

前節で挙げた Tanaka, Spencer-Oatey and Cray (2000: 75) に例証されるように、謝罪すべきことがらの認識が言語や文化で異なることは多々ある。日本人の謝罪行動におけるポライトネス指導法においては、日本人と学習者の認識の異なる部分に焦点をあてるのが効果的であると思う。

中国社会と日本社会における謝罪行為に影響を与える社会的要因を分析した彭 (1991) の結果は、日中のコミュニケーション・ギャップを考慮する上で示唆的である。彭はアンケートに基づき日中謝罪行動の相違を考察した。この結果によると、自分が間違っていないと思う場合には、日本人と中国人は同様に、二人だけでいる時と比べ大勢の人がいる時には、「自分が間違っていない」ことの主張が減り、相手との意見の対立を避けるために「沈黙行為」が多くなる。一方、自分が間違っていると思う場合には、日本人は二人でいる時も大勢の人がいる時も同様に謝罪行為を行うのに対し、中国人は二人だけの時よりも大勢の人がいる時には、謝罪行為が減り沈黙が多くなったというのである。実際には、状況次第で相違が生じると推測されるが、彭のこの結果は日中の謝罪行為の相違を考える上で示唆的である。

生越 (1993) は、謝罪に対する日韓の対照研究を行った。その結果、日本語と韓国語は類似点を示すことが多いのだが、人間関係の把握の仕方に差異があり、それが謝罪表現にも表れていることを示した。さらに、韓国では謝罪の対象となるのは他人とみなされる場合であること、謝罪を行う必要がないとされる社会的に当然と認められている行為が韓国では異なること等々を示した。日本語教育においても、これらの相違は考慮されねばならない点であると考えられる。

これらの先行研究からも分かるように、謝罪行動が必要であるか否かには文化差が大きく誤解につながることも多々あると推測される。本章では、特に誤解につながると思える場面を中心とした、謝罪に関するポライトネス指導教材とはどのようなものかについて考

察していく。

### 12.3 日本人の謝罪意識

本節では、4 例の謝罪場面を取り上げ、日本人の謝罪意識について考えていく。

まず、日本人とマレーシア人の謝罪意識の相違を明らかに示す場面(1)(2)<sup>26</sup>のアンケートおよびその結果を見てもらいたい。

場面(1) あなたは先生の家を訪問すると約束していましたが、迷ってしまい、結局 30 分くらい遅れてしまいました。

a) あなたは先生に謝るべきだと感じますか。

非常に感じる      4   3   2   1   全然感じない

日本人平均   3.84 (16 中 3 位)   マレーシア人平均   3.50(16 中 11 位)

b) あなたは先生にすまないことをしたと感じますか。

非常に感じる      4   3   2   1   全然感じない

日本人平均   3.61 (16 中 3 位)   マレーシア人平均   3.13(16 中 12 位)

c) あなたは先生に対してどのように言いますか。

あなた：(解答例)本当に申し訳ありません。道に迷ってしまっ 30 分も遅れてしまいました。お待たせしてすみませんでした。

この例は日本人とマレーシア人の意識の差がはっきりと出た例である。日本人では先生の家への訪問が 30 分も遅れてしまったことに対して、謝るべきという意識、すまないことをしたという意識の順位が何れも高いのに対して、マレーシア人では順位はあまり高くない。また、謝罪表現については、日本人では「すみません」「申し訳ありません」という敬意の高い明確な謝罪表現(全体の 96%)や「本当に」「たいへん」という強めの副詞表現を用いて謝っている。友人に対しても明確な謝罪が行われるが、「ごめんなさい」「ごめん」

---

<sup>26</sup> 場面(1)(2)のアンケートおよびその結果はク モハマド ナビル(2005)より引用した。

がほぼ 100%を占めているという違いがある。一方マレーシア人では、友人に対しては“Sori” が 30%程度は出てくるが、多くは友人に対しても、先生に対しても同様に“Minta Maaf” という謝罪表現を用いる。

この理由についてクモハマド ナビル(2005)は、日本人は「相手優先」の謝罪行動をとり、「相手との関係修復」「相手への尊敬」が重要な機能であるのに対し、マレーシア人は「被害状況優先」の謝罪行動をとり、「関係修復」の機能しかもたないためだとしている。第 10 章でも論じたが、相手志向という日本語ポライトネスの特徴から考えれば、場面(1)のような状況で謝罪表現を用いない場合、無礼(impolite)と感じられることもあるであろう。これから考えると「被害状況優先」の学習者に対しては、「相手優先」の謝罪行動の重要性を早い段階に教授しておく必要があるだろう。

場面(2) 親友からお金(2 万円)を貸してくれと頼まりましたが、あなたはちょうどお金を使う用があるため貸すことができません。

a) あなたは親友に謝るべきだと感じますか。

非常に感じる      4   3   2   1   全然感じない

日本人平均 2.27 (16 中 15 位)   マレーシア人平均 3.81(16 中 3 位)

b) あなたは親友にすまないことをしたと感じますか。

非常に感じる      4   3   2   1   全然感じない

日本人平均 2.11 (16 中 14 位)   マレーシア人平均 3.81(16 中 2 位)

c) あなたは親友に対してどのように言いますか。

あなた：(解答例)ごめんなさい。今もっているお金は直ぐに・・・に支払わなくてはならないので、ちょっと貸せないんだけど。明日でいいならどうにかなると  
思うから、どうしても必要なら連絡して。

日本人は謝るべきと感じる順位も、すまないことをしたと感じる順位もあまり高くないのに対して、マレーシア人ではかなり高かった。また、謝罪表現の使用頻度についても、日本人は 75.5%であったのに対し、マレーシア人では 98%と略 100%に近かった。

これはお金の貸し借りに対する考え方の相違から来ていると推測される。マレーシア人においては、親友がお金に困っているのだから貸してあげなくてはと考えるのであろう。一方日本人の場合、通常は親友に迷惑をかけてはならないとの配慮から、財布を落としたなどの緊急の場合を除いて、親友にお金を借りることは少ない。緊急に必要なとの状況であることを示す場合を除けば、やはり謝罪意識は低いだろう。

次に、日本人と中国人<sup>27</sup>の謝罪意識の相違を示す場面を見ていく。場面(3)(4)は、自分に非がない場合に怒っている客や上司に謝るかどうかについての調査である。

場面(3) あなたはある航空会社のカスタマーサポートセンターで働いています。ある男性客から電話があり、予約した航空券がまだ届かないと苦情を言われました。配達申込書を調べてみると、その客は明日の朝に配送を指定しています。しかし、彼はちょっと怒ったような口調で言います。

客：昨日お宅で航空券を予約して、今朝届けてもらうことになっていたのに、もう 1 時ですよ。一体どうなっているんですか。

- a) あなたはその客に謝るべきだと感じますか。
- b) あなたはその客が誤解していることを伝えますか。
- c) あなたはその客に対してどのように言いますか。

あなた：(解答例)大変失礼致しました。昨日ご予約を承った時は明日の朝とお聞きしているようなのですが、もしお急ぎであれば今から配送させていただいても宜しいでしょうか。

a)のアンケート結果では、日本人 36 名中 33 名が謝罪をしていることから考えて、日本人は謝罪をすること、また客を宥めることが必要な場面だと考えていると言える。フォローアップインタビューでも『お客様が間違っていてもとりあえず謝る』というように謝罪だけはする必要があると感じている日本人が多かった。

b)のアンケート結果については、このように明らかに客側が誤解している場合でも、客側

---

<sup>27</sup> 場面(3)(4)アンケートおよびその結果は、張碩(2007)より引用した。

の要請を明確に断っている人はいなかった。36 名中 16 名は、客の誤解を伝えながら客自身にその要請を取り下げるよう仕向けようとしたが、その他 20 名については、何らかのやり方で客の(誤解に基づく)要請に答えようとしていた。

36 名中 2 名は『申し訳ありません。今からお届けに参ってもよろしいでしょうか』と客側の非を全く伝えないまま配送をするというものだった。また 9 名についても「こちらの手違い」で本日配送されなかったと、客側の非を会社側が引き受けて配送するというものだった。さらに 4 名は客の誤解は承知の上、謝罪を行った後『確認する』と伝え、会社側で何らかの対処法を考えるというものだった。何らかの形で客の誤解を伝えている 21 名の内 5 名は相手の誤解であることを伝えた上で、急ぎの場合は本日中に配送すると提案している。残りの 16 名のみが、客自身が明日の朝の配送を指定していることを伝えた後、客自身が要請を取り下げるよう仕向けた。

被験者 36 名中 34 名は社会人であることを考えると、日本社会においては、販売者側はできる限り客の意に沿うような対応をしようとしていると言えるだろう。客と販売者は同等と考える社会の出身者からすれば、このような場面におけるポライトネスに対する認識は全く異なっていると考えられ、コミュニケーション・ギャップがおこりやすい場面であろう。

場面(4) あなたと上司は別々の取引先を回ってきてから、A 社と一緒に訪問することになりました。二人は A 社の近くの駅で会ってから一緒に行くことにしていましたが、上司は時間通りに来ませんでした。携帯電話で連絡したら、上司はバス停だと思い込んでそこで待っていることが分かりました。彼はちょっと怒ったような口調で言います。

上司：バス停で待ち合わせることにしていたじゃないか。もう 15 分も待ったぞ。

- a) あなたは上司に謝るべきだと感じますか。
- b) あなたは上司が誤解していることを伝えますか。
- c) あなたは上司に対してどのように言いますか。

あなた：(解答例)すみません。待ち合わせ場所を駅と勘違いしていたようです。

a)のアンケート結果については、謝罪をしているのは 36 名中 32 名であり、相手に非が

あると分かっている、上司であれば謝罪するというのが通常の行動であると言える。

b)の結果についても、このように明らかに上司が誤解している場合、親しい上司の場合であっても、上司が誤解しているとはっきり主張する部下はいなかった。36名中4名は、謝罪はせず上司が誤解しているのではないかという質問『駅で待ち合わせるはずではありませんでしたか?』をすることで間接的に上司自身に誤解を認めてもらおうとした。しかし、その他32名は、謝罪をしながら自らが誤解していたと述べている。32名中18名は『申し訳ありません。待ち合わせ場所を勘違いして、遅くなりました。』のように謝罪をして自分の誤解を認めた。その他14名については、『申し訳ありません。駅ではなかったですかね?』のように謝罪をした後、間接的に上司自身が誤解している可能性もあることを仄めかしているが、自ら誤解を認めた発言であり、上司が『いや、バス停だよ。』と言えば、『そうでしたよね。すみません。』と答えるしかない。

場面(4)も、場面(3)と同様、コミュニケーション・ギャップのおこりやすい場面だと言える。被験者36名中34名は、上司が誤解していることは分かっているながらも、謝罪をし、自らに非があるような行動をした。それでも多くは『すみません』という謝罪のみですましていることが多いこと、『待ち合わせ場所を駅だと勘違いして…』のように、上司の誤解の可能性もあることを仄めかしていることには注目すべきである。露骨に非難することはできないが、間接的に上司の誤解の可能性を示唆しているのである。このような場面で、謝罪を行わない、上司を非難するという行為をとれば、日本人には無礼な行動と解釈されるだろう。

## 12.4 自然会話およびドラマに見られる日本人の謝罪とポライトネス

前節では、日本人の謝罪の内、上司と部下、教師と学生、客とサービス業者のように、日本においては上下関係がはっきりしている対話者間の謝罪が、学習者とは異なることが示された。この節では、前節で述べられたような上下関係が明らかな場合の下立場にある日本人の謝罪と、さらに日本では監督する立場にあると考えられる上立場にある人物の謝罪(例えば Tanaka, Spencer-Oatey and Cray (2000: 75)の2番目の例における親の謝罪)を取り上げながら、日本人が謝罪を如何に行うかについて考察していく。テレビ場面2例<sup>28</sup>、実際の会話1例<sup>29</sup>を取り上げながら、日本人の謝罪についての設問を作り、それに答

---

<sup>28</sup> 場面(5)(6)は黄士瑩(2002)より引用した会話例である。

えていくという形で、日本人の謝罪に関わるポライトネスの指導案を提示していく。

場面(5) ドラマ：『明日があるさ』第4回

登場人物：浜田(男性・30代)、橋本部長(男性・50代)、本部長(男性・50代)

場所：本部長室

場面：ゴールデンラーメンのオーナーと浜田の部下である藤井の間に衝突が起こる。それが原因でオーナーは浜田の会社との契約にサインしないと言い、しかも藤井のことを馬鹿だと罵ったため、浜田は憤慨しオーナーを殴ろうとする。そのため、浜田と上司の橋本部長が本部長に呼び出される。

浜田：(両手を体の前で握って 90 度のお辞儀をして)すみませんでした。(3 秒くらい頭を下げたまま)

本部長：(怒った様子で)先方から交渉中止の連絡が入ったぞ。

橋本部長：(両手を体の前で握って、軽く頭を下げ、うつむいたまま)申し訳ございません。私の監督不行き届きでございます。

設問<sup>30</sup>：

a) 浜田は何故オーナーを殴ろうとしたのでしょうか。

いくら取引の相手とは言え、自分の部下を馬鹿呼ばわりすることには耐えられなかったため。

b) この会話における謝罪を 2 つ抜き出して下さい。

1 浜田：(両手を体の前で握って 90 度のお辞儀をして)すみませんでした。(3 秒くらい頭を下げたまま)

2 橋本部長：(両手を体の前で握って、軽く頭を下げ、うつむいたまま)申し訳ござい

---

<sup>29</sup> 場面(7)は胡便男(2010)より引用した会話例である。

<sup>30</sup> 紙面の都合上解答例を下線で示す。



ません。私の監督不行き届きでございます。

c) 浜田は何故謝罪しているのですか。

自分のためにゴールデンラーメンとの交渉が中止になり会社に迷惑をかけたため。

d) 橋本部長は何故謝罪しているのですか。

橋本部長自身が言っているように、部下のミスは上司の監督不行き届きであり、上司にも責任があるとみなされるため。

e) 橋本部長は謝罪すべきだと思いますか。また、それは何故ですか。

通常の日本人部長の場合、このような場合にも謝罪を行う。その理由としては、d)で述べたように、日本の企業の場合、部下のミスは直接の上司の監督不行き届きとされる上司も謝罪することが少なくない。日本の場合は集団意識が強く、上司も連帯責任を感じ、部下と一緒に謝る。そうすることで、部下との連帯感を強めることもできる。

この内、学習者にとって理解しにくいのは部長の謝罪であろう。浜田については、自分自身の行動のために会社に迷惑をかけており、謝罪の理由は分かりやすい。しかし、日本以外の多くの社会では、このように直接の上司と一緒に謝罪することは少ないと考えられる。黄士瑩(2002)は、台湾では部下の責任であり上司と一緒に謝罪をすることは少ないと述べている。この場合の直接の上司の謝罪は、日本語のポライトネスにおいて必要なものであることを、学習者には十分説明する必要があるであろう。

#### 場面(6) ドラマ：『嫁はミツボシ』第6回

登場人物：みゆき(女性・24歳)、安原(男性・20代)

場所：みゆきの家

場面：安原がみゆきの家を覗いていたので、みゆきは安原を怪しげな人物だと誤解して、  
安原の手をつかみ大声で叫ぶ。実は、安原はみゆきの義理の姉の同僚である。

みゆき：(真剣そうな顔で両手をついて頭を下げながら)本当に失礼いたしました。

設問：

a) みゆきはどのようなやり方で謝罪していますか。

(真剣そうな顔で両手をついて頭を下げながら)「本当に失礼いたしました。」と言ってかなり丁寧に謝罪している。

b) また、それはどの程度の謝罪でしょうか、5段階で評価してください。

全く申し訳ないとは思っていない 1 2 3 4 ⑤ 非常に申し訳ないと思っている

c) b) の評価をしたのは何故ですか。

真剣な顔をして畳に両手をついて深々と頭を下げて謝罪するというのは、一番高い敬意を表わす謝罪の仕方であるから。

d) 何故みゆきはこのような謝罪をしたのでしょうか。

1) 先ず安原のことを不審者と誤解して大声で叫ぶという無礼な行動をしたから。

2) 次にその安原が義理の姉という気遣いすべき人物の同僚であったため。

この1)2)の理由が重なったため最も丁寧な形式の謝罪を行った。

e) あなたの国では、このような場面ではどのような行動をすると思いますか。もし、日本人の行動と異なる場合は何故ですか。自由に書いてください。

(略) 答えはいろいろありうる。

少しずつ変わりつつあるが、やはり日本社会においては、嫁は家の中で低い立場にある。この場合、この低い立場にある嫁が上の立場にある義理の姉(小姑)の知人を不審人物と誤解するという無礼な行動をとったため、深い謝罪をしているのである。義理の姉の知人を不審人物と誤解して無礼な態度をとるということは、義理の姉自身に対しても無礼な態度をとることに繋がるためである。このように日本語ポライトネスと上下関係に関連した謝罪行為については、文化的説明も加えながら説明していく必要があるであろう。

場面(7) 日本語自然会話における謝罪の用法

対話者： C: 客、S: 販売員

交渉場所：A デパートアクセサリー売り場

場面：購入したアクセサリーがイタリア製という証書が付いていないため、返品しようとする交渉の談話

1C これ保証書付いているんですか？

2S 保証書はですね。

3C ええ。

4S ゴールドカードの方にお付けいたします。

5C あら、さっき、あのう、男性の店員さんに聞いたら、

6C 保証書付いているって言ったんですけど。

7S ああ、はい。

8S あのう、ゴールドカードの方にお付けいたしますので

9C 保証書は付いてないんですか？

10C イタリア製という。

11S イタリア製という保証書は...

12C 保証書は付いてないの？

13S ええと、少々お待ちいただけませんか？

(30 秒後)

14S 大変お待たせいたしました。

15S ええとですね。

16S イタリア製ということは間違いない、ないんですけれども...。

17C 間違いないって言っても保証書付いてなきゃわかんないじゃないの？

18S そうですね。

19S でも、あのう、

20S ああ、どうも、申し訳ございません。

21S あのう、修理保証書サービスはお付けするんですけれども。

22S 特に、お客様に一点一点がイタリア製である保証書はお付けしておりませんが、

23S でも、これは正真正銘の、

24C 知りません、私。

25S はい。

26S あのう、イタリアから直輸入しております。

27S またですね、

28S あのう、そのう、まま、この輸入の、証明の証、そういったあのうインボイス、  
ういったものもちちゃんと証明でございますので、

29S イタリア製というのはもう間違いございません。

30C 保証書ついてないんだったらいりません。

31C 返金してください。

32S はい。

33S わかりました。

34S 申し訳ございませんでした。

設問：

a) この会話における謝罪文を抜き出してください。

1)20S ああ、どうも、申し訳ございません。

2)34S 申し訳ございませんでした。

何れもS販売員が「申し訳ございません」という敬意を表す謝罪形式を用いている。

b) C 客と S 販売員ではどちらの立場が上だと思いますか。

C 客の方が S 販売員より立場が上

c) C 客と S 販売員の丁寧さのレベルについて観察してみてください。客と販売員のどちらが丁寧ですか。それはどこから分かりますか。具体的に書いてください。

・ S 販売員の方が C 客よりかなり丁寧である。

理由：

(1) C 客のきつい言い方での質問にもまた要求にも、丁寧に対応している。

1. 先ず客の、「5C あら、さっき、あのう、男性の店員さんに聞いたら、保証書付いて  
いるって言ったんですけど。」に対しても、販売員は「7S ああ、はい。あのう、ゴ  
ールドカードの方にお付けいたしますので。」と、丁寧に対応している。さらに、  
客の「12C 保証書は付いてないの？」という普通体を使つての厳しい質問に対しても、  
「13S ええと、少々お待ちいただけますか？」「14C 大変お待たせいたしました  
した」と丁寧に対応している。

さらに、客の「24C 知りません、私。」や「30C 保証書ついてないんだったらいり  
ません。」「31C 返金してください。」という、かなりきつい主張や要求について  
も、販売員は「25S はい。」「32S はい。」「33S わかりました。」「34S 申し訳  
ございませんでした。」と、終始丁寧な返答「はい」と謝罪を交えながら対応して  
いるので。

2. S 販売員は以下のような敬意のレベルの高い形式を使っている。

(1) 「申し訳ございません」という謝罪表現を 2 回使っている。

(2) 「お...する」という謙譲語・尊敬語を繰り返し使っている。

4S ゴールドカードの方にお付けいたします。

13S ええと、少々お待ちいただけますか？

14S 大変お待たせいたしました。

21S あのう、修理保証書サービスはお付けするんですけれども。

26S あのう、イタリアから直輸入しております。

28S あのう、そのう、まま、この輸入の、証明の証、そういったあのうインボイス、

そういったものもちやんと証明でございますので、

29S イタリア製というのはもう間違いございません。

- d) あなたの国のデパートで同様のことが起こった場合、客および販売員は同様の方略を  
使いますか。使わない場合はどのような方略を使いますか。具体的に書いてください。

1) 使う

2) 使わない

3) 場合による

2)または 3)と答えた場合、あなたの国ではどのような方略を使うかを自由に書いてください。

(略)答えはいろいろありうる。

客と販売員の上下関係は明らかである。このような実際の具体例を観察することで、学習者は、日本社会における客と販売員の関係、さらには謝罪行為と日本語ポライトネスとの関係について、自分自身で認識できると考えられる。

## 12.5 おわりに

本章では、日本人と学習者の謝罪に対する認識の相違を明らかにした上で、ドラマおよび自然会話を素材とした日本人の謝罪行為に関連したポライトネス指導法の試案を提示した。先ず、日本人とオーストラリア人、マレーシア人、中国人の謝罪に対する意識の相違を示した。その結果、以下のような状況で、日本人とオーストラリア人、マレーシア人、中国人の謝罪意識には相違が見られるため、誤解につながる可能性があることを示した。

(1)日本では、上司と部下、客と販売者、先生と学生のような上下関係がある場合に、下位の人は、上位の人を宥めるために謝罪を行うことがある。

(2)日本では、部下や(成人の)子供の不始末に対して、監督不行き届きという理由で、上司や親が謝罪することがある。

次に、謝罪行為を含むドラマや実際の会話の場面を用いて、(1)上下関係が明らかな場合の下立場にある日本人の謝罪と、さらに(2)監督する立場にあると考えられる上の立場にある人物の謝罪を取り上げながら、謝罪行為に見られる日本人のポライトネスについて考察していった。



## 第 13 章

### 褒め

#### —肯定的評価か否定的評価か—

本章では、褒めに関わるポライトネスについて論じる。褒めとは「相手を肯定的に評価する言語行動」であるが、褒める対象、褒め方、褒めの機能、褒めへの反応は文化によって異なることも多く、しばしば誤解を生じる。この章では、先ず日本人の褒めの例を挙げながら、褒めのポライトネスに関連する文化差について考えていく。次に、誤解される可能性の大きい日本人の褒めについて考察していく。

##### 13.1 はじめに

褒めとは「相手を肯定的に評価する言語行動」であるが、褒める対象、褒め方、褒めの機能、褒めへの反応は文化により異なることが多く、取分け異文化コミュニケーションにおいては誤解に繋がることも多い行為の一つである。ハーラ・マハムド(2011: 4)は、日本人の褒めがアラブ社会ではバーバル・ハラスメントとされる可能性がある例として以下の経験を挙げている。

エジプトにある大手企業に日本人とエジプト人の通訳として勤務していた時、ある会議で日本人側のリーダーがエジプト側のリーダーたちの前で挨拶をした。日本側リーダーは「〇〇会社のエンジニアの努力と〇〇会社の美人で上手な通訳者のおかげでこのプロジェクトが成功しました。」という挨拶をし、通訳者の私を困らせたことがある。

エジプトでは身内でない女性を褒めるのはバーバル・ハラスメントに近い発言と思われる。女性が身内でない男性に先天的なことを他人の前で褒められることは、周りを気



まずい雰囲気にしてしまう行為である。

この章では、褒めの定義および先行研究を概観した後、先ず ハーラ・マハムード(同上)を中心に、日本人の褒めの例を挙げながら、褒めに関連する文化差とポライトネスとの関係について論じていく。次に、日本人は褒めているつもりだが、誤解される可能性の大きい褒めについて考察していく。

### 13.2 褒めは肯定的評価か否定的評価か？

Holmes (1986: 485) は「褒め」を以下のように定義している。

A compliment is a speech act which explicitly or implicitly attributes credit to someone other than the speaker, usually the person addressed, for some 'good' (possession, characteristic, skill, etc.) which is positively valued by the speaker and the hearer.

上記の定義にも述べられているように、褒めは肯定的評価を表す言語行動であるが、それが肯定的解釈をうけるか否定的解釈をうけるかは、話し手と聞き手の関係、コンテキスト、文化によって異なる。Holmes (1995: 121) は、状況によって褒めは以下のような異なる機能を表すとしている。

1. to express solidarity;
2. to express positive evaluation, admiration, appreciation or praise;
3. to express envy or desire for hearer's possessions;
4. as verbal harassment.

どのようなコンテキストで、1・2の肯定的解釈をうけ、3・4の否定的解釈をうけるかには文化差が大きい。教育という観点からすれば、その相違に焦点をあてることが肝要であろう。

Brown and Levinson (1987: 243) は、ある社会にはエトスと呼ばれる「ある社会の構成員に特徴的な相互行為上の情緒的な特質」があり、「暖かく、のんびりした、人なつこい」エトスの社会もあれば、「堅苦しく、形式的で、慇懃な」エトスの社会もあると述べている。そのため、文化によって FTA (面子を脅かす行為) とみなされる行為は異なっており、日本のように恩義に敏感な文化とイギリスやアメリカ合衆国のようにさほど敏感ではない文化では、様々の言語行動の解釈が異なるとしている (同上: 247)。褒めもその一つと考えられ、肯定的か否定的かという解釈の違いで誤解を生むことも多々ある。それ故、誤解に繋がる可能性のある褒めには予め注意しておく必要があるだろう。

川口・蒲谷・坂本 (1996) は、日本語の褒めを「表現意図」という観点から「実質ほめ」(心から高い評価を表現したいときのほめ) と「形式ほめ」(褒めること以外の別の表現意図のために行う褒め) に分けた。しかし、山路 (2003: 5) が論じるように、「心からであるということと、別の表現意図があるということは別に考えるべき問題であろう。心から褒めつつ会話のきっかけを作ろうとすることは十分ありうる。」日本語教育という観点からすれば、「実質褒め」「形式褒め」に分けるよりも、日本人の褒めが誤解される可能性の高い褒め、学習者に理解しにくい褒めに焦点を当てるのが得策であろう。

### 13.3 日本人の褒めは肯定的評価をうけるか、否定的評価をうけるか？

#### 日本人と褒めとポライトネス

褒めについての評価は文化によって大きく異なることがある。以下は日本人がエジプト人を褒めた例である<sup>31</sup>。何れも日本人が日常的に褒める内容であるが、この中にはエジプト人が嬉しいと感じた褒めと、不快に感じた褒めがある。それはどれであろうか、また何故そのような区別がおこるのであろうか。

(1) 30 代のエジプト人女性が、近所の 40 代の日本人女性を招いて一緒に食事をした。その日本人女性は「とても美味しい。お料理上手ね。作り方教えて。」と褒めた。

(2) 30 代のエジプト人女性が自転車に自分の子供 2 人を乗せて保育園まで行っていた。近所の 30 代の日本人女性が、自転車の前の籠に乗っている子供を見て、「あっ、かわいい！

---

<sup>31</sup> この節の褒めおよびその解釈は全てアブド エラジム(同上) より引用したものである。

大きくなったね。」と褒めた。

(3) 40代のエジプト人男性が研究でいい成果を出したとき、先生から「すごいね。よく頑張ったね。」と褒められた。

(4) 20代のエジプト人女性が綺麗な服で職場に行った時、先輩の日本人女性に「おしゃれ！」と褒められた。

(5) 30代のエジプト人男性が30代の日本人男性と一緒に歩きながらある看板を探していた。エジプト人が先に見つけて「あそこでしょう、…と書いている。」と言ったら、「おお、目がいいねえ。」と褒められた。

(6) 20代のエジプト人女性が30代の大学の先輩の日本人男性に、スカーフと服を合わせるセンスを褒められた。

(7) 20代のエジプト人女性が20代の日本人女性に、「わ、目がきれいで大きい。睫毛が長い。いいな。」と褒められた。

(8) 20代のエジプト人女性が、日本のホームステイ先で、その家の日本人の娘からエジプトから持ってきたパジャマをとて褒められた。

ハーラ・マハムード (2011)によると、エジプト人が嬉しいと思った褒めは(1)(3)(4)(6)である。(1)は料理、(3)は研究、(4)はおしゃれ、(6)はスカーフと服の組み合わせのセンスと、何れも努力の結果を褒められたものである。これらの褒めはエジプトなどアラブ系の人たちに受け入れられやすい褒めである。(1)は料理であり、一生懸命作った料理を褒められるのは嬉しかったと答えている。(3)は上の立場にある先生から努力を褒められた場合であり、素直に嬉しいとされている。しかし、立場が下の人から同様の褒めをうけると邪視や嫉妬の心配があってあまりいい気持ちではないという。(4)も女性が女性に軽くおしゃれを褒められるのは好まれる。(6)も(4)と同様スカーフと服の色の組み合わせのセンスを軽く褒める例であり、好まれる。

一方、エジプト人が嬉しくなかった褒めは(2)(5)(7)(8)である。これらの例のうち、(2)は子供のかわいらしさ、(5)は視力のよさ、(7)は目の大きさやまつ毛の長さのように、先天的外見や生得的能力を褒められた場合であり、このような褒めはアラブ系の人たちには好まれない。また、(7)のように持ち物を強く褒められた場合「それ程褒めるのは欲しいという意味だろうから、あげなければ失礼であるし、また他人が欲しがっているものを着るわけ

にはいかない」と考え、その持ち物を褒めた人にあげたという。このようにお金、財産、持ち物を褒められるのもアラブ系の人たちには嫌がられることが多い。

ハーラ・マハムード (2011)の説明によると、肯定的に解釈される褒めは邪視や嫉妬につながらないものであるのに対し、否定的に解釈される褒めは先天的外見や能力であり嫉妬につながるものである。ここで注目すべきは、日本人にとって肯定的評価の「褒め」は必ずしも肯定的解釈をうけるわけではなく、否定的に解釈されることもあるという点である。即ち、日本人がポライトネスのつもりで行った褒めが、ハラスメントになることもあるのである。多文化共生を目指して日本語教育をしていくためには、教師側はこれらの解釈の相違を十分に理解しておくと同時に、日本人にとっての褒めの評価を誤解のないように伝える必要があるであろう。

### 13.4 理解されにくい日本人の褒め

本節では、ドラマや小説の例を用いて、誤解されやすい日本人の褒めについて教授する方法を考えていく。

以下の例 (9)(10)<sup>32</sup> は映画『しゃべれどもしゃべれども』の中の会話である。設問を解きながら、三つ葉や師匠がどのような気持ちでこの発話をしているかを考えることで、日本人の褒めについて考えていく。

#### 会話例(9)

対話者：三つ葉：一人前の落語家の資格をとれていない見習い落語家

十河：三つ葉の開く落語教室の生徒、三つ葉と同世代の女性

場面：三つ葉と十河が二人でほうずき市に出かける。三つ葉が初めて十河の美しい浴衣姿を見た場面

1 三つ葉：…へえ。

2 十河：なによ。

---

<sup>32</sup> 会話例(9)(10)は、映画『しゃべれどもしゃべれども』を教材化した徐燕(2012)より引用したものである。

3 三つ葉：着れば下手な縫い目も分かんないな。

．．．

うまいこと着られているよ。

設問：

a) 三つ葉はどういう気持ちで「着れば下手な縫い目も分かんないな。」という発話をしたのでしょうか。

十河の浴衣姿がとても綺麗だったのでそれを褒めるつもりで下線部の発話をした。実際言いたかった内容は「とてもうまく着られている」「浴衣姿がとても綺麗だ」ということである。<sup>33</sup>

b) では何故三つ葉はこのような言い方をしたのでしょうか。

三つ葉がこのような言い方をした理由としては以下の 2 点が考えられる。

(1) 気恥ずかしいためである。三つ葉も十河も相手のことが気になり始めているが未だ完全には打ち解けていない状況である。そのような時に自分の気持ちを素直に伝えるのは取り分け日本人男性にとっては難しい。

(2) このような場合あまりに率直に褒めると逆に言葉が軽くなってしまい真意が通じなくなる可能性がある。からかわれていると誤解される場合もある。

c) もしあなたが三つ葉だったら、このような場面でどう言いますか。

略(答えはいろいろありうる。文化差がはっきりと表れる場面である。日本文化とそれぞれの文化との差を調査すると面白い結果がでる可能性がある。)

会話例(10)

対話者：三つ葉：一人前の落語家の資格をとれていない見習い落語家

師匠：三つ葉の落語の師匠

場面：三つ葉が落語『火焰太鼓』をうまく話し終わった後の場面。師匠は三つ葉の落語をじっと聞いていた。

---

<sup>33</sup> 紙面の都合上、解答例を下線で示す。

1 師匠：なんだ、お前、酒が入ってた方が出来がいいんじゃないか。

2 三つ葉：はい。

3 師匠：お前しかできない『火焰太鼓』あったろうが。賭けなんかするんじゃないか。

1 万損したよ。下手な鉄砲も数撃ちゃ当たる。当たり外れは風任せかあ？

設問：

a) 師匠はどういう気持ちで「なんだ、お前、酒が入ってた方が出来がいいんじゃないか。」という発話をしたのでしょうか。

師匠はこの発話をする事で三つ葉の『火焰太鼓』を褒めている。本当は、師匠は三つ葉の落語が上達したことを嬉しいと思い「腕を挙げた」と言いたいのだが、三つ葉には「今回の成功はたまたま酒を飲んでいたため」のように言うことで、これからも益々稽古を積んで上達してもらいたいと思っている。

b) 何故師匠は「お前しかできない『火焰太鼓』あったろうが。」と言った後に「下手な鉄砲も数撃ちゃ当たる。当たり外れは風任せかあ？」と付け加えたのでしょうか。

「お前しかできない『火焰太鼓』あったろうが。」と言うことで、三つ葉の落語を直接に褒めてしまったため、「下手な鉄砲も数撃ちゃ当たる。当たり外れは風任せかあ？」と加えることで、この成功は「偶然」だと言って、これでいい気にならず稽古を続けてもらいたいと願う師匠の「親心」を伝えるためである。

c) あなたの国で褒めにくいと思われる場合がありますか。それはどんな時ですか。具体的に書いてください。

略(答えはいろいろありうる。a)b)と同様に文化差が出る部分だと思えるので、調査すると面白い結果がでる可能性がある。)

会話例(9)(10)のような褒めは、学習者には理解しにくいものである。日本人は何故このような褒めを使うのであろうか。以下率直に褒めた故に誤解された例と、一見褒めたようには見えないが褒めに成功している例を挙げることで、日本人の褒めの意識について考えていく<sup>34</sup>。

---

<sup>34</sup> (11)(12)は山路(2003)(2009)より引用した例である。何れも文学作品よりの引用例である。

(11) (「ぼく」と「黒川礼子」は同級生である)

ぼくは、心の中でそうつぶやきながら、小さなグラスを手にする礼子の横顔を見ていた。

「黒川さんて、ほんと、綺麗だね。頭も抜群だし、怖いものなしだね」

礼子はちらりとぼくを見ていった。

「だから、なんだっての？」

「誉めただけだよ。人の誉めを素直に受け取ってくれよ」

(山田詠美「僕は勉強ができない」)

(12) (女性刑事の「彼女」が被害者の「おれ」の家を訪ねてきた)

グレーのスーツの下から伸びるふくらはぎが、微妙にゆれつつ、狭い玄関を上がってくる。綺麗な脚をしていると、変な意味でなく見とれた。

彼女がおれの視線に気付いた。目をそらしたりするのが嫌で、そのまま脚を見ていた。

「何見てんの」

「折れねえのかよ、脚」

「え…」

「そんなに細くて、刑事ってのは走ったり飛んだりするんだろ、よく折れねえな」

「嬉しい、脚をほめられるなんて滅多にないの」

「べつにほめたわけじゃねえよ」

(天童荒太「孤独の歌声」)

設問：

a) (11)と(12)の下線部のうち、率直に褒めているのはどちらですか、また率直ではないが褒めになっているのはどちらですか。

率直な褒め：(11)      率直でない褒め：(12)

b) (11)と(12)のどちらが、相手に褒めを受け入れてもらっていますか。

## (12)

c) (11)と(12)の褒めが成功または失敗した理由を説明してください。

(11) 「ぼく」は正直に黒川のことを「綺麗、頭も抜群、怖いものなし」と思っているわけであるが、これほどストレートに褒め言葉を並べ立てると何か裏があると誤解されてしまうことが多い。そのため、何か裏があると思った黒川から「だから、なんだっての」と言われてしまい、褒めに失敗してしまう。

(12) この例の場合も「おれ」は女性刑事が「とても綺麗な細い脚をしている」と思っている。しかし、それをそのままストレートに述べると、セクシュアル・ハラスメントと誤解されてしまうだろう。ここでは一見貶めているように思える「折れねえのかよ、脚」という表現を使うことで、逆に褒めに成功しているのである。それ故、女性刑事も「嬉しい、脚を褒められるなんて滅多にないの」と素直に喜ぶことができている。

d) 率直に褒めているのに褒めに失敗した例、逆に率直ではないが褒めに成功した例があれば書いてください。自分自身が相手を褒めた場合でも、相手に褒められた場合でも、また小説、映画、マンガ等で見聞きした例でもいいです。

略(解答はいろいろありうる。この解答も発展的に利用することができる。)

何れも若い男性から女性への褒めの例であるが、会話例(11)は失敗した例、会話例(12)は成功した例である。もちろん必ずしもこのような結果になるとは限らないが、会話例(9)で述べたように、取り分け若い日本人男性の場合、気恥ずかしさから、また誤解につながることを恐れて、外見上は褒めとは思えない表現で褒めを行うこともあることはこのような例を用いて知らせておく必要があると思う。

## 13.5 おわりに

本節では、日本人と学習者の解釈が異なる可能性のある褒めを中心に具体例を挙げながら論じていった。Holmes(1995: 121) は、褒めは 1 結束、2 肯定的評価、感嘆、称赞または賛美、3 妬みおよび聞き手の所有物が欲しいこと、4 言葉でのハラスメント、という異なる機能を表すとしている。一般に肯定的評価と考えられている褒めが、実際には異文化間で用いられると 3 や 4 のように否定的に評価されることも多い。即ち、ポライトネスのつも



りで行った褒めが、逆に無礼(impolite)に感じられることもある。この節では、日本人の行う褒めの中で誤解に繋がる可能性のあるものを中心に論じていった。

先ず、日本人がよく行う褒めを挙げながらそれが別の文化(エジプト人)の人々にどのように解釈される可能性があるのかを示した。取り分け邪視・妬みを引き起こすかどうかを中心に論じていった。このことは、多くの日本人にとっては認識されていない褒めの否定的評価であるが、多文化共生の観点から日本語教育を行おうとすれば、避けては通ることができない項目だろう。

次に、一見褒めとは思えないために、学習者には誤解を受けやすい日本人の褒めについて、ドラマおよび小説の例を挙げて、設問を加え、それに答えるという形式で論じていった。そこで挙げた例は、褒めというラベルを貼ることはできないため、日本語教育においては取り上げられることの少ない褒めである。しかし、より深い交流を目指して異文化理解教育を行うためには、これらの褒め、またそれによって達成されるポライトネスについて指導することも必要であろう。

# 第 14 章

## 不平・不満・不同意表明

### —丁寧に否定的評価を伝える—

本章では、相手の面子を傷つけることが多いため、学習者にとって最も困難な行為の一つである不平・不満・不同意の表明におけるポライトネスについて論じていく。まず、アンケートの形式を取りながら、日本人がどのようなポライトネス・ストラテジーを用いて不平・不満を表明するかについて考えていく。次に、実際の会話において日本人がどのようなやり方で不同意を表明するかについて観察・分析することで、日本人の不同意表明について考察していく。

#### 14.1 反対意見表明・否定的評価についての先行研究

梶本(2004)は、ロールプレイを用いて、親しい同性の友人同士の会話における提案への反対表明の方略について考察を行った。その結果、提案に対する反対には「目的達成」と「対人関係配慮」の2つの指向性があり、それぞれに異なった方略が存在し、日本語母語話者はそれらの方略を工夫して用いることで反対表明を行っていることを論じた。この研究は「目的達成」と「対人関係配慮」という2つの指向性を明らかにすることで、日本人の反対表明の仕方の傾向を示すことができた点で優れているが、ロールプレイというデータ収集方法を用いたために、様々の要因が存在する実際の会話で同様の方略が使われるかどうかは不明である。

杉本(2002)は職場でのフォーマルな場面とインフォーマルな場面の自然談話における不同意の発話連鎖について考察を行った。その結果、「否定・反論」に続く発話連鎖として、「質問・応答」が10例、「反論・納得」が2例、「反論・確認」が3例であるのに対して、

「反論・反論」は 1 例しか見られなかったことから、日本人は反論に徹することを避ける傾向があることを示した。大まかな傾向としては、この議論は当てはまるのであるが、現実の場面でどのように反対意見を表明するのか、またはしてはいけないのか、ということは明らかにされておらず、教育現場に生かすことは難しい。

反対意見表明や否定的評価については談話完成テストやロールプレイ、また討論場面を用いて日本語と他の言語の対照研究が数多く行われてきた。Beebe *et al.*(1990) は談話完成テストを日本人英語学習者に対して用いて拒否の方略を調査した。Ikoma and Shimura (1994) はアメリカ人日本語学習者と日本語母語話者の拒否の方略を比較するのにやはり談話完成テストを用いた。村田 (1996) は複数の状況設定を行い、日本人とアメリカ人に対して談話完成テストでの調査を行った。李善雅 (2000) は討論場面における日本人と韓国人の反対意見表明の仕方を対照させた。また、黄 (2009) は日本と台湾のテレビドラマを用いて、意見不一致の場面での対処の方法を分析した。これらの研究は、異文化における大まかな相違をつかむことができるため有用ではあるが、それぞれの行動の動機になっている考え方の違いまで議論した研究は少ないため、そのままでは日本語教育には利用しにくい。次節では、不平・不満表明場面を例として、日本の文化と自らの文化との相違を認識しながら、日本語で適切に不平・不満を表明する方法を学ぶためのタスクを、解答例を加えながら提示する。

## 14.2 不平・不満表明とポライトネス<sup>35</sup>

以下 2 つの場面設定と不平不満の会話例についての設問に答えていくことで、日本人の不平・不満表明におけるポライトネスとは何かについて考えていく。

(1)あなたは友達 3 人と一緒にレストランで食事をしています。出された料理を見ると、スープの中に蠅が浮かんでいます。それを見てあなたは次のようにいいます。

「うわー、こんなもの食べられない。蠅が入ってるじゃないの。」

設問

---

<sup>35</sup> この節における場面設定およびアンケート結果は Matsumura(1991)より引用したものである。また紙面の都合上、解答例を下線で示す。

a) あなたが行った行動、言った言葉は適切だと思いますか。

1 適切     2 不適切

b) 2 を選択した場合、それは何故ですか。

(1)ここで先ず必要なのは蠅の入ったスープを取り換えてもらうことである。ところが、ここで使われている表現は「蠅が入っているから食べられない」ということを友達 3 人に伝えているのみであり、先ず必要なことを行うのには適していない。

(2)次に伝え方の問題である。店側に伝えるとしたら、「スープを取り換える」ということを、その場に相応しいよう丁寧に伝える必要がある。

(3)最後に友達 3 人への気遣いが足りない点である。これでは楽しい筈の外での食事が台無しになってしまう。友達の楽しい気持ちをできるだけ壊さないように、スープを取り換えるよう店に伝えた方がいい。

c) もしあなたが日本でこのような経験をしたら、どのように行動しますか、どのように言いますか。

(1)先ず、ウェイトレスを呼んで伝える。

(2)スープの皿(の蠅)を見せながら「すみません、ちょっと、これ食べられませんけど…。」と言って反応を待つ。それでも気づかないようであれば、ウェイトレスに直接「あの、蠅が入っているんですが、取り換えてもらえませんか？」と言う。

● 外の相手に対しては丁寧体(デスマス体)を使うのが基本

● 依頼については、「暗示」(単に見せるだけで相手自身に気づかせる)や「取り替えてもらえませんか」のように間接的依頼を行う。

● 謝罪、垣根表現(ちょっと、あの)、言いさし(食べられませんけど…)を使いながら和らげる。

(3)友達 3 人が不快にならないように、和らげて伝える。

d) もしあなたがあなたの母国や他の国でこのような経験をしたら、どのように行動しますか、どのように言いますか。

答えはいろいろありうる。その答えを基にして、日本人と学習者の母国での反応の違いについて話し合う。アメリカ人 4 名へのアンケートでは 4 名中 1 名のみが、”Could I

please have a new set?” という間接的依頼を行ったが、他は”I would probably make a joke of it initially ...” や、” Could you please take it away and bring me some flyless soup?” “I won’t eat any meat I didn’t pay for.” のように冗談を込めてスープの皿を取り替えてもらうよう指示した。そうすることで、その場の雰囲気や和ませるというのが、多くのアメリカ人のとるポライトネス・ストラテジー(丁寧戦略)だった。

e) これと同様の経験をしたことがありますか。もしあれば書いてください。

略(答えはいろいろありうる。それぞれのエピソードに基づいて議論する。)

(2) 友達があなたや他の友達を数名夕食に招待してくれました。皆よく知っている友達です。あなたがスープを飲もうとすると、その中に蠅が浮かんでいるのを見つけました。あなたは言います。

「あの一、スープ別のに取り替えてもらえる？」

設問：

a) あなたが行った行動、言った言葉は適切だと思いますか。

1 適切      ☒ 2 不適切

b) 2 を選択した場合、それは何故ですか。

相手に夕食に招待してもらうというのは、招待される側にとっては光栄なことであり、招待してくれた人の手間や時間を考え、不平不満はできる限り言葉にしないというのが普通の反応である。上記の行動は許されないわけではないが、招待してくれた友人を批判するという含みも出てくるため、慎重にした方がよい。

c) もしあなたが日本でこのような経験をしたら、どのように行動しますか、どのように言いますか。

何も言わず、相手に気づかれないようにスープを飲まないようにする。方法はその場の状況次第。相手がスープの蠅に気づいたら、多分「ごめんねえ。直ぐ取り換えてくるから。」のように言うだろうから、手数をかけないように自分で皿を持っていく。

d) もしあなたがあなたの母国や他の国でこのような経験をしたら、どのように行動しますか、どのように言いますか。

答えはいろいろありうる。その答えを基にして、日本人と学習者の母国での反応の違いについて話し合う。日本人とアメリカ人へのインタビューの結果は同様であった。どちらも“I wouldn’t say anything, but I wouldn’t eat anymore.”や “I would find some inconspicuous way of not eating it.”のように、何も言わず食べない方法を探すというものであった。アメリカ人の中にはジョークを言うというものもあった。

e) これと同様の経験をしたことがありますか。もしあれば書いてください。

略(答えはいろいろありうる。それぞれのエピソードに基づいて議論する。)

上記の解答例に見られるように、日本人とアメリカ人については、会話例(2)については同様の結果であった。しかし、会話例(1)については、日本人とアメリカ人は異なる行動をとっている。蠅が入ったスープは飲めないので取り替えてもらわなくてはならないという点はどちらも同様であるが、日本人ではソトの場面で疎の関係にあるウェイトレスに対して取るべきフォーマルな形式での依頼を用いてその目的を達成しようとしているのに対して、アメリカ人の場合は一緒に食事をしている友人たちとの楽しい雰囲気をつくるだけ壊さないようにするため冗談を交えて依頼をしている。即ち、不平・不満を述べる際のポライトネス・ストラテジーが日本人とアメリカ人では全く異なるのである。他の文化の国々では、また異なる方策をとると考えられるので、何故そのような行動をとるのかについても、学習者自身に自己分析させることで、日本人の行動を理解していくような教授法が求められているだろう。

### 14.3 コミュニケーション・ギャップが起こりやすい日本人の否定的評価

第2節ではアンケートに基づく会話例を基に、日本人の不平・不満表明教授を目指したタスク例を示した。上記の(1)(2)のように文化差が明らかな場合もあるが、実際の会話においては、日本人の否定的評価や不同意は分かりにくいものも多い。そのため、異文化間のコミュニケーションにおいては、コミュニケーション・ギャップが起こりやすい。そもそも、否定的評価の談話にはどのような特徴があるのであろうか。

実際の会話における肯定的評価と否定的評価の相違を会話分析によって明らかにしたものに Pomerantz (1984) がある。彼女はアメリカ英語会話における評価を分析し、評価が肯定的な場合は、遅れもポーズもなくはっきりと述べるのに対して、否定的評価は潜在的

衝突や面子をつぶすのを最小限に食い止めるために次のような方策を講じることを示した。

- (1) delay: responses follow silences and gaps, within a turn or between turns;
- (2) repair: request for a clarification or a repeat;
- (3) hesitation markers or fillers (*uh, well, e::r*);
- (4) prefaces: markers that preface the response (*sure, but, let me see, sorta, kinda*);
- (5) token agreements: response framed as partial agreement followed by an assessment that modifies or downgrades it.

日本語においても同様のことが言える。「あの一」「まー」等は明らかに(3)の躊躇いを表す表現であり、否定的評価によく用いられる。また Matsumoto (1985) が論じたように、「ちょっと」は英語の *sorta* や *kinda* と同様の機能をもつ。

Miller (2000) は、日本人とアメリカ人の勤務する職場での実際の会話を録音・分析することで、通常は見過ごされている否定的評価に関する誤解を明らかにした。以下はその例の一つである(同上: 246-47)。この会話では、アメリカ人のコピーライターE(Ember)と彼の日本人の同僚N(Nakada)が、Ember が英語で広告文を書いた広告を評価している。Nakada は営業課の幹部であり、Ember よりもより権威をもっている。

- 1 E I mean yuh can see through it right
- 2 you don't have to use your imagination you can
- 3 see every little thing so-(it's?) right
- 4 (it?) plays off of the-the visual
- 5 (leaves?) nothing <<wh> to the imagination>
- 6 (0.5)
- 7 N (.hss) is that so?
- 8 (0.2)

- 9 N idea is cl-very clear to me [now]
- 10 E [no:w]
- 11 N this video can do everything=
- 12 E =do everything
- 13 (0.8)
- 14 N but too much pitch for the vi(hihi)sual
- 15 E too (hihi) much? [no no no no]
- 16 N [too much visual] no?
- 17 E no(.) no I don't think so
- 18 (0.2)
- 19 N {smacks lips} (.hhh) maybe
- 20 E (maybe?)
- 21 N ye[ahh]
- 22 E [I thin] I think it's okay

Miller (2000: 247) は、この会話について次のような説明を加える。Ember が 1-5 で説明を行い、Nakada はそれに対して評価はせずに 6 で沈黙、さらに 7 で息を吸い込んだ摩擦音、そして “Is that so?” と言って修復を始める。9-11 で若干の同意をした後、14 で否定的評価を行う。これはまさに、Pomerantz(1984)で提示された否定的評価の好例である。しかし、このような場面でも誤解は生じるのである。Miller によれば、この誤解は以下の 2 つの理由による。まず、この会話の終わりに Nakada はこの広告コピーについてもう少し “think about”(考えておく)と言う。「考えておきましょう」というのは日本語では否定的評価なのだが、Ember はそれに気づかず、数日後このコピーが外されたと聞いて驚いたというのである。また、もう 1 つの誤解は、この 2 人がどういう種類の役割を果たしているかについてのものだという。Miller が後で聞き取りをしたところ、Ember の方はこの話し合いは彼がその広告に対する自分の考えを説明するためのものだと考えていたが、Nakada の方は、この話し合いは上司である彼自身が部下である Ember に、どのコピーが採用され、



どれが不採用になったかを伝えるものと考えていた。このような企業内における日本人とアメリカ人の風習の違いが誤解につながったというのである。

王萌(2010)は日本人と中国人の不同意表明を含む自然会話を対照分析した。以下では、王萌(2010)の会話例 4 例(日本人の会話例 2 例と中国人の会話例 2 例)および『男性のことば・職場編』の日本人会話例 1 例を使って日本人の不同意表明の方法を学ぶタスク例を示す。このタスクを解きながら、日本人の不同意表明の特徴を示していく<sup>36</sup>。

会話例(3) 同じ寮の学生同士が寮祭で流す曲について話し合っている。

対話者：A:24 歳男性学部 4 年、B:25 歳男性修士 2 年

1A: おれ、あれがいい、# #<sup>37</sup>(曲の名前の一部)何だっけー？

2B: あれ、歌だし、ちょっと微妙ー。

3A: うそー。あれ、おれ、好きやってんけど…。

4B: (沈黙)(3 秒)

会話例(4) サークルの部長と部員が卒業生の送別会の演目について話し合っている

対話者：A:19 歳女性学部 1 年・サークル部員、B:19 歳女性学部 2 年・サークル部長、C:19 歳女性学部 1 年・サークル部員

1 A: 私、さっき、あの歌を歌おうと言いたかったんだけど

2 B: 第九

3 A: 最後、最後だから// みんな歌うべきだよ。

4 C: // へえ？ あの曲もう聞き飽きた。

設問：

---

<sup>36</sup> 会話例(3)～(6)は全て王萌(2010)より引用した自然会話例である。紙面の都合上解答例を下線部で示す。

<sup>37</sup> # は聞き取れなかった部分を表す。

- a) 会話例(3)と会話例(4)のうちどちらが日本人の会話だと思いますか。

会話例(3)、会話例(4)

また、それは何故ですか。

会話例(4)でははっきりと「あの曲もう聞き飽きた」と反対理由を明示しているのに対し、  
会話例(3)では、間接的に反対意見を述べているため。

- b) 会話例(3)、会話例(4)で、不同意を表明している発話を抜き出してください。

会話例(3)

2B: あれ、歌だし、ちょっと微妙ー。

4B: (沈黙)(3秒)

会話例(4)

4 C: // へえ？ あの曲もう聞き飽きた。

- c) 会話例(3)、会話例(4)はどのような方略を使って不同意を表明していますか。

会話例(3)

(2B)では「歌である」という指摘をしてやめた方がいいということを含ませ、次に「微妙」という間接的に不同意を含ませる表現を使って不同意を表明している。しかし、Aが、「あの歌が好きだ」ということを述べたため、これ以上不同意を表明できず、(3)で沈黙してしまう。

会話例(4)

(3A)「最後、最後だから// みんな歌うべきだよ。」と言われたが、(4 C)で、「へえ？あの曲もう聞き飽きた。」とはっきりと不同意を表明している。

- d) 会話例(3)または会話例(4)はどのようなやり方で不同意の発話を和らげようとしていますか。

会話例(3)では、(2B)では「歌である」という指摘をしてやめた方がいいということを間接的に含ませ和らげている。また、「微妙」という間接的に不同意を含ませる表現を使って不同意を和らげて表現している。さらに「ちょっと」というような緩和表現を用いて

和らげている。このように和らげても相手が意見を変えないため、最後には不同意表明を諦め、これ以上不同意を表明できず、(4B)で沈黙する。

会話例(4)の場合は、親しい友達同士の場合、率直に不同意を示す方がよいと考え、率直に意見を述べている。

e) サークルなどの親しい人同士の話し合いを思い出してみてください。会話例(3)、会話例(4)のどちらの方略を使っていましたか。もしあなたなら、どのように言いますか。

略(答えはいろいろありうる。出た答えを用いて不同意表明の文化差について議論する。)

会話例(5)親しい学生同士の買い物の場面での会話

対話者：A:24 歳女性修士 2 年、B:24 歳女性学部 4 年

1 A: すごい、これ見て、すごくない？

2 B: うん、(沈黙 2 秒)きれい。

3 A: これいくら？

4 B: 安いですねー。

5 A: 二千元だし、こう見てるだけで楽しいね。

6 B: そうそう、高級感があるんですけど…

7 A: いや、これちょっと見てるだけで、いいー。

8 B: うん。

9 A: 白もある、すごい！

10 B: きれいー。

会話例(6)親しい学生同士の買い物の場面での会話

対話者：A:21 歳女性学部 3 年、B:22 歳女性学部 3 年、C:21 歳女性学部 3 年

1 A: うわ、このズボンがいい、ちょっとお金足りないなあ。もし足りなかったら、ちょっと貸してね。これ…

2 B: 子供っぽい。

3 C: ここは全部結びだよ。

設問：

a) 会話例(5)と会話例(6)のうちどちらが日本人の会話だと思いますか。

会話例(5)、会話例(6)

また、それは何故ですか。

会話例(6)では直接的に不同意を表明しているのに対し、会話例(5)では友達が選んだものに直接的に不同意は示さず、言葉少なに評価したり、沈黙したりして、間接的に不同意を表明しているため。

b) 会話例(5)、会話例(6)で、不同意を表明している発話を抜き出してください。

会話例(5)

2 B: うん、(沈黙 2 秒)きれい↓

6 B: そうそう、高級感があるんですけど…

8 B: うん。

10B: きれいー↓

会話例(6)

2 B: 子供っぽい。

3 C: ここは全部結びだよ。

c) 会話例(5)、会話例(6)はどのような方略を使って不同意を表明していますか。

会話例(5)

「うん」「きれい↓」「きれいー↓」のように最低限の同意を示したり、「そうそう、高級感があるんですけど…」のように表面的な同意を示したり、沈黙したりして、間接的に不同意を含ませている。

会話例(6)

何れも明示的に不同意を表明している。

- d) 会話例(5)または会話例(6)はどのようなやり方で不同意の発話を和らげようとしていますか。

日本人の会話である会話例(5)の場合は、(c)で述べたように、最低限の同意のみを示したり、「…けど」のような表現を加えることで同意が表面的であることを示し間接的に不同意を含ませたり、沈黙することで自分の不同意を表明しない等の方法で、不同意の発話を和らげようとしている。仄めかしながら反対意見を表明しても、友達がどうしても意見を変えない場合は、友達が自分自身で選択したことには、それ以上不同意を表明せずに同意をするのが丁寧と考えている。一方、中国人の会話である会話例(6)では、友達には率直に不同意を表明してあげるの方が重要だと考えている。

- e) 親しい友達同士で買い物に行った場面を思い出してみてください。会話例(5)、会話例(6)のどちらの方略を使っていましたか。もしあなたなら、どのように言いますか。

略(答えはいろいろありうる。出された場面を用いて、議論を進めていく。)

- f) 上記の会話が家族(例えば兄弟姉妹)で行われているとしたら、どう言いますか？ 友達の場合と異なりますか。

日本人の場合、上の状況が家族(例えば兄弟姉妹)で起こった場合には、率直に不同意を表明することが多い。もちろん最終的には兄弟姉妹の選択に任せるが、友達と比べると不同意は表明しやすい。ウチ(兄弟姉妹)・ソト(友達)の判断が関係していると考えられる。

Pomerantz (1984) はアメリカ英語会話についての観察から否定的評価は潜在的衝突や面子をつぶすのを最小限に食い止めるために様々の方策を講じることを示した。日本人も同様の方策を講じるのであるが、実際の会話を分析すると、日本人の場合は会話例(3)や(5)に見られるように、反対の理由を示したり、間接的に反対を含ませる表現を用いたり、また緩和表現を用いて、間接的に反対を示そうとするが、それでも相手が意見を変えない場合は、最後には反対表明を諦めて沈黙するということも多い。どこまで自分の意見を押し通そうとするかという所には大きな文化差があると考えられる。これらの例に見られるような個人の趣味に関わるような内容の場合、日本人はあまり自分の意見を押し通そうとはしないことが多い。

会話例(3)～(6)は友人同士の会話であったため相手との上下関係はないが、上下関係があ

る場合は、また異なる事情が関わってくる。Miller の例は上下関係がある場合であり、上の立場にある人物の下した否定的評価を、下の立場にある人物が反対意見を表明することで覆することができるかどうかに関する日本人とアメリカ人の考え方の相違がコミュニケーション・ギャップを生み出している。会話例(7)<sup>38</sup>は、職場での上下関係のある対話者間の不同意表明である。設問に答えることで、日本人の下の立場にある人物の対応の仕方の特徴を観察してみる。

会話例(7)取引先の請求書について話し合っている

対話者：A: 24 歳会社員女性、B: 50 歳購入課次長

1 B: ちょいとさー。

2 A: はい。

3 B: 手数料かけちゃうけどー、直接電話しちゃってよ。

4 A: はい。

5 B: これ、間違っているといっちゃうとー、悪いもん。

6 A: あっ、これー、じゃ、もう、なんにも言わないとー、来月からこのまんまー、#できちゃ、てしまう…

設問：

a) 話者 A と話者 B ではどちらが上位だと思いますか。

話者 A、話者 B

b) また a)の答えの理由は何故ですか。

話者 B は終始普通体を用いており、しかも「ちょいとさー」「いっちゃうとー」「悪いもん」のように俗語も交えて話しており上位と考えられる。一方話者 A は、この会話では丁寧体はでていないが、終始「はい」という形式ばった返事をしており下位だと考えられる。

---

<sup>38</sup> 会話例(7) は『男性のことば・職場編』より引用したものである。

c) 話者 B の発話は普通体ですか、丁寧体ですか。

普通体、丁寧体

d) 話者 A の発話 6 はどのようなことを伝えようとしているのですか。

話者 B が取引先の請求書が間違っているということはできないと言っているので、それに対して「言わなければならない」という反対意見を伝えようとしている。

e) 話者 A はどのような方略を使って不同意を表明していますか。

話者 A は「あっ、これ一、じゃ、もう」と言いよどみ、最後に「…てしまう…」と不同意を言いさして終えている。そのため話者 A の不同意は曖昧にしか伝えられていない。そのため、話者 B の「言わないままにしておく」という意見がそのまま通ってしまうことが予想される。

f) もしあなたが職場の上司に不同意を表明するとしたら、どのような方略を使いますか。

答えはいろいろありうる。上司との関係や、話者自身の立場、それによって生じる不利益の程度などによって、どのようにするかが決まってくると考えられる。いろいろな状況を出しながら、どのようにするかを具体的に話し合う。

この例に見られるように、明らかに上司の決定は問題であることは分かっているが、部下ははっきりとはそれを伝えてはいない。下の地位にある者は、かなり気を遣いながら反対意見を表明することが求められていることが分かる。

## 14.4 おわりに

相手に対する否定的評価を配慮して伝える方法は文化によって異なることが多く、異文化の人々にとって理解が難しいため無礼(impolite)になりやすい行為の一つである。異文化の人々が同じ企業の中で働くことが多くなってきている現在、異なる文化における否定的評価のポライトネスについて理解することは、多文化共生社会をつくるためには必要不可欠のことであるだろう。

# 第 15 章

## 感謝を表明すべきか否か

感謝行為は、一見するとどの文化においても同様に行われる普遍的な行為であるように思える。しかし、どういう場面でどういう相手に感謝を表出するかについてはかなりの文化差があり、感謝が求められている場合に感謝を表出しなかったために無礼(*impolite*)な人だと思われることもあれば、逆に感謝をし過ぎたため他人行儀(*too polite*)であると思われることもある。この章では先ず、日本人がどういう場面で感謝を期待しており、そのような場面で感謝が行われなかった場合どのように感じられるのかについて学んでいく。次に、学習者が理解しにくい日本人の感謝表現を挙げながら、日本人にとって感謝という行為はどのような認識をもって行われているのかについて考察し、日本語の感謝行為とポライトネスとの関係について論じていく。

### 15.1 感謝の表明の要不要とポライトネス

安 (2005) は、アンケートを用いて日本語・中国語・朝鮮語における感謝表現の対照分析を行った。その結果、感謝表現の使用が最も少ないのは三カ国全てにおいて親に対してであること、日本人ほど漢民族・朝鮮族では詫びの表現を感謝には用いていないこと、また三カ国とも相手があまり親しくない場合には詫びの表現を多用していることが分かった。この研究では三カ国における感謝表現使用の量的相違を示すにとどまっており、参考にはなるが、そのまま学習者へのタスクとすることは難しい。

大崎 (1998) は、日韓の対人意識を対照させ、日本では「親しき仲に礼儀」であるが、韓国では「親しき仲に迷惑」という認識の相違があると述べている。即ち、日本人は親しくなっても相手に迷惑をかけないのが礼儀であると考えているのに対して、韓国人は親しくなる



うとする時にはわざと迷惑をかけようとするというのである。後の節で述べるが、学習者が収集した違和感のある日本語ポライトネスの場面の中には、この親しい人に対する例が含まれていた。感謝の要不要が日本人と韓国人で全く逆であり、日本語教育においては、日本人の認識についての説明も含めて教えていく必要があるであろう。

三宅(1994)は、感謝表現の日英対照を行った。異文化間の感謝の言語行動には相違があり、その相違は言語が話される文化・社会の規範や価値観が反映しているとして、日本人とイギリス人に対してアンケート調査を行った。場面評価を分析した結果、日本人は相手の負担に注目し、詫びの気持ちをもつことが多いのに対して、イギリス人は相手の好意に注目して、感謝の気持ちをもつことが多いという傾向があると述べた。さらに、場面心理の結果を言語表現の使い分けの結果と関連させて論じ、「感謝する」という現象は日英両方に見られるが、「借り」の有無や大小に対する考え方、相手との上下・親疎関係、話し手の性などの要素が作用し合って言語行動の違いを表出していると結論づけた。感謝が要不要を論じる際には、相手の好意に注目するか又は負担に注目するか、「借り」の有無等が重要な要因になると考えられる。

## 15.2 日本人の感謝行為と認識

この節では、ディヌーシャ(2012)の例を用いて、日本人がどのような時に感謝を期待し、また感謝に対してどのような認識をしているかについて考えていく<sup>39</sup>。

場面(1) A氏が友人Bに自分の妻が作った料理を持って帰ってもらったこと。

A氏は家を訪問してきた友人Bに、家族で食べるようにとA氏の妻が作った料理を持って帰ってもらったが、帰宅後B夫妻からはお礼の連絡はなかった。

設問：

a) もしあなたがこの場面の友人Bだったとしたらどうしますか。

1. 何もしない

---

<sup>39</sup> この節の場面(1)～(3)はディヌーシャ ティランガニー ランプクピティヤ(2012)で出された場面を少し修正して引用したものである。紙面の都合上解答例を下線で示した。

2. A 氏に会う機会があったらお礼をする

3. 帰宅または食事の後、自分自身か妻のどちらかが A にお礼の連絡をする

4. その他

(具体的に： \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_)

b) また a) のようにするのは何故ですか。

A 夫妻は B 氏が訪問してくれたので、訪問出来なかった B 氏の家族にも手作りの料理を食べてもらおうと思って一生懸命料理を作って持って帰ってもらったという状況である。故に、もし私が B 氏または B 氏の妻であったとすれば、A 夫妻の心遣いに感謝し、料理を作ってくれた A 氏の妻の苦労をねぎらうために、お礼・感謝の連絡をするだろうと思う。

c) もしあなたがこの場面の A 氏だったら B 氏に対してどのように感じますか。

(複数回答可)

1. 自分の妻が作った料理を美味しく食べてもらったかどうか気になる

2. 連絡してこない B 夫妻は少し失礼だと感じる

3. B 氏に対して良いことをしたと満足する

4. このような場合に連絡をもらうことはないので、何とも思わない

5. その他

(具体的に： \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_)

d) また c) のように答えたのは何故ですか。

a)b) で述べたように、通常の日本人であれば、帰宅後お礼の連絡をすると考えられるため、何も連絡してこない場合は、「自分の妻が作った料理に問題があったのではないか」「B 氏は無事に家に帰ったのだろうか」と心配する。「連絡しないと A 夫妻が心配する

だろう」ということが予想されるため、もし何の理由もなく連絡してこない場合には、少し失礼だと感じる。

e) これと同様の経験をしたことがありますか。あれば書いてください。

感謝をするか否かは、文化や世代によっても異なる。場面(1)の場合、年配者では必ず感謝の連絡をするが、若い世代ではまた異なる行動をとることもある。文化や世代による違いがあれば、何故そうなのかについて議論する。

場面(2) 依頼されて試験勉強を手伝ったこと。

Aさんは、大学のテスト期間中に、チューターをしてあげている留学生 Bさんに「教えてもらいたいことがある」というメールをもらい、軽い気持ちで依頼を承諾した。ところが行ってみると、Bさんの質問は30分後にある試験の内容に関するかなり難しいものであり、Aさんは30分間一生懸命教えたがうまく説明できなかった。Bさんは、Aさんが自分自身の試験勉強の時間を割いてわざわざBさんのために出てきたにも関わらず、きちんと感謝しないどころか不満そうだった。

設問：

a) もしあなたがこの場面のBさんだったとしたらどうしますか。

1. Aさんがうまく説明できなかったので不満をいう

2. わざわざ来てくれたのでAさんに感謝する

3. Aさんの説明は分からなかったので別の人に聞く

4. その他

(具体的に：もともと試験直前にチューターを呼び出して試験の内容を教えてもらおうとはしない。)

b) またa)のようにするのは何故ですか。

「もともと試験直前にチューターを呼び出して試験の内容を教えてもらおうとはしない」というのが通常の日本人の行動だと考えられる。その理由は、試験の勉強は本来は自分自身でするものであり、Aさん自身も試験期間中で自分の勉強をしなければなら  
ないのだから、Aさんの試験勉強の時間を割くようなことはできないと思うからである。

A さんが出てきてくれる場合には、どのようなことを聞くかを事前に伝え、もしうまく説明できなかったとしても、A さんが試験期間中にもかかわらず自分の時間を割いてわざわざ出てきてくれたことに対して感謝する。

- c) もしあなたがこの場面の A さんだったら B さんに対してどのように感じますか。(複数回答可)

1. B さんは少し失礼だと思う

2. B さんに自分の努力を評価してもらいたい

3. 自分の説明が悪かったのだから、B さんの反応は当然だと思う

4. その他

(具体的に： \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_)

- d) また c) のように答えたのは何故ですか。

a)b) で述べたように、日本ではこのような場合相手の事情に配慮して呼び出さないというのが通常の行動である。このような状況で B さんに呼び出されてわざわざ出て行ったら、B さんには少なくとも貴重な時間を割いて出て行ったことだけは評価してもらいたいと思うし、また B さんが自分の努力を評価せず不満を述べるなら、やはり少し失礼だと感じる。

- e) これと同様の経験をしたことがありますか。あれば書いてください。

ディヌーシャ(2011)は、実際この経験をした日本人学生へのインタビュー結果から、日本人が感謝表現をどのように認識しているかを論じている。この場面において、日本人と留学生の感謝に対する認識が異なるように、異なった文化では異なった認識をしている可能性がある。授業の中で同様の経験を話してもらうことで、感謝とは何かについて議論していく。

場面(3) 友達が落としていった財布を渡す

A さんは友達の B さんが電車で財布を落としていったので、それを拾って B さんのとこ

ろに持って行ってあげました。Bさんは感謝の言葉もなく、その財布を受け取りました。

設問：

a) もしあなたがこの場面の B さんだったとしたらどうしますか。

1. 友達なので感謝の言葉は言わずに受け取る
- ☒ 2. 大事な財布を拾ってくれたので感謝の言葉言って受け取る
3. その他

(具体的に： \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_)

b) また a) のようにするのは何故ですか。

財布はとても大事なものだし、もし A さんに拾ってもらわなかったら財布を無くしてしまうことになり、とても困るので A さんには一方ならない恩義を感じるため。もちろん、単なる感謝の言葉だけではすむものではないが、財布を受け取る時には深く感謝し、今後気を付けることを加える。

c) もしあなたがこの場面の A さんだったら B さんに対してどのように感じますか。(複数回答可)

- ☒ 1. B さんに感謝の言葉言ってもらいたい
- ☒ 2. 感謝の言葉言わない B さんは失礼だと思う
3. B さんは友達だから感謝の言葉言わないのは当然だと思う
- ☒ 4. B さんが何故感謝の言葉言わないのか理解できない
5. その他

(具体的に： \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_)

d) また c) のように答えたのは何故ですか。

a)b)で述べたように通常はいくら感謝してもしきれないくらいの恩義を感じて、深く感謝する。それが当然だと思っている状況で、感謝の言葉が全くなかったとしたら、やはり少し失礼だと思うし、また何故感謝しないかを理解することはできない。

e) これと同様の経験をしたことがありますか。あれば書いてください。

場面(1)(2)と同様に、経験を話してもらって、それを基に議論していく。

\*場面(1)～(3)とは異なるが、非常に親しい間がらで感謝をするか否かは文化間でかなり異なっている。よく出される例は「夫婦の間でプレゼントをもらった時に感謝表現を用いるか否か」という違いがある。日本では必ず感謝表現を用いるが、文化によっては用いないところも多い。これについて話し合ってみるのもおもしろい。

場面(1)(2)では、三宅(1994)で述べられているように、日本人が相手の負担に注目するという点が際立つ例である。相手の負担（場面(1)では長い時間をかけて食事を作ったこと、場面(2)では自分も忙しいにも関わらずわざわざ出てきてくれたこと）に注目し、相手に恩義を感じるため、感謝表現を必ず用いるのである。また、場面(3)は、大崎（1998）が述べるように、日本では「親しき仲に礼儀」が重視される必ず感謝表現が用いられるが、スリランカでは財布を拾うということはさして大変な作業ではないし、親しい友人であるため感謝表現は用いないのであろう。このような何がポライトネスであるかについての文化差は必ず教授する必要があるであろう。

### 15.3 学習者が理解しにくい日本人の感謝表現

前節でも同様のことが述べられたが、日本人の感謝表現の中で最も理解しにくいのは、親しい関係の人の間で用いられる感謝表現である。以下は、留学生が理解できないと感じた日本人の感謝表現である。何故、日本人が感謝表現を用いたか考えていく。

場面(4) 息子から本をもらった母親が息子へ感謝する場面<sup>40</sup>

---

<sup>40</sup> 場面(4)は九州大学大学院比較社会文化学府博士後期課程大学院生(平成 21 年当時) 李大年の収集例である。紙面の都合上、解答例を下線で示す。

手術をしたが癌がまだ残っていることが分かった母親(50 代)が、息子(20 代)が出版した本をもらって、電話で感謝を伝える場面

1 母親：まだ 声帯に癌が残ってるんは残ってるけんね。

2 息子：えっ 完治したんやないと？

3 母親：うん、まだ小さい癌が治しきれてないとよ。ヨード治療で抑えていくしかなかった。でも、この本読んで元気出すけんね。ありがとうございましたあ。(涙ぐむ)

『東京タワー オカンとボクと、時々、オトン』

設問：

a) 下線部の母親の発話はどのような印象ですか。(複数回答可)

1. 母親が息子に話しているのに感謝の表現が丁寧すぎてよそよそしい印象である

2. 何故丁寧体で話すのか分からない

☒ 3. 息子への感謝の気持ちを丁寧体できちんと伝えようとしている

4. その他 ( \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_ )

b) 母親が何故下線部のような話し方をしたのか考えていきましょう。

1. 母親の発話 1 と 3 の内容は何ですか。

自分の病状を伝えると同時に、出版した本を送ってくれた息子に対する感謝の気持ちを伝えている。

2. 母親は丁寧体と普通体のどちらを基調として話していると思いますか。

1) 丁寧体 ☒ 2) 普通体

3. 母親は丁寧体と普通体をどのように使い分けていますか。

母親は下線部の感謝の言葉以外は全て普通体で話している。

4. 3 の答えを基に、何故母親が下線部のような発話を行ったのか推測してみましょう。

母親の言語外行動も考慮に入れて推測してください。

母親は、自分の病状および自身の決意については日常的な話をするように方言の普通体(「…残っとるけんね」「…ないとよ」「…いくしかなかったい」「…元気だすけんね」)を使うことで息子が余計な心配をしないように伝えている一方、出版した本を先ず母親に送ってくれた息子に対する感謝の気持ちは言葉遣いを改めて正式に表現するために丁寧体(「ありがとうございました」)を使っている。このように日本語では、丁寧体か普通体かは上下関係で固定されているのではなく、何等かの意図をもって交替することがあることを指導する。

場面(5) 結婚式の前日娘が父親に感謝する場面<sup>41</sup>

結婚式の前日、娘(あかり)が父親(斉藤)に今まで育ててくれたことを感謝する場面。

1. 娘： お父さん、花嫁みたいなこと言っていい？
2. 父： やめてくれ。
3. 娘： 今まで本当にありがとうございました。
4. 父： こちらこそ、ありがとうございました。

『犬と私の 10 の約束』

設問：

- a) 日本の通常の会話では、父親と娘が話すときは、丁寧体・普通体のどちらを基調としていると思いますか。

父親： 1. 丁寧体      2. 普通体

娘： 1. 丁寧体      2. 普通体

- b) 場面(5)の会話例では父親と娘は丁寧体を使っていますか、普通体を使っていますか。

父親： 1. 丁寧体      2. 普通体      3. 丁寧体と普通体

娘： 1. 丁寧体      2. 普通体      3. 丁寧体と普通体

- c) 娘が何故このような話し方をしたのかを考えていきましょう。

---

<sup>41</sup> 場面(5)は九州大学大学院博士後期課程大学院生(平成 21 年当時) 李曦曦の収集例である。同様に、解答例を下線で示した。



1. 娘は発話 3 で何故丁寧体を使って感謝の気持ちを伝えたのでしょうか。

この場面は結婚するために家を出る娘が、長年育ててもらった父親に感謝する場面である。場面(4)の場合と同様、威儀を正すために敢えて丁寧体を使っているのである。結婚する前の娘が、正座をして丁寧にお辞儀しながら親に対して感謝するというのは伝統的な日本のドラマや映画によく出てくる場面である。

2. あなたの文化では、このような場面でどのような表現を使いますか。感謝を伝えませんか。伝えるとしたら、どのような表現を用いますか。また、伝えないとしたら、それは何故ですか。

(答えはいろいろありうる。日本とは異なる伝統的習慣があれば話してもらおう。また、それを基に文化による習慣の違いについて話し合う。)

- d) 次に父親が何故このような話し方をしたのか考えていきましょう。

1. 父親は発話 2 で何故「やめてくれ」と言ったのでしょうか。

父親は、娘が家を出ていく寂しさを必死でこらえているのに、娘に「有難うございました」と感謝されると寂しさをこらえ切れなくなくなるため、「やめてくれ」と言って娘の言葉を止めたのである。

2. 父親は発話 4 で何故丁寧体を使って「ありがとうございました」と言ったのでしょうか。

娘の感謝の言葉に寂しさで涙がこらえ切れなくなり、娘の「有難うございました」という言葉を繰り返すしかできなかったのである。

3. あなたの文化では、このような場面で父親はどのような表現を使うと思いますか。また、それは何故ですか。

(答えはいろいろありうる。日本とは異なる伝統的習慣があれば話してもらおう。また、それを基に文化による習慣の違いについて話し合う。)

留学生に違和感を感じる日本語ポライトネスを収集してもらったところ、取り分け韓国中国の学生の中に、親が娘・息子に対して、また親しい友人に対して「有難う」という言葉を発する場面にはかなり違和感を感じている学生が多かった。上記の例はその一部で

ある。感謝表現については文化によって相違があることを認識しにくいものであるが、日本人との認識の違いを含めて初期段階で教授していく必要があるだろう。

#### 15.4 おわりに

本章では、感謝行為に関わる日本語ポライトネスについて論じた。感謝行為は、一見するとどの文化においても同様に行われる普遍的な行為であるように考えられがちであるが、どういう場面でどういう相手に感謝を表出するかについてはかなりの文化差があり、感謝が求められている場合に感謝を表出しなかったために無礼な人だと思われることもあれば、逆に感謝をし過ぎたため他人行儀であると思われることもある。この章では、日本人と日本語学習者の感謝表現表出場面の相違、またそれを引き起こす認識の相違について論じた。

生越(1994:22)は、「朝鮮語の「感謝」の表現は、目下から目上に対して向けられる傾向の強いものと言えそうである」と述べている。また、呉善花(1991)は、「友達におごってもらった時、日本ではすぐに「ありがとう」と言うのが礼儀だが、韓国人ならば、そこで「ありがとう」と言われると嫌な気持ちになる。」「日本人と結婚した韓国の女性が、夫がいつまでも他人行儀であるとノイローゼになってしまった。背広を脱がせてやっても、お茶を入れてやっても、直ぐに「ありがとう」、何かちょっと失敗すると、すぐに「ごめん」というのが、我慢ならない」と述べている。感謝行為がポライトネスと認識されるかインポライトネスと認識されるかには文化差があり、このような文化差は、積み重なると取り返しのつかない誤解につながりうる。やはり、文化による認識の相違は初期段階で教えておく必要があるだろう。



# 第 16 章

## 結論

### 16.1 本論文の要旨

本論文では、日本語のポライトネスを題材として、異文化理解の教育方法論を提示した。

先ず、本論文の大まかな構成をまとめる。第 2 章で先行研究を概観し、本研究の立場を述べた。第 3 章では、この論文で使用したデータの種類および収集法についてまとめた。第 4 章以降が本論である。本論を 2 部に分け、第 I 部(第 4 章～第 10 章)では、理論編「談話分析に基づく日本語のポライトネス研究」と題して、様々の角度から日本語のポライトネスについての分析を行い、その特徴を明らかにしていった。第 II 部(第 11 章～第 15 章)は応用編「日本人の言語行動におけるポライトネス—効率的な日本語ポライトネス指導法を目指して—」である。依頼・勧誘と断り、謝罪、褒め、不平・不満・不同意表明、感謝という言語行動における日本語ポライトネスについての、日本語母語話者と日本語学習者の認識の違いを明らかにし、教授内容を特定することで、これらの言語行動における日本人のポライトネスを教授するために実践的教育法を提示した。

次に、本論の内容をまとめていく。第 I 部では、日本語教育の現場に還元することを目指して、様々の角度から日本語ポライトネスを考察していった。第 4 章では、スタイルの交替、特に丁寧体を原則として使用する会話におけるスタイル交替の実態を観察し、どのような状況で交替が起こっているか、また交替を起こす話者の動機は何かを分析することによって、「日本語のスタイルは、身分差や場面という初期条件によって固定化されるものではなく、話者同士が共同で会話を成功させ、より親密な関係を育成していくために、ダイナミックに交替していつていること」を論じた。

第 5 章では、Brown and Levinson (1987) (以下 B&L) のポライトネス理論では日本語のポライトネスは十分には説明できないことを論じた。B&L はポライトネスの理論としては、最も代表的なものであるが、この理論に関しては、取り分け敬語体系を有するアジアの言

語研究者から批判が行われてきた。この章では、先ず B&L の問題点を指摘した。次に、同一インタビュアーのよる 3 名の対話者との会話を比較分析することで、日本語におけるポライトネスとは何かについて考察を行っていった。

第 6 章では、井出他(1986)、Ide (1989 / 1992) 、 Matsumoto (1988 / 1989)を概説しながら、日本語のポライトネスにおける「わきまえ」の重要性を再確認した。次に、3 タイプに分類された 12 種類の会話を分析しながら、日本語においては、(1)「わきまえ」としてのポライトネスと、(2)「ストラテジー」としてのポライトネスがあり、日本語会話におけるポライトネスは、「わきまえ」を遵守しつつ多様な「ストラテジー」を使用するという複合的な方法によって実現されることを論じていった。

第 7 章では、中国語・韓国語のポライトネスにおいても「わきまえ」が重要であるが、日本語と中国語・韓国語では「わきまえ方」が異なるために、ポライトネスの認識に相違があることを示した。台湾人・中国人・韓国人が奇妙に感じた日本語のポライトネスの例を挙げながら、日本語と中国語・韓国語のポライトネスの類似点・相違点について論じていった。最後に、これらの結果に基づいて、日本語と中国語・韓国語のポライトネスの類似点や相違点を説明することのできるポライトネス理論とは一体どのようなものであるかを考察した。

第 8 章では、韓国人に対する日本語教育に生かすために、日本語と韓国語のポライトネスの対照研究を行った。日本語と韓国語のポライトネスについては、対照研究も数多く行われている。しかし、これら先行研究の結果を日本語教育に生かすためには、日本人と韓国人の認識の相違を記述分析することが不可欠である。そこで第 8 章では、日本人のポライトネスのうち韓国人が異なると感じるものをデータとして収集し、それが日本人と韓国人のどのような相違から起こるものであるかについて考察した。

第 9 章では、日本語配慮表現指導教材開発に向けて、10 代～50 代の日本人および中国人に対する日本語配慮表現に対するアンケートを基に、日本語配慮表現に対する認識の相違を明らかにした。日本語における配慮表現の研究が盛んに行われているが、この配慮表現に対する日本語母語話者と日本語学習者の認識は大きく異なっている。日本語学習者にこの配慮表現を指導するには、先ず日本語母語話者と日本語学習者の配慮表現に対する認識の相違を特定する必要がある。そこで、10 代～50 代の日本人 20 人および中国人 20 人に対するアンケートを基に、日本語の配慮表現に対する認識の相違を調査分析し、その相違を明らかにした。

第 10 章では、「聞き手志向」という観点からの日本語ポライトネス指導教材開発に向けて、日本語ポライトネスとは何かについて論じていった。日本語学習者にとって違和感のある日本語ポライトネス、および日本人にとって違和感のある日本語学習者のポライトネスをデータとして、ポライトネスおよび配慮表現に関する日本人と日本語学習者の意識の相違を特定し、その結果に基づき「聞き手志向」の日本語ポライトネス指導教材開発に向けた考察を行っていった。

第 II 部では、日本語ポライトネス指導のための実践的教授法の提示を行った。第 11 章では、日本人と学習者の勧誘・依頼および断り方略に対する認識の相違を明らかにした上で、自然会話を素材とした効率的な日本語ポライトネス指導法を提示していった。先ず、依頼・断りに関わるポライトネスに対する日本語母語話者と日本語学習者の認識のギャップを示した。次に、自然談話で用いられた日本人と中国人の勧誘・依頼および断りの方略の相違を抽出し、最後に、学習者自身が観察することで、日本人との認識および方略の相違を意識化することができるような日本語ポライトネス教授法を提示した。

第 12 章では、日本人と学習者の謝罪行為に対する認識の相違を示した上で、日本人の謝罪行為の効果的指導法とは何かを考察した。先ず、謝罪意識に関する日本語母語話者と日本語学習者の認識のギャップを示した。次に、ドラマおよび自然談話で用いられた日本人の謝罪行為の特徴を抽出し、最後に学習者自身が観察することで、日本人との認識および方略の相違を意識化することができるような日本人の謝罪行為の教授法とはどのようなものかについて考察していった。

第 13 章では、褒めの定義および先行研究を概観した後、先ず日本人の褒めの例を挙げながら、褒めに関連する文化差について考えていった。次に、日本人は褒めているつもりだが、誤解される可能性の大きい褒めを提示し、その教授法を示していった。

第 14 章では、学習者にとって最も困難な行為の一つである不平・不満・不同意の表明について論じていった。先ずアンケートの形式を取りながら、日本人がどのようなやり方で不平・不満を表明するかについて考えていった。次に、実際の会話において日本人がどのようなやり方で不同意を表明するかについて観察・分析することで、日本人の不同意表明について考察し、日本語学習者への教育方法を示した。

第 15 章では、感謝行為について論じた。先ず、日本人がどういう場面で感謝を期待しており、そのような場面で感謝が行われなかった場合どのように感じられるのかについて論じていった。次に、学習者が理解しにくい日本人の感謝表現を挙げながら、日本人にとっ

て感謝という行為はどのような認識をもって行われているかについて示し、効果的な日本語教育方法を示した。

第 16 章は結論である。本論文の論点のまとめとして、本論文での教育方法を利用することで、日本語学習者が日本文化に対する理解を深めていき、日本語教育の現場から多文化共生を目指すことが期待できることを述べた後、今後の課題について述べた。

## 16.2 本論文の意義

本論文の意義は以下のようにまとめることができる。

1. 先ず、日本語の自然会話を収集し談話分析することで、「わきまえ」のポライトネスと「ストラテジー」のポライトネスを複合的に組み合わせながらダイナミックに発達していく日本語のポライトネスの特徴を示すことができた点である。

先行研究においては、日本語のポライトネスは対話者間の距離、親疎、上下関係、場面という初期条件によって、そのレベルが決定されるかのような前提にたって、その研究が進められてきた。しかし、実際の会話を書きとってみると、明らかに上下関係や距離がある者の間の会話においてすら、基本的なスタイルからの逸脱がしばしば見られ、それによって多様な態度が示されている。

本研究では、この観察を踏まえ、先ず自ら収集した自然談話を分析することで、慣習的な「わきまえ」のポライトネスと、意図的な「ストラテジー」のポライトネスを複合的に組み合わせながら、会話の流れの中でダイナミックに変化していく日本語のポライトネスの特徴を記述分析した。

2. 次に、日本語母語話者と日本語学習者が、この日本語のポライトネスの特徴をどのように認識しているかを調査し、母語話者と学習者の間のズレを特定し、そのズレを引き起こす要因についても分析した。

3. 最後に、分析から得られた結果を基に、多様な言語行動における日本語ポライトネスについての、日本語母語話者と日本語学習者の認識の相違を明らかにし、教授内容を特定することで、これらの言語行動における日本人のポライトネスを教授するために実践的教

育法を提示した。

本論文での教育方法を利用することで、異文化をもつ日本語学習者が、日本文化に対する理解を深めていき、日本語教育の現場から多文化共生を目指すことを期待することができる。

### 16.3 おわりに

遙か昔、1988年9月から1989年8月の1年間アメリカ合衆国ジョージタウン大学大学院に入学し Deborah Schiffrin(デボラ シフリン)の授業を受講した。1988年秋期は Pragmatics(語用論)、1989年春期は Speech Acts(発話行為)の授業を受講した。最初は日本の大学院で学んできた語用論や発話行為とは全く異なる手法を使つての研究に戸惑いを感じ苦労したのを今でも覚えている。Speech Acts の授業では、Austin(オースティン) や Searle(サール)から発達していった発話行為論を概観した後、Brown & Levinson(ブラウン & レビンソン)の Politeness を読んだ。この本を読むことで、英語のポライトネスと日本語のポライトネスとの大きな相違に驚嘆した。それが原点となって始めたのが私のポライトネス研究である。

Speech Acts(発話行為)の授業を受講した際、受講者を5名のグループに分け、そのグループで1つのプロジェクトを行い発表するという課題があった。私以外は全てアメリカ人の5名のグループで日米の被験者にインタビューをすることで “Complaining and Refusing Politely: Japanese and American Attitudes and Approaches”(「不平と断りを丁寧に行う：日本人とアメリカ人の態度と方略」)というプロジェクトを行った。その中で丁寧にクレームをつける方略における日米の差が明らかになった場面があった(本テキスト第II部第14章参照)。その場面とは「レストランで友人と食事をしているとき、あなたのスープに蠅が浮かんでいるのを見つけました。どうしますか?」というものであった。4名のアメリカ人にインタビューを行ったところ、4名中3名が「冗談を使ってウェイトレスに蠅の存在を伝える」(例えば “I won’t eat any meat I didn’t pay for.”(お金を払っていないお肉は食べないよ))というものであった。日本人4名のうち3名は日本でもアメリカでも婉曲に新しいスープを持ってきたもらえないかということを伝えるというものであったが、日本における対応とアメリカにおける対応が異なっている人もいた。日本においては『あの、



これ食べられませんけど…。』と言いながらスープの皿をウェイトレスに見せて対応を待つ」という反応をする日本人が、アメリカでは冗談(例 “Look, a fly is swimming in the soup.”(ほら、蠅がスープの中で泳いでいるよ。)) を言うという異なった方略をとっていることが分かった。これから学んだのは、丁寧に発話行為を行うということは文化によって大きな差があり、ある文化において丁寧な行為が必ずしも別の文化では丁寧であるわけではないということ、さらに異文化摩擦を和らげるには学習者がこの文化的相違を自身で認識し少なくとも無礼にならないように振る舞うにはどうすべきかを学んでいく必要があるということであった。

以上のような経緯でポライトネス研究を始めたが、あれから長い年月を経た現在、多くの留学生を指導しながら、ポライトネスには普遍的な部分もあるが異なる部分も多いことを実感している。将来、日本人と多文化の人々が理解しあっていくためには、少なくとも日本人がポライトネスについてどのような認識をしているのかということだけは教授し、その理解を深めていく必要があると考えている。それ故、本論文では、日本語ポライトネスを素材とした異文化理解教育の方法開発の一例を示した。

しかし、本論文は日本語ポライトネスを素材として異文化理解のための教育方法の一例を示したに過ぎない。今後は、次のような発展的研究を行っていくことが求められているだろう。

先ず、本研究で教育方法を提示したのは、日本語ポライトネスの一部にすぎない。即ち、本論文は、依頼・勧誘と断り、謝罪、褒め、不平・不満・不同意表明、感謝という 5 つの言語行動において、日本語学習者が理解できないと感じた日本人のポライトネスを教授するための教育方法を提示したに過ぎない。同じ言語行動であっても、ビジネス場面、医療場面等様々の場面においては、異なる振る舞いが見られると考えられる。例えば、医療場面における医者と患者についての考え方は、社会文化の認識の相違が明確に反映すると考えられる。ビジネス場面についても、特定の場面で、部下や上司がどのような行動をとるか、とってはいけないうか等については、大きな文化差がある。本論文でも、少しは言及したが、より包括的に場面ごとの議論が求められることになるだろう。

また、本研究ではポライトネスのみについて論じたが、ポライトネスだけでは網羅することのできない文化差がある。例えばジェンダー差である。男女についての認識は、それぞれの文化において大きく異なっている。異文化理解教育方法を論じるのであれば、この主題は避けて通ることができないものであろう。ポライトネス、ジェンダー等を含めた広

い意味での語用論的スキルについての議論をしていくことが、必要になっていくと考えられる。

最後に教育方法論についての問題である。現在では、テレビ、マンガや映画のみならず、インターネット上の様々のメディアがコミュニケーションに利用されている。これらを利用しながら、日本語教育を行っていく方法論を考えていくことも今後の課題である。



# 参考文献

## 日本語文献

- 安美蘭 (2005) 「日本語・中国語・朝鮮語における感謝表現の対照研究」『日本語教育と異文化理解』第4号 愛知教育大学国際教育学会
- 生田少子 (1997) 「ポライトネスの理論」『月刊言語』1997年6月号
- 池田理恵子 (1993) 「謝罪の対照研究—日米対照研究—face という視点からの一考察」『日本語学』第12巻第12号, 13-21
- 李善雅 (2001) 「議論の場における言語行動—日本語母語話者と韓国人学習者の相違」『日本語教育』111, 日本語教育学会, 36-45
- 井出祥子・荻野綱男・川崎晶子・生田少子 (1986) 『日本人とアメリカ人の敬語行動：大学生の場合』 東京：南雲堂
- 井出祥子 (2006) 『わきまへの語用論』 東京：大修館書店
- 李奈娟 (2007) 「電話での依頼の承諾・拒否の談話」『平成 19 年度日本語会話資料集』, 295-302
- 宇佐美まゆみ (1994a) 「性差か力 (power) の差か：初対面二者間の会話における話題導入の頻度と形式の分析より」『ことば』15, 現代日本語研究会, 53-69
- \_\_\_\_ (1994b) 「談話レベルから見た敬語使用—スピーチレベルシフト生起の条件と機能—」『學苑』662, 昭和女子大学近代文化研究所, 27-42
- \_\_\_\_ (1995) 「談話レベルから見た敬語使用—スピーチレベルシフト生起の条件と機能」 昭和女子大学近代文化研究所『學苑』662, 27-42
- \_\_\_\_ (1996) 「言い切られていない発話の “politeness”」 昭和女子大学奨励金報告書
- \_\_\_\_ (1997) 「「ね」のコミュニケーション機能とディスコース・ポライトネス」『女性のことば・職場編』 東京：ひつじ書房, 241-68
- \_\_\_\_ (1998a) 「ポライトネス理論の展開：ディスコース・ポライトネスという捉え方」『日

- 本語研究年報』東京外国語大学, 145-59
- \_\_\_\_\_(1998b)「初対面二者間会話におけるディスコース・ポライトネス」, *Human Communication Education* Vol. 11, 49-61
- 大崎正瑠 (1998)「異文化コミュニケーション—対人レベルを中心に」『大妻女子大学紀要』30, 107-46
- 王萌 (2010)「日本人と中国人の不同意表明—ポライトネスの観点から—」九州大学大学院比較社会文化学府博士論文
- 荻野綱男 (1989)「日韓の敬語用法の対照言語学と日本語教育：聞き手に対する日韓対照調査の結果とその意味」『日本語教育』69, 47-63
- \_\_\_\_\_(1997)「敬語の現在—1997」『月刊言語』1997年6月号, 20-30
- 生越まりこ (1993)「謝罪の対照研究—日韓対照研究—」『日本語学』第12巻第12号, 29-38
- \_\_\_\_\_(1994)「感謝の対照研究—日韓対照研究—」『日本語学』第13巻第8号, 19-27
- 尾崎義光 (1992)「現代生活と方言—学校生活における方言と共通語の使い分け」『日本語学』第13巻2号
- \_\_\_\_\_(1996)「学校の中の方言」小林隆他編『方言の現在』東京：明治書院
- 甲斐睦朗 (1994)「企業小説にみる感謝表現」『日本語学』第13巻第8号, 73-79
- 菊池康人 (1994)『敬語』 東京：角川書店
- \_\_\_\_\_(1997)「変わりゆく『させていただく』」『月刊言語』1997年6月号
- 熊取谷哲夫 (1994)「発話行為としての感謝—適切性条件・表現ストラテジー・談話機能—」『日本語学』第13巻第8号, 63-72
- 川口義一・蒲谷宏・坂本恵 (1996)「待遇表現としてのほめ」『日本語学』第15巻第5号
- 金瑞賢 (2004)「韓国人学習者の待遇と恩恵の表現に関する認識」九州大学大学院比較社会文化学府未公刊修士論文
- 金城尚美・玉城あゆみ・中西朝子 (2007)「日本語非母語話者のメタ言語行動表現に関する一考察—配慮という観点から—」『琉球大学留学生センター紀要 留学生教育』第4号, 19-41

- ク モハマド ナビル (2005)「日本人とマレーシア人の謝罪行動の対照分析—謝罪意識、謝罪ストラテジー、謝罪表現を焦点に—」九州大学大学院比較社会文化学府修士論文
- 熊谷智子 (1993)「研究対象としての謝罪—いくつかの切り口について—」『日本語学』第 12 卷第 12 号, 4-12
- 呉善花 (1991)『続スカートの風 恨みを楽しむ人々』東京：三交社
- 胡敏男 (2019)「日本語のクレーム交渉談話」『平成 21 年度日本語資料集』松村瑞子・王萌 (編)、九州大学大学院比較社会文化学府, 2-45
- 黄士瑩 (2002)「日本人と台湾人の非言語伝達の対照研究—謝罪表現を中心に—」九州大学大学院比較社会文化学府修士論文
- \_\_\_\_\_(2009)「意見不一致の場面における台湾人と日本人の対処に関する対照研究」九州大学大学院比較社会文化学府博士論文
- 国立国語研究所 (2006)『言語行動における「配慮」の諸相』東京：くろしお出版
- メイナード、泉子 (1993)『会話分析』東京：くろしお出版
- 坂本直美 (2012)「日本語における女性の断りの構造分析—日中対照談話分析に基づいて—」九州大学大学院比較社会文化学府修士論文
- ザトラウスキー、ポリー (1993)『日本語の談話の構造分析—勧誘のストラテジーの考察—』東京：くろしお出版
- 清水博 (1998)『生命と場所：意味を創出する関係科学』東京：NTT 出版
- 全淑美 (1991)「日韓敬語用法の対照研究：話題の人物を中心に」『日本語教育』85, 66-79
- 杉戸清樹 (1982)「待遇表現としての言語行動：注釈としての視点」『日本語学』第 2 巻第 7 号, 32-42
- \_\_\_\_\_(1996)「敬語行動についての意識」小林隆他編『方言の現在』東京：明治書院
- \_\_\_\_\_(1998)「『メタ言語行動表現』の機能—対人性のメカニズム—」『日本語学』8-2, 4-10
- \_\_\_\_\_(2005)「日本人の言語行動—気配りの構造—」『文体と表現』明治書院, 362-371
- 杉戸清樹・尾崎喜光 (2006)「『敬意表現』から『言語行動における配慮』へ」国立国語研究所報告 123『言語行動における「配慮」の諸相』くろしお出版, 1-10

- 杉本明子 (2001) 「職場における相互理解の談話理解の談話構造」『男性のことば・職場編』くろしお出版, 179-206
- 梶本総子 (2004) 「提案に対する反対の伝え方—親しい友人同士の会話データをもとにして—」『日本語学』Vol. 23, 明治書院, 22-33
- 全淑美 (1991) 「日韓敬語用法の対照研究：話題の人物を中心に」『日本語教育』85, 66-79
- 滝浦真人 (2005) 『日本の敬語論 ポライトネス理論からの再検討』 大修館書店
- \_\_\_\_\_(2008) 『ポライトネス入門』 研究社
- ディヌーシャ ティランガニー ランブクピティヤ、サマラッコディ ムディヤン (2011) 「スリランカ人日本語学習者に見られる感謝場面理解の特徴」信州大学大学院人文科学研究科修士論文
- 張碩 (2007) 「謂れのない非難に対する言語行動の日中対照研究—弁明行動を中心に—」九州大学大学院比較社会文化学府修士論文
- 土居健郎 (1971) 『「甘え」の構造』 東京：弘文堂
- 中根千枝 (1967) 『タテ社会の人間関係：単一社会の理論』 東京：講談社
- \_\_\_\_\_(1972) 『適応の条件』 東京：講談社
- ハーラ マハムード アブド エラジム (2011) 「異文化間コミュニケーションにおける『ほめ』をめぐる—日本語とアラビア語の褒め方・解釈の違いに見る文化の影響」九州大学大学院比較社会文化学府修士論文
- 濱口恵俊(編) (1998) 『日本社会とは何か：＜複雑系＞の視点から』 東京：日本放送出版協会
- 潘雪霓 (2004) 「討論場面における反対意見表明と調整ストラテジーに関する一考察—日台の比較を通して」お茶の水大学大学院修士論文
- 彭国躍 (1991) 『『謝罪行為』の遂行とその社会的相関性について—日中比較社会語用論的視点から—」第 101 回大会研究発表要旨『言語研究』99 号 日本言語学会
- 牧野成一 (1996) 『ウチとソトの言語文化学—文法を文化で切る』アルク
- 松村瑞子・因京子 (1993) 「日本語談話におけるスタイル交替の実態とその効果」『言語科学』九州大学言語文化部言語研究会 第 33 号, 109-118

- 松村瑞子 (1999) 「日本語会話におけるポライトネス—Brown and Levinson (1987) の妥当性を中心に」『言語科学』九州大学言語文化部言語研究会 第 34 号, 51-60
- 松村瑞子・因京子 (2000) 「日本語の会話における丁寧さ」『韓日言語文化研究』韓日言語文化研究会 創刊号, 59—78
- 松村瑞子 (2003) 「日本人の敬意表現—韓国人との相違を中心に—」『言葉のからくり—河上誓作教授退官記念論文集—』 東京：英宝社, 787—800
- \_\_\_\_\_ (2009) 「日本語の会話におけるポライトネス—中国語・韓国語のポライトネスとの対照研究に向けて」『日語研究論文集—日語研究的新視野—』 台北：到良出版社, 13-37
- \_\_\_\_\_ (2010) 「聞き手志向の日本語ポライトネス」『東アジア言語文化論究』第 11 集, 51-65
- \_\_\_\_\_ (2011) 「日本人と中国人の配慮表現に対する認識—アンケート調査を基に—」『東アジア日本語・日本文化研究』第 12 集, 24—44
- 三宅和子 (1994) 「感謝の対照研究 日英対照研究—文化・社会を反映する言語行動—」『日本語学』第 13 巻第 8 号, 10-18
- 村田和代 (1997) 「同意・不同意にみられる丁寧さ(politeness)」『人間文化研究科年報』13, 奈良女子大学, 37-47
- メイナード、泉子・K (1993) 『会話分析』 東京：くろしお出版
- 山路奈保子 (2003) 「日本語の談話における『ほめ』の機能—小説中の談話における『ほめ』の観察から」九州大学大学院比較社会文化学府修士論文
- 山路奈保子 (2007) 文学作品を利用した異文化理解教育『褒め』とその周辺の言語行動を中心に」九州大学大学院比較社会文化学府博士論文
- 吉岡康夫 (1996) 「学校における敬語行動と規範意識」小林隆他編『方言の現在』 東京：明治書院
- 吉田和男 (1998) 「ホロン構造の日本型社会システム」濱口恵俊(編)『日本社会とは何か：＜複雑系＞の視点から』, 68—95



## 資料集

- 因京子・松村瑞子(編)(2007)『平成 19 年度日本語会話資料集』九州大学大学院比較社会文化学  
府日本社会文化専攻日本語教育講座
- 松村瑞子・趙海城(編)(2008)『平成 20 年度日本語資料集』九州大学大学院比較社会文化学  
府日本社会文化専攻日本語教育講座
- 松村瑞子・王萌(編)(2009)『平成 21 年度日本語資料集』九州大学大学院比較社会文化学  
府日本社会文化専攻日本語教育講座
- 松村瑞子・李曦曦(編)(2010)『平成 22 年度日本語資料集』九州大学大学院比較社会文化学  
府日本社会文化専攻日本語教育講座
- 松村瑞子・李曦曦(編)(2011)『平成 23 年度日本語資料集』九州大学大学院比較社会文化学  
府日本社会文化専攻日本語教育講座
- 松村瑞子・李曦曦(編)(2012)『平成 24 年度日本語資料集』九州大学大学院比較社会文化学  
府日本社会文化専攻日本語教育講座

## 英語文献

- Brown, Penelope and Levinson, Stephen C. 1978. *Politeness: Some universals in language usage*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Clancy, Patricia M. 1986. "The Acquisition of Communicative Style in Japanese." Schieffelin and Ochs, (eds.) *Language Acquisition and Socialization across Cultures*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Cook, Haruko Minegishi. 1990. The Sentence-Final Particle *Ne* as a Tool for Cooperation in Japanese Conversation. *Japanese Korean Linguistics*. Hajime Hoji (ed.), 29-44.
- Goffman, Erving. 1967. *Interaction ritual: Essays on face-to-face behavior*. New York: Doubleday.
- Gu, Y. 1990. Politeness phenomena in modern Chinese. *Journal of Pragmatics* 14, 237-57.

- Hill, Beverly et al. 1986. Universals of Linguistic Politeness: Quantitative Evidence from Japanese and American English. *Journal of Pragmatics* 10, 347-71.
- Holmes, Janet. 1986. Compliments and compliments responses in New Zealand English. *Anthropological Linguistics* 28, 4, 485-508.
- \_\_\_\_\_. 1996. *Women, Men and Politeness*. London and New York: Longman.
- Ide, Sachiko. 1989. Formal forms and discernment: two neglected aspects of universals of linguistic politeness. *Multilingua* 8-2/3, 223-48.
- Ide, Sachiko *et al.* 1992. The Concept of politeness: An empirical study of American English and Japanese. Richard J. Watts, Sachiko Ide, and Konrad Ehlich (eds.) *Politeness in Language: Studies in its History, Theory and Practice*, 281-98. Mouton de Gruyter.
- Ikoma, T. and Shimura, A. 1994. Pragmatics transfer in the speech act of refusal in Japanese as a second language. *Journal of Asian Pacific Communication*, 5(1-2), 105-29.
- Ikuta, Shoko. 1988. Strategies of Requesting in Japanese Conversational Discourse. Ph.D. Dissertation, Cornell University.
- Lakoff, Robin. 1973. The logic of politeness: or, minding your p's and q's. *Papers from the Ninth Regional Meeting of the Chicago Linguistic Society*, 292-305.
- \_\_\_\_\_. 1989. The limits of politeness: therapeutic and courtroom discourse. *Multilingua* 8-2/3, 101-29.
- Lee, Chang-Soo. 1996. Variation in Use of Korean Honorific Verbal Endings: An International Sociolinguistic Study. Ph.D. Dissertation, Boston University.
- Leech, Geoffrey. 1983. *Principles of Pragmatics*. London: Longman.
- \_\_\_\_\_. 2007. Politeness: Is there an East-West divide? *Journal of Politeness Research* 3, 167-206.
- Levinson, C. Stephen. 1983. *Pragmatics*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Mao, L. R. 1994. Beyond politeness theory: 'Face' revisited and renewed. *Journal of*

*Pragmatics* 12, 403-26.

Matsumoto, Yoshiko. 1985. A sort of speech act qualification in Japanese: *chotto*.  
*Journal of Asian Culture* 9, 143-59.

\_\_\_\_\_. 1988. Reexamination of the Univerality of Face; Politeness in Japanese.  
*Journal of Pragmatics* 15, 551-82.

\_\_\_\_\_. 1989. Politeness and conversational universals—observations from Japanese.  
*Multilingua* 8-2/3, 207-21.

Matsumura, Yoshiko. 1991. Complaining and Refusing Politely: Japanese and  
American Attitudes and Approaches. 北九州大学文学部紀要第 45 号, 61-84.

Matsumura, Yoshiko and Chinami, Kyoko. 1999. Politeness in Japanese  
Conversation between People of Different Social Levels: A Discourse-Based Analysis.  
*Unpublished paper read at the First International Conference on Linguistic  
Politeness.*

Matsumura, Yoshiko, Chinami, Kyoko and Kim, Soojung. 2004. Japanese and  
Korean Politeness: A Dicourse-Based Contrastive Analysis. Unpublished paper  
read at *International Symposium on Linguistic Gender and Politeness*. September  
3<sup>rd</sup>, 2004. University of Helsinki, Finland.

Maynard, Senko K. 1991. Pragmatics of Discourse Modality: A Case of *da* and  
*desu/masu* Forms in Japanese. *Journal of Pragmatics* 15, 551-82.

Miller, Laura. 2000. Negative Assessments in Japanese-American Workplace  
Interaction. *Culturally Speaking: Managing Rapport through Talk across  
Cultures*, Helen Spencer-Oatey (ed.), London and New York: Continuum, 240-54.

Pomerantz, A. 1984. Agreeing and disagreeing with assessments: some features of  
preferred/dispreferred turn shapes. *Structures of Social Action: Studies in  
Conversation Analysis*, J. M. Atkinson and J. Heritage (eds.), Cambridge:  
Cambridge University Press, 57-101.

Szatrowski, Polly. 1987. A Discourse Analysis of Japanese Invitations. *Berkley  
Linguistic Society* 13, 270-84.

Sugiyama Lebra, Takie. 1976. *Japanese Patterns of Behavior*. Honolulu, HI: The U.P. of Hawaii.

Tanaka, Noriko, Helen Spencer-Oatey and Ellen Cray. 2000. 'It's not my fault!': Japanese and English Responses to Unfounded Accusations. *Culturally Speaking: Managing Rapport through Talk across Cultures*, Helen Spencer-Oatey (ed.), London and New York: Continuum, 75-97.

Tannen, Deborah. 1984. *Conversational Style: Analyzing talk among friends*. Oxford University Press.

\_\_\_\_\_. 1986. *That's not What I Meant!* New York: Ballantine Books.

